大物再会! 超U級対談実現!! 田村潔司×船木誠勝

紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
860 yen
WANIMAGAZINE MOOK
86
2005



日本の切り札・TKを下し
皇帝がいざミルコ鎮圧へ!!
エメリヤーエンコ・ヒョードル

世界への挑戦は
まだまだ終わらない!
"TK"髙阪剛

中軽量級特化へリニューアル
新生『PRIDE武士道』の全貌!!

GP1回戦は日韓寝技対決!
サク・ワールドの神髄を見よ!!
桜庭和志
ユン・ドンシク

シュートボクセ会長が語る
PRIDE完全制圧のシナリオ
「GP決勝はシウバvsショーグンだ!」

ハッスル5月から新展開!
独占・先取り特報!!

曙、ホーガン、ストーンコールド!
WRESTLE MANIAの裏表

特濃!! "昭和"インタビュー2連発!!
渕 正信
将軍KYワカマツ

全女"松永王国"崩壊の真実!
ダンプ松本

PRIDEの真髄とは"挑戦の連続"なり!!

PRIDE・GP2005いよいよ開幕!

軽量級ブレイク直前対談
今成正和×所 英男

K-1 WORLD MAXも開幕!
紙プロ流見どころ大解剖!!

スペシャル中綴じ付録
PRIDE・GP & K-1 WORLD MAX
出場全選手パーフェクトガイド!!

紙のプロレス RADICAL NO. 86
綴込み付録付き大特集!!


発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F 電話 03-5368-1795

『PRIDE武士道・其の六』

皇帝、TKを大流血葬

またしても“圧倒的現実”がPRIDEに突き刺さった！



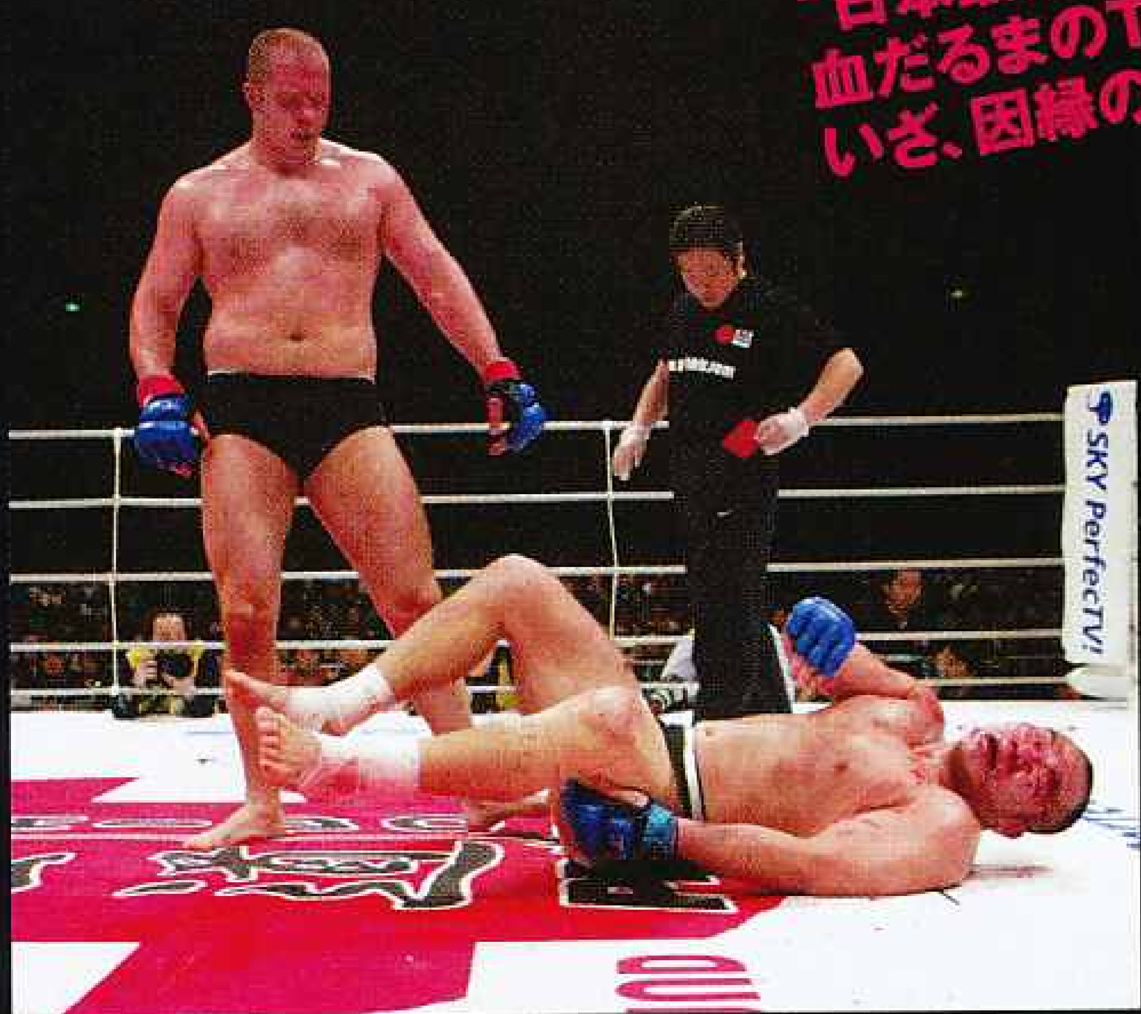


KO FEDOR

聞き手／ジャン斉藤
撮影／乾晋也
designed by matsu (TwoThree)

鉄仮面の下に抱く ミルコ鎮圧計画に迫る

"日本最後の切り札"TKを
血だるまのTKO!
いざ、因縁のミルコ戦へ——!!



皇帝の本性見たり! 冷徹な戦略家が ミルコの野望を 打ち砕く!!

〝圧倒的な現実〟がまたもや『PRIDE』のリングに突き刺さった!

4・3『PRIDE武士道・其の六』——PRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルが盤石の強さで髙阪剛から1R終了時TKO勝利を収めた。ヒョードルが〝世界のTK〟を流血地獄に落とし込む光景は、まさに地獄絵図。その〝圧倒的現実〟にファンや関係者はただ嘆息をもらすしかなかった。

TKにリングス時代の借りを返したヒョードルの次なる矛先は、いよいよPRIDE王座獲りに人並み外れた執念をみせるミルコ・クロコップに向けられる。ファン待望のこの大一番は、6月22日『PRIDE・GP　2nd』、もしくは8月28日の『PRIDE・GP決勝ラウンド』で行われるが、ミルコの野望を打ち砕くべく、〝PRIDEの皇帝〟は静かにミルコ鎮圧へと動き始めていた——。

——昨日の髙阪（剛）戦での圧倒的な勝利、おめでとうございます!

ヒョードル　ありがとうございます（微笑）。

——髙阪さんの返り血を浴びながら機械的に任務遂行をするかのようなあの闘いぶり。観る者の背筋がゾッと凍りつくような衝撃的な内容でした。髙阪さんのまぶたからの大流血は、ヒョードル選手の精神状態に何か影響はなかったのでしょうか?

ヒョードル　グラウンドでの攻防の最中に、コーサカが口から血を吐き出したのですが、それが自分の目に入ったことは気になりましたね。それくらいでしょうか。

——あまりの惨事に「レフェリーやドクターがもっと早く試合を止めるべきだ」という声も上がっていますが、ヒョードル選手の目にはどう写っていたんですか?

ヒョードル　コーサカの傷のドクターチェックをするためレフェリーがたびたび試合

EMELIANENKO

ミルコの打撃に関する情報は あのホーストから聞いています

を中断したのですから、試合を止めても何らおかしくない状況ではあったと思います。しかし、私はコーサカが続行を希望するなら躊躇せずに闘う気持ちでした。

――非情に徹していたんですね。PRIDEヘビー級王者として非常に安定感のある内容でしたけど、試合後のインタビュースペースでは「100％の準備ができなかった」と言っていました。それはいま包帯が巻かれている右手のケガのせい？

ヒョードル　そうです。もともと昨年の大晦日『PRIDE男祭り』の（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラとの試合で痛めていました。このケガのせいでコーサカ戦に向けて思うように準備ができなかったことはたしかです。

――試合にむけて、そのケガの不安はありませんでしたか？

ヒョードル　不安を覚えないよう心がけてトレーニングをしていました。不安に駆られて混乱に陥ると、戦略が崩れ自分の力が発揮できないですからね。

――そのケガを押して今回の『武士道』に出場されたのは、リングス時代に髙阪さんにアクシデントで敗北を喫した過去があったからですか？

ヒョードル　そのとおりです。それにコーサカは強い選手ですし、ぜひもう一度闘いたい気持ちはありました。

――拳のケガは試合に何か影響はありませんでしたか？　いつもの振りぬくような豪快なパウンドではなく、鉄槌攻撃に拘っているように見えましたけど。それとも髙阪さんの傷口を狙うために連打しやすい鉄槌攻撃を選択したのでしょうか？

ヒョードル　とくにコーサカの傷を狙ったわけではありません。強烈なパウンドを打てなかったのは拳のケガが理由です。

――ボクには冷徹かつ確実に傷口を狙っていったように見えたんですけどね（笑）。

ヒョードル　いや、それは気のせいですね。

――髙阪戦についてもうひとつ。髙阪さんは試合前「ヒョードルには穴がある」と言っていましたが、髙阪さんが下の体勢から何か狙ってくる気配はありましたか？

ヒョードル　いや、とくに何かを狙っている気配は感じませんでした。

――髙阪選手が下からヒョードル選手の腕や足を取りにくるシーンがありましたが……。

ヒョードル　下から関節を狙ってくるのは決して珍しい攻撃ではありません。コーサカと寝技のタイプが違いますが、ノゲイラもよく下から攻撃の機会を伺っていましたしね。下からの攻撃を防ぐことは、私にとっては特別な行動ではないのです。


髙阪戦後、右手示指基筋骨折全治6週間が発覚したヒョードル。待望されるミルコ戦が6月or8月になるのかはこの右拳の回復次第。5月中にも最終判断されるようだが、いずれにせよ今夏に激突することに変わりはない。

EMELIANENKO FEDOR

――前回のノゲイラ戦といい、ヒョードル選手は緻密な戦略をもとに試合に臨んで、そして完全勝利を収めているイメージがあるんですよ。この夏についに実現するといわれているミルコ・クロコップ戦の戦略も、すでに整っているんでしょうか？

ヒョードル　ミルコ戦に向けてのトレーニングはすでに開始しています。私は6月に闘いたいと思っていますが、拳の状態によっては、8月になることもありえますね。

――いずれにせよ今夏に決着は付ける、と。そのミルコが『PRIDE.29』でマーク・コールマンと闘った映像はご覧になりましたか？

ヒョードル　ビデオで見ました。

――ミルコはヒョードル選手をテイクダウンしたこともあるコールマンのタックルをすべて防ぎました。そのことについて何か感想は？

ヒョードル　とくに何もありません。なぜならあの試合でコールマンはタックルを狙う以外にミルコ攻略の手段がとくになかったように思えたからです。考えてもみてください。相手がタックルしか狙わないのなら、それを防ぐことはたやすいはずです。

――とくに驚異的な光景ではなかった。逆にミルコの動きはどうご覧になりましたか？

ヒョードル　いつものようにリングを十分に動き回っていましたね。そして打撃の破壊力や技術も相変わらず見事な切れ味でした。ミルコの攻撃で注意するべき点は、左ハイキックなどの打撃になるでしょう。

――先月、オランダでヒョードル選手の練習を視察した榊原代表いわく「ヒョードルは04年の下半期はノゲイラの柔術対策に余念がなく、いまはミルコ対策に当てていた。いまはミルコ対策に当てていました」と言っていました。

ヒョードル　はい。そのためにオランダのボスジムで打撃の特訓をしてきました。

――そのボスジムで、ミルコがK-1のリングで三度対戦して一度も勝てなかったアーネスト・ホーストと合同トレーニングをされたと聞いています。

ヒョードル　いや、残念ながらホーストと一緒に練習することはできませんでした。しかし、ホーストからミルコの情報はすべて聞きました。

――当然、ミルコの左ハイキック対策も……詳しいことは言えないと思いますけど。

ヒョードル　はい。この場で言うことはできません（微笑）。ただ、ひとつだけ言えることは、コーサカ戦で発揮できなかった打撃トレーニングの成果は、きたるミルコ戦でお見せすることができると思います。

――ヒョードル選手の弟であるアレキサン



あまりの完全無欠ぶりに「倒せるのはミルコの左ハイキックしかない」という声も挙がっているヒョードルだが、ミルコ対策を練るべくオランダでミルコがK-1で勝てなかったホーストと接触！　鎮圧計画は着々と進められているのだ。



2005.4.3『PRIDE武士道～其の六～』 横浜アリーナ

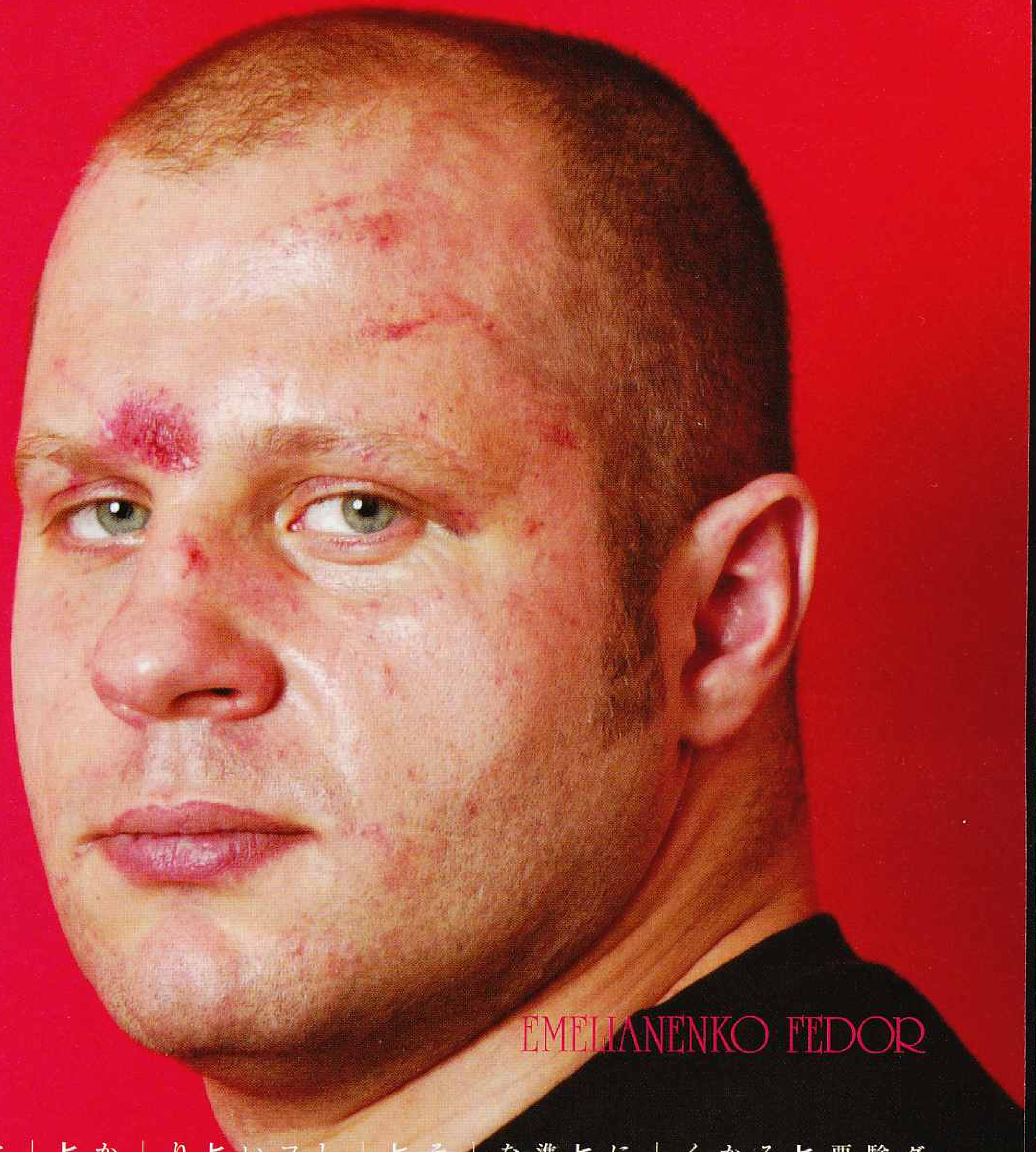
●E・ヒョードルvs髙阪 剛×

［1R終了時 TKO］

ゴングと同時にヒョードルと向き合った髙阪は、タックル→テイクダウンを狙うが、これを防いだヒョードルは豪快に投げを打ち、上に乗りパンチのラッシュ！ この攻撃で髙阪は左まぶたをカット！したたり落ちる鮮血にドクターチェックでたびたび試合が中断された。試合は髙阪が終始ガードの守勢を強いられ、ヒョードルは傷口を擦りつけるかのような鉄槌、そして"氷の拳"を見舞う!! みるみるうちに腫れ上がる髙阪の顔！ 1R終了時、コーナーで「まだいける」と言い続けた髙阪だが、無情のレフェリーストップ!!



「ロシア人はロシア人が始末する」？ ヴォルク・ハンは言葉だけが先行しています



EMELIANENKO FEDOR

ダーは、『PRIDE』でミルコと対戦経験があります。彼も〝ミルコ鎮圧〟への重要な参謀になるのでしょうか？

ヒョードル たしかに弟がミルコと対戦するときは、ミルコの対策を練っていましたからね。残念ながら、弟は作戦どおりに動くことができませんでしたが。

――ヒョードル選手は作戦や対策を完璧に実行する自信はあるんですよね。

ヒョードル ミルコは強敵ですので万全の準備を尽くしますが、どうなるかは試合になってみないとわかりません。

――そう言いながらも、すごく自信がありそうですね（笑）。

ヒョードル （無言で微笑む）。

――で、ヒョードル選手がミルコを倒してしまったら、他にヒョードル選手を倒せるファイターは現時点でいないとも言われているんですよ。

ヒョードル それは嬉しい評価ですね。ありがとうございます。

――もう熊とか人間以外の生物と闘うしかないんじゃないかと思いますよ。

ヒョードル 私が熊とですか……？

――はい。人類代表として（笑）。

ヒョードル う～ん。熊と闘うには、まだ私は弱いと思いますよ（微笑）。それにミルコ以外にもまだまだ私のPRIDE王座を狙う強い選手はたくさんいますから。

――わかりました（笑）。ヒョードル選手の王座を狙う人間といえば、かつての盟友セルゲイ・ハリトーノフもその一人ですよね。ヒョードル選手も良く知っている、ロシアン・トップチームのヴォルク・ハンは、そのハリトーノフが〝打倒ヒョードル〟をはたすとして「ロシア人はロシア人が始末する」と言い切っています。

ヒョードル （表情が少し険しくなり）……それは言葉だけが先行していると思います。なによりハンは現役から遠ざかっていますし、この『PRIDE』のリングでどのような闘いが繰り広げられているのか間近で見たことはありませんから。

――つまり、ハンはいまの総合格闘技の現実を知らないんじゃないか、と。

ヒョードル はい。ハンはよくは知らないと思います。

――なるほど。懐かしい人間のお話をもうひとつ。リングスを主宰していた前田日明さんが表舞台に復帰しました。〝最後のリングス王者〟だったヒョードル選手にとって、前田さんはどういう存在ですか？

ヒョードル 私はリングスに出ていましたが、マエダさんとはとくに近い関係にはありませんでした。ですから、マエダさんの人間的なことはよくわかりません。ただ、マエダさんが日本で総合格闘技の大会を開くという話は耳にしました。

――3月26日に開催されて、次回大会は6月を予定しています。

ヒョードル そうですか。マエダさんの成功を心から願っています。

――なんだかアッサリしてますね（笑）。最後にファンへメッセージをお願いします！

ヒョードル いまはミルコ戦の効果的な戦略を立て、それを試合でスムーズに実行するためにトレーニングすることが最優先課題になります。きたる6月には、ファンの皆さんに素晴らしい闘いを提供することをお約束しますよ。

――わかりました！ では、人類代表として〝打倒・熊〟の野望も頭の片隅に入れておいてください（笑）。

ヒョードル はい。いつか倒せるように努力しておきます（微笑）。

【05年4月4日／都内・某ホテルにて収録】





2005.4.3　横浜アリーナ

BUSHIDO 武士道 其の六 DIGEST



美濃輪、アイブルとの“野生対決”を制す!

○美濃輪育久vs ギルバート・アイブル×

［1R1分15秒／ヒールホールド］

両者の普段の“野生”ぶりが煽り映像で紹介されると、入場時から会場のテンションはヒートアップ!! 試合は美濃輪が足首の取り合いを制し、熱狂する観客と「oi!　oi!　oi!」とパンクな大合唱! “美濃輪ワールド”完璧です!!



GPラストワントーナメント

○パウロ・フィリオvs アマール・スロエフ×

［1R4分22秒／腕ひしぎ十字固め］

レッドデビルのスロエフからフィリオが一本勝ちを収め、ドクターチェックも済み一時は決勝出場がアナウンスされたが、試合後の興奮状態から解かれると右足首に痛みが生じて、再度の医師の診断で骨折が発覚。決勝は無念の棄権となった。



GPラストワントーナメント

○ディーン・リスター vs小路 晃×

［1R3分13秒／三角絞め］

アブダビ・コンバットの03年無差別級王者リスターが見事な三角絞めでその実力をまざまざと見せつけた!!　フィリオが決勝を棄権したことでリスターのミドル級GP出場が決定!　現役アブダビ王者の驚異のグラウンド技術はGPに旋風を巻き起こすか?



ブスタマンチ、ついに中量級本格進出!

○ムリーロ・ブスタマンチ vs桜井隆多×

［2R判定 3-0］

これまでは、一階級上での闘いを強いられていたブスタマンチが83キロ以下級へのバトルに参戦。打撃＆寝技で『DEEP』ミドル級王者・桜井隆多を圧倒。『PRIDE』初勝利を飾った。リニューアルする『武士道』で今後もその柔術テクニックを発揮するのは必至!



中軽量級の台風の目!　デニスの強さ!

○デニス・カーン vs大場貴弘×

［1R4分26秒／腕ひしぎ十字固め］

デニス・カーンは韓国人の父とカナダ人の母を持とカナダ産韓流ファイター。MMA戦績11勝1分といまだ無敗で『PRIDE』初参戦。同じく初参戦のパトラーツ出身の大場を打撃＆寝技でまったく寄せ付けず圧倒的な強さを見せつけた。デニスは試合後、長南亮との対戦を希望。



驚異の技術戦!!　BBTvsシュートボクセ!

○ルイス・アゼレードvs ルイス・ブスカペ×

［2R判定 2-1］

五味の首を狙うブラジリアン・トップチームのブスカペと、初参戦となるシュートボクセのアゼレートがブラジル名門チーム対決。序盤からめまぐるしいポジションの争奪戦を繰り広げ、軽量級最高峰ともいえる技術戦を展開!　スピリット判定でアゼレートが勝利。



ZST王者がU-FILE戦士を完封!

○マーカス・アウレリオ vs中村大介×

［2R判定 3-0］

04年ZST GP王者アウレリオが2度目の『武士道』参戦。前回は三島に判定負けを喫したが、今回は『DEEP』を中心に活躍するU-FILEの中村大介相手に終始、有利なポジションを奪い、腕ひしぎ、三角絞めと果敢に攻撃を仕掛ける。中村の驚異的な粘りに判定に持ち込まれるも3-0の完勝。



新生高瀬がシュートボクセの凶拳に沈む!!

○ダニエル・アカーシオ vs高瀬大樹×

［2R3分34秒／TKO］

打撃スキルを磨いて久しぶりの参戦となった高瀬が、アカーシオとスタンドの打ち合いに挑むも……シュートボクセが自信を持って送り込む中量級戦士の前に劣勢。タックルも防がれ得意のグラウンドに持ち込むこともできず、猪木アリ状態からサッカーボールキック＆踏みつけの集中連打!


ヒョードルに無念のTKO負け
TKを独占・緊急直撃!!

髙阪 剛
INTERVIEW



KOSAKA

聞き手／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
designed by matsu (TwoThree)



まぶたを切られた自分に腹が立つ!

日本人の誇りを胸に TKの世界への挑戦は まだまだ終わらない!!

TSUYOSHI

ヒョードル戦でのケガが3日後には復元してたのには我ながら呆れましたね(笑)

――髙阪さん、今回は電話インタビューとなりますが、よろしくお願いします！

髙阪　はい。よろしくお願いします。

――今日はなんでも映画の撮影で鹿児島に来てるそうですね？

髙阪　はい。「THE WINDS OF GOD」っていう今井雅之さんが主演・監督の映画なんですけど、そこに戦時中のシーンがあって、自分はそこの軍医の役ですね。

――軍医！　もしかして〝旧日本軍顔〟ということでキャスティングされたんですか？（笑）

髙阪　まさにそうだと思うんですけど（笑）。一生懸命やりましたよ。

――でも、ヒョードル戦からまだ1週間ですから、いまはかなり〝男前〟になってるんじゃないですか？

髙阪　それがね、自分毎度のことなんですけど、試合が日曜日で水曜日にはもう復元してましたね（笑）。

――ダハハハ！　あれだけ殴られても3日で復元！　どんな皮膚してるんですか(笑)。

髙阪　いやいやホントに。まぶた切れましたけど、火曜日の夜にはくっついてて、そもそも縫ってもいないんですけど。

――え！　縫ってないんですか？

髙阪　はい。傷をテープで止めといたんです。言っとくけど、ちゃんと傷口を止めるテープですよ。

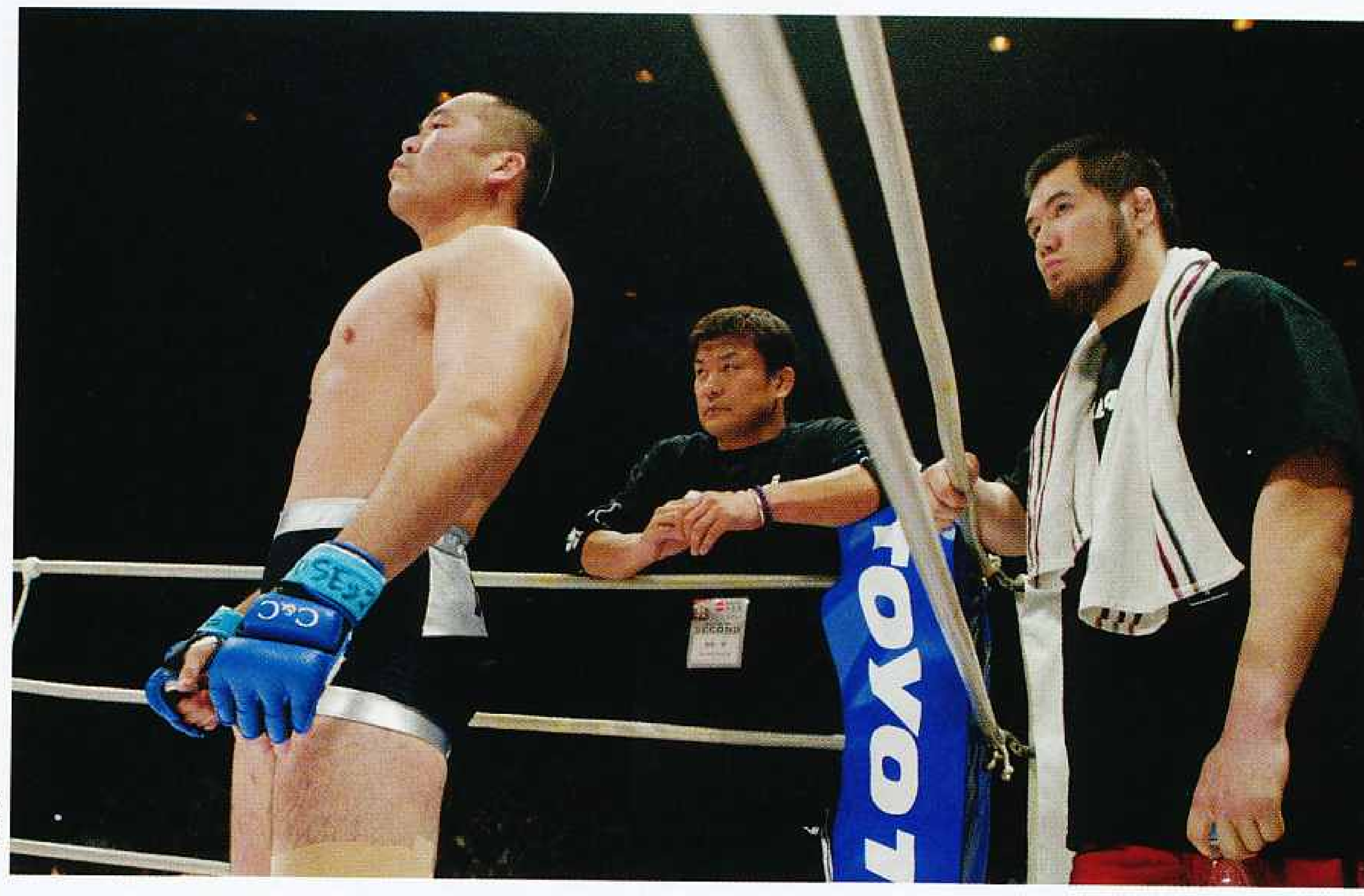
――誰もセロテープだなんて言ってませんから（笑）。

髙阪　それで「縫わなくてもいいやろう」っていう提案を……自分からしたんですけど（笑）。

――経験上、自分の場合は縫わなくて大丈夫と（笑）。

髙阪　それで火曜日の夜にはくっついてて、テープ外したらかさぶたになってて、水曜日には腫れもひきましたから。

――凄い男がいたもんですね（笑）。



TKのセコンドには吉田秀彦と横井宏考がついた。この3週間後にシウバ戦を控える吉田の目にTKの死闘はどのように映ったか?

髙阪　まぁ、オカンには頑丈に生んでくれてありがとう、と。だって、ヒョードル戦の一週間後に映画に出てるぐらいやからね（笑）。さすがに試合の翌日は〝リアルお岩さん〟みたいになってたんで、決まってた映画の撮影ができるか心配だったんですけど。

――火曜日にはその心配も解消と（笑）。

髙阪　我ながら、ちょっと呆れましたね(笑)。

――でも、改めてヒョードル戦をビデオで見直してみたんですけど、目の傷はまぶたとれるんじゃないかと思うほど深いように見えましたけど。

髙阪　あ、そんなでしたか？　自分じゃ見えないんで。

――試合開始早々からパックリいってましたね。

髙阪　そうなんですよね。なんとか切れないようになる方法ないんですかね？

――髙阪さんの顔は復元力はあるけれど、切れやすいと（笑）。

髙阪　それがちょっと悩みの種なんすけどね。

――ファーストコンタクトだと思いますけど、どこで切れたかわかりました？

髙阪　なんかね、最初に片足タックル行ったとき、プチッと音がしたんですけど、どこで切れたかはわからないんですよね。

――パンチはガードしてるように見えましたからね。ただ、結果的には凄惨な試合になり、それが原因でドクターストップ。まず、その試合の感想から聞きたいんですが。

髙阪　悔しいの一言ですよ。まぶたが切れたのが原因で負けとは言え、切れるというのは何か原因があるわけだから。それを防げなかったのは自分の落ち度ですからね。自分自身に腹が立ちますね。

――ああいう展開は想定外でしたか？

髙阪　パウンドは何発かもらうだろうなっていうのは最初から頭にあったんですけど、もらいながらもそこから何をしようかと、いろいろ考えていたところだったんですけどね。

――試合前には「どんどんパウンド打ってきてほしい」と言ってましたよね？

髙阪　それが結局、左目がいきなり最初に見えなくなってしまったんで、それを防げなかった自分が悪いんですけど、正直言って、そこで計算が全部狂ったのは確かですね。ホントならそこでリセットしなきゃいけなかったんですけど、パッとリセットする余裕はなかったですね。

――試合前は「穴がある」と言っていましたけど、それはヒョードルがパウンドを打つときに隙ができるから、そのとき切り返すみたいな作戦があったわけですか？

髙阪　大まかに言うとそういうことですね。

――それが髙阪さんがカットしたことにより、ヒョードルのパウンドもモーションが小さくなり。

髙阪　っていうか、もう自分の目が見えなかったですからね（笑）。ただ、見えないなら見えないなりの何かをできなきゃダメやなぁとは思いましたけどね。ただね、やっぱり試合やってよかったなと思いましたよ。実際やったことによって（穴が）もっとよく見えたというかね。あんな血まみれにされて言うのもなんやけど（笑）。ラウンドの中盤からなんとなく（ヒョードルの動きが）見えてきたというか。「ああ、やっぱりそうなんだ」っていう、思ったとおりのことがいくつかありましたね。

――あの試合の中でそんな確認をしてましたか！

髙阪　でも、勝たなきゃ確認できたことにならないので、それは自分の中だけでしか消化できない部分でもあるんですけどね。





何度か下からの極めを試みたＴＫだったが、危機察知能力に優れるヒョードルに逃げられチャンスを作れず。逆にカットした左目を徹底的に狙われ、大流血のTKO（ドクターストップ）負けとなってしまった。

TSUYOSHI KOSAKA

――逆にヒョードルが予想以上だった部分、驚かされた部分ってどこでした？

髙阪　いや、自分は最初っから「相当強いだろうな」と思ってたんで、腰が重いのも「やっぱりそうか」と思ったし、一発の破壊力も打たれながら「やっぱりな～」っていうね（笑）。

――予想通り強烈だったと。

髙阪　最初からハードルを思いっきりあげてたんで、それ以上ではなかったし。目が見えなかったんで、ずいぶんパンチ食らいながらも、「ああ、こういうことか」って、体が情報をひとつひとつインプットしてましたね。試合後、振り返ってみるとですけどね。

――じゃあ、それだけに悔しさもひとしお。

髙阪　だからもう一回やりたいですね。

――ドクターストップが告げられたときの髙阪さんの悔しそうな顔といったらなかったですからね。

髙阪　そりゃホント悔しかったですからね。1R終わってリングドクターに「もう左目見えてないからダメだ」って言われたんですよ。そんときに「全然見えてますよ！」って、自分の指でまぶたを押し上げてまぶた開きながら言ってましたからね（笑）。

――ダハハハ、そんな無駄な抵抗を最後までしてましたか（笑）。

髙阪　「ほら、全然目開いてるじゃないですか」とか言ったんだけど、ドクターに「それ指使ってるからね」って冷静に言われましたから（笑）。そこで「あ、言われてみればそうだな」と思いましたけど、そんときは無意識のうちに「見えてるじゃないですか」って指でまぶたを持ち上げてたんですよね。それぐらい止めてほしくなかった。

――それで大会後、ＤＳＥ榊原代表が「髙阪選手にはもう一度ヒョードルと再戦を組んでもいい」というコメントを出されてたんですけど。髙阪選手自身はどのように考えていますか？

髙阪　自分もそう言っていただけるのはありがたいし。ただ、形はどうであれ自分は負けたわけだから。自分は負けた奴ってモノを言える立場じゃないと思うんですよ。だからもう一度実績を作って、自分も納得できて、呼んでくれる側も納得できて、相手も納得するような状態にまずはもう一回持って行きたいなと思ってるんですけどね。

――ＵＦＣに出てたときから、髙阪さんのスタンスはそれですもんね。

髙阪　勝負っていうのは、そういうもんだと思うし。「勝ち」「負け」っていうのが付く以上、勝った人間が偉くて強いんだし、それがあるからこそ這い上がれるというのもありますから、頑張りますよ！

―では早速、脅威の回復力で次の試合を期待してしまうんですけど、一部報道では「髙阪剛、6月『HERO'S』参戦決定的」と出ていたんですが、そのへんどうなんですか？

髙阪　っていうか『HERO'S』って6月にもあるんですか？

―一応やる方向みたいですよ。

髙阪　へ～、初耳ですね（笑）。だって次は自分、5月14日のvs永田裕志戦ですよ。

―今日発表されたんですよね。

髙阪　今回のロケが鹿児島の山奥で、数少ないケータイが通じない場所なんですけど、撮影後、街へ移動して最初に飛び込んで来たメールが「永田戦決定」でしたからね（笑）。

―あ、髙阪さん本人も聞いたばっかり（笑）。どうですか、〝因縁の再戦〟が決定して？

髙阪　もう……おかげさんで。「おかげさんで」はちゃうな（笑）。前回やられた足の痛みは覚えてますからね、その借りを返させてもらいますよ！

―ホント、髙阪さんはそういう吠えるコメントが似合いませんよね（笑）。その新日ドームの前に、まずは『PRIDE・GP』に出場する吉田秀彦選手と中村カズ選手のサポートですか？

髙阪　そうですね。まずはそこを見てやりたいですね。

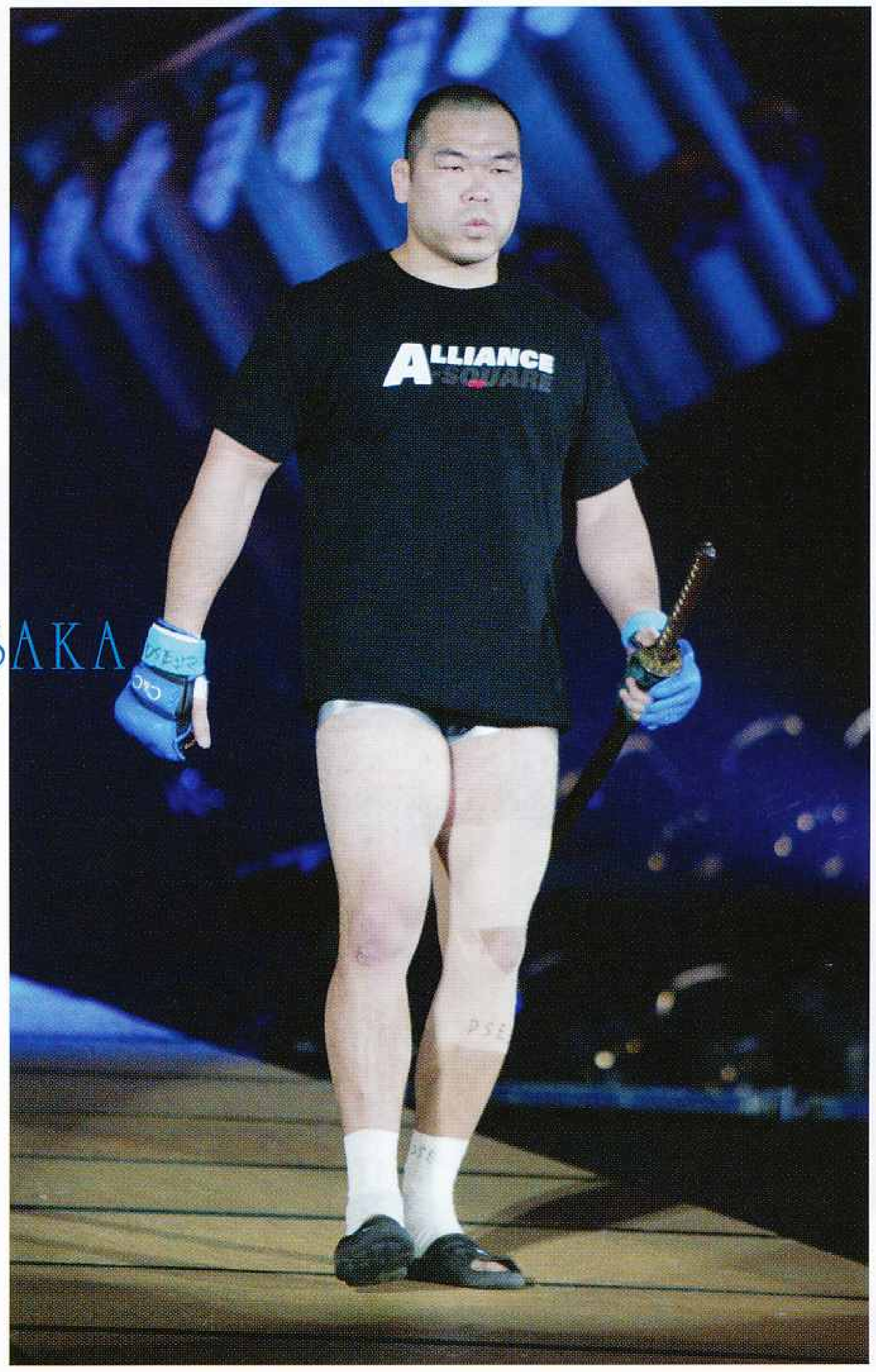
―吉田さんは髙阪vsヒョードルを間近で見て、次は自分がシウバですからね、かなり気合いが入ってるんじゃないですか？

髙阪　だから秀彦もそうですけど、そういう明らかに強い相手と試合するっていうことの意味ってもの凄くあると思うんですよ。まずはそういう試合を組んでもらえる選手でいなければいけない。それだけの責任感とか持続させることの難しさとかありますけど、そういうのがあるからこそ強くなれると思うし、そういうのを秀彦も体でわかってるんでしょうね。

―ホントの意味でプロ格闘家として、目覚めつつありうのかもしれないですよね。

髙阪　もう目覚めてますよ。やっぱりヴァンダレイと1回目に試合する前とした後の秀彦って全然違うし、だからこそ今回ヴァンダレイを選んだんでしょうね。そういう気持ちって自分と同じだと思うから、出来る限りのことは協力してやりたいと。あとカズもケビン(・ランデルマン)戦があるし。

日本人としての大事な気持ちを全部あのリングに持っていきたかった



TSUYOSHI KOSAKA

前田日明から譲り受けた日本刀を片手に入場するTK。並々ならぬ決意が感じられる入場シーンだ。

―髙阪さんの言う「日本人が勝たないと」っていう気持ちは、やはり吉田選手もカズ選手もみんなもってるわけですか？

髙阪　そうっすね。日本人が勝たなきゃもそうだし、自分らの仲間が「あいつが頑張ってるなら、俺もやったろうやんけ」っていう、そういう気持ちって日に日に強くなってるし。いい意味で、刺激になりますよね。

―そういえば聞き忘れてましたけど、ヒョードル戦で髙阪さんは刀片手に入場してきましたけど、あれってもしかして前田さんからもらった刀ですか？

髙阪　はい、そうですね。

―あれは髙阪さんがアメリカで勝負するってときに、前田さんから受け取ったものだと思うんですけど、それをいまこのタイミングで携えて入場して来たのはどんな気持ちからなんですか？

髙阪　やっぱりそれだけ、あの試合に賭けていたんですよ。それから、ここ最近特に思うようになったんですけど、日本人としての誇りを忘れている奴が多いんで。自分はアメリカに行ったからこそわかる日本の良さっていうのがもの凄くいっぱいあるんですよ。「義」の気持ちだとか、人を敬う気持ちだとか、そういうものが人間として一番大事なんじゃないかなと思ったんですよ。その価値観のベースを作ったのは武士の人たちだと思うんで、そういう気持ちを連れてリングに上がりたかったし。あとは諦めない、攻撃の気持ちを忘れないとか、日本人として大事な気持ちを全部あのリングに持って行きたかったのが一番の理由ですね。

―試合後、前田さんとは話しましたか？

髙阪　はい。試合終わったその日に電話したんですけど、「残念やったけど頑張れ」って言われましたね。試合前にも前田さんから電話もらって、「もしこう来たらこう返せ」とか、いろんなアドバイスをしてもらって、凄く心強かったですよ。そういうのも含めて、前田さんに声かけてもらうと、リングに上がるときの気持ちの高ぶりが全然違いますからね。そういうものが前田道場にあったし、リングスにあったから、自分はそういうのも引き継いでいかなきゃいけないなとは思いますけどね。

―髙阪さんは「ボクが上がるリングはすべてリングスです」って言葉がありましたけど、それはいまも忘れないと。

髙阪　そうですね。その気持ちは忘れてませんね。

【05年4月11日／電話取材にて収録】



5・22有明コロシアムから『武士道』REBORN！





この秋、ウェルター＆ライト級GPを開催！













DSE広報・佐伯繁が明かす

新生PRIDE武士道の全貌!!

聞き手／松澤チョロ　撮影／乾晋也　designed by matsu (TwoThree)

5・22有明大会から中軽量級の闘いに特化した舞台として生まれ変わる『PRIDE武士道』。4月6日に都内ホテルで行われた会見では、新生『武士道』の日本人二大エース、五味隆典、長南亮の2人の口からは、『武士道』を牽引していくという覚悟とともに、6月にも中軽量級トーナメント開催をブチあげている『HERO'S』に対して意識アリアリの発言が飛び出した。

まず長南が「僕は純粋な格闘技であればライバル心というか、参考になったりもするんですけど、色モノみたいなのは自分はムカつくんで。リアルファイトをやってる連中が光れなくて、総合の練習もしてないような変なのがポッと出てきて簡単に負けて、それで勝った方が凄いなんてあり得ない状況があるんで、それを見てる人に勘違いされたくない。そういうのを壊すためにも自分らがしっかり本当の闘い見せていきたいと思ってます」とらしさ全開で意気込みを語れば、五味も「いろいろおいしい話もあると思うんですけど、男の道というか、やらなきゃいけないことがあると思う。やっぱり『PRIDE』には歴史がありますから、自分は『PRIDE』をかけてやっていこうと思います！」と『武士道』エースの自覚が感じられるコメントを連発した。

この、二大エースの発言を満足そうに見つめていたのが、先日DSE広報に就任したばかりの佐伯繁。自称『武士道』統括本部長（？）の佐伯さんに、TK vs ヒョードル戦の翌日新生『武士道』の進む道を聞いた！

――『PRIDE』広報に就任して一発目の『武士道―其の六―』、お疲れ様でした！

佐伯　お疲れ様です。いやぁ～ホント疲れた！

――お疲れのところ申し訳ありませんが、今日は5月から中軽量級に特化した大会に生まれ変わるという、新生『武士道』について話を聞かせてください！

佐伯　何でも聞いて！

――まず、この秋にも83キロ以下級と73キロ以下級のグランプリを開催する予定ってことですよね。

佐伯　その予定です。でね、新生『武士道』にも通じるんだけど、大場なんかは今回『PRIDE』に出るのが早かったっていうのもあったと思うんですよ、実際。ただ、今回出れたことによって、「嬉しい」って思うんじゃなしに、この舞台はちゃんと準備をして出なきゃダメなんだっていうことがわかっただけでも良かったと思うよ。やっぱりね、出れて喜んでるような選手は、いまの『PRIDE』では通用しない。これは『武士道』も一緒だけど、出るんだったら勝たないとダメ。それに「出てトップを獲ってやる」ぐらいの気持ちを持って上がってこないとダメでしょ。それで活躍しないと。出て喜んでる様な選手は通用しない！

――それだけ、『武士道』を含めて『PRIDE』のリングは華やかな反面、厳しい舞台にもなっちゃってるんでしょうね。

佐伯　そうそう。でね、新生の『武士道』を簡単に説明するとですね、『武士道』を立ち上げる前までは中軽量級の70キロから80キロの選手っていうのは、なかなか『PRIDE』の舞台に上がれなかったじゃないですか。

――そうですね。

佐伯　それがいろんな階級もやるし、変わった試合もやるし、いろんなおもちゃ箱的なものをやるってことで『武士道』を始めたわけですよ。ただやっぱり中軽量級の選手に一番チャンスを与えたいっていうことは最初から言ってたから

『武士道』でトップを獲ってやるって気持ちがない選手はダメでしょ



5月からの新生『武士道』を前に、『武士道-其の六-』で日本人唯一の勝利を収め、会場を熱狂の渦に巻き込んだのが"リアル・プロレスラー"美濃輪育久。大会後は、すぐさま海外武者修行へ

榊原代表は、さらなる"大物日本人格闘家"の投入を示唆！

新生『武士道』参戦予定選手
（順不同）
五味隆典／長南亮／美濃輪育久／桜井マッハ速人／桜井隆多／滑川康仁／上山龍紀／中尾受太郎／三島☆ド根性ノ助／高瀬大樹／前田吉朗／今成正和／中村大介／郷野聡寛／三崎和雄／他



5月22日に有明コロシアムで行われる大会から中軽量級に特化したイベントとして生まれ変わる『武士道-其の七-』の会見が4月6日、都内ホテルで開かれ、榊原信行DSE代表、高田延彦統括本部長、佐伯繁広報が出席。会見には日本人エースと目される五味隆典、長南亮、新顔としてパンクラスの前田吉朗、『DEEP』ウェルター級王者・中尾受太郎をはじめ総勢11名が出席。会見で榊原代表は、この秋にもウェルター級（83キロ以下）、ライト級（73キロ以下）のトップ8でグランプリ開催を表明。佐伯広報は「『武士道』に出れて満足してる選手は正直厳しいと思います。『武士道』を引っ張っていくという気持ちがなければ世界には通用しない」と日本人選手にハッパをかけた。

ね。それで、約1年半経って、五味、美濃輪、長南という名前が上がってきたというのがあるし、そろそろ、中軽量級に絞ってやっていけるなと、彼らだけで試してみようと思っただけの話なんだよね。

──いままでは『武士道』はミルコの力を借りたりっていう部分もありましたからね。

佐伯　そういう部分もあったけど、実際の路線としては最初から中軽量級を主軸にっていう方向性だったし、匂いもしてたでしょ?

──匂ってはいましたね（笑）。

佐伯　その中でこれから、ちゃんと中軽量級を中心にやっていくっていうのをフジテレビやDSEが決めたっていうだけの話だから。

──でも、それを期に、前々から言ってましたけど武士道GPを開催すると。

佐伯　そうだね。今年の下半期くらいにやりたいなという構想はありますね。

──前から言われているように、73キロ以下のライト級、83キロ以下のウェルター級の2階級のグランプリを同時進行でやっていきたいっていう意向があるみたいですね。

佐伯　そうですね。基本的には中軽量級の試合を中心にやっていくと。ただ、初来日の選手だったりとか、そこの区分けに入らない、たとえば生き残りを賭けた試合だったりをスーパーファイトという形で入れることはあると思います。でも、あくまでもメインは中軽量級ですから。

──『武士道─其の六─』のリング上から挨拶をしてましたけど、これまで『武士道』で結果を残してきた、五味選手や長南選手が主軸となるんですよね?

佐伯　そうですね。もちろん美濃輪もそうですしね。あとは桜井マッハ（速人）。発売日頃には、もう戻ってきてるけど、マッハは新生『武士道』に向けて長いことアメリカで特訓してたから、期待できると思うよ。

──あと、デビューからシングル無敗記録を更新中のパンクラスの前田吉朗選手も『武士道』参戦するみたいですね。

佐伯　彼も上がります。あと、ウチ（『DEEP』）のウェルター級王者の（中尾）受太郎も上がる予定だし。受太郎に関して言えば、僕としてはもう1試合、夏前に『DEEP』の東京のファンの前でキッチリ一本で極めてもらって、秋の『武士道』から出てもらおうと思ってるんだけど。

──本人的にも『DEEP』のチャンピオンとして『武士道GP』の優勝を狙ってるみたいですし。

佐伯　そうだね。まぁ、ウチで言えば、隆多も頑張ってるし、受太郎と三島（☆ド根性ノ助）に関しては自信を持って世界に通用する選手だと思ってるんでね。

──あとは、『武士道』への出場が期待されるというと、修斗のウェルター級王者の川尻選手とかはどうなんですか?　この間の『武士道─其の六─』では桜井隆多選手のセコンドに付いてましたけど。

佐伯　出てもらいたい選手の1人だね。やっぱり『武士道』というのは日本のパンクラス、DEEP、ZST、それに修斗のトップが集まる大会になればいいと思うんで。そこに、世界の強豪が来るっていう形がベストなんじゃないかと。まあ、いま言った団体は上手い交流をできるように話してますよ。

──川尻選手は修斗で活躍されるわけですけど、修斗と『PRIDE』の関係ってどうなんですか?

佐伯　いいと思いますよ。DEEPと修斗さんもいいですから。ウッシッシッシッ。

──おめでとうございます（笑）。その辺は上手く話をして、お互いがメリットになればいいですよね。

佐伯　そうだね。『PRIDE』が選手を取るとか取らないとかそういうことじゃなくて、いい関係を築くこともできると思うんですよ。DEEPで言えば三島とか長南なんかもそうだけど、ウチの大会にも出るし、『武士道』の様な大きな舞台にも出て行くっていう形でね。

──本籍はDEEPで、『PRIDE』に出稼ぎに行くというか（笑）。

佐伯　出稼ぎっていうのもどうかと思うけど、そういうのが一番いいパターンだと思うんですよね。

──佐伯さんにとっても、『武士道』の様な大きな舞台で活躍した選手がDEEPに凱旋するっていう形が望ましいですよね。

佐伯　そうだね。『PRIDE』の



佐伯さんが代表を務める『DEEP』からは、たくさんの選手が『武士道』参戦を果たしている。先日、ブスタマンチに敗れた桜井隆多はDEEPのミドル級王者。桜井のセコンドに付く、修斗ウェルター級王者・川尻達也の『武士道』参戦はあるのか!?

『PRIDEミドル級GP』韓国会見でユン様、そして佐伯さんがハッスル、ハッスル!



大型ビジョンが設置され、スモークまで焚かれるなど演出面も気合いが入りまくりの韓国で行われた『PRIDE・GP』会見。日本からは『PRIDE』ガールズも2名出席。おどける佐伯広報と一緒に写真に収まった



4月7日、韓国ソウル市内のウェスティン朝鮮ホテルにて『PRIDE・GP』の会見が行われ、榊原代表、高田本部長、韓国レスリング協会のキム会長、CJメディアのカンCEO出席のもと、4・23GP開幕戦を韓国のXTMが生放送することが発表された。会見には桜庭戦を迎える韓国の"ユン様"ことユン・ドンシクが必勝宣言!　会見にはDSE広報の佐伯さんも同行した



『PRIDE・GP』韓国会見には、佐伯さんだけではなく、本誌鬼畜編集長にしてハッスル大統領の山口日昇もなぜか同行。しかも、会見場にいた韓国の美人受付嬢と、ちゃっかり記念撮影する、とんだハッスルぶり

お客さんをドンドン引っ張ってきてもらってね（笑）。ただね、ウチからも『武士道』には相当な人数出てますけど、結局、結果残してるのは三島と長南と、あと滑川ぐらいだからね。

――言われてみるとそうですよね。

佐伯　でも滑川なんかは次からは83キロまで落とさせるから。それで、滑川には今年1年でドンドン試合してもらって売り出すから。これね、マジで滑川が83キロ級に来たら怖いですよ、ここだけの話。

――ここだけの話ですか（笑）。でも、一緒に練習してる人に聞くと、滑川さんは凄く強くなってるって言いますからね。

佐伯　83キロ級だったら脅威だと思いますよ。逆に言うと、そうじゃないと外国人に対抗できないからね。修斗の選手とか、そういう落とし方をしてるから世界に通用するんですよ。

――『PRIDE』のミドル級の外国人選手も100キロクラスの人が93キロまで落としてくるっていう世界ですもんね。

佐伯　そうそうそう。だから滑川が83キロまで落として、パワーが残ってれば怖いよぉ。

――83キロ級というと、すでに『武士道』へ参戦経験のあるパンクラスの三崎（和雄）さんとか郷野（聡寛）さんも可能性はありますよね？

佐伯　そうだね。郷野君なんかが83キロにしてきたら僕は恐ろしいと思うよ。そんな感じで体重落として、83キロとかにする選手とかがホントの意味で外国人と互角に闘えると思うんだよね。

――そうでしょうね。

佐伯　それプラス、あとは、ある程度、本当に抜けてこないと『PRIDE』に上がってくる外国人には勝てないと思うよ。



意識しないって言ったら嘘になるけど、『HERO'S』と『武士道』は路線が違う

――いまの総合の選手は平均的にレベルが上がってますし、ホント何かが人より抜けてないと難しい部分はありますよね。

佐伯　そうだね。

――あと、他団体のチャンピオンクラスでいうと、体重とかの問題もあると思うんですけど、〝修斗のカリスマ〟佐藤ルミナ選手とかは可能性はあるんですか？　修斗系の大物で唯一他団体に上がってない選手ですよね。

佐伯　変な意味じゃなくて、ルミナ選手にも、もちろん興味ありますよ。会場人気も凄いし、僕も単純に『武士道』のリングに上がるルミナ選手が見たいって思ってます。いま言ったルミナ選手、川尻選手、五味君、今成君、三島君、受太郎……。ぶっちゃけ、俺は見たくないけど、その辺の選手が73キロ級でやれたら凄いよ。絶対誰もが見たいと思うでしょ。

――そのメンツだったら日本人GPもありですよね。佐伯さんは見たくないってどういうことですか？

佐伯　いやぁ～、いろんなしがらみだとか、人間的な部分があるからね（苦笑）。でも、そんなもん実現したら全く誰が優勝するかわからんぞ！

――わからんです（笑）。

佐伯　そこに外国人選手とか、いろんな選手が絡んでくるんだから凄いことになるよ。

――期待してます。ただ、6月に開催予定の『HERO'S』も中軽量級中心でやっていくってことですけど、やっぱり意識はします？

佐伯　意識はしないって言ったら嘘になるけど、『HERO'S』と『武士道』は同じ路線じゃないからね。

――でも中軽量級を中心にっていう意味では一緒ですよね。

佐伯　だって、メインもセミも中軽量級じゃなかったじゃん。

――まぁ、バンナやサップは中軽量級ではないですけど、2回目からは中軽量級の『HERO'Sメガバトルトーナメント』をやるって話ですよね。

佐伯　まあでも『武士道』のトーナメントは秋にやる予定なんで、先にやられたからどうだとかは別に思わないですね。それに、旗揚げ戦は会場に見に行ったけど、誰がなんと言おうと宇野君の試合が一番面白かったじゃない？

――『紙プロ』の携帯サイトでもアンケートしたんですけど、断トツで宇野vsヨアキム・ハンセン戦がベストバウトでしたね。

佐伯　でしょ。だからあれですよ。宇野君の試合をこの間の『武士道―其の六―』で例えるならルイス対決みたいなものじゃない？　レベル的には。

――ルイス・ブスカペvsルイス・アゼレード戦ですね。

佐伯　あの試合も、レベルの高いいい試合だったんだけど、盛り上がらなかったのは、まだ2人の知名度がないだけだからね。同じ内容でノゲイラとヒョードルがやったらドッカンドッカン、ウケてるでしょ。

――そういう見方もできますよね。

佐伯　ただ僕はわからないところもあるんだけど、『HERO'S』さんは中軽量級の日本人に関して言うと、宇野、KID、元気の他は誰がいますか？　層の厚さで言えば『PRIDE』の方がたくさんいると思いますよ。

――まぁ『HERO'S』もリングスネットワークが世界中にあるみたいなんで、わかんないですよ（笑）。

佐伯　逆に言うとさ、『HERO'S』を見に行って思ったんだけど、須藤君vs宇野君とか見たかったよね。あと、元気vsKIDとかね。できないのかなぁ？

――簡単に実現できるんだったら、とっくにやってますよ（笑）。

佐伯　その辺の関係はわかんないからさぁ。それに、僕は正直言ってキックの選手が付け焼き刃で総合をやることには興味がないんで。

――どっかの団体で、ルチャの選手に付け焼き刃で総合をやらせた大会もあったような気が……（笑）。

佐伯　どっかって、それウチじゃん！　でも、あれはあれで面白かったでしょ。

――たしかに（笑）。

佐伯　やっぱり、さっき言った日本人3人がどう絡んでいくかが見どころだと思うよ。

5月22日（日）

『PRIDE 武士道－其の七－』

東京・有明コロシアム　開場15:30／開始17:00（予定）

【決定対戦カード】
長南亮vsニーノ“エルビス”シェンブリ
前田吉朗vsチャールズ・“クレイジーホース”・ベネット
【主催】ドリームステージエンターテインメント
【後援】SKY PerfecTV!
【協力】東海テレビ放送
【チケット発売情報】4月24日（日）10:00～一斉発売
【入場料金】●VIP……¥50,000（専用ゲート・グッズ付）
●RRS……¥23,000
●スタンドS……¥13,000　スタンドA……¥6,000
【お問合わせ】DSE:TEL.03-5464-1531


『DEEP』代表プラスDSE広報の肩書きを手にした佐伯繁。110キロのヘビー級ボディを揺らしながら、日々、中軽量級選手をブッキングすべく電話をかけまくる毎日!?

もう一つのヒーローこと『HERO 1』にも足を運んでください!!

──トーナメントをやるにせよ、その3人のうちの2人が勝ち上がって決勝戦で闘ったら間違いなく盛り上がるんでしょうけどね。

佐伯 それは盛り上がるだろうし、その3選手の絡みは凄く見たいと思うけど、正直それ以外をどうするかだよね。

──選手層で言えば『PRIDE』の方が上回っていると?

佐伯 そう思いますよ。日本人もいっぱいいるしね。

──たとえば、KID vs 五味を見たいっていう声もたくさん聞きますけど、現実的に先ほど名前を出した3人が将来的に『武士道』に上がる可能性ってあるんですか?

佐伯 まぁその辺は契約云々の話にもなってくるんで僕はわからない。それに実際本人たちもどう思ってるかわかんないし。ただ、僕はKID君にしたって、元気君にしたって、宇野君にしたって興味ありますよ。まあ、KID vs 五味に限らずだけど、夢の対決としてファンが盛り上がるって言うのは昔のプロレスと一緒じゃん。猪木と馬場はやらないのかっていうようなイメージがつけばそれはそれで面白いんじゃない?

──やらなくて良かったって場合もありますからね。

佐伯 そうそう。それはそれでファンの心理としてあって良いと思うよ。将来的に実現するかもしれないし、しないかもしれない。僕にはその全くわからん! ただ、僕はその3人とBJは素晴らしい選手だと思いますよ。

──素晴らしいですよね。

佐伯 でもいま、自分は『PRIDE』の広報やってるから言うんじゃないけど、やっぱり『PRIDE』もDEEPもそうだけど、ウチは日本人の中軽量級をドンドン育てていってるんで新しい選手もいっぱり出てくるからね。『PRIDE』チャレンジからも上がって来てるし、3年とか5年後は凄いことになってると思うんでね。

──先ほど言っていた他団体のチャンピオンクラスというと、K─1の谷川さんや前田さんも高い評価をしているのが、ZSTグランプリのチャンピオンのレミーガ(レミギウス・モリカビチェス)に代表されるリトアニア勢なんですが、もちろん、『PRIDE』サイドでも出てもらいたい選手ではありますよね。

佐伯 そうだね。レミーガはやっぱ華がありますからね。ただレミーガは65キロがナチュラルなんで、もう少しパワーアップしたら間違いなく怖い存在になるでしょ。最近はグラウンドの技術も急成長して、ホントに〝ちっちゃなミルコ〟って感じですからね。

──ただ、どうしてもZSTっていうと、前田さんとつながりが深いっていうイメージがあるんですけど、DSEとZSTの関係はどんな感じなんですか?

佐伯 いや、全然いい関係ですよ。ZSTから『武士道』に出てくる選手もいると思いますよ。もちろん、いままで通りパンクラスともいい関係で話をさせてもらってるんで、郷野選手とか三崎君もタイミング次第で出てくれると思うし。

──5・22の『武士道─其の七─』の会場は『PRIDE』にとっても、佐伯さんにとっても久々の有明コロシアムですよね。

佐伯 まあね、嫌なイメージもあるけどね(笑)。

──あれ以来、DEEPは大会場ではやらなくなりましたからね(笑)。

佐伯 まあまあ、それはさておき、有明大会は新生一発目ってことで、まず『武士道』独特の熱が生まれる様なイベントにしていきたいと思ってるんでね。無理して大きなことをするんじゃなくて、小さいことからコツコツやっていきますよ!

──期待してます。最後にといってはなんですが、今号の発売日翌日の17日に行われる、もう一つのヒーローこと『HERO・1』の見所を語りますか?

佐伯 あぁ! すっかり忘れてた!!

──なんで、自分のとこのイベントを忘れてるんですか!? (笑)。

佐伯 思い出した、思い出した! ウチのヒーロー……って言うのも変だけど(笑)、『HERO・1』は、いま万博もやってて一番熱い街、名古屋! 会場も万博の敷地の中にあるし、一部と二部の間に1時間以上休憩もあるんで、その間にメシを食べにも行ったり、遊園地に行ったりとかいろいろできますんで! 皆さん、ゼヒ会場に足を運んでください!!

──どんな見所ですか!? (笑)。

佐伯 まあまあ、試合の方も滑川とか雷暗(暴)も出ますし、ジョンパチスタとかいい選手も出ますし、あとは、いま名古屋にいる元修斗のチャンピオンの大原(友則)さんが久々の試合出場で坂田(亘)さんの弟子の木村(直生)君とやるしね。他にも柔術の試合やキックルールからオヤジバトルまで名古屋在住の格闘家が勢揃いしますんで。ホントね、ヒーローは名古屋にもいるってことで期待して見に来てください!

【05年4月7日/都内ホテルにて収録】

4月17日(日)

DEEP HERO 1
〜格闘フェスタ2005 in Zepp Nagoya〜

会場:Zepp Nagoya(ささしまライブ24地区)
開場14:00/1部開始14:30/2部開始17:00

【対戦カード】

【第2部】
滑川康仁vs秋山賢治　雷暗暴vsジョン・バチスタ・ヨシムラ
梅村寛vs滝西基元
★CMA誠ジム提供試合 CMAヘビー級タイトルマッチ
チャンピオン キム・ジェヨンvs濱田順平 挑戦者
志村民雄館長、相馬克彦師範、トーマス・スタンレイによる演武
坪井淳浩vs杉内勇　大原友則vs木村直生　MIKUvs服部愛子
山崎晃裕vsエゼキエル・ザヤス　渡辺匡宏vsエジソン・ルイス・ミシオ

【第1部】
土居龍晴vs濱村健
Barbaro44(本名:富岡善宏)vs熊谷真尚
佐藤豪則vsジョウビラ・マルロン・メデイロス
エキシビジョン TAISHOvs今成正和
木村仁要vs魚住敦志
笹本憲嵩vs梅本晴幹
柔術ルール 福住慎祐vsホドリゴ・ヒラカワ
キックルール 西村貴親vs朝日隆二
キックルール 竹林星児vs伊藤洋平
★TRIAL提供試合(35歳以上のおやじバトル)
ラサール★おさみvs宮澤正

【問い合わせ】DEEP事務局　TEL.052-339-0303



立た！（髙田本部長調）



GP 2005

RLD CHAMPIONSHIP



開幕前から鳥肌立つ



PRIDE (

MIDDLE WEIGHT WOR



桜庭和志

KAZUSHI SAKURABA

グランプリ一回戦は
サクの寝技を蔑む
韓国の"饒舌"柔道王

開幕前から鳥肌立った!（髙田本部長調）

PRIDE GP 2005

MIDDLE WEIGHT WORLD CHAMPIONSHIP

聞き手／ジャン斎藤

撮影／森モーリー鷹博

designed by matsu（TwoThree）



サクの“神髄(寝技)”がGPをかき回す!!

サクの相手は“韓国の柔道王”ユン・ドンスク！ 4月6日――4・23『PRIDE・GP』記者会見が開催され、同イベントの出場選手&対戦カードがすべて出揃った。髙田本部長の口から最後に読み上げられたのは、桜庭和志のカード――!! 一回戦の相手であるユン・ドンスクについては、24Pからのインタビューを読めば“韓国の柔道王”たる所以がおわかりになると思うが、はたしてサクはこのユン・ドンシク戦や、“生き残ることが地獄”といわれる過酷なグランプリを直前にして、どういう心境なのか――？ え？ いまだに「出たくない」って言うに決まってるって？ とりあえず会見直後のサクを直撃しました!!

――桜庭さん！ 記者会見直後に申し訳ありませんが、4・23大阪ドーム『PRIDEミドル級GP』についての意気込みを聞かせてください。

桜庭 はい。

――いよいよ開幕戦が間近に迫ってきましたが、よく考えると桜庭さんは久しぶりの大阪登場になるんですよね。

桜庭 久しぶりじゃないですよ、大阪は。

――あれ、桜庭さんの大阪出陣は、2000年の『PRIDE・11』シャノン・“ザ・キャノン”・リッチ戦以来になりますけど……？

桜庭 いや、つい最近『モンゴリアンチョップ大阪店』（髙田総統とサク・マシンが共同出資し、髙田本部長が統括するジンギスカン屋）の開店パーティーに行ってきましたから。

――ああ、なるほど……って、ボクが言ってるのは試合のことなんですけど（笑）。試合会場までの移動はさいたまスーパーアリーナが限界と言っている桜庭さんからすると、珍しく“大遠征”というか。

桜庭 ……ボク、「今度のグランプリは大阪でやるけど出る？」って聞かれたわけじゃないんで。「グランプリに出る？」とも聞かれてないですから（ボソッと）。

――すべて事後報告の了承（笑）。で、先ほどの記者会見では、桜庭さんの一回戦の相手は“韓国の柔道王”ことユン・ドンシクと発表されました。会見で実際にユン選手と顔を合わせてみた印象は何かありますか？

桜庭 印象……？ まぁ強そうですね。

――柔道の実績もあるし、勝ち気な性格で「サクラバの寝技は柔道から見ると七段か八段。でも、自分は九段か十段のレベルです！」と豪語したり、かなりの自信家のようです。

桜庭 それはやってみないとわからないと思いますけどね。柔道の寝技は強いんでしょうけど。

――柔道家時代は瀧本（誠）選手やあの古賀（稔彦）さんにも勝ったことがあって、「日本人は弱い！」と言い切る“日本人キラー”という一面もあるそうです。

桜庭 そう言われても……。ボクは日本人じゃなくて宇宙人かもしれないですから。というか、ボクは宇宙人なんです！（キッパリ）。

――“宇宙人”宣言!! 前号は“ツチノコ”でしたけど（笑）。では、マスコミが見出しにする“日韓対決”という図式はあまりピンときてないわけですね。

桜庭 う～～ん。ボクは試合に勝ちたいから闘うわけですから。“日韓対決”と言われても困りますね。それにボクは別に日本予選で勝ち残ったわけでもないので。

――観客の興味はやっぱり“寝技対決”になると思うんですけど、ユン選手の胴衣着用の有無は試合に大きな影響を与えそうですよね。



KAZUSHI SAKURABA

日韓対決？ ボクは日本人じゃなくて宇宙人ですから（ニコニコ）

桜庭 ああ、それはありますね。着た方がボクにとってやりやすかったり、やりずらかったりするところもありますから。とくに関節極めるときに胴衣は滑り止めになったりするんで。胴衣のせいで極まってなくても抜けられないときもありますから。

――ホイス戦のときのように胴衣を掴んで攻撃することもできる。ユン選手は寝技が得意な柔道家だそうですが、投げ技については気にならないですか？

桜庭 それはあんまり。別にコンクリートの上に投げられるわけじゃないので。

――なるほど（笑）。

桜庭 たしかに落ちどころが悪かったらヤバイですけど、投げられる気持ちでいれば別に痛くもなんともないので。逆に投げる方が不利になることもありますからね。『PRIDE』の場合は、投げてもそれからの展開が待っているんで。

――『PRIDE』は投げが決まって“勝負あり！”の世界ではないですよね。

桜庭 そこからの攻防で向こうが知らない“総合格闘技の寝技”の展開や流れがありますから。逆にボクは柔道のことはあまりよく知らないので、どっちが自分の得意分野に引っ張り込むかが勝負になると思いますよ。柔道の試合しかないけど、（ユンの）試合映像を見ようかなあとは思っています。多少は参考になると思うんで。

――“総合格闘技の寝技”でいえば、桜庭さんは新しい必殺技をいくつか用意してるんですよね。「ムギュッ」のことは前号の『紙プロ』でも言ってましたけど。

桜庭 アレは昔からスパーリングではよく使ってたんですよ。でも、その技に入る流れがなかなかつくれなくて、実戦では使えないかなあとは思ってたんですけど、最近になって（「ムギュッ」に）入れるパター



ンを見つけました（ニコニコ）。

――あと「手羽先ロック」という技もあるらしいですね。じつに桜庭さんらしいネーミングですけど（笑）。

桜庭 ああ、それを狙うなら首や腕を極めた方が早いんですよね。

――そんなに難易度が高い（笑）。

桜庭 よく試合では狙ってるんですけどね。次の試合でもチャンスがあればやってみます。

――期待してます！ そういえば、ユン選手は寝技に相当の自信を持っているらしく、打撃の練習はしてないらしいです。

桜庭 いやぁ～、それは試合になってみないとわかんない。「打撃の練習をしてない」と言いながらも、じつはちゃんと練習してるかもしれないし。

――すでに〝心理戦〟を仕掛けてきているのかもしれない、と。

桜庭 試合がどう動くかなんて、実際にやってみないとわかんないですよ。だから（作戦を）決めてかかるのはよくないですね。たとえば、『PRIDE・29』の（マーク・）コールマンvsミルコ（・クロコップ）のときだって、コールマンはタックルを狙うことしか頭になくて、テイクダウンができなくなったらアタフタしちゃったじゃないですか？

――ミルコはタックルをすべて切ることで、コールマンの心を折ったかのようでした。

桜庭 だから何も考えません。考えていたとしても試合前には言いません（ニコニコ）。

――わかりました（笑）。で、昨年の『PRIDEヘビー級GP』で、ノゲイラやヒョードルたちは決勝ラウンドの8月を見据えた調整をしていたそうですけど。桜庭さんも8月の決勝ラウンドのことは視野に入ってるんですか？

会見で桜庭の寝技については「非常にうまいと思います」とユンは認めながらも返す刀で「しかし、自分のほうが強いと思います」と自信たっぷり。ユンの挑発気味のコメントにサクは「発言をどう思うか?……（その質問自体を）忘れました」とオトボケ。

桜庭 いや、先のことはまったく考えてないです。とにかく、いまは一回戦を勝つことしか頭にない。

――ちなみに2回戦で闘いたい相手は誰かいますか？

桜庭 （即座に）誰ともやりたくないですね。もしくはできるなら弱い相手がいいですねぇ。

――素晴らしい二択ですね、それは（笑）。

桜庭 まぁ、高田さんには「弱い選手はグランプリには出てこない」って言われちゃいましたけどね。でも、いまは誰が相手でも一本取れる自信はありますよ!!

――でも、先ほどの会見ではその言葉のあとに「……これくらい言ったほうがいいですか?」って付け加えてましたよね（笑）。

桜庭 いや、ホントに調子がいいんですよ。誰でも極めれます（ニコニコ）。

――では、4、6、8月と、桜庭さんのご活躍を期待しています！

【05年4月6日／カード発表記者会見後にミニ収録】

「調子がいいです!!」最近はどの媒体でもミドル級グランプリに向けて好調さをアピールしている桜庭和志――思えばここ数年、サクはずっとケガに泣かされ続け、満身創痍の姿で〝圧倒的現実〟が支配する過酷な『PRIDE』のリングに身を投じ続けてきていた。常に〝PRIDEの顔〟としての役割を求め続けられた。並のファイターなら到底背負えないリスクを乗り越えて、昨年の大晦日『PRIDE男祭り』にヴァンダレイ・シウバ戦という〝究極のもう一丁〟を呼び寄せた。しかし、直前に肋骨を骨折する不運に見舞われ涙の欠場となった。〝不幸中の幸い〟とでも言うべきか、その〝SADAME〟の決戦を欠場することで「身体を無理することなく古傷のヒザも休ませることができた」と高田本部長は言う。体調は万全！ そして寝技対決!! 時は来た！

となれば我々は大阪ドームのリングに立ち上る、サクの〝神髄〟をただただ期待するだけです!!（ニコニコ）。

桜庭撃破に自信満々！

〝韓流ビッグマウス〟

ユン様の俺節を聞け!!

〝寝技十段〟（自称）

尹東植

YOON DON SIK

ユン・ドンシク

「桜庭選手は私との試合で初めて〝本当の寝技〟を知ることになるでしょう」

髙田延彦PRIDE統括本部長の「これからの『PRIDE』には〝アスリートvs叩き上げ〟という構図が生まれる」との予言通り、『PRIDE』戦線にまた一人、大物アスリートが参戦を果たす。その男とは韓国柔道界のトップ選手ユン・ドンシク。オリンピック出場こそ逃したものの、パリオープン2連覇、ドイツ国際3連覇ほか数々の実績を持つ、まぎれもない〝ホンモノ〟だ。柔道関係者も、「あの男はマジで強い」と口を揃える。

デビュー戦の相手を「日本人がいい。弱いから」と言い放つなどその自信、ビッグマウスぶりも超A級なドンシクは、希望通り4・23『PRIDEミドル級GP』一回戦で桜庭和志との対戦が決定！　DSE榊原信行代表いわく「生意気で、気が強くて、ナメてるのかと思うくらい」なユン様の「柔道、そして寝技最高！」と言わんばかりのオレ節を堪能してほしい。

――ユン選手、はじめまして！　僕たちは『紙のプロレス』という雑誌のスタッフでして、これが最新号になります。

ユン　（表紙を見て）ああ、『HERO'S』の前田さんですね。それから『PRIDE』の髙田さん。

――あ、その方は髙田本部長の〝古くからの友人〟なんですけど（笑）。それにしても日本の格闘技事情に詳しいみたいですね。プロ格闘技には、いつぐらいから興味があったんですか？

ユン　やはり、吉田（秀彦）選手がプロになってからですね。それ以前から好きではあったんですが、吉田選手の試合を通じて、ますます興味が湧いてきたんですよ。

――柔道では数々の実績があるわけですが、現役選手としてはいつまで試合をされていたんですか？

ユン　国際大会は去年3月のドイツ国際、国内では去年の10月ですね。

――引退してしばらくたってからプロ入りするアスリートは多いですけど、ユン選手はバリバリの現役なんですね。残念ながらオリンピック出場は果たせず、韓国では〝悲運のヒーロー〟と呼ばれたそうですが、いったい何があったんですか？

ユン　アトランタ五輪の韓国予選で負けたときは、自分では勝ったと思ったんですよ。優勢だという自信がありました。でも、判定で負けにされてしまったんです。30分くらい抗議したんですが判定は覆らず、そのことは韓国でも大きな問題になりました。

――いま、『PRIDE』参戦に向けてどんな練習をしてるんですか？　正直、総合に対応するには時間が少ないという不安もあると思うんですが……。

ユン　特に新しい練習はしていないですね。打撃の練習もしているんですが、おっしゃる通り試合への時間が短いので、柔道で培った寝技で勝負していきたいと思っています。重要視しているのは、寝技に持っていくまでの部分。スタンドから寝技への〝つなぎ〟ですね。



開幕前から鳥肌立った!（高田本部長調）

PRIDE GP 2005

MIDDLE WEIGHT WORLD CHAMPIONSHIP

聞き手／橋本宗洋　構成／堀江ガンツ
撮影／乾晋也　designed by matsu（TwoThree）

吉田選手や瀧本選手の寝技と一緒にしないでほしいですね

YOON DON SIK

―会見では、ボクシングの練習もされているということでしたが、打撃の上達具合はいかがですか？

ユン　打撃に関しては、あまり比重を置きすぎないようにしています。将来的には必要ですが、まず一回戦は得意な寝技でいこうと。

―顔を殴ったり、殴られたりすることに抵抗はありますか？

ユン　大きな問題はないですね。

―柔道出身というと、『PRIDE』では吉田選手、瀧本（誠）選手が有名ですが、吉田選手はこのところ苦しい闘いが続いていますし、瀧本選手もデビュー戦の後で「総合をナメてました」と悔し涙を流しているんですよ。彼らの試合ぶりや結果を、ユン選手はどう見ていますか？

ユン　そういう見方もありますが、全体を総合すると吉田選手も瀧本選手も結果を出していると思いますよ。それと彼らの試合を見ていて思うんですが、吉田選手は柔道では立ち技の選手だったのに、『PRIDE』では寝技で勝っていますよね。私は吉田選手の寝技が、そんなにうまいとは思ってません。自分の方が寝技は得意ですから、もっといい結果を出せるんじゃないかと思っています。

―確かに、吉田選手の得意技といえば内股で、立ち技の選手でしたよね。『PRIDE』の試合でも、吉田選手の寝技はユン選手から見ると粗いわけですか？

ユン　自分から見ると、そんなに寝技がうまい選手ではありませんね。

―例えば吉田vsホイス・グレイシー戦、吉田vsヴァンダレイ・シウバ戦を見て「自分ならもっとうまくできるのに」と思ったりするんですか？

ユン　その通りです。

―それだけ柔道時代から寝技が得意だったと。

ユン　国際大会で、全試合寝技で勝ったこともありますし、自分はだいたい80％の試合を寝技で勝ってますね。

―じゃあ、本当に総合格闘技に向いている寝技主体の柔道家は、日本でいうと誰になりますか？

ユン　寝技が強いといえば、やはり中村三兄弟の三男、兼三選手でしょうね。

―アトランタ五輪の金メダリストで、世界選手権でも優勝している選手ですね。確かにあの人の寝技は抜群ですよ。

ユン　ただ、私は兼三選手に寝技で勝っているんですよ。試合ではなかったんですが、日韓合同練習だったので監督はじめたくさんの人が見ています。



4月7日、韓国・ソウルで行われた「ユン・ドンシクPRIDE・GP参戦記者会見」には現地のマスコミが約100名集結。ここでもユン様は「桜庭の次は吉田と闘いたい」とデビュー前から皮算用を披露するなど、俺節を展開。GP1回戦は韓国でも生中継されるだけに、モチベーションも最高潮だ。

―中村兼三に寝技で勝った！　それは相当な実力ですね。

ユン　（微笑）。

―ユン選手の寝技は、特にどんな部分に秀でていると考えていますか？

ユン　自分の特徴としては、寝技を中心とした技が豊富だということと、持久力があるということですね。

―いま、プロ格闘技の世界では韓国の選手が大きな注目を集めています。レスリングのチェ・ムベ、シルムのチェ・ホンマン、柔道のキム・ミンスなどがプロデビューしていますが、彼らのことは意識していますか？

ユン　もちろん彼らの試合は見ていますが、自分と比較しようとは思わないですね。彼らが勝てば嬉しいし、いい意味での刺激は受けていますが。

―ユン選手とキム・ミンス選手は柔道時代、同じKRA（韓国馬事会）所属のチームメイトだったそうですが、彼が『HERO'S』という大会で負けてしまったのはどう思いましたか？

ユン　試合前、彼と連絡を取ったんですが、そのときは「寝技で勝つ」と言っていたんですよ。ところが、いざ試合になるとそれができなかった。そこが敗因でしょうね。

―ユン選手とキム選手は、ほぼ同時期にプロデビューということで、プロ入り前に話をしたりしたんですか？「お前はどうする？」みたいな。

ユン　実は、私にも同じところからスカウトの話は来ていたんですよ。秋山（成勲）選手とは仲がいいので、そこから話が始まって。

―え、そうなんですか⁉

ユン　そこのイベントプロデューサーとも会って、『HERO'S』参戦について話をしました。

―んあ～、あの有名プロデューサーとも会ってましたか（笑）。

ユン　ただ、自分が世界一強いと思うのは『PRIDE』ですから。そこでチャンピオンになるために、私は『PRIDE』と契約したんです。KRAの環境に不満はなかったんですが、吉田選手に刺激を受けて、自分でも総合の試合をやってみたくなりました。男に生まれたからには、世界一の舞台で自分の力を試してみたいんですよ。人間、100年も200年も生きられるわけじゃない。できるときに大きな勝負がしたいんです。

―ユン選手のプロデビュー戦である『PRIDEミドル級GP』一回戦の相手は桜庭和志選手に決まりました。希望通り、日本人選手との対戦ですね。

ユン　そうですね。自分のプロデビュー戦は、ぜひ日本人と闘いたかったんです。日本の大会ですから、日本人と試合すれば注目度も上がりますから。まして勝てば人気も出ると思いますし。柔道時代にも、日本人には1敗しかしていませんから、自信もありますね。

―桜庭選手の印象はどんな感じですか？

ユン　すでに桜庭選手に関しては研究、対策をしているので、自信がありますね。

――桜庭選手の、柔道とはスタイルの違う寝技に関してはどうですか？　凄くレベルが高いし、技も多彩だと思うんですが。

ユン　非常にうまいし、クレバーだと思いますね。でも、今まで桜庭選手が闘ってきた相手の寝技は、自分よりも劣ってますからね。本当に寝技が強い選手とはやっていないんじゃないですか？

――ホイス選手やヘンゾ選手も、ですか？

ユン　自分には、グレイシーの選手が使わないような秘密の技がありますから。私が桜庭選手に、本当に強い寝技というものを味わわせてやろうと思ってます。

――はぁ～……。なんかもう、凄い自信ですね！

ユン　はい、自信はありますよ（微笑）。

――そうですか（笑）。では、いま『PRIDE』で寝技がうまいなと思う選手は誰かいますか？

ユン　やはりノゲイラ選手ですね。でも、ノゲイラ選手にできる技は自分も全てできます。彼から学ぶところはたくさんありますが、自分も彼にいろいろ教えられるだけの高いスキルがありますから。

――これまた凄い自信ですね。もし一回戦をクリアしたとして、GP優勝まではまだまだ強敵がたくさんいます。中でも最大の敵はシウバ選手だと思うんですが、彼にも勝つ自信がありますか？

ユン　いま現在の段階では、厳しい闘いになるのは間違いないでしょうね。彼と闘うには、私の打撃は準備不足だと思います。ただ、4月の一回戦さえ突破すれば、次の試合まで時間ができますから、そこで打撃対策ができると思います。寝技には自信がありますから、あとは2カ月間で打撃の練習をすれば、かなり高いレベルに仕上げられるでしょう。

――逆に言えば、不十分な今の状態でも桜庭選手には勝てると。

ユン　組み技、寝技の勝負であれば、自信があるということです。

――サッカーでも日韓戦は凄く盛り上がりますし、特に韓国側は「日本にだけは絶対に負けるな」というムードがあると思うんですが、それは今回のユン選手の試合にも当てはまるんですか？

ユン　やはり総合格闘技の日韓戦ということで、関心は高いですね。ネットを見ても、かなり話題になっているようです。

――韓国のサイトでも、やっぱり変な試合をした選手は徹底的に叩かれるんですか？　日本では「ネットは見ない」という選手も多いんですけど。

ユン　韓国では、選手個人というよりイベント自体や、レフェリング、ジャッジが問題になることが多いですね。桜庭vsホイス戦のときに「桜庭は途中でタップしてる」と論争になったこともありましたし。

――え、あの試合でそんな場面がありましたっけ？

ユン　私もネットで読んだだけなんですけども（笑）。それから吉田vsホイス戦のレフェリーのストップも問題になりました。あのフィニッシュはどう思いますか？

1回戦までに特別打撃の練習をするつもりはありません。寝技の勝負で勝てますから。



尹東植 YOON DON SIK
1972年8月24日、韓国・ソウル出身。韓国柔道界において実力ナンバー1の呼び声も高い寝技師。判定に恵まれず、五輪出場は逃しているが、世界選手権、アジア大会などで数々の好成績を挙げ、国際大会47連勝の記録を誇る本物。瀧本誠、古賀稔彦、矢崎雄大も下している"日本人キラー"でもある。183cm、91kg。

――あ、僕ですか？　いや、難しいですよねぇ。僕も会場にいましたけど、ハッキリしたことは……。

ユン　見ていたのに分からないんですか？　マスコミの人がそういうふうだと、困るんですよね。

――す、すいません！　まあ個人的なことを言えば、ホイス選手の首の辺りは吉田選手に覆いかぶさられて見えにくかったので、ホイス選手は明確に「落ちていない」という意思表示をすべきだったとは思います。あの状態ではストップと判断されても仕方がないんじゃないかと。

ユン　そうですか。私がいま一番不安なのは「見えにくかった」とかそういう曖昧なレフェリングなんですよ。そんなことで大事な勝ち星を逃したくないですからね。

――オリンピック予選でも微妙な判定で負けているだけに、そういう思いは強いんでしょうね。

ユン　ですから今度の桜庭選手との試合は、相手だけでなくレフェリングその他、周りの状況にも全部打ち勝って、誰にも文句を言わせない形で勝利するつもりでいます。だからあなたも、しっかり試合を見ていてください（笑）。

――分かりました（笑）。ユン選手の健闘を祈りつつ、しっかり見届けさせていただきます！

【05年4月2日／都内・某ホテルにて収録】



「私が毎日ジムで見ている シウバvsショーグンの闘いを GP決勝で皆さんにお見せしましょう」

開幕前から鳥肌立った！（高田本部長調）

PRIDE GP 2005

MIDDLE WEIGHT WORLD CHAMPIONSHIP

聞き手／橋本宗洋　構成／堀江ガンツ
撮影／森モーリー鷹博　写真協力／Booker K
designed by matsu（TwoThree）

フジマール・フェデリゴ会長が語る

シュートボクセ PRIDE 制圧計画



『PRIDE』ミドル級戦線で圧倒的強さを見せる、ブラジルの名門シュートボクセアカデミー。“絶対王者”ヴァンダレイ・シウバ、ショーグン&ニンジャ兄弟を擁し、さらに次々と新たなファイターを生み出す、その強さの秘密とは一体なんなのか？　ミドル級GP開幕前に、フジマール会長を直撃した!

CHUTE BOXE
RUDIMAR FEDRIGO

〝顔面踏みつけ〟は別に野蛮なことではなく あくまで練習によって習得した技術なんだよ

――まずは4・3『PRIDE武士道』でのシュート・ボクセ勢2連勝、おめでとうございます。ルイス・ブスカペ選手に判定勝ち、ダニエル・アカーシオ選手が高瀬大樹選手にTKO勝ちと、どちらも素晴らしい内容でしたね。

フジマール　ありがとう。2人ともいい結果を出すことができて、我々も非常に満足しているよ。

――それにしても、いつも驚かされるんですが、シュート・ボクセからは次々と若くて強い選手が出てきますよね。その強さの秘密はどこにあるんですか？

フジマール　最初からシュート・ボクセで育ってきた選手はもちろんだけど、最近はプロのファイターが移籍してくることも多いんだ。それで余計にそう感じられるのかもしれないね。例えば柔術で名を成した選手でも〝もっと強くなりたい〟と思ったときにシュート・ボクセに入門してくるんだ。

――ニーノ〝エルビス〟シェンブリ選手やジョルジ・パチーユ・マカコ選手がそうですよね。柔術では知られた存在だったのに、それに満足せずにシュート・ボクセに入ってきたという。

フジマール　「シュート・ボクセに入って強くなりたい」というのが、ブラジルのプロファイターの目標というか、夢でもあるんだと思うね。サッカーに例えると、名門チームみたいなものだよ。

――試合で結果を出すことによって、より強い選手が入ってくるという相乗効果なわけですね。

フジマール　その通り。ファイターというのは自分をより磨きたいと思っているものだからね。ましてシュート・ボクセはブラジルでも伝統のあるジムだから。今回、出場したルイス・アゼレードとダニエル・アカーシオも移籍組なんだ。アカーシオは以前、私が主催した大会に出場したんだ。シュート・ボクセの選手との対戦だったんだけど、非常にいい試合をしてくれてね。能力が高いし、カリスマ性も感じたから、そのときから「ウチに来て練習してほしいな」と思っていたんだよ。選手の方も、自分がシュート・ボクセであることに誇りを持っている。アゼレードとアカーシオも、試合で勝てた以上に「シュート・ボクセとして闘えたことが嬉しい」と言っていたね。

――その移籍組選手も含めて、シュート・ボクセのファイターたちは、一様にグラウンドの相手への顔面蹴りや踏み付けが得意ですよね。あれはどうやったらうまくなれるんですか？

フジマール　もちろん、最初からみんながみんな得意なわけじゃないんだ。柔術出身の選手だっているしね。でも練習しているうちに、自然とうまくなっていくんだよ。

――立ち技の打撃と同じように、例えば踏み付けのシャドーとかミット打ちみたいなこともやっているんですか？

フジマール　顔面蹴りには2つの練習方法があるんだ。一つはミット打ちなどの基礎練習。もう一つはスパーリングだね。シュート・ボクセではバーリ・トゥードスタイルのスパーリングをやっていて、そこでは「何をやってもいい」ということになっているから、どんどん顔面を蹴り、踏み付けているんだ。

――バーリ・トゥードのスパーリングですか。それはまたハードですね！　そういえば以前、シウバ選手が、スパーリングで目の上をカットしたまま来日したこともありましたね。

フジマール　みんな仲間だし、いい友達ではあるんだけど、いざスパーリングになれば試合と同じようにガンガンやり合うんだ。それは強くなるために、どうしても欠かせないことだからね。練習でやっていないことを、試合で出せるはずがないんだから。

――顔面蹴りのバリエーションって、何種類くらいあるんですか？

フジマール　何パターンあるかは、私でも分からないな。もう数え切れないくらいだよ。というのは、どの選手も教えられたものだけじゃなくて、自分の想像力を使って自分の得意パターンを作っているからね。昨日もアゼレードがパスガードした瞬間に蹴る技を使っていたけど、あれは彼のオリジナルだよ。シュート・ボクセにはいいコーチがたくさんいるし、選手もいろんな所から集まってきている。お互いが情報交換したり、切磋琢磨していくことで、技術というのはどんどん進化していくんだ。基本というのは、確実に存在するけどね。

――顔面蹴りや踏みつけというのは見ていても残酷性があって、やる方にも勇気というか覚悟が必要なんじゃないか、本能で出してる〝ケンカの技〟なんじゃないかってイメージがあるんですけど、あくまでも練習の成果ということですね。顔面踏みつけは〝技術〟であると。

フジマール　そう、練習すればできるようになるよ。寝ている相手を蹴るのも、スタンドでパンチやキックを出すのも同じことだからね。特に残酷だというのではなく、勝つために必要だからやってるんだ。ただし、習得するためにはかなりハードな練習をしないといけないけどね。

――では、そんなシュート・ボクセが、あまりにもハードな闘いぶりで〝悪魔の巣窟〟と呼ばれていることはどう思いますか？

フジマール　ウチはそんなふうに言われているのか!?

――まあ、テレビのプロモーションで、で

CHUTE BOXE
RUDIMAR FEDRIGO



4・3『武士道 其の六』に出場したアカーシオとアゼレードは、それぞれシュートボクセらしい激しい打撃を披露。一見、野蛮な攻撃も実はすべて厳しい鍛錬に裏打ちされた技術なのだ。

すけども。

フジマール　そうか。まあ確かに普通はできない技だとは思うけどね（苦笑）。相手をノックアウトするためには、それも仕方がないよ（笑）。

ブッカーK　ヴァンダレイなんかは、踏み付けをやると観客が沸くのを知ってるんで、他の選手にも「どんどん踏み付けてこい！」って言いますね。

――「どんどん踏み付けてこい！」（笑）。

ブッカーK　彼はプロ意識が高いですから、お客さんが〝ウオォー！〟ってなるのが喜びなんですよ。自分がパンチを貰ってもお客さんが湧けば喜ぶくらいだから。



フジマール会長が持つミットへ、全力でパンチを振り下ろすシウバ。その激しさはフジマール会長の腹が腫れ上がるほど。シュートボクセのこうした練習によってシウバの強烈無比のパウンドが生まれたのだ。



©Booker K

――プロ意識高すぎです（笑）。そんなシュート・ボクセの中でも、いま一番勢いがあるのはやっぱりマウリシオ・ショーグン選手ですか。

フジマール　そうだね。彼もミドル級のチャンピオンになりたいという野望を持っているし、まだ若くて将来性もある。いつかヴァンダレイを受け継いで、チャンピオンになってくれると思うよ。

――それから、いまトップにいるヴァンダレイ・シウバ選手なんですが、彼が現在の地位につけたのには、どんな理由があったんですか。他の選手と比べて優れていた部分っていうのはどこなんでしょう。師匠の目から見ていかがですか？

フジマール　簡単に理由を挙げるのは難しいね。ヴァンダレイがここまで昇ってくるまでには、いろんな要素があったから。ただ確実に言えるのは、ファイターとしての姿勢が最高だということだね。

――それは闘いへの取り組み方ということですか？

フジマール　彼はチャンピオンになったいまでも、非常に練習熱心なんだ。雨の日だろうが日曜日だろうが、決して練習は欠かさない。それはチャンピオンになるため、チャンピオンであり続けるためにとても重要なことだと思うよ。トップに上り詰めても、決して気を抜くことがない。彼は勝つために必要なことはなんなのかを知っていて、それを忘れることがない。そこがヴァンダレイの素晴らしいところだね。

――シウバ選手は、ミドル級GPの一回戦で吉田秀彦選手との対戦が決まりました。判定で一度勝っているのに、あえてリマッチを受けて「自分が王者であることを証明する」というシウバ選手の姿勢は凄いですよね。やはりシウバ選手は判定勝ちでは満

足せず、相手をKOしてやりたいという思いが強い人なんですか？

フジマール　そうだね。今回、ヴァンダレイは必ずヨシダをノックアウトすると思う。ヨシダは確かに強い選手だし、前回の対戦では、ヨシダの闘い方も非常に良かった。だけど、今回に関してはヴァンダレイがさらに成長しているからね。間違いなく、ヴァンダレイがKOで勝つよ。

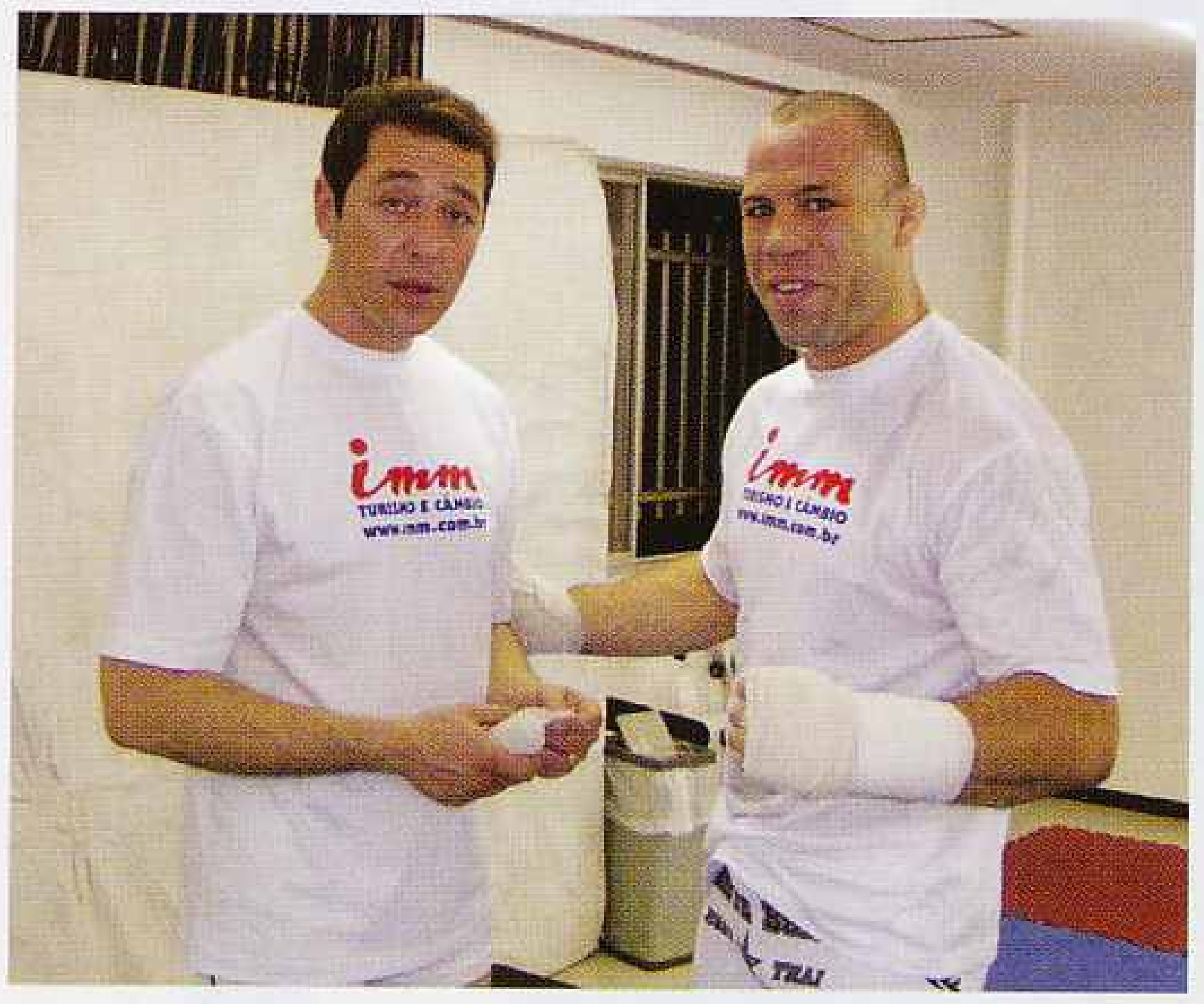
―前回の闘いよりも、2人の実力差は離れていると。

フジマール　それは難しい質問だね。確かに、私はヴァンダレイの勝利を信じているけど、闘いというのはいつでも、誰が相手でも厳しいものだからね。我々は相手を甘く見ず、ハードな練習をして試合に臨むだけだよ。その意味で、準備は整っていると言えるね。ヴァンダレイは寝技も成長しているから、ヨシダから一本を取りにいく可能性もある。

―吉田選手相手に寝技勝負ですか！　実際シウバ選手は寝技がうまくなってますし、逆に吉田選手は打撃を熱心に練習してますから、前回とは違う展開になる可能性もありえますよね。

フジマール　それで試合全体の流れが変わるということはないと思うけどね。やっぱりヴァンダレイの打撃は恐ろしくレベルが高いからね。吉田の打撃がいくら上達したといっても、打ち合うことに関してはまったく問題がないと断言できるよ。そして寝技に関しても、ヴァンダレイは最近はニーノ・シェンブリと一緒に練習することで多くの技を学んでいる。もしグラウンドになったとしても、ニーノから学んだ技を出せば、かなりの攻防ができるだろうね。この試合で最も重要なのは、キックであれパンチであれ、いかに的確に、有効な技を出していくかということだ。ヴァンダレイはそれができると思うよ。

―いまのお話を聞いていると、シウバ選手は打撃でも寝技でも負ける要素がないという感じですね（笑）。



フジマール　ヴァンダレイは、いまが最も充実した時期にあるからね。私は彼が世界最強のファイターだと思っているよ。

―まず大事なのは一回戦だと思うんですが、シウバ選手とショーグン選手が勝ち進んで、2人が決勝で闘うという可能性も

ヴァンダレイはニーノとの練習で寝技も上達しているから、ヨシダから一本勝ちを奪いにいく可能性もあるよ

充分にありますよね。

フジマール　それは充分にありえる話だと思うよ。

―そうなったら、フジマール会長はどうします？（笑）。愛弟子同士の対戦はかなり心苦しいんじゃないですか。

フジマール　いや、私はヴァンダレイ・シウバvsマウリシオ・ショーグンの闘いを毎日ジムで見ているからね（笑）。このハイレベルな闘いをみなさんにもお見せすることができるなら、とても嬉しいよ。

―毎日シウバvsショーグン！　それは贅沢というか恐ろしいというか（笑）。

フジマール　ぜひ、日本のファンのみなさんにも味わってもらいたいね。

―優勝候補でもある2人にとって、最大のライバルになりそうな選手というと誰になりますか？

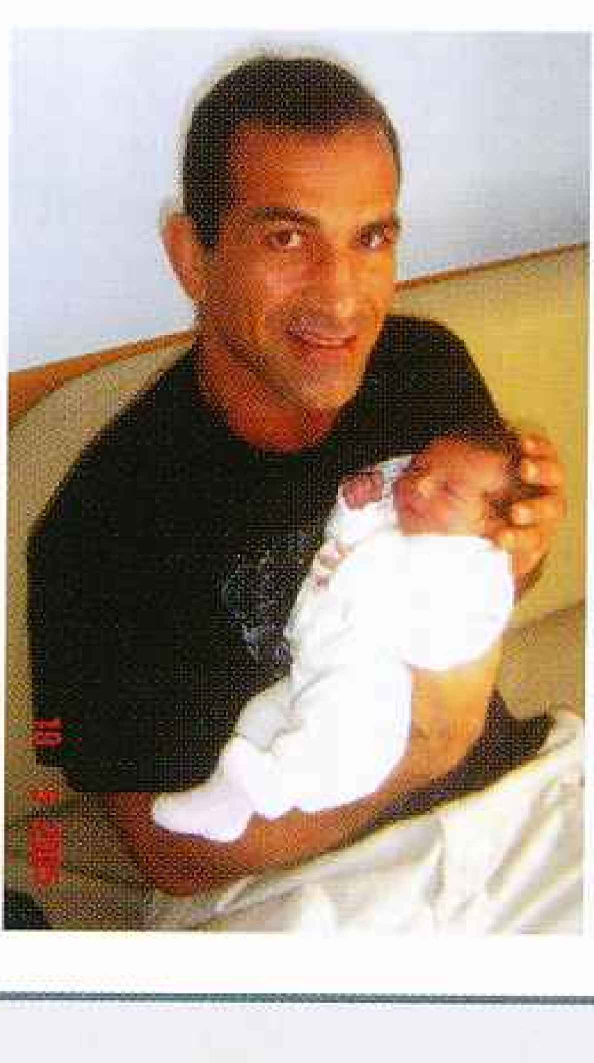
フジマール　このGPに出場するファイターは、全員が素晴らしい選手だと思う。だから誰が相手でも真剣にやらなければいけないんだけど、それだけでは勝てないだろうね。トーナメントというものはファイターの力量だけでなく、もう一つ重要なファクターがあるんだよ。

―というのは……？

フジマール　運だね。試合を重ねるうちにケガをしたり、アクシデントが起こると能力を100％出すのが難しくなってしまう。最悪の場合には、欠場しなければならないかもしれない。GPで優勝するためには、ただ単に全力で闘うだけじゃなく、そういうことにも充分、注意していく必要があるだろうね。

―敵は運だけだ、と。僕たちはGPでのシュート・ボクセ勢の幸運を願ってますよ。今日はありがとうございました！

【05年4月4日／都内・某ホテルにて収録】



BTTの首領 マリオ・スペーヒーに第一子誕生！

ブラジリアン・トップチームの首領として、ノゲイラらを束ねるマリオ・スペーヒーにお子さんが誕生！　待望の第一子は女の子で名前はマリア・フェルナンダ・スペーヒー。パパになったマリオから素晴らしい写真を2枚お借りしたので、ここに紹介。妊婦なのにビキニ姿の奥さんとマリオが実にブラジルだ。







スベピカ！ ミルコ・クロコップがShick「クアトロ4」CM出演中！

ガンガン流れているので、もうほとんどファンが見ているだろうが、3月19日よりShick「クアトロ4」のCMにミルコが出演中！「深剃り」と「安全」の2大ニーズを両立したこのヒゲ剃りを使って、君もミルコと一緒にスベピカになろう！

シック・ジャパン（株）　お客様相談室
TEL:03-5487-6801
シック HP:http://www.schick-jp.com

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2005 NO.86



"前田日明"を通して見るマット界の動向!!

『PRIDE』は"挑戦し続ける王者"たれ!!

前田日明マット界復帰に続き
山口日昇も『紙プロ』本格復帰!!
ターザン山本!と1年半ぶりの大放談!!

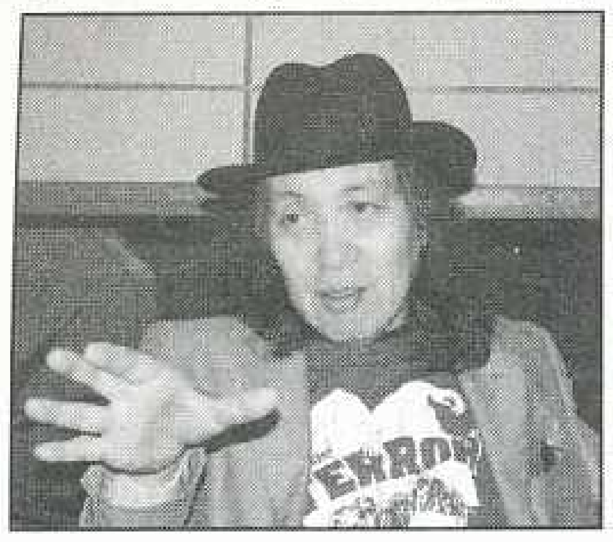
[本誌鬼畜編集長] **山口日昇** × [ターザンギャルド取締役] **ターザン山本!**

司会 **堀江ガンツ** [本誌現場監督]

構成／ジャン斉藤 designed by bun-chan (Two Three)

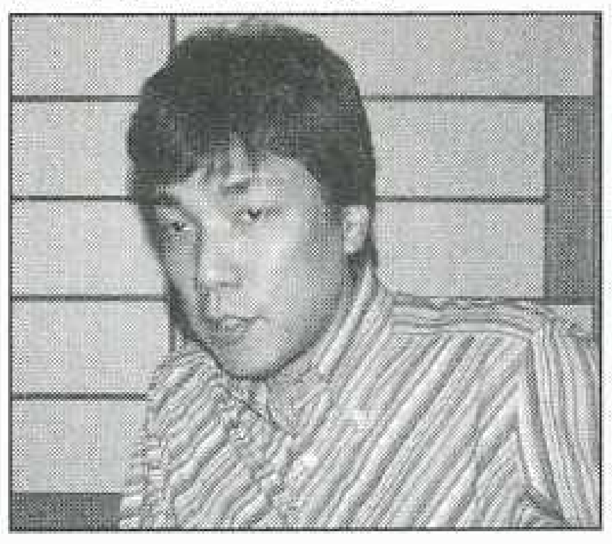
出席者

ターザン山本！



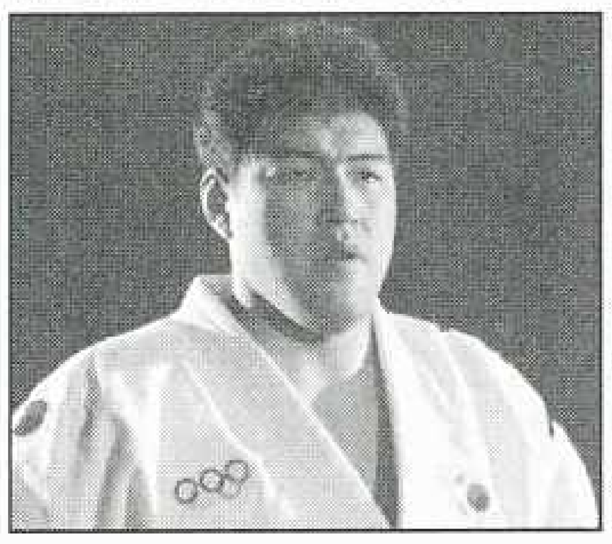
ターザンギャルド取締役。ごっつあん&VIP待遇されれば全国各地で大炎上！最近の日記を読む限りでは心に“春風”が舞い込んでいるかのような恋に恋する58歳。

山口日昇



本誌鬼畜編集長。またの名をハッスル大統領。滅多に編集部には姿を見せず、編集部からの電話を50回に一度の割合で出る。最近遅ればせながら“韓流ブーム”で勝手に盛り上がる。

堀江ガンツ



本誌現場監督。日本一のリングス・キチ●イ。インタビューカットを取り忘れたため、浅草キッドの水道橋博士が「似ている」とHP日記で漏らしたキム・ミンスの写真を掲載しました。

ガンツ　今日は、実に1年半ぶりに山本さんと大統領（山口日昇のアダ名）の対談です！

ターザン　（まったく耳を傾けずに取材場所の高級水たき屋の個室内を見渡しながら）……山口さん、いいんだよぉ、無理しなくて。店を変えるのはまだ遅くはないよ！

山口　は？　いきなり何ですか？

ターザン　（なぜか小声で）ちょっとこの店は……超高級過ぎるよぉ。『紙プロ』の取材場所にはまったく似合わないというか、予算オーバーも大オーバーというかさぁ……。

山口　あ、お金の話（笑）。

ターザン　今日はなんでVIP待遇なん？　だって、こないだ『PRIDE・29』が終わった直後に田村潔司について、ガンツ（本誌現場監督）相手に喋ったときなんて、『ニューヨーカーズカフェ』でコーヒー一杯しか頼まなかったよ。つまり230円の世界だったわけよ！　おいしいケーキも食べたかったけど……遠慮して言えなかったもん（かわいらしく）。

山口　誤解のないように言っておきますけど、それは『紙プロ』が山本さんをVIP待遇したくないわけじゃありませんからね。ボクが山本さんと会うときはこれまでもVIP待遇してきたし、そのときは、ここにいるガンツ個人がVIP待遇せずに厳しい態度で臨んだということでしょうね（笑）。

ターザン　（またもや小声で）ということは山口さん、ガンツは下層階級？

山口　大正解です！　さぁ、さっそくその下層階級のガンツ君に今日のテーマを語ってもらいましょう！

ガンツ　はい。では今日のテーマは上層階級のお二人にとても相応しい、『PRIDE』vsK-1を主軸にした今後のマット界の地殻変動について……。

ターザン　（遮って）地殻変動じゃないよ！　これからはさぁ、プロレス団体がバタバタと潰れていくんだよ!!

山口　のっけから救いようのない発言をハイテンションで語りますね（笑）。地殻変動ならぬ地滑り現象が起きていく！　ということですか。

ターザン　その雪崩現象のトップバッターが全女（全日本女子プロレス）の解散！　2005年のプロレス界はさ、全女のように団体がバタバタ倒れるよ～、バッタバタ!!　ボクはその現象が起きることをここで予言しておきますよォオォ！

山口　予言ついでに、生き残るプロレス団体はズバリどこですか？

ターザン　生き残るとこ？　それは馬場イズムを継承しているNOAHに決まってますよ!!

山口　生き残るのはNOAH！“方舟”に乗っていない『紙プロ』はどうなるんだろう（笑）。山本さんは最近NOAHをよく見てるんですか？

ターザン　（淡々と）見てるよ……。

山口　面白いんですか？

ターザン　（さらに淡々と）面白いよ……。

山口　なぜそんなに言葉少ななんですか！

ターザン　いやぁ、俺はNOAHの方法論にはとにかくビックリしてるんだよ。だってさ、今度の4・24武道館のメインは、NOAHのチャンピオンvs斉藤彰俊のカードなんだよ。

山口　ちなみにNOAHのチャンピオンって誰ですか？

ターザン　え……？（なぜか固まる）。

山口　まさか知らないんじゃないでしょうね。

ターザン　ほ、ほら、ゴツイ、タフなアイツ！　彼だよ、彼！　あのチャンピオンがいるじゃない？

山口　NOAHを語らせたら右に出る者はいない（笑）。

ガンツ　さすがNOAHをよく見てますねぇ（笑）。ちなみにいまの王者は力皇という選手です。

ターザン　そう！　その力皇の挑戦者が……斉藤彰俊なんだよ！　このカードには、俺の頭の中にあったプロレス公式論がすべて完全に覆された！　大、大、大革命だよォォォ!!

山口　ボクもそのカードをいま初めて聞いたけど、たしかにそれは大革命ですね。ファンが本心からそのカードを望んでるのかどうかはわからないけど、でもNOAHはそれで革命を起こそうとか、戦略や仕掛けとしてはやってないと思いますよ。馬場さんも戦略や仕掛けはなかったじゃないですか。

ターザン　いや、それがあったんだよねえ。“天然”という仕掛けがさあ……いまの言葉は、NOAHから誤解されたくないな（真顔で）。

山口　自分で言って自分でフォローですか（笑）。

ターザン　とにかくさ、NOAHにはカルチャーショックを受けたんだよ。これは揶揄して言ってるんじゃなくてホントに一種のカルチャーショックを受けた！　ちょっとボクのプロレス観が甘かったと反省した！　このカードがメインで武道館大会ができるんだという500%の自信がNOAHにはある。その“誇り”と“強気”を見に来ない奴はプロレスファンじゃない。だから俺は見に行きますよ！

前田日明という存在に『PRIDE』がどう対応するのかも試されている（山口）

ガンツ　プロレスファンなら行くべきだ！　と。

ターザン　前日に大阪で『PRIDEミドル級GP』があるけど、翌日、俺は大阪から武道館に直行するよ！

山口　武道館では、疲れて寝てる山本さんが見られることをボクは予言します（笑）。

ターザン　……その日、もしかしてちゃっかり帰り道に京都競馬場に寄っちゃうかもなぁ（ボソッと）。

山口　でも、山本さんは「NOAHこそがプロレスですよォ！」と言っておきながら、べつに能動的に見たくはないんでしょ？　そこをズバリ言い切ってほしいですね（笑）。

ターザン　いや、べつに能動とか受動とかは関係なくて、NOAHはボクの考えが遠く及ばない地点に行ってしまったところに凄みを感じているわけ。

ガンツ　そういう意味では、NOAHという団体名をよく付けましたよね。武道館を“方舟”にしてお客を乗せて遥かかなたに行っちゃったわけですから。ボクらはもう乗れないですよ（笑）。

山口　それでも“方舟”に遅ればせながらも、なんとか乗りこむために武道館に山本さんは行くわけですか？

ターザン　乗船するというか、“俺は古い人間なんだなぁ”と感じに行くんだよねぇ（なぜかしみじみと）。とにかく、この力皇vs斉藤戦に対して完全降伏し土下座できる人間が実はいま真のプロレスファンということなんだよ！

山口　そういう基準でいくと、残念ながらボクはプロレスファンじゃないですね（笑）。やっぱりボクは「プロレス」には格闘技的な価値観も含めて、そこに絡まるドラマやハプニングやリアリティを期待したり、「プロレス」という言葉の中に含まれる多重的要素すべてをひっくるめてその意味合いを感じてきたから、純米種的なプロレス観には、もはや歯が立ちません。その多重的要素の中の軸である格闘技的な勝負論は、いまやK-1、『PRIDE』に完全に移植されてしまいましたよね。

ターザン　だからこそNOAHが生き残ることによって、ことプロレスにおいては、馬場さんの考え方、捉え方、生き方がすべて正しかったことが証明されるわけですよ。他の団体は一時

ターザン山本!

的に正しかったり、一時的に繁栄はするけど、それは猪木イズム的な繁栄なんだよね。最終的には破綻、破滅が待っているのが猪木さん。それを天国からジ〜〜ッと見て微笑んでいるのが馬場さんだよ！

山口　でも、猪木イズムというのは一度死滅した細胞が違う形で再生したり、細胞分裂して生き返ったりしますよね。『ＰＲＩＤＥ』もある意味、その猪木イズムが細胞分裂して生まれたものでしょうし。

ターザン　うん。その猪木イズムの細胞はプロレスという土壌では完全に死滅してしまったわけ。だからこそ、細胞の死滅云々を超越して見事に大爆死した全女の松永会長は素晴らしいんだよね。なぜなら30億円の借金を背負って破綻した人間はいままでのプロレス界にはいないわけでしょ？

山口　あ、また金の話（笑）。それに関してはなかなかできないし、やれないことではありますよね。

ターザン　スケール感、ダイナミックさでは、男子プロレスは女子プロレスに負けた！　男は女に大負けだよ!!　いや、だって30億円の借金だよ。これは一種の借り得というかさぁ。そもそも誰が女子プロに30億円を貸すんだって話じゃない？　昔、馬場さんが言ってたよ。（声色と表情を変えて）「あのな、銀行がな、全日本プロレスには一銭も金を貸してくれないんだよな。でも、馬場正平には貸してくれるんだよ」って。そこでボクはわかった！　プロレス団体というのは銀行の世界からまったく信用されてないんだって。それなのに全女は30億も借りれたというんだからビックリも大ビックリですよォォ!!

山口　ボクはいま山本さんがやった馬場さんのモノマネが、一切似てなかったことにビックリも大ビックリですよ！　あれだけ長い間、馬場さんの側にいたのに（笑）。

ターザン　え？　に、似てなかった？（かわいらしく）。

ガンツ　ダハハハハ。まったく似てませんでしたね。

ターザン　馬場さんの雰囲気だけはこの耳にいまでもずっと残ってるんだけどなぁ。

山口　でも、銀行が馬場正平にお金を貸すということは、〝馬場正平業〟＝〝ジャイアント馬場業〟が成り立っていて、逆に〝全日本プロレス業〟は成り立っていなかったということですよね。

『HERO'S』に可能性を感じるのは『K-1 MAX』の総合格闘技版という要素（ガンツ）

ターザン　〝全日本プロレス業〟はやはり一座組織だった。全日本には日本テレビが付いていたけど銀行的信用度がまるでなかったからね。

山口　ここでも猪木さんと馬場さんの違いはありますよね。新日本プロレスにお金を貸す人はいるけど、アントニオ猪木にお金を貸す人はいない。いや、貸す人はいるんだろうけど、猪木さんから返ってくるとは思っていない（笑）。

山口　でも、〝アントニオ猪木業〟はちゃんと成り立ってましたよね。

ターザン　うん。世間的信用度がなくても猪木さんは成り立ってる。社会的信用が無縁でも成り立つのがアントニオ猪木の魅力でもあるわけ。

山口　逆に社会的信用度は高いし、実際に〝格闘家〟としても強かったのに、決して〝坂口征二業〟が成り立たないところにプロレスの奥深さを感じますよ。で、ＮＯＡＨの他に生き残る団体は皆無なんですか？

ターザン　いや、小さい団体は生き残るよ。小さいところは時代の波にまったく関係ないから。

山口　最初からビジネス的成功を狙っていない、あるいは狙えない団体は生き残る。

ターザン　そう！　レスラーや社員、その家族を食わせるために毎月ビッグマッチを打たざるをえない団体があるでしょ？　そういう団体の前途は厳しいよ！

山口　その最たる団体は、やっぱり新日本プロレスなりますか。

ターザン（小声で）大きな声では言えないけれど、新日本はヤバイなんてもんじゃないよ。（徐々に声を大きくして）ヤバイ！　ヤバイ!!　ヤバイ!!!という言葉しか出ないよォォォ!!

山口　山本さん、ものすごく声が大きいです（笑）。

ターザン　やることなすことすべて裏目でさ、リング内の出来事はファンに見透かされているし、リング外の話なんてひとつも景気のいい話を聞かないじゃない。

山口　ボクは、もはや高田総統が新日本を買収したとしてもまったく驚かないですね（笑）。

ターザン　結論ありきで言えば、いまの時代はお金がない団体が興行をやっちゃダメなんだよな。お金がないと余裕がなくなるし遊び心もなくなる。それだとダイナミズムがまったく出るわけがない！

山口　『ＰＲＩＤＥ』やＫ－１にしても格闘技イベントが成立しているからプロレスに手を出せるんですよね。

ターザン　新日本にお金を融資していたとしたら、要は坂口（征二）さんに貸していたんだよ。「坂口征二はマジメである。堅い金庫番である。公務員的性格である」。そういう使用があった人間だからこそ社会的信用度が高かった。スキャンダルを人生の糧にしていたかのような猪木さんの側に坂口さんのようなマジメな人間がいることは絶対に必要だったんですよ。そう考えると、新日本プロレスという会社は猪木さんじゃなくて坂口さんがいたことで成り立っていたんだよねぇ。



文句なしのベストバウト!!　宇野薫vsヨアキム・ハンセンの“修斗ウエルター級王者対決”は、中軽量級屈指の技術戦で総合格闘技の醍醐味を『HERO`S』のリングにたっぷりと落とし込んだ。試合は宇野の判定勝利が堅いかと思われた最終R残りタイム13秒、セコンドに時間の確認をしようと横を向いた宇野の隙をハンセンが見逃さず、膝蹴りを叩き込む劇的幕切れ!!

3・26さいたまSAアリーナ

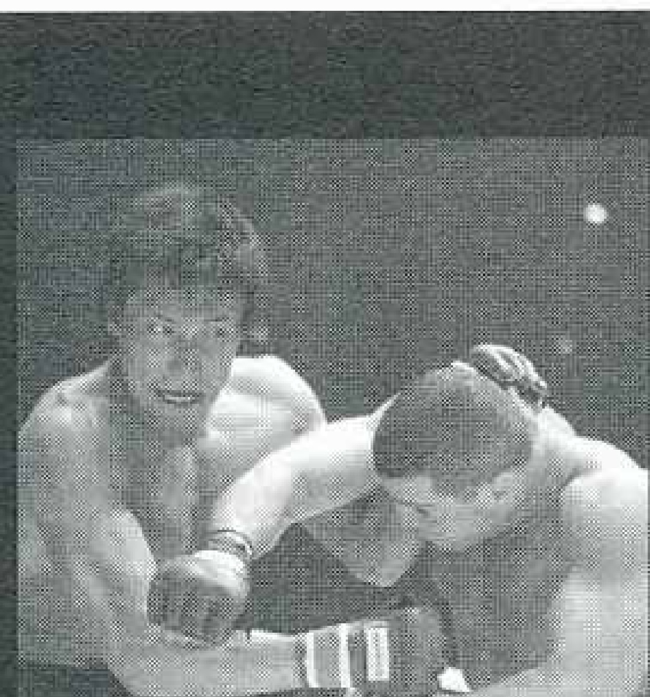
前田復活!!

『HERO'S』始動!

観衆12,754人



『HERO`S』のオープニングバウトを飾ったのは、“リングス・オランダ”ヴァレンタイ・オーフレイム!!　久しぶりの日本登場となったオーフレイムは、MMA連敗中の大山との“復活対決”に挑むも大山にアンクルを極められ敗北!!　次回こそは真のリングス魂を見せてくれ！



イベント開始前にダークマッチが行われ、『PRIDE』で中村カズと対戦したこともあるハリッド（ゴールデン・グローリー）が和術慧舟會A―3の内藤を3-0の判定で下した。



伝説のキックボクサーで“地獄の風車”の異名で恐れられていたラモン・デッカーがなんとMMAで復活！　往年のラッシュを期待されたが、総合の技術差はいかんともしがたく、須藤元気のヒールホールドに屈した。次はMAXでデッカーの“地獄の風車”ぶりが見たい!!

ターザン　プロレスしか収入源がない団体は絶対にやめるべき！　だっていまのプロレスのビジネスモデルで儲けるわけがないんだからね。

山口　つまり、生き残るのはNOAH、極小の団体、そして『PRIDE』やK－1に収斂されるというか、提携・協調路線を結んでいる団体になりますね。

ターザン　そうだね。『PRIDE』vsK－1という対立構造の中に組み込まれないとどこも大変だと思うよ。これからは提携がキーワードですよ。上井さんのビッグマウスや武藤のレッグロッグだってK－1と共犯関係にあるわけじゃない。山口さん、要は人生、金だよ！

山口　あ、やっぱり金の話（笑）。

ターザン　お金という資金力の問題は避けて通れない!!　よく考えてみると、面白いものをファンに提供しているから格闘技イベントにお金が集まるわけで、プロレス界はつまらないことばっかりやってるからどんどんファンが離れるしお金も集まらないわけじゃない。

山口　逆に面白いことをやってニーズにも応えている『PRIDE』やK－1の格闘技イベントは、マット界の地滑り現象からは自然と免れますよね。

ターザン　免れるよ！　それと一番のポイントは、テレビが視聴率の獲れる格闘技をキラーコンテンツとして最大限に評価していることですよ。そのテレビの上でアグラをかいて天下を取っているのが谷川氏（K－1イベントプロデューサー）だよ！

山口　んあ～！　サダハルンバはテレビの上にアグラをかいて天下を取ってましたか（笑）。

ターザン　最上級の褒め言葉！　だってさ、いまのマット界にテレビの上にアグラをかける人間なんている？　誰もいないよ！　谷川氏は〝活字プロレス〟というアナログの世界から思い切って脱出して、映像の世界に行ったでしょ？　あの頭の切り替えの早さ、逃げの早さ、見切りの付け方は見事だよ!!

ガンツ　いまや完璧にテレビ主導でイベントを運営してますからね。

山口　むしろサダハルンバは、ビジネスの対象としてはイベントすらどうでもいいと思ってるイメージもあるもんね。ビジネスの対象はテレビ局だけと言ってもいい。

ターザン　だから我々が谷川氏に求めていることと、彼が映像やテレビでやろうとしていることにはギャップがあるわけよ。「こんなマッチメイクをしちゃダメだ」「この試合のレベルは低すぎる」とか、マニアックなことを言ったところで、谷川氏は〝それは活字プロレスの人間が考えそうなことだよ〟という具合いにせせら笑っているわけ。だって谷川氏のテレビ戦略は成功しているんだもん。谷川氏を批判すること自体がじつはナンセンスなんだよ！　勝利者や成功者こそが絶対的に正しいと俺は断言する!!

山口　そういう意味では、あの性格や人格がなせる〝谷川貞治業〟というのも成り立ってますよね。ところで、〝前田日明業〟というのはいまの時代に成立すると思いますか？

ターザン　〝前田日明業〟というのは、リングスという世界に一番似合っていたんですよ。ところがいま前田日明がいる『HERO'S』という世界は、テレビという太陽の光が燦々と降り注いだオープンテラスでしょ。リングスというのは、日陰のところに花が咲くというか、ファンたちが肩を寄せ合って生きていて、あの独特のそっと美しい暖かさというか、ほの暗い空気があったわけじゃない。その世界が前田日明にはよく似合っていたんだよねぇ。

山口　後期リングスの中の前田日明は、まさに、ヒンヤリとした泥の池の中に咲いた真っ白な蓮の花のような輝き方でしたからね。

ガンツ　でも、『HERO'S』の世界にあれだけ前田日明が似合わなかったのは驚きですよね。

ターザン　前田日明は美しくクローズされたほの暗い世界の中の王様だったわけだから、いまの無意味に明るい世界には彼のイメージとは辻褄が合わないところがある。でも、それは逆に言うと「前田日明は前田日明である！」という一種の証明でもあるわけじゃない。前田日明はどこまでも永遠に不滅というか不動な存在ということですよ！

山口　山本さんは旗揚げイベントを見て、『HERO'S』は今後成功すると思いましたか？

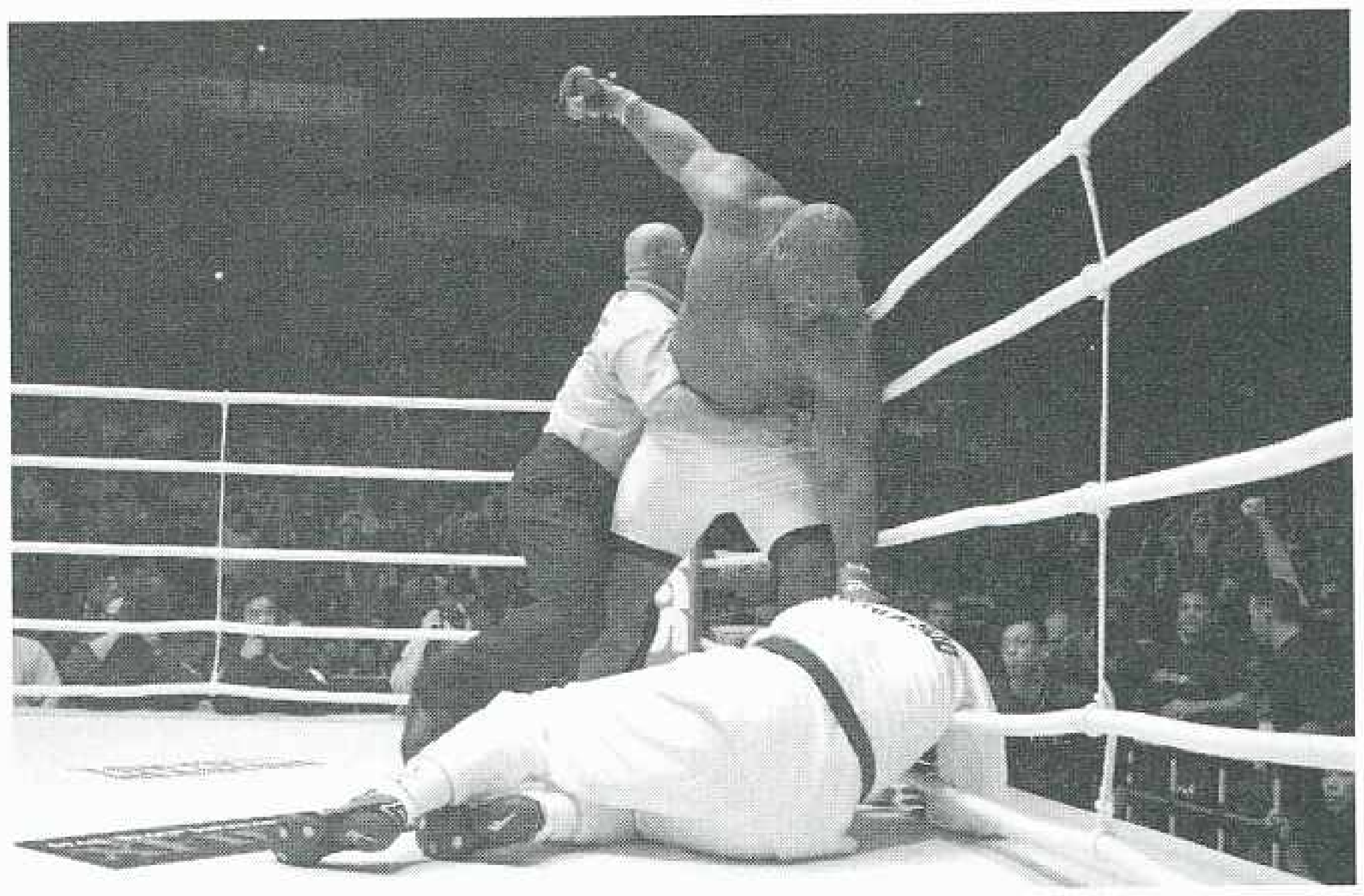
ターザン　間違いなくうまくいく！　ただし、『HERO'S』は、表向きは上井さんと前田日明がやってることになってるけど、本当に仕切っているのはK－1であり谷川氏、そして石井（前）館長（以下、館長）であるわけじゃない。

ガンツ　K－1グループの総合格闘技部門であるというイメージは消しようがないですよね。

ターザン　このダブル・スタンダードの中でどんな融合の仕方、または核分裂をしていくのかが『HERO'S』最大のテーマなんですよ！　リング上に目を向ければ、宇野薫や須藤元気という素晴らしい中量級の選手がいて、一方ではテレビ向きに大味なヘビー級の試合も展開する。つまりリング上もダブルスタンダード。『HERO'S』のキーワードは「いつ何時でも、ダブルスタンダード」なんですよォォォ!!

山口　たしかに前田日明とK－1の関係がうまく転がったら、相当面白くなりそうな気配だけはありますよね。

ターザン　両者のいい部分が合わさってそれがプラスに転がったら、ボクたちの想像を超える素晴らしい世界が広がる可能性がある。でも、ちょっとでも噛み合わなかったらポシャリます



柔道アトランタ五輪銀メダル“リングス・コリア”のキム・ミンスがMMAデビュー。試合開始早々突進してきたサップをミンスはパンチで迎撃！サップは頭を抱えて防御するが眉付近をカットし、医師の診断のため一時中断。試合再開直後、サップが目を閉じて放ったパンチがなんとキムにホームラ～ン!!　和田さんが試合を止めたにも聞かず追い打ちをかける!!　この元気を試合中にほしいな。

テレビでタダで見せる面白さを提供した K-1は見事！　新型の遠心力ですよぉぉ！（ターザン）



当初カラエフと対戦する予定だったバンナは「もっと実績がある奴と闘いたい！」と前田に直訴。このバンナの申し出に全国各地の格オタから「オマエが言うな!!」と突っ込みが入ったと思われるが、急遽マッチメイクされた柔道家・秋山成勲を膝蹴りでノックアウト!!　面目躍如！



『PRIDE』を離れたヒース・ヒーリングが“リングスUSA”として『HERO`S』に参戦。MMAへの類い希なる才能を見せるサム・グレコと好勝負を期待されたが、ローキックを空振ったはずみでヒースが転倒、足を負傷!!　痛みにもがくヒースにグレコが蹴りでトドメ!!　なんてこったい！



ポール牧が発掘した、腕相撲世界一にして脅威の握力を誇るロシア人アラン・カラエフがなぜか“リングス・ロシア”として登場。試合序盤こそはグッドリッジを体格で圧倒したカラエフだったが、下のポジションに体勢を返されると何もできず。基本技のギロチンにタップ！



“中軽量級最強の男”BJ・ペンが階級の壁を越えて、“呑気なアントン”LYOTOと対戦。しかしBJは15キロの体重差の前に“小よく大を制す”展開をつくれず。LYOTOが判定勝ちで連勝記録「6」に更新したが膠着気味なファイトに「しょっぱい試合をして～」と平田ばりにマイクで反省



シドニー五輪レスリング日本代表の宮田和幸がMMA日本デビュー戦。ハワイのホイラー・グレイシー戦では敗れたが、高い評価を受けた宮田。初白星を期待されたが、総合経験に勝るオーストラリアの格闘家イアン・シャファーの前に無念の判定負け。

よ！　間違いなく!!

ガンツ　ボクが『HERO'S』に可能性を感じるのは、前田日明という存在じゃなくて『K-1MAX』の総合格闘技版という要素なんですよね。MAXがK-1WORLDGPシリーズとまったく別の魅力を生み出したと同じように、『PRIDE』とも違った総合の魅力を元気、宇野、KIDなら出せるんじゃないかとは思いますね。

ターザン　TBSとしてはそこに照準を絞ってくるだろうね。とくに宇野薫の試合で大成功の可能性が見えたわけじゃない。他の試合は全部オマケだったんですよ！　すべて「なんだ、これ？」というかさぁ、『PRIDE』のクオリティーにはいまのところ到底及ばない。試合のハードルがもの凄く低いじゃない。

山口　たしかにあの日、総合格闘技と呼べる試合は宇野薫vsヨアキム・ハンセンだけでしたね。

ガンツ　だから、極論すると『HERO'S』は山本KIDや宇野薫、須藤元気を主役と考えると、前田日明という存在はまったくいらないんですよ。〝シンボル〟という意味でも、彼ら3人と前田のイメージは結びつかない。地上波番組でも前田日明はあんまり取り上げられなかったし、「地上波に前田日明はいらない」という編集だったじゃないですか（笑）。

山口　図らずも『PRIDE武士道』も5月22日の有明コロシアム大会から中軽量級に特化させるし、そこでもK-1と『PRIDE』の対立構造はできてくる。ボクは『武士道』と『HERO'S』はドンドン競っていけばいいと思うけど、『HERO'S』をやることによって一番存在意義が問われるのは、旗揚げ前の『W-1』だと思うんですよ。『HERO'S』は旗揚げを見た限りでは、中軽量級の総合格闘技というよりも、〝ガチンコのプロレス〟〝真剣勝負のプロレス〟に見えた。上井さんがつくろうとしている世界観は、実はこの『HERO'S』ですでにやってしまったんですよ。

ターザン　いまやどんな格闘技も形を変えたプロレスという現実はあるんだよね。

山口　前田日明や上井さんが頭に描いている〝顔面を腫らすような緊張感のあるプロレス〟というコンセプトは、各大会のレベルの差はあるけども、いまの総合格闘技がすでにカバーしているってことが、『HERO'S』の旗揚げ戦で改めて証明されたような気がしますね。『HERO'S』は今後、軽中量級に特化するということだし、現段階ではどういう方向性になるのかわからないけども、プロレスというフィールドやルールの中で、格闘技と同じような緊張感、またはそれ以上の空間をつくる、表現するのは至難の業ですよ。

ターザン　それはさ、いまや試合や興行が「格闘技」という前提がなければ、いまや社会的信用やテレビ局の信用を得られないわけだよ。

ガンツ　地上波を獲得できないためか、4・23『W-1』は延期になりそうですよね（後日、延期が正式決定）。

ターザン　テレビ局は格闘技には飛びつくけど、プロレスにはまるで興味はない。プロレスというジャンルおよび団体はこうして徐々に残念ながらフェイドアウトしていくわけだよね。でも、プロレスというエッセンスや理念は形を変えて生き残る。いまの格闘技にはプロレスのエッセンスがたくさん詰まっているじゃない。ボクはハッキリ言うよ。どんな格闘技もプロレス的フィルターを通して楽しまないとつまらない。格闘技を格闘技としてだけ打ち出したら客なんかまったく来ませんよ！　違う、山口さん？

山口　正解ですね。単なる格闘技や単なるガチンコだったらテレビも付かないしマニア層しか動員できない。例えプロレスラーが出場しなくても、プロレス的なエッセンスがないと遠心力は働かないし、求心力も得られない。でも、テレビを見てるファンも、攻防としては宇野vsハンセンのようなハイレベルなものも求めている。だからそこもダブルスタンダードなんですよね。

ターザン　格闘技は単なるガチンコではダメ。技術的背景に基づいた高度なレベルの試合を見せるのが格闘技とすれば、プロレスはガチンコ的、セメント的、体当たり的にやるしかないわけで、いずれも雑で穴があるんだけど、それを本気で見せるのが〝新しいプロレス〟になるわけですよ！

山口　だからこそ、『W-1』は旗揚げ前から『HERO'S』に喰われてる感じが出ちゃうんでしょうね。山本さんは格闘技的な勝負論を前面に打ち出したプロレスは成り立つと思います？

ターザン　成り立たない！

ガンツ　今日、一番早い即答でした（笑）。

前田日明には何もしないで周囲を圧倒する “リアリティ”がある（ターザン）

ターザン　さっきも言ったけど、プロレスのエッセンスを前面に打ち打した格闘技は成り立つよ。でも、逆は真実にならずであって、プロレスに格闘技的な色を持ち出した時点でもうオジャンですよ！　上井さんには心の底から頑張ってもらいたいと願っているけどね。

山口　だから、プロレスという枠組みの中で、何を特化させるかだと思うんですよ。さっきからの話じゃないけど、日本人は国民性の根っこがグレーだからか、本当に〝ガチンコ〟や〝勝負事〟や〝闘い〟が好きなんですよね。その〝闘い〟ということへのニーズは確実に普遍なものとしてあるから、テレビ局も格闘技に飛びつく。かつてのようにプロレスが勝負論を前面に打ち出してもハレーションを起こさなかった時代なら、テレビ局もプロレスに飛びついた。でも、いまは違うという現実がある。そこはもうごまかせないんですよ。だからこそ、『ハッスル』では、プロレスでしか特化できない部分を特化させていく方向性を取ったわけですよね。山本さんはその『ハッスル』の方向性はどう思うんですか？

ターザン　正しい！

ガンツ　今日、二番目に早い即答でした（笑）。

山口　世間に届かないマニアックなこだわりはいい意味で捨てて、ソフトとして面白いか面白くないか、というシンプルな勝負を、プロレスは世間相手に仕掛けていくしかないと思うんですよ。

ターザン　…………（スープを飲み干して急に押し黙るターザン）。

山口　どうしたんですか？　炎上疲れですか？

ターザン　……い、いや、このスープはウマいねぇ。革命的なウマさだよォォォ！

山口　ガハハハ！　230円のコーヒーとはわけが違いますか。

ターザン　こういうウマいスープで人を黙らせるということが、つまりはワークとセメントが合致しているということなんだよ！　だって「ウマい」と思うことは一種のパーフェクトな完全犯罪的なフェイクに引っかかっているわけであり、じつはそれがセメントでもあるわけでしょ。

山口　「ウマい」こと自体も幻想かもしれないってことですよね。いまの話で思い出したけど、山本さんは前号の『紙プロ』で「前田日明はリアリティで勝負するしかない」って言ってましたよね。「『PRIDE』が〝リアル〟で勝負する

ヒーロー!! ヒーローになるとき、ア〜ハ〜、それはいまぁ♪

3・27『HERO'S』で誰がヒーローだったか アンケートで決めればいいんや!!

〜携帯『紙のプロレスHand』にて実施〜

Q1 あなたは3・27『HERO'S』をどこで見ましたか？ 満足or不満足、どちらでしたか？

会場－満足	33票
会場－不満足	74票
地上波－満足	881票
地上波－不満足	1207票
速報のみ－満足	29票
速報のみ－不満足	64票

Q2 今大会のMVPは誰だと思いますか？（複数回答あり、主要ベスト6）

1位	宇野　薫	524票
2位	前田日明	398票
3位	須藤元気	366票
4位	ヨアキム・ハンセン	304票
5位	該当なし	190票
6位	ジェロム・レ・バンナ	166票

なら、対する前田日明には〝リアリティ〟で勝負しろ」と。髙田延彦は自らが〝リアル〟な姿を晒して新しい時代をコジ開けましたけど、前田日明は〝リアル〟な姿を晒してない分、圧倒的な幻想をまとってますからね。

ターザン　前田日明は〝リアリティ〟にこだわったほうが絶対に光り輝きますよ！　だってあのバンナやサップと並んだスリーショットでも前田日明の方が格上に見えてしまうという存在感がある。何もしないで圧倒するのが〝リアリティ〟で、逆に〝リアル〟というのは何かを実際にしないと存在を証明ができない。どっちが上かといえば断然〝リアリティ〟のほうが凄いですよォォォ！

山口　気分としてはわかるんですけど、ちなみにそれはなぜですか？

ターザン　〝リアリティ〟というのは、〝リアル〟に〝ティ〟を合わせてるわけだよ。

ガンツ　文字数の問題なんですか！（笑）。

ターザン　日本人は数が多いほうを選ぶんだよなあ（なぜかうっとりと）。〝ティ〟を加えることでそこにフィクションの重要性を呈しているわけですよ！

山口　で、その〝リアリティ〟溢れる前田日明に対して、髙田延彦という存在は、『PRIDE』というリングで好むと好まざるに関わらず、〝リアル〟な姿を見せ続けてきましたよね。その2人が『PRIDE』vsK-1という構図で並び立つのは時代の流れを感じるというか、じつに面白いですよね。

ターザン　髙田延彦は『PRIDE』という〝実力測定場所〟のリングに上がってスッ裸になった姿をボクらに見せつけた。それで新境地を開いたとも言えるんだよね。ヒクソンに2回負けたことで人間的に真っ裸になったし、あと『男祭り』のフンドシ姿も凄かったよぉ。

ガンツ　髙田延彦の〝裸〟には二重の意味があった！

ターザン　しかも彼はその昨年の大晦日には太鼓を叩いたんだよ。普通だったら音楽番組でいうところの口パクにするでしょ。でも、そうしない。そこも〝リアル〟なんだよなぁ。

山口　髙田延彦はあのフンドシ姿になるために何ヶ月も身体を鍛えて、太鼓の練習をしていたんですよ。

いまの前田日明はお膳立てされたところにただ乗っかってるようにみえる（ガンツ）

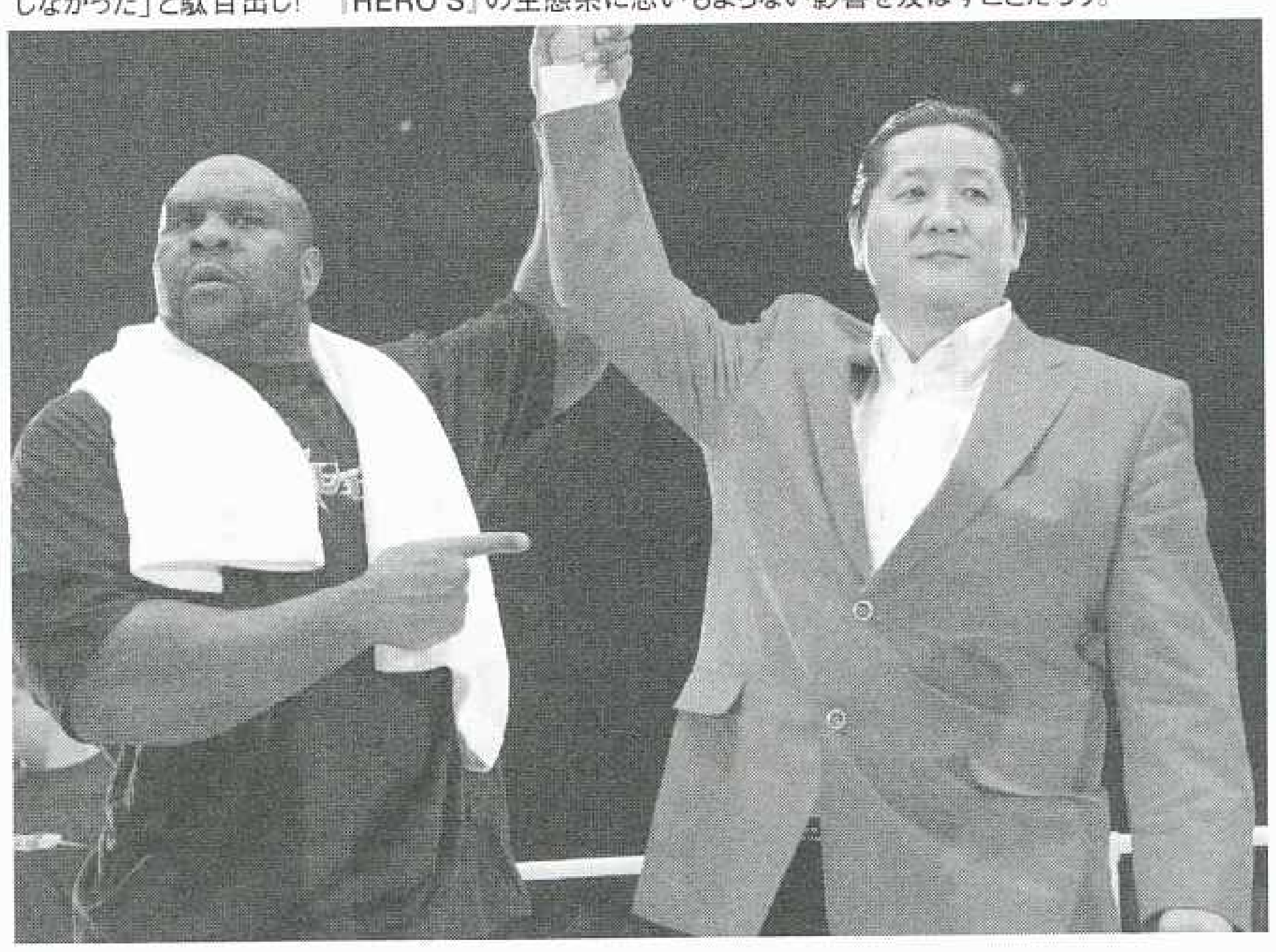
ターザン　髙田のようにあそこまで徹底して裸になるという行為は、普通の日本人にはとてもできないよ。裸になるのはある意味で格好悪いし、照れるし、その勇気もないし、第一みっともないわけじゃない。人間的にすごくタフじゃないと絶対にできないよ！

山口　逆に前田日明は6～7年前から、リング上以外では人前で裸になりませんでした（笑）。

ガンツ　かつてのリングスのカレンダーもなぜか前田日明1人だけスーツ姿でしたからね（笑）。

山口　「努力」なんてつまらない言い方をしちゃいますけど、格闘技の軸にあるものが、その努力だと仮定します。プロレスはある意味で努力しないでも生きていける。これは髙田延彦が努力家で、前田日明が努力をしないと言ってるわけじゃないですよ（笑）。そこで我々のようなワガママはイレギュラーを起こしたいわけですよね。努力しない世界のほうが本当は面白いぞ！　努力を前面に打ち出す世界なんてクソつまらない！　と（笑）。

ターザン　うん。努力という後天的なものばかりじゃつまらないですよ！　努力というのはどうしてもそれを補うという後天的なものだから。



TBSの地上波放映の登場場面はわずかだったが、やはり気になるのは前田日明の一挙手一投足。この“圧倒的幻想”は『HERO'S』に何をもたらすか？　なにしろ階級差を超えて健闘したBJ・ペンを「パッとしなかった」と駄目出し！　『HERO'S』の生態系に思いもよらない影響を及ぼすことだろう。

山口　でも、いまは〝努力〟の実体が相当研ぎ澄まされて、レベルアップしてる。『PRIDE』を見ていると、やっぱり努力の尊さも痛烈に感じるわけじゃないですか。努力しないで〝リアリティ〟を醸し出せる時代なんてとっくに終わったんだって実感する。プロレスは逆に言えば〝リアリティ〟を保つことに対して努力が必要とされる世界なんだけど、生半可な努力では〝リアリティ〟は出せない時代なんですよ。だから、プロレスは何に対して努力していけばいいのかってことですよね。強くなるのに努力するのなら、総合格闘技とどうしても天秤にかけられる。上井さんが言う、新『W-1』のコンセプトや、前田日明が言うような「総合で勝てるレスラー」を育てる方向で行くなら、リアルに死ぬ気で育てるしかない。K-1に対する極真のような組織というかシステムというかポジションをつくることも含めてね。ボクが思うに、それができる可能性があるのは、地味だけども『U-STYLE』ですよ。

ガンツ　『U-STYLE』には田村潔司という名人がいますからね。

山口　でも、新『W-1』旗揚げ戦に出てきそうなのは、長州、柴田、高山、天龍、鈴木みのるといった既存のプロレスラーというメンツ。そこが本質的な部分で腸捻転を起こす原因なんですよね。そのメンツが、『HERO-S』の主軸になるんだったら、山本さんが言うような〝新しいプロレス〟が構築できる可能性はありますけど、既存のプロレスのフィールドでその緊張感を出せるんだろうか？　という問題にブチ当たりますよね。例えその場で緊張感は出せたとしても、広く世間には届きませんよ。根っこの部分に緊張感を持たせなきゃ話にならないし、「強いプロレス復興」なんて言葉で言うのは簡単だけど、例えば、K-1や総合に選手を派遣するいち格闘技としての位置づけでプロレスを再生させる、という鉄のような意志や砂を噛むような思い、つまり〝リアル〟な部分が

Q3 今大会のベストバウトは？

ハンセン vs 宇野薫	1166票
須藤元気 vs デッカー	459票
バンナ vs 秋山成勲	316票
グッドリッジ vs アラン・カラエフ	153票
大山峻護 vs オーフレイム	83票
LYOTO vs B・J・ペン	47票
イアン・シャファー vs 宮田和幸	30票
ボブ・サップ vs キム・ミンス	18票
サム・グレコ vs ヒーリング	12票
ハリッド vs 内藤征弥	4票

Q4 今大会のワーストバウトは？

サム・グレコ vs ヒーリング	654票
ボブ・サップ vs キム・ミンス	378票
グッドリッジ vs アラン・カラエフ	331票
イアン・シャファー vs 宮田和幸	310票
バンナ vs 秋山成勲	293票
須藤元気 vs ラモン・デッカー	174票
大山峻護 vs オーフレイム	75票
LYOTO vs B・J・ペン	42票
ハリッド vs 内藤征弥	25票
ハンセン vs 宇野薫	6票

ないと、「強いプロレス復興」なんて夢物語になると思うんですよ。

ターザン　だから、いまの時代は、野心丸出しで己を追いつめて努力した者には勝利の女神は微笑むし、類い希なる素材に恵まれた先天的な人間も勝利を収めることができる。どちらにもチャンスがある。これもダブル・スタンダード、二重構造になってるんだよ!!　たとえば、ヴァンダレイ・シウバなんて努力家も努力家、野心建設型の特異な人間でしょ。『PRIDE』で勝ち続けることによってリッチになって、きれいな嫁さんまでもらって。これはサクセス・ストーリーの極みだよ!

山口　『PRIDE』に上がっている選手は努力という言葉が陳腐に聞こえるくらい努力をしてますよね。そこで話を戻すと、前田日明がこれからどう〝リアリティ〟を保っていくのかってことなんです。これからは〝前田日明業〟の本質的な部分が問われてくると思う。ガンツはどう思う?

ガンツ　これからは前田日明らしからぬ前田日明が出てくるとボクは思いますね。いままではUWFもリングスも前田日明が最高権力に就いて、ヴォルク・ハンじゃないけど選手やファンもすべて「前田の兵隊」だったじゃないですか。だから小さいながらも「前田についていく!」って気持ちになれましたけど、いまの前田日明は〝将軍〟じゃないですから。

山口　いまの前田日明は将軍じゃないんだ?

ガンツ　いまは……店長ぐらいかなぁ。

山口　将軍から店長へ!　言わんとしてることはわかるけど、単位も時代も違うぞ(笑)。

ガンツ　でも、いまの前田日明はK-1グループの一店舗を任せられたって感じですよね。チェーン店にはマニュアルがあって、店長の裁量だけじゃできないことも多々あるわけですよ。そこに窮屈さを感じるというか、前田日明の型破りな魅力をスポイルしてるようにしか思えない。

山口　それは筋金入りの前田日明信者だったガンツからすると、寂しいことなの?

ガンツ　そうですね。やっぱり〝神輿〟に乗らない、乗っても神輿の上で暴れちゃうのが前田日明の魅力だったわけじゃないですか。それなのに『HERO'S』でリングスのテーマを流してもらったり、K-1ネットワークから呼ばれ

『PRIDE』が「我こそが王道であり本道」とアグラをかき始めたら勢いを失う(山口)

た選手に「リングス所属」って付けてもらったり、いまの前田日明はお膳立てしてもらったところに、ただ乗っかってるように見えるんですよね。だから『HERO'S』は「前田日明復活」というより、「前田日明先生を励ます会」って感じがしましたもん(笑)。

ターザン　山口さんはどう思ってるの?　山口さんはかつて〝前田日明番〟だったわけじゃない?

山口　ボクが思うに、前田日明の魅力というのは、じつはトップにいるときではなくて、二番手にいて、列の先頭に立ってる一番手の頭を後ろからガンガン叩いて「早よ、行かんかい!」と言ってるときが一番出るんですよ。アントニオ猪木ならアントニオ猪木の頭を後ろから小突いている姿が面白いし、ファンを熱くさせたんです。かつてのUWFが新日本に噛みついていたときもそう。だからK-1グループの中での〝前田日明業〟を期待するなら、いまトップにいる石井館長に噛みつかないと面白くない!　と、前田番だったボクは思います(笑)。K-1や上井さんとの並列的な二人三脚は前田日明にはできませんよ。できたらボクは土下座します(キッパリ)。

ターザン　……ズバリ言うよ!　山口さんは前田日明に土下座する運命にありますよォォ!!

山口　ゲ!　前田日明とK-1の関係はうまくいきますか!

ターザン　うまくいくかどうかはわからないけど、いま山口さんとガンツが言っていた前田日明論は以前の記憶の中の美しい形態というか、過去の思い出として美化されている部分。いまはK-1と妥協したと思われがちだけど、あらゆる恩讐を乗り越えて素晴らしい大人の関係をK-1と築いているわけですよ。いままでのプロレス界にない融和的な関係を、共に大人になった前田日明と石井館長がそこにいるわけですよ。ボクらはこれまでの前田日明のイメージをそっと封印して、大人になった前田日明をどう見守るかが問われているんだよ。

山口　ああ、なるほど。でも、ボクもそんな大人の前田日明を見て、寂しいとか、ヤンチャであってこそ前田日明だ、というような感覚はまるでないんですよ。人間なんて細胞レベルで変わっていくもんですしね。でも、K-1が前田日明を担ぎ上げたのは、ハプニング性やイレギュラー性を求めているからですよね。そのハプニングやイレギュラーはいくら、迫真に迫る演出を仕掛けたり、アングルを組んでも沸き出てこないですよ。プロレスの中でなんて特にそうでしょうし。

ターザン　いやぁ、もう前田は無闇に噛みつくハプニングを起こす必要はないんだよ。だって噛みつくためには前田の先を走るトップの存在というか権威者が必要不可欠でしょ。館長は表に出てないからもう形式的にトップじゃない。トップとは何か?　と考えたら、それは独裁者が権力を握っているということ。いまのマット界には独裁者がいないんだから、前田が噛みつく必要性はないんだよ。

山口　いや、館長はともかく、それがあるんですよ。ひとつだけ。

ターザン　どこ?

山口　『PRIDE』ですよ。

ターザン　あ…あ…あ、当たりだよ!　大当たりだよ、山口さん!!　バンザ〜イ!!(両手を天に突き上げる)

山口　バ、バンザ〜イ!!(つられて仕方なく両手を上げる)

ターザン　山口さんの言う通り、前田が唯一噛みつかなければならない存在は『PRIDE』ですよ!　でも、『PRIDE』は人格じゃなく形態なので噛みつくことはできない。そこでは怨念の遠隔操作をするしかない。だからいま前田日明はその意味でも大人になっているわけだよ!!

山口　前田日明が『PRIDE』に噛みついていけばもっともっとマット界は活性化すると思うんですけどね。牙を剥き出しにした前田日明に『PRIDE』がどう対応するのかも試されますしね。

ターザン　『PRIDE』が前田日明という刺激を受けて、いままでとは違った活力を出すことは間違いないだろうね。

山口　だから、ボクにとって『HERO'S』は、大会や前田日明を見ているようで、じつは『PRIDE』を見ていたんですよね。『PRIDE』が保守化するか・しないか。いままでの『PRIDE』の魅力というのは、常に新しい扉をコジ開けるために攻めて攻めて、挑戦していく姿ですよ。髙田vsヒクソン戦に代表される

Q5 次回大会に向けて、前田日明、上井氏両名に望むことは何ですか?

- 独自の選手の発掘 オリジナル性 前田さんをもっと前に (カズ)
- マッチメイクに問題が多い。体重差などを言い訳に出来ないように体重差、力関係を考えたマッチメイクをすべき (反HERO'S列伝)
- 谷川をうまくりようしてくれたまえ (んばぼ)
- 前田色を全面にだしてほしい。具体的には、前田が連れてきた未知な強豪とリングスネットワークの選手の登場を望む (なおちん)
- はっきり言ってレベルは低かったので、レベルの向上です (H-I-H)
- レベル低いじゃん!　はっきり言って、つまんね (キャリソン)
- 前田はもう関わらないでほしい、サダハルンバに踊らされてることに気付いてほしい。上井さんはクラターMを次回出してほしい (DSK)
- リングス復活なのかMAXの総合版なのかよくわからない (きーちゃん)
- リングス関連の選手の総合へのレベルアップ。今回はまだまだ準備不足。オーフレイムたのむよ (リングス越谷)
- もう素人同士の総合ばっかりの試合で金を取るのも放送するのも辞めてほしい格闘技好きから見るとレベルが低すぎる (格闘技なめるな)
- キテレツを狙いすぎ、レベル低し!　コアとなるファンを獲得しなければ熱い磁場は生まれないのでは? (丸出ダメ夫)
- PRIDEみたいにならずにHERO'Sしかできないカードを組んでほしい!　そしてPRIDEと対抗戦をしてください!　マジで! (よすお)
- 前田のストイックさと上井の情熱が昇華した興行が見たい (脱K1)
- 中量級のヒーローを送り出すのがコンセプトの筈なのにそれらがメインでなかったのが不満だし休憩明けのヘビー級3試合はどれも白ける内容だった…次回では見応えのあった中量級の試合をメインに! (雷翔)
- 前田の主体性の見える興行 (宮崎)
- 私は〝前田日明〟の世界が観たい。それは果たして中量級なのか!?　次回に期待してます (ダイナマイト関内)
- 出来る限り頑張って続けて下さい。K-1を利用するのは良いけど、もっと前田カラーを出して欲しい (ぶいしゅけ)
- ロマネックスよりいい (ドン)
- K-1におんぶに抱っこじゃない興行をファンは求めてます。猪木色は今後も出さないでもらいたい (しゅうちゃん)
- 試合よりアキラ兄ぃさんの動きばっかみてた。最後の前田コールはやりながら泣きそうになった。ヒースをリングスUSAっていうのはやめて! (もり)
- 柴田などプロレスラーを出して鍛えて欲しい。後は山ヨシ復活! (元ハリウッドスター、田中正悟)
- 前田イズムかケーワン色かどちらかに絞りこむべき。やはりケーワンと組むと今の谷川では質の高い試合や興行はできない (フルケン)
- K-1から離れて欲しい (ダイチャン)
- 色んな雑誌で前田のインタビューを読んだが、自分が望んでいる通りのことを言っているので、あとは実行してもらうだけ
- KOKルールの復活 (かと)
- K-1ロマネクスとの違いがまだ明確に見えてないのでHERO'Sならではのカラーが見たい (マイク)

ように、世の中に幻想として蔓延していた価値観を、現実の価値観に変換して証明してきたのが『PRIDE』だった。言い換えれば、世の中にないものを創造していたわけですよ。その『PRIDE』が〝チャレンジャー〟じゃなくなって「我こそが王道であり本道」というところにアグラをかき始めたら、間違いなく勢いを失いますよね。

ターザン　うん。間違いなく沈没するよ！

山口　振り返れば、90年代の新日本はビジネス的に繁栄していたけども、「我こそが本道なり！」って言ってましたよね。

ターザン　言った！

山口　そこから新日本は落ちていったと思うんです。

ターザン　落ちたよ！

山口　新日本は常に挑戦者だからこそ魅力的だった。いまの『PRIDE』は、〝過激なプロレス〟と呼ばれた頃の黄金期の新日本プロレスが形を変えてブラッシュアップされたものですよ。猪木さんが全盛期の新日本は決して王道や本道にはならなかった。だからこそ、『HERO-S』が出てきたことで『PRIDE』が90年代の新日本のように「我こそが本道！」とか言い出さないかと思ってヒヤヒヤしてますよ。

ターザン　（小声で）いや、いずれ言い出しますよ。「ウチが本家本元、こっちが本流だ！」と。そういう雰囲気がいまの『PRIDE』にはちょっとだけあるもんなぁ。

山口　『PRIDE』という存在自体が〝チャレンジャー〟じゃないとマット界は面白くないですよ。そういう意味では、『PRIDE』は、全力で前田『HERO-S』を潰しにいってほしいですね。逆に『HERO-S』も、やるからには『PRIDE』を凌駕するくらいの勢いで真剣に続けてほしいですけど。

ターザン　山口さんの言う通り、『PRIDE』はどこでもケンカを売ったかつての過激な新日本プロレスじゃないとダメだねぇ。とくに時代への反発という姿勢は最高の魅力だったよ。

山口　『PRIDE』には常に時代に噛みついていってほしいですよね。『HERO-S』はできたばっかりだけど、テレビ局とのビジネスを念頭に置いた、かつての馬場・全日本プロレスですよ。馬場さんもSWSができて選手が大量離脱するまではビジネスの相手はテレビ局だったじゃないですか。

ターザン　馬場さんは「テレビが付かないプロレス団体は潰れる」ってよく言っていたねえ。

山口　で、猪木・新日本はライブで勝負していた。馬場さんはテレビで見たいけど、猪木さんはライブで金を払ってでも見てみたいという見る方の価値観の違いもできた。それもいまのK－1と『PRIDE』に当てはまりますね。

ターザン　当てはまる！　K－1はお金を払って会場でみたいとは到底思わないもんな！

ガンツ　また問題発言を大声で（笑）。

山口　逆に言えば、それはK－1がテレビ・コンテンツとして完成されているということですよね。

ターザン　そう。誤解しないでほしいのは、タダで見せることには逆説的にとてつもないスケール感がいるんだよ。タダで見せる面白さを提供したK－1はもう見事だよ。これは新型の遠心力だよ！

山口　逆に『PRIDE』はライブで出る地熱の部分にお金を出して見る価値がある。『PRIDE』のライブのパワーというか熱は他の団体やイベントとは比べ物にならないですからね。

ターザン　価値観がまったく違うからこそ、『PRIDE』とK－1の両方が生き残っているところもあるんだよね。およそ極端な価値観を持ったイベントというか。お金を払って見る世界は見た人間が何か自分の中で必ずその意味づけしないといけないじゃない。やれ「闘魂」だとかなんだとかさぁ……よくよく考えると、それは面倒くさい作業なんだよな。

ガンツ　かつて山本さんが『週プロ』でやってきたことですよ、それ（笑）。

ターザン　面倒くさいですよォォォ！　そんな行為はK－1にはまるで必要ないからね。すべて野次馬根性、無責任で誰も責任を取ろうとしない世界、すべては事なかれ主義でいいんだよ!!

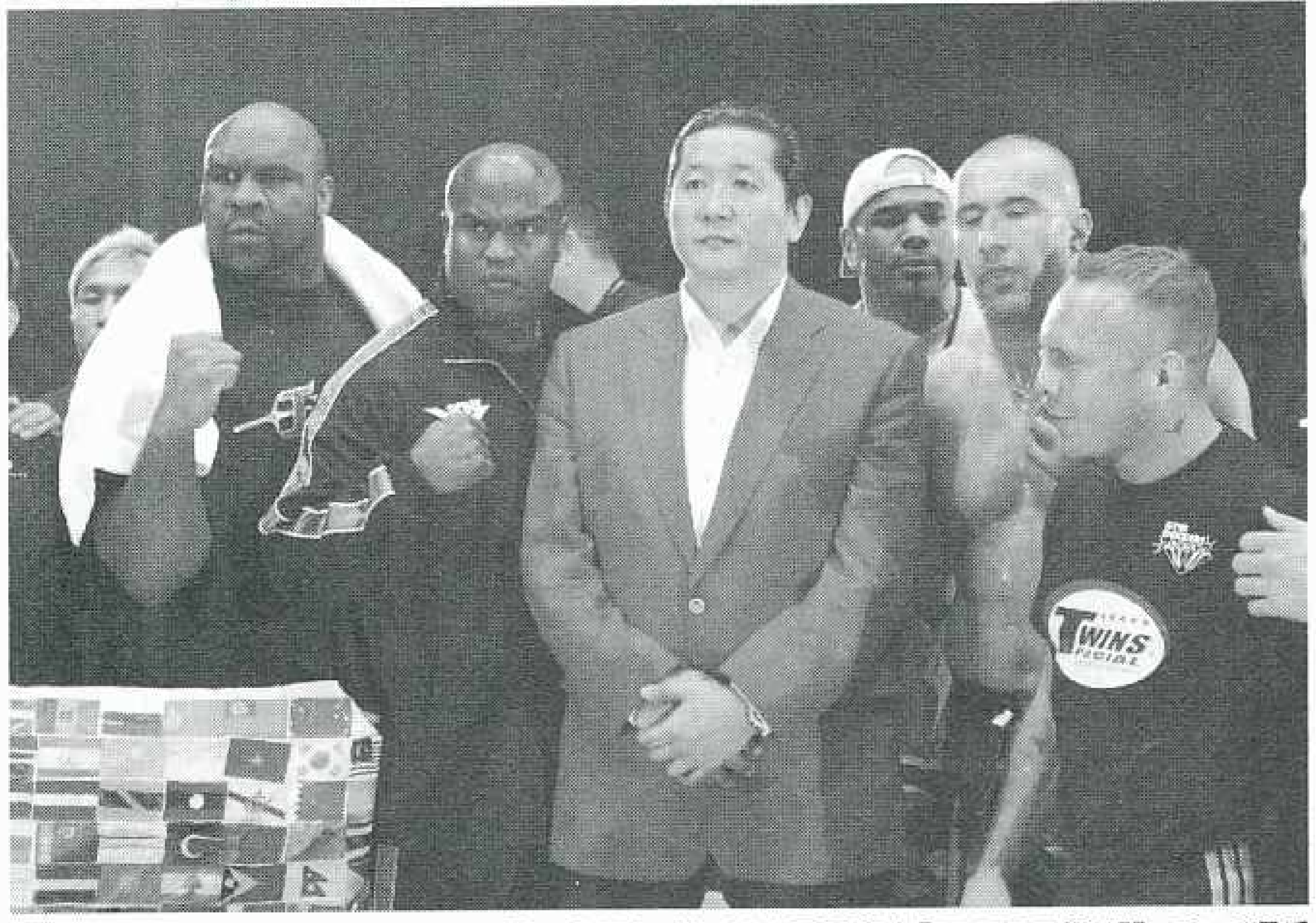
山口　つまり、いまの山本さんにピッタリな世界ということですね（笑）。

ターザン　そうだよ！　俺こそが『HERO-S』の中のヒーローなんですよォォォォ!!

山口　まったく意味がわかりません！　これにてお開き!!

【05年3月30日／某・高級水たき屋にて収録】





『HERO'S』に違和感を生じた前田日明という巨人。対する髙田延彦も「PRIDEの顔は闘っている選手たち」と一歩引いている現状では、"前田vs髙田"という図式よりも"PRIDEvsK-1"という対立構造のほうがファンにとっては受け入れやすいのかもしれない。2005年のマット界はこの二大メジャーの抗争がリードしていく——!!

前田日明が『PRIDE』に噛みついていけば もっともっとマット界は活性化する（山口）

ターザン&山口日昇が、ひと足早く『PRIDEひかり道』でも大暴走!!



無責任男のターザン、いい加減の代名詞・島田、酒乱の笹原広報、失踪する魂・山口日昇などが登場した「PRIDEひかり道」。管理のズサンなサファリパークさながら!

去る3月25日、『格闘技通信』の三次（みつぐ）敏之編集長がホストを務めるネット・コンテンツ『PRIDEひかり道』において、ターザン山本!と本誌鬼畜編集長の山口日昇が、今号の対談よりも早く再開していた!!

この日は、他にPRIDEルール・ディレクターの島田裕二氏、DSE広報局長の笹原圭一氏、芸人代表のお宮の松、指圧野郎。そして司会のユウキ・ロックといった、まったくまとまりの期待できないメンツが、開幕直前の『PRIDEミドル級GP』についての大討論会・大予想!

しかし、すんなり山口日昇がそのテーマに収まるわけもなく、口火を切って、「前田日明」「HERO'S」といった物騒な単語をポンポンとテーブル上に飛び交わせた。そんな山口に触発されたのか、大炎上がお家芸のターザンも「ボクが格通の編集長だったのはフェイクですよォォ」「金は正義だ!　格闘技は金だァァァ!!」と、最後には『PRIDE・GP』とまったく関係ない結論を導きだし大暴走劇を締め括った。

山口日昇は、ハリトーノフTシャツと『紙プロ』前号を視聴者プレゼントとして持参し、意外に気を遣うところも見せたが、やっぱり最後は『紙プロ』の表紙に格通・三次編集長のサインを入れさせるという暴挙に!　どこに出しても恥ずかしい山口日昇のいたずらに付き合っていただいた、大人な三次編集長、ありがとうございました!　ついでに本誌電気部のさささぃが、つい最近まで「さんじさん」と読み方を間違えまるでオヤツ扱いしていたこともお詫び申し上げます。

【無料でインターネット配信番組が楽しめる「CastyTV」はコチラですよ→http://casty.jp/about/】



一番左が『格闘技通信』の三次編集長。同番組のホストを務め、マット界で「セカチュー」という言葉を一番使ったことで知られている。

本誌 Back Number



no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

50%OFF

700yen⇒350yen



no.14 '95.04

特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

50%OFF

780yen⇒390yen



no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

50%OFF

780yen⇒390yen



no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

50%OFF

780yen⇒390yen



no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

50%OFF

780yen⇒390yen



極真魂溢れる16人を直撃！

完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

50%OFF

1530yen⇒800yen

---

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08/880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!

- "首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー
- "青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- 猪木とは何か? アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.57 表紙 高山善廣 '02.11/840yen

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!

- サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 新たなる"U"が始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
- "北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤&船木 '03.01/880yen

新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!

- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談 ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02/880yen

吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!

- いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器 中村和裕
- UWFの再興と再考 田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03/880yen

英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!

- ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04/880yen

5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!

- 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05/880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!

- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!? 船木誠勝
- 藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
- 新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲(イラスト) '03.06/880yen

吉田秀彦が大英断! ミドル級GP出陣!

- 「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村 '03.07/900yen

灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!

- "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08/880yen

ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!

- "最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル
- "反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ
- 吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09/880yen

ミルコ、『武士道』電撃出陣! もはや誰にも止められない!!

- 緊急独占インタビュー! ミルコ
- マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
- "天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- 『東スポ』とは何か? 柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10/880yen

吉田とシウバ、いざ激突!! 衣(ギ)は赤く染まるか!?

- ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ
- "柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
- 『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
- アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他 '03.11/880yen

人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!! 白黒ハッキリ決めようやーッ!!

- 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦
- 横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- 一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー 桜庭和志
- "野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

no.69 表紙 OH砲 '03.12/900yen

大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!! 年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!

- 出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也
- 『泣き虫』著者登場! 金子達仁
- 大晦日直前インタビュー! 田村潔司
- アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01/880yen

年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!! OH、ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?

- PRIDE征服宣言! ミルコ
- シウバに宣戦布告! 近藤有己
- ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶
- 発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02/880yen

プロレスよ、踊れ! 3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!

- 『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ
- 待望の『紙プロ』初登場! 川田利明
- 理想のプロレスを追い求める! AKIRA
- スクープ! 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03/840yen

最強への求道者たち全員集合!! PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!

- GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- 第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
- 全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04/880yen

暴走王が忘れたころにやってきた! PRIDE・GPでハッスルするぞ!!

- GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也
- PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド
- キックの名伯楽登場! 伊原信一
- 魔界のニューリーダー 村上和成

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06/880yen

英雄、奇蹟の揃い踏み! 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!

- シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也with藤井軍鶏侍
- 奇蹟の独占インタビュー! 高田総統
- インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン
- 年金未納からUFOまで ザ・グレート・サスケ

no.77 表紙 小川直也 '04.08/880yen

『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集! 小川、史上最大の査定試合へ!!

- 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」 小川直也
- 狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ
- サンボの神様降臨!! ビクトル古賀
- ロシアで英雄と再会! ヴォルク・ハン
- 幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

no.78 表紙 小川直也 '04.09/840yen

『PRIDE・GP』徹底総括! ハッスルとは出直しの連続なり!!

- 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也
- 小川の敗戦をどう見る!? 高田PRIDE統括本部長
- K-1のトップが小川を語る 谷川貞治
- 壮絶インディー人生! 田中将斗

no.79 表紙 高田総統&小川直也 '04.09/840yen

プロレス暗黒時代に魔王降臨! 高田総統の激白を独占スクープ!!

- ハッスルキャプテンに休息なし! 小川直也
- 特別付録・高田総統特製ピンナップ
- 谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』
- ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

no.81 表紙 桜庭和志 '04.10/880yen

サク、4度目のシウバ戦決定! 大晦日格闘技戦争・濃密大特集号

- ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ
- 新日本でハッスル成功! 小川直也
- スーパーひとし君登場! 草野仁
- 狂気の天才対談が実現!! 佐山サトル×船木誠勝

no.82 表紙 桜庭和志 '04.12/890yen

大晦日大戦・超直前特集号! 男のSADAME、見に来いやーッ!!

- 「ボクは絶対に諦めない」 桜庭和志ロングインタビュー!!
- "道場破り"の全てを激白! 安生洋二
- WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪
- 伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

no.83 表紙 ミルコ '05.01/880yen

打倒ヒョードルに向けミルコが激白! PRIDEヘビー級王座への野望と渇望!!

- 『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括!
- 2005年ハッスル大進撃計画を発表!! 小川直也
- 蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝
- 『シベ超5』公開記念SP対談! 水野晴郎×サスケ

no.84 表紙 セルゲイ・ハリトーノフ '05.02/880yen

ロシア人はロシア人が始末する! ハリトーノフがヒョードルに宣戦布告!!

- PRIDE王座へまっしぐら! ミルコ
- "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ
- "頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司
- "起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

no.85 表紙 前田日明&高田総統 '05.03/860yen

PRIDE vs HERO'S開戦! どっちが面白いか決めたらええんや!!

- PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、高田延彦
- パンクラス2大王者が揃い踏み! 高阪剛×近藤有己
- 怒濤の37ページ!『前田イズムとは何か?』
- HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文
②電話注文 03-5368-1797
③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。

※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意 郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

紙のプロレスRadical 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■タコシェ
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■グレートアントニオ
■東京イサミ

女子プロレスとは何か？

祈 松永帝国復興!!



※98年5月、クルーザーに乗り大ハシャギする松永会長（当時）とサスケ社長（当時）

Radical Back Number

女子プロ界の秘密が明らかに！
衝撃のインタビューはコチラのバックナンバーで!!



no.49 "リビングレジェンド"小畑千代登場！
知られざる女子プロ界の黎明期を語り尽くす!!
- 蘇れ！Uインター伝説 金原弘光×高山善廣×和田良覚
- 8年ぶりのご対面！CIMA×ドス・カラスのVIVAメヒコ対談
- 小島聡が『紙プロ』初登場だバカヤロー!!
- アレクに火を点けた菊田早苗とは何者か？

'02.04 / 880yen



no.50 "女子プロレス歴史の証人"小畑千代
壮絶ガチンコインタビュー、怒濤の後編!!
- 邪道議員がスキャンダルの数々に答弁！ 大仁田厚
- シウバに100倍返し宣言!! 桜庭和志
- ヒョードル大ブレイク！リングスロシア、闘いの軌跡!!
- 50号突破記念！マット界クロニクル座談会!!

'02.05 / 880yen



no.74 プロレス界の鬼嫁から、日本の鬼嫁へ
健介ファミリーの最高権力者・北斗晶がプロレス界を斬る!!
- 上級プロレス学講座 U・ドラゴン×ターザン山本！
- ハードコア・レジェンド降臨！ ミック・フォーリー
- リベンジロード、遂に発進!! 桜庭和志
- モス！からくりガイジン"ボビー登場!!

'04.05/ 880yen



no.76 アジャ・コングの壮絶女子プロ人生！
素晴らしきすぎる全女の多角経営も検証!!
- スクープ！ノゲイラと破壊王が都内某所で密会!?
- "殺しのライセンスを持つ男"セルゲイ・ハリトーノフ
- リアル・マッスルブラザーズ!! 美濃輪育久×滑川康仁
- 『無比人』映画化決定対談 真樹日佐夫×菊田×尾崎社長

'04.07 / 880yen



no.80 女子プロ界のタブーに迫る袋とじ企画!!
全女出身の風俗嬢・グリズリー岩本に直撃取材!!
- なぜ鬼嫁は新日本にブチ切れたのか!? 北斗晶
- 新日&ジャパン&SWSを渡り歩いた男 新倉史祐
- 超異次元わがまま対談！ 田村潔司×マグナムTOKYO
- ミルコ直撃インタビュー&プロレスハンティングリスト

'04.10 / 880yen

バックナンバーは電話で注文できます！！
03-5368-1797
【平日15:00〜22:00 (株)ダブルクロス】

---

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 780yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!!
小川 vs 橋本"1・4事変"勃発!!
- あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- "前田日明・最後の相手"
  アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会
  「語ろうマサ・サイトー！」
- S多重アリバイ 佐野雄飛

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen
格闘ノストラダムス!!
エンセン表紙初奪取号!!
- 環境問題を『紙プロ』で語る!!
  アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!!
  語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ 石川孝志
- マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する！
ノア勢フルメンバーで登場!!
- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝
  仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人
  最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen
針はどちらに向くのか!?
新プロレス vs 純プロレス開戦！
- 田村潔司に快勝！
  A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- プロレススーパースター列伝
  ラッシャー木村
- "和製カレリン"本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen
「猪木祭り」開幕ーッ!! プロレスは
「闘い」を忘れたときに老いていく！
- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝
  ミスターヒト
- 修斗から『猪木祭り』へ！ 宇野薫
- ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン（イラスト） '01.02 / 840yen
「純プロレス」を考え倒せ！
500人アンケートも実施！ 徹底検証号
- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝
  ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也（イラスト） '01.02 / 840yen
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ノアから独立！
  高山善廣を確認せよ!!
- ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- 吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也（イラスト） '01.04 / 840yen
小川と三沢が遂に絡んだ!!
純プロレス戦国絵巻
- 安田忠夫が借金から
  自殺未遂までですべてを語る！
- アブダビコンバット2001一大探検記！
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスが
  WWFにはある！

no.38 表紙 高田（イラスト） '01.05 / 840yen
小川と長州、どちらが
孤独だったのか!?
- 忘れ物の正体は——。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子
  E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝
  阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen
どうなるんだ、リングス！
前田 is デッド!?
- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!? それとも……
  藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen
猪木軍 vs K-1に見たいものは
"地上最強のプロレス"
- 蘇れ！Uインター&キングダム伝説！
  高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝
  グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen
Can you カミングアウト？
"最後の黒船"WWF襲来！
- リングス10周年！
  ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史
  巨頭対談が実現！
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen
猪木なら何をやっても
許されるのか!?
- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ！UWFインター伝説!!
  高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士
  カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen
サクと『PRIDE』のケツに
火がついた!!
- ブラジリアン・トップチーム
  3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんじろう！」人生相談
- 金原弘光×サスケの
  新日本プロレス学校同窓会
- 野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen
サクの連敗が『PRIDE』に
語りかけるものは何か？
- その修羅場の数々！
  シーザー武志
- 怪物伝承対談！
  高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen
「K-1 vs 猪木軍」命懸けの
エンターテイメント!!
- 悪魔の書、現る！ ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝
  グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen
WWE日本侵攻5秒前！
- "天才"武藤敬司が
  『紙プロ』驚愕の初登場！
- 噂の馳浩が新日分裂から
  ミスター高橋本までを語る！
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝
  ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- 奇跡のメガトン対談！
  小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に！
  語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場！
  ジョー・サン
- WWEを知る男 ウォーリー山口

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen
ZERO-ONEに願いを！
- 両国国技館だよ、全員集合！
  橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開！
  小池栄子
- 天才が悩みに答える！
  武藤敬司人生相談
- 新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen
見えない鎖を引きちぎれ！
小川直也リング外での暗闘!!
- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!!
  ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜！

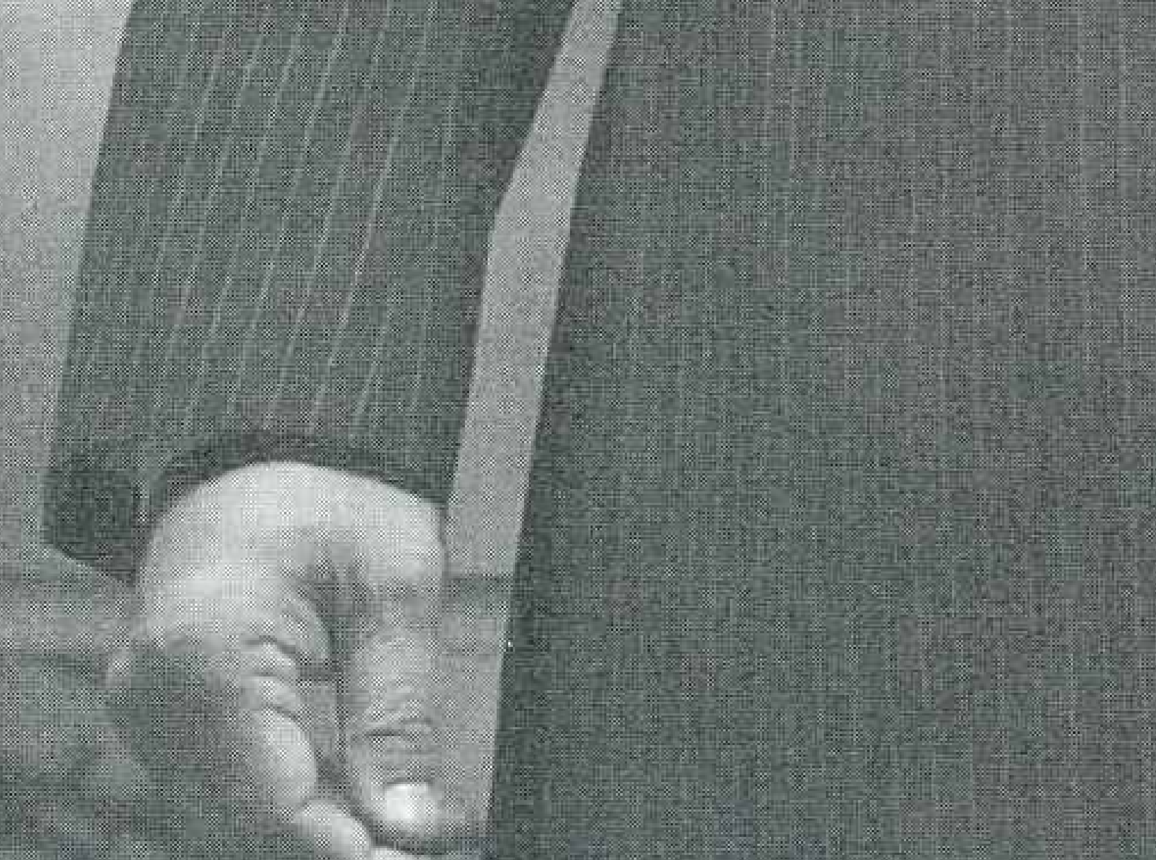
売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen
世紀のビックイベント
『Dynamite！』直前大解剖!!
- ノーフィアー×無謀美・対談!!
  高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ！
  マット・ガファリ
- 爆裂！ 川村社長ガチンコ語録！
- 偽造王の知られざる半生！ 一宮章一



である

『HERO'S』出現後のマット界の行方を占う!!



日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

2月末に表舞台に復活して以来、専門誌等はまさに前田一色となった。なぜスーパーバイザーとして登場しただけの前田日明にこれだけのインパクトがあっのか？ “幻想”をキーワードに、これからのマット界の行方をおなじみ、骨法・堀辺正史師範に語ってもらいました！

聞き手／堀江ガンツ designed by bun-chan（Two Three）

“前田現象”とは幻想への一時的な回帰

――先生！　今日は新しい総合格闘技イベン『HERO'S』が旗揚げされたので、それについてお話を伺おうと思うんですけど、このイベントは試合以上にスーパーバイザーになった「前田日明復活」がファンの間で話題になってるんですよ。

堀辺　活字系の専門誌とかスポーツ紙でもずいぶんフィーバーした感じでしたよね。

――ですから、なぜ前田日明のマット界復帰がここまで話題になり、インパクトを与えたか。まずこの現象についてお話しいただきたいんですが。

堀辺　これは簡単ですよ。要するに物事はらせん的に発展するということです。

――らせん的というと？

堀辺　直線じゃないということです。歴史の現実が示すように、物事は決して最短距離で直線には進まない。直線に進んでるようには見えるんですけど、逆戻りして円を描いて、戻りながらまた進んでいくんです。

――三歩進んで二歩下がるみたいな感じですか（笑）。

堀辺　そうですね（笑）。これを格闘技に当てはめていくと、リアルファイトというこの方向性は、もう止めようがないんです。ただ、リアルを突き詰める過程で、過去のＵＷＦのようなものに一瞬だけ回帰したりして、またリアルの方面に動き出す、こういったことが起こるんですよ。

――リアルファイトとプロレス的なものを反復しながら、徐々にリアルな方面に進んで行くと。

堀辺　では、なぜそのようなことが起きるのか。例えば『ＰＲＩＤＥ』も髙田延彦vsヒクソン・グレイシーから始まって、もう約10年近く経ちますね。その10年の間にリアルファイトが社会に定着したと言えるんですけど、10年もの間リアルなものばかりを見続けると、大衆っていうのは相反する幻想を求めたくなるんですよ。

――俺たちが求めていた〝リアル〟ってこれかよ？ってくらい、『ＰＲＩＤＥ』にはホントに多くの厳しい現実を見せつけられましたからね。

堀辺　そういった現実ばかりを見せられると、リアルじゃないものが懐かしいというか欲するようになるんですよね。例えばＵＷＦの頃は「あの闘いは真剣勝負か否か」という論議が常に付きまとっていて、コアなファンにとっては、そういう議論ができること自体が楽しかったと思うんですよ。でも今のリアルフ



一時は巨大な幻想を背負っていたが、一昨年あたりから試合をするたびに厳しい現実を見せつけ続けているサップが、『HERO'S』で“幻想王”前田日明を称える。ちょっと前まで考えられなかった組み合わせた。

アイトにはそういう部分がなくなってきてるでしょ？

――問答無用で答えが出てきますからね。論議の入り込む隙間がみじんもない（笑）。

堀辺 だからプロレスファン出身の格闘技ファンにとっては、語り合えないのは寂しいという部分があったと思うんです。そこに前田日明という存在が登場したことによって、前田が持ってるファンタジーが、格闘技界に何か違ったことが起きるような幻想を抱かせてくれたわけですよ。

――前田日明は幻想の固まりみたいな人ですからね。

堀辺 リアルなものばかりで、自分の思い入れをブツける場所がなかったんですけど、そこに前田が登場してくることによって、彼を論じてもう一度幻想について語り合ってみたいという空気がボッと出た。これが今回の前田登場の意味なんじゃないかな。

――では今回の前田日明登場というのは、タイミング的には最高の状態だったと。

堀辺 バッチリです。もうリアル、リアル、リアルしかない中で、ちょうど潜在的な〝幻想〟への待望論が高まった時期に出て来たと。そのタイミングは偶然かもしれないけど、非常にいいものでしたね。ただ、これはあくまで一時的なものですよ。

――一時的ですか？

堀辺 はい。一時的にこういった幻想が必要な状況に戻りますけど、これは所詮克服されてしまうものなんです。もうリアルへの方向性は変えようがない。これがらせん的な発展と言えるわけですね。

――では、逆に言うと、リアルファイトが発展するためには、ときには幻想が必要になるということですよね？

堀辺 そういうことですね。去年の『PRIDE・GP』の小川直也参戦による盛り上がりというものは、まさにそういうことじゃないですか。

――去年の『PRIDE・GP』は小川という幻想にリアルな答えが出るということが最大の関心事でしたもんね。

堀辺 だから今回、前田日明が登場することで話題になりましたけど、それは〝幻想〟が待望されていただけで、その幻想を別に前田日明に限定する必要はない、ということをマスコミは知るべきなんです。問題は、リアルな中にどういう幻想を織り交ぜていくかということが必要なのであって、前田日明個人に全面的に依存することはないんです！

――なるほど。去年の小川直也や、今回の前田日明のような幻想を背負った存在が必要なのであって、前田日明自体が必要なわけではないんですね。

堀辺 幻想を求めているファンが、前田を復活させているわけです。この本質を見ないといけない。だから今回、『HERO'S』は「世の中には前田日明が足りない」という宣伝コピーをつけましたよね。これは非常にうまいコピーで、確かに格闘技界はこのところリアルな現実ばかりを見せ続けてきたので、前田的な幻想がなくなってたんですよ。ただ、それは「前田日明が」足りないのではなく、「幻想が」足りなかったんです！

――つまり「世の中には前田日明が足りない」というコピーの真の意味は、「格闘技界には幻想が足りない」ということなわけですね。

堀辺 そういうことです。前田ではなく、幻想が足りなかったんですよォ！

――確かに総合格闘技とは、すべて幻想があってこそ成り立つ部分がありますよね。バーリトゥード初期のヒクソン・グレイシーにしても、まさに幻想の固まりでした。

堀辺 ホイスというUFC無敗の男が「兄貴は俺より10倍強い」と言ったことによって、イッキにヒクソン幻想が膨らんだわけです。「10倍強い」という幻想が生まれましたよね。その幻想を使い切ったとき、また別の形でリアルの凄さが出てくる。幻想と対比しながら、あるいは混じり合いながら、リアルが明瞭に出てくるんです。だからそういう部分が大切なんじゃないかな。

「世の中に前田日明が足りない」の真の意味は今の格闘技界に幻想が足りないということですよ

――幻想があってこそ、よりリアルが輝くと。

堀辺 10年間続けてきて、リアルな格闘技が世間で認知されてきたわけだけども、これをもっと拡大するためには何が必要か。それは格闘技というものをまったく知らない人たちに、それを理解させることが大事なんですけども、それはいい意味での幻想性を持ちながら、いかにリアルファイトを展開していくかということなんです。それを含めば『PRIDE』や『HERO'S』がもうひとつ大きな存在になる可能性があるんです。前田日明の登場というものは、そこに関わる重要なポイントになっていますよね？

――ではいま、『PRIDE』にこそ幻想が必要なんじゃないですか？

堀辺 まさにそういうことです。いま『PRIDE』には、かつてのUWFとかと比べて、選手に夢を膨らます期間があまりにも少ないような気がするんですよ。いままで見たことも聞いたこともない選手がいきなり出てきて、そこでリアルファイトをして結果が出てしまう。そういったことが繰り返されてますよね？

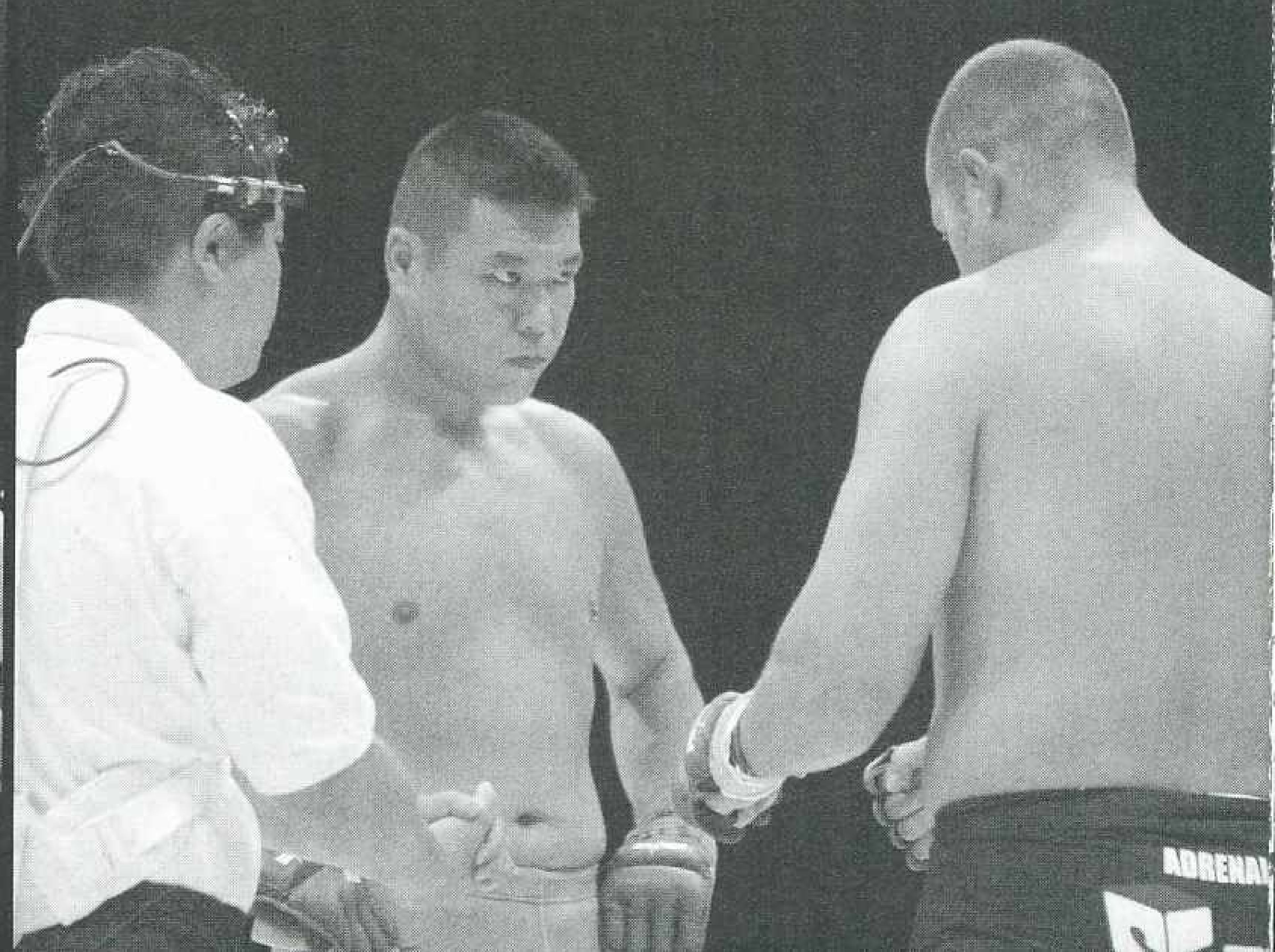
――ファンに幻想を抱かせる前に、ファイターがどんどんリアルな生身の姿をさらされて消耗されてますよね。

堀辺 そういったことが続くと、リアルファイトの勝敗の価値がデフレを起こすんですよォ！

――リアルファイトのデフレ！

堀辺 そうです。アルティメットが出てくる前というのは、「なんでもあり」やリアルファイトというものがなかったので、リアルな結果というのが非常に価値が高く、つまり言いかえるとインフレだったんですよ。それがこの10年でリアルファイトが当たり前になって、興行も増えたことで、せっかくリアルな結果





昨年、異常な盛り上がりをみせた『PRIDEヘビー級GP』の立役者と言えば、小川直也とセルゲイ・ハリトーノフ。2人とも質は違うものの、幻想を背負ってリアルな測定の場である『PRIDE』のリングにあがったことで強烈な化学反応を起こし、人気が爆発した。このあたりに格闘技隆盛へのヒントがあるはずだ。

を見せるという価値がデフレを起こし始めたんです。

—確かに次から次へと選手が勝った負けたするのが、当たり前になってますよね。

堀辺　それはある部分で非常にもったいないことなんですよ。だから私はリアルファイトだからこそ、ファンに幻想を抱かせるだけの時間と機会を与えたほうがいいと思う。例えば、試合をやる前に「あの選手の目つきは尋常じゃない」「いや、相手の筋力の方が凄い。こんだけのバーベルを上げた」「でもコッチは寝技世界一だぜ」とか、少なくともリングに上がる3ヶ月前から論議されていて、みんなでワイワイガヤガヤ騒いで、マスコミでも意見が割れたりして、お酒でいったら熟成される期間があって、そしていよいよ試合の日を迎えると。

—それなら1試合で3ヶ月分はたのしめますね（笑）。

堀辺　こういうものを上手く使った方が、人々の記憶の中に蓄積されていくと思うんです。主催者側が語り合える材料を十分提供して、それをファンが一緒になって考えていくと。そういったプロレスやUWF時代のいい部分の遺産をもっと有効に利用すべきだと思うんですよね。

—『PRIDE』は明確な答えを出し過ぎてる部分があって、言い換えると幻想を破壊し続けることで成長してきたとも言えますよね。

堀辺　その幻想が破壊されるということは非常に刺激的なんです。だからこそ、その幻想というのは大事にすべきなんです。そしてファンにより幻想を抱かせるためにも、もう少し期間を置いていいような気がするんですよ。

—『PRIDE』はスター選手が負ける姿をポンポン見せ過ぎですよね（笑）。

堀辺　それもありますね。あの『PRIDE』というリングで闘える状態まで選手を育てるのは大変な時間がかかるわけだけれども、その選手を商品として簡単に破壊していってしまっているんです。そのイメージが強すぎちゃう。もっと闘う前からみんなの記憶の中に浸らせて、そしていよいよ当日を迎えて、たとえ負けたとしても次はやってくれるだろうという部分が語られないし、報道されない。以前負けた選手が凄い特訓して、次に登場するときにはさらに強くなっているとか、そういう連続ドラマで報道されていくことがあったら、もっと『PRIDE』は大衆の心の中に入っていくと思うんですよ。前田日明個人に頼った幻想ではない、組織化された幻想が必要なんじゃないかなって思うんです。

幻想が破壊されるというのは非常に刺激的だからこそ幻想は大事にすべきなんです！



幻想とは無縁の、実力測定の場である『PRIDEミドル級GP』に出陣する日本人トップファイター。はたして4人はこ厳しい現実を乗り越えて、新たなる幻想を生み出すことができるか？

—なるほどなるほど。だからこそ、先生は以前、桜庭選手に対して、「半年くらい姿を消して、ブラジルかどこかで修行してきたほうがいい」と言っていたわけですね。

堀辺　そういうことです！　桜庭選手ぐらいになると、ちょっとやそっとじゃファンは忘れないんだから、しばらく姿を消したほうがいいんですよ。そうしたらファンは「桜庭は凄いトレーニングを積んでるんじゃないか」とか「ガラリとスタイルを変えてくるんじゃないか」とか、夢想するわけですよ。そういう"仕込みの時間"をあえて作って、見る側の想像力を膨らませて、その上で登場するからこそ爆発するんですね。

—要はプロレスの"海外武者修行"と同じですよね。

堀辺　まったく同じです！　あれだって「あいつはどれだけ変身して帰ってくるんだろう」っていうファンの幻想を高めるという側面が強いですよね。だからそれはリアルファイトであろうとも、選手をいい意味で寝かせておく期間が大事なんです。そうやってファンの頭をグルグル回させる時間が、いまの『PRIDE』には求められてるんじゃないかな。

—せっかくのバーリ・トゥードで"決闘"をするわけですから、そういう幻想を生み出すための"タメ"は必要なんですね。

堀辺　そうです。決闘を生かすために幻想は必要なんです。

—じゃあ、いまの『PRIDE』にこそ"幻想"が足りないと。

堀辺　そういうことですね。大衆はリアルなものと同時に幻想を求めてるんですよ。考えてもみてくださいよ。去年のセルゲイ・ハリトーノフがなんで人気が出たかって言ったら、"現役ロシア軍人"ということで、ファンに幻想を抱かさせたからでしょ？

—そうですよね。ハリトーノフは「人を殺してるんじゃないか？」っていうくらいの幻想を未だに抱かせてくれてますよね（笑）。

堀辺　そういう軍隊所属だったり、素手で人を殺す技術を身に付けたとか、ホントかどうかわからない部分で幻想を抱かせてくれると。この部分が非常に大切で、大衆にとっても夢になるんです。

—では、いま一番幻想をまとっているのは、負ける姿をほとんど底をみせていないヒョードルとミルコ・クロコップだと思うんですけど、この2人の対戦が実現したら、それこそ決闘と幻想が最大値に達する凄い闘いになるんじゃないですか？

堀辺　そうですね。注目度が高い試合とは、決闘と幻想が含まれた試合だと言えるわけです。

—幻想ある選手同士の決闘ですもんね。ヒョードルもミルコも、闘ったらどうなるか想像がつきませんよ。

堀辺　ヒョードルの負けというのは想像つかないですし、ミルコはランデルマン戦でサブミッションが上達したことを証明したわけですからね。これまでは「スタンドならミルコ、寝技ならヒョードル」という簡単な図式だったんですけど、いまはミルコの寝技は上達してるし、ヒョードルもアーネスト・ホーストのところに行ったりして、立ち技が上達してる。ハッキリ言って、どんな局面で何が起こるかわからない。こうなると「これは一体どちらが勝つんだ？」という論議が盛り上がるわけです。そういう想像が膨らんでくるものが、決闘というに相応しいルールで激突する。それは刺激ピリピリになりますよ（笑）。

—ピリピリになりますか（笑）。

堀辺　幻想というのは、そもそも実体のないものですよね。でも、決闘に幻想を織り込むと、より決闘の価値を高めるんですよ。そういったことを、もう一度気付かせてくれたということで、前田日明が登場したというのは意味があったんじゃないかな。

—わかりました。また次の機会もよろしくお願いします！

【05年4月4日／東中野・骨法武術館にて収録】

前田日明&上井文彦

『WRESTLE-1』はなぜ延期になったのか?

文/ジャン斉藤

仰天! 新名称に『武士』『強者』が浮上!!

噂は本当だった!! 4・23『WRESTLE-1』開催延期!

4月6日、『ビッグマウス』の上井文彦代表が記者会見を行い、4月23日横浜アリーナで開催される予定だったプロレスイベント『WRESTLE-1』(以下『W-1』)の延期を発表した。じつは『W-1』の日時が発表された3月上旬の頃から、"『W-1』開催延期説"は業界の噂として上っていた。開催時期を見直す"延期説"ならまだしも、イベントプランを一旦白紙に戻す"中止説"も囁かれていた――。いったい『W-1』に何があったのか? まずはこれまでの流れを簡単に振り返ってみよう。

そもそもの発端は、"プロレス復興"に情熱を燃やす上井氏が、あの前田日明を個人的な相談役に迎え、3月下旬に"上井プロレス"の旗揚げを目指していたことに始まる。しかし、開催日時やイベントの概要は3月に入っても明らかにされず、そして事態は思いがけない方向に急展開していく。上井氏がパイプ役となり、3月21日に総合格闘技イベントを計画していたFEG(K-1)と、もう一度格闘技イベントを手掛けたい前田日明の思惑が一致。TBSのバックアップを受けるかたちで『HERO'S』を先に開催することになった。一方、"上井プロレス"も4月23日の開催が発表され、ワールドワイドな展開を目指したいことからK-1谷川氏の了承を得て、上井氏は『W-1』の名称を復活させた。これにより旧『W-1』の中心的存在だったK-1が上井氏を協力にすることは明白になり、旧『W-1』に参画していた武藤敬司の個人事務所『レッグロック』との結びつきもますます強くなった(もともと『レッグロック』は『ビッグマウス』の会見の仕切りやプレスリリースの配布などで上井氏に協力していた)。つまり、"上井プロレス"は『W-1』に形を変えて、K-1、『ビッグマウス』、『レッグロック』、長州力&保永レフェリーの同イベント派遣を発表していたリキプロなどを巻き込む"運命共同体"的なイベントとして大きく膨れあがったわけだが……なぜ『W-1』は、4月23日に発進することができなかったのだろうか?



上井氏は『W-1』より先に開催される『HERO'S』の業務に忙殺され、『W-1』まで手が回らず、選手の出場交渉ができなかった」と延期会見の席で述べていたが、大会延期の最大の原因は上井氏が水面下で進めていた地上波放映の交渉が不発に終わったことだろう。上井氏は「もし地上波のゴールデンかプライムタイムの放映が可能であれば、『W-1』は延期してなかった」と述べており、テレビ局名こそは明かさなかったが、テレビ局の壁は超えられなかったようだ。上井氏が地上放映にこだわる一番の理由は、テレビの放映権料で選手たちのギャラをカバー。そしてゲート収入で収益を上げたい考えがあるからだ。たとえば、上井氏は『W-1』にアントニオ猪木の招聘や、藤田和之や曙、ボブ・サップの出場を望んでいたが、アントンを始めどの選手も"高給取り"ばかりで、テレビの放映権料がなければ一発で破綻してもおかしくない。テレビは『W-1』の"命綱"なのである。

「より完璧なものを皆さんにお見せします!」暗雲を吹き飛ばす"上井ビックマウス"サク烈!!

上井氏は秋のテレビ番組改編時期のSP枠獲得を目指して粘り強くテレビ局と交渉を続けるようだが、それまではノーTVでの興行展開を強いられることになり、開催時期は5月か6月の中旬を視野に入れている。そして、テレビ放映がなければ『W-1』の名称に拘らない考えを明かし、"『W-1』への道"的なイベントの実施計画もあるようだ。新イベントの名称はまだ考案中であるが、「前田日明もいろいろと考えていますよ。『HERO'S』で言っていた『武士(もののふ)』とか『強者(つわもの)』とか――『武士』に『強者』!! 延期という最悪な事態になっても、プロレスの常識を根こそぎぶち壊す『ビッグマウス』のブルドーザーのようなパワーに陰りはないぜ! 上井氏の会見中の発言をザッと並べてみても……「前田さんとリキプロで両国国技館を超満員にできますよ!!」

「アラン・カラエフを『W-1』に出したいです。グッドリッジをアイアンクローで極めていたらWWEは放っておかなかった。彼はスーパースターになれる選手!」

「開催日時? ボクが出したいと思っている選手が全員出場できる日ですよ!!」

「4・16リキプロに前田日明と一緒に乗り込みます。『W-1』第一章として、前田さんと長州さんの絡みでうねりを起こします。凄いことやりますよ!」

……あ、あち!! 熱いよ、上井さん!! 現場には延期会見の雰囲気は微塵もなかったのである。「より完璧なものをお見せします!!」と"災い転じて福となす"構えの上井氏。今後も"プロレス復興"に猛然と突き進む、上井氏のブレーキに壊れたダンプカーぶりには目が離せそうにない!!





渕正信×ジミー鈴木が語る

昭和・全日本プロレス&ジャンボ鶴田最強伝説

超不定期連載・ジミー鈴木の対談シリーズ。今回は〝バッスルK〟川田利明退団により、〝最後の全日本〟となったフッチーが登場！ 30年来の付き合いであり、故ジャンボ鶴田さんと親交の深かった二人が、古き良き全日本とジャンボの最強エピソードをたっぷり語ります！

聞き手／堀江ガンツ designed by Shiraki（TwoThree）

前田日明&上井文彦

『WRESTLE 1』

ジミー　渕さん、よろしくお願いします！

渕　おう、よろしく。

ジミー　もう数少ないプロレスラーの先輩になっちゃったけど（笑）。

渕　そうか？　お互い歳食ったな（笑）。

――お二人はいつごろからのおつきあいなんですか？

ジミー　渕さんとはねぇ、東京体育館でブルーザー&クラッシャーvs馬場&鶴田戦があった日、初めてちゃんと話したんだよね。まだファンの頃だよ。

渕　あれは昭和51年の1月だな。もう29年前だよ。

――29年前！　ずいぶん長い付き合いなんですね。

ジミー　でさ、なんで話すようになったかと言うと、俺は当時ファンクラブをやってたんですよ。それで腕章をお手製で作ってさ、リングサイドで写真撮ってたの。

――ファンがお手製腕章でリングサイド撮影！　それでいいんですか？（笑）。

ジミー　当時のマスコミの腕章だって似たようなもんだったから（笑）。だから、奇麗に作ったよ。「ファンクラブ」って文字入れてさ。それで俺がリングサイドで写真撮ってたら、渕さんにどかされたんだよ。

――邪魔だと（笑）。

渕　先輩から「新聞社以外はつまみ出せ」って言われてたんだけど、大仁田とかは注意しないんだよ。あいつ当時からベビーフェース指向だったから（笑）。しょうがないから、俺がやってただけでね。

ジミー　でも、こっちからしたら、それまで渕さん以外の人にどかされたことなかったから逆ギレしてね、「渕さん、それはないですよ！」っていう話をしてたら、なんか知らんけど帰りに「メシでも食うか？」って言われて、ご飯ごちそうになったんだよね。高田馬場のラーメン屋で。

渕　目白じゃなかったか？　全日本の合宿所の近くだから。

ジミー　あ、そうだ。合宿所のそばだったね。その目白のラーメン屋で麻婆豆腐丼と餃子をごちそうになったんですよ（笑）。

――よくメニューまで覚えてますね（笑）。

ジミー　そういう恩は覚えてる方だからね。そのとき渕さんが「俺が出世したら、もっとうまいもん食わせてやるからな」って言ってくれて、とっても優しい渕さんだったね。

渕　でも、おごったのは結局それが最初で最後だったよな（笑）。

――まだ出世が足りませんか（笑）。

ジミー　でも、ずうずうしくギミックの腕章作ってリングサイドで写真撮ってたなんて、我ながらふてぇ行為してたよね（笑）。

――いまそんなことするヨカタがいたら、ジミーさんが真っ先につまみ出してるんじゃないですか？（笑）。

ジミー　いや、いまは腕章まで作る根性あるファンいないよ。ま、そんな感じで選手と顔見知りになって、全日本の合宿所に遊びに行くようになったんだよね。

――当時の合宿所はどんなメンバーだったんですか？

ジミー　鶴田さんと渕さんと薗田さん（ハル薗田＝故人）、あと大仁田選手だね。それで鶴田さんと一緒にギター弾いたりしてたんだけど、渕さんも当時はドラムの練習してましたよね。

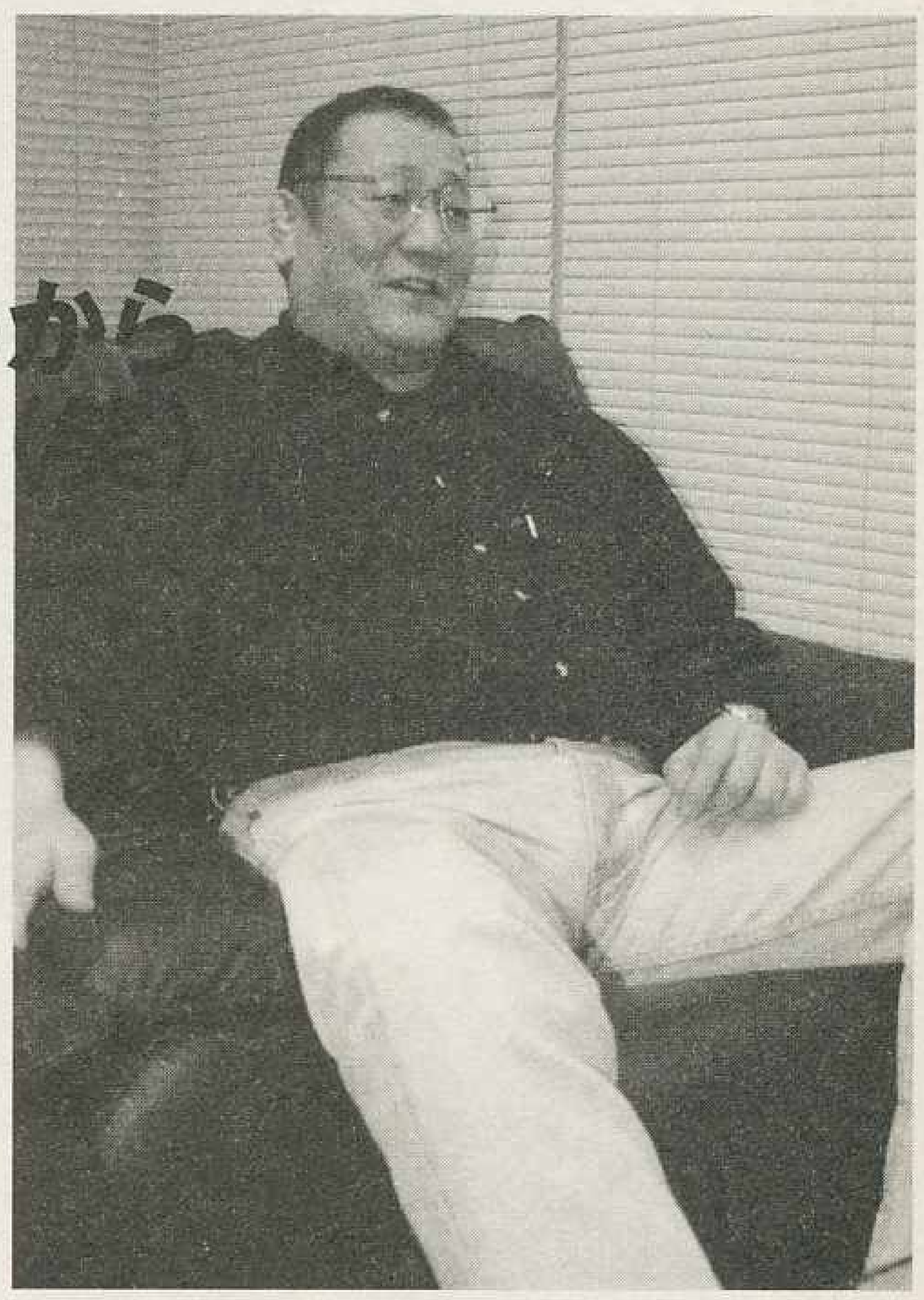
渕　そうそう。鶴田さんが「バンド作ろう」って言ってたからさ。

――全日本プロレス合宿所バンドですか！

渕　そうなんだよ。鶴田さん、あのころは歌唄ってコンサートとかやってたからさ。「みんな楽器ができるようになった方がいい」って言って、俺は途中で挫折したけど、一応買ったんだよな、ドラム。

――合宿所にドラムセットが来ちゃいましたか（笑）。

渕　それからサックスもらっちゃってね。そしたら鶴田さんが「ドラムがダメならサックス覚えたほうがいい」って言うからやったんだけどダメだったね。その点、鶴田さんは上手くてね、「渕君、ギターが弾ければ女の子が寄ってくるんだから」っていっつも言ってたよ（笑）。



鶴田さんが「バンド作ろう」って言うから
合宿所でドラムの練習してたんだよ

――ダハハハ！　鶴田さんのギターはズバリ、女の子にモテるためだったと（笑）。

渕　鶴田さんが26、27で俺が23、24だからね。それでトッププロレスラーが自前で会場押さえてコンサートやったんだから。あれどこだったっけ？

ジミー　厚生年金会館と高田馬場のビッグボックス。

渕　そうそう、それでファンの女の子に手伝わせてさ、会場をちゃんと満員にして、俺が司会やったんだよ。ドラムもサックスもできないから、最後は司会になっちゃったんだよ（笑）。

ジミー　大阪にも行ったよね。

――大阪公演まであったんですか！

ジミー　ファンの山本君っていうのがいて、彼が仕切って大阪公演やったんだよ。

――コンサートでは、鶴田さんはオリジナルソングを唄ってたんですか？

渕　いや、やっぱり当時だから井上陽水とか吉田拓郎だよな。あとは小椋圭、因幡晃とかな。結構、暗い唄うたうんだよ。

ジミー　あんなデカい身体して、♪都会ではぁぁぁ～～ってやってたよね（笑）。『傘がない』とかな（笑）。

――全日本って結構、そういった活動は自由だったんですね。

ジミー　鶴田さんは当時あったプロレスラーのイメージ、豪傑だとか、そういった目で見られるのが嫌だったんだよね。そういう世間の風潮を覆したくてコンサートやったり、楽しくやろうよっていう感じだったんだよね。

――じゃあ、ホント天龍さんとは性格が正反対だったんですね。

ジミー　だからジャンボ鶴田の最高のパートナーは渕さんだったから。それは私生活も含めてね。その後、渕さんは海外武者修行に出るんだけど、俺の方もファンからプロレス記者になって、渕さんのところに行ったんだよね。

渕　あれはどこだったっけ？

ジミー　シャーロッテ（ノースキャロライナ州）。それで渕さんの車乗せてもらったんだけど、雨の中、ワイパーが動かないのよ（笑）。

渕　そうそう（笑）。あの頃乗ってたのが古い車でね、ワイパー動かないから雨の中、前が全然見えないんだよ。「ジミー、怖いか？」って聞いたら、「怖いですよ！」「そうだよな。運転してる俺が怖いんだからな」って言ってな（笑）。

ジミー　それで渕さんがみそ汁作ってくれて、俺にメシ食わせてくれたんだよね。トレーラーハウスで。

――アメリカではトレーラーハウス住まいだったんですか？

渕　ディック・ハリスっていう選手がいてさ、「俺、あと1ヶ月で日本に帰るから、1ヶ月間安いトレーラーハウスで一緒に住むか」って話で住んでたんだけど、帰国が延びて半年間トレーラーハウス住まいだったんだよ（笑）。汚い狭いとこでな。

ジミー　でもね、渕正信の今のファンが知らない面を言うとね、渕さん向こうでモテたんだよ～。

渕　なんで、知ってんだ？　アメリカで？

ジミー　そうですよ。だって俺ら2人で飲み屋行ったら女の子がいっぱいいて、渕さん2人お持ち帰りしたじゃないですか（笑）。

渕　そうだったっけ？

ジミー　俺は1人ですから。負けたと思ったね～、やっぱりプロレスラーには逆立ちしても勝てねぇなって。



これが伝説のジャンボ鶴田コンサート写真だ！　ご自慢のギブソンのバミングバードギターがやたら小さく見えるのがさすがジャンボ。♪人は～だれ～でも～ローリングドリ～マ～

渕　いや、でも2人一緒に相手したことないから、どっちか帰らせたか、連チャンだったかだな（笑）。あのころ若かったからな。あれジミーいくつだったっけ？

ジミー　いま45です。

渕　俺がアメリカ行ったの28くらいだから、ジミーが22歳か。一番元気のいい時だなぁ（遠い目で）。

ジミー　一番オタマジャクシがたまるころだね（笑）。

――やっぱりそういうのもレスラーとしての肥やしですか？

渕　まぁ、そうだよな。それにノースキャロライナってアリーナにキレイな女の子がいっぱいいたんだよ。だってリック・フレアーがいて、ブリスコ兄弟がいて、リッキー・スティムボートがいて、ジミー・スヌーカもたまに来て、ファンクスや、若くてハンサムなトップレスラーがたくさんいたからな。そのとき俺は大仁田と別れて一人だったから前座の1試合目か2試合目だったけど、結構毎日試合組まれてたしな。

ジミー　それで渕さんアメリカじゃヒールだったんだよ。でも、こっちは日本の雑誌に載せるための写真撮りに来たからさ、「渕さん、ヒールの絵もいいですけど、なんか大技やってくださいよ」ってお願いしたんだよね。

渕　ハハハハ、そうだそうだ。

ジミー　で、渕さんが「何やったらいいんだ？」って言うから、「バッグドロップごっちゃんです」ってリクエストしたら、ドリー（ファンクJr.）に「ヒールでそんな技使ったら、怒られるよ」って言うんだよね。ドリーがブッカー（マッチメイカー）だったから。

――当時のプロレスでは、そういう見栄えのする大技はベビーフェースが使うものだったわけですね。

渕　コスチュームも向こうでは〝田子作タイツ〟でやってたんだけど、日本向けの写真だって言うから、そのときだけショートタイツ履いてな（笑）。

――一日限定の正統派で（笑）。

ジミー　で、渕さんがバックドロップ決めたらさ、ドリーは怒るどころか褒めてくれたんだよね。

渕　普通だったらヒールが勝手に大技なんか使ったら干されてもおかしくないんだけど、日本の選手は受け身とれるから重宝されたんだろうな。まぁ、ヒールって言っても、下の方のヒールだったたから多めに見てくれたのかもしれないけど。

ジミー　でも渕さん、ノースキャロライナでは下のほうだったけど、テネシーでは上取ったんですよね。

渕　大仁田とタッグだったからな。テネシー、フロリダ、プエルトリコと回ったけど、一番はテネシーだな。

ジミー　あのころの写真見ると顔が恐そうですよね。

渕　ヒゲ生やしてな、やっぱり向こうでヒールやると顔つき変わってくるよ。いつ興奮したファンに刺されてもおかしくない中でやってるんだから。

――やっぱりそんな状態だったんですか。

渕　そう。試合が終わって控室に戻るときが危ないんだけど、走って戻って足でも引っ掛けられたら、それこそ袋だたきにされちゃうからな。だから、ゆっくり客を睨みつけながら控室に帰ったよ。

ジミー　だけどそういうのいいよね。お客がヒールを「ぶっ殺してやる」と思うようなプロレスって緊張感があるからね。

――実際にファンに襲われたこともあるんですか？

渕　1回切られたことあるよ。プエルトリコにいたころ、たまにトリニダート・トバコに遠征したんだけど、そこにレイ・ゴールデン・アポロンっていうチャンピオンがいたんだよ。国際プロレスに来て頭突きが得意なレスラーなんだけど、そいつがトリニダート・トバコの英雄なんだよな。そのアポロンと2日続けてシングルマッチをやることになったんだけど、しょっぱなにメチャクチャやって反則負けになったら客が凄いヒートしちゃって、試合終わったら、みんなナイフかなんか持ってリング下で待ってるんだよ（笑）。

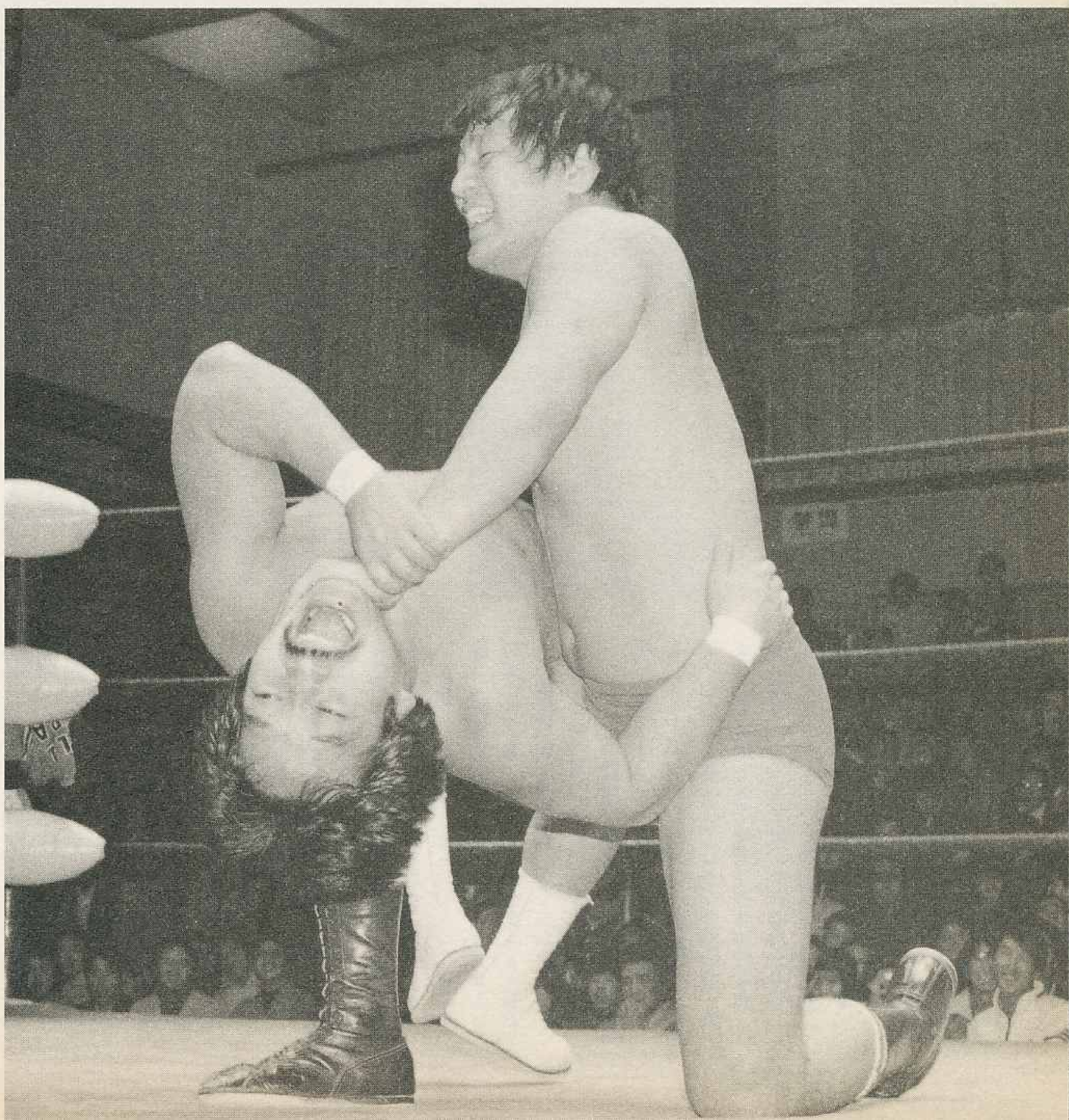
――それは怖いですねぇ！

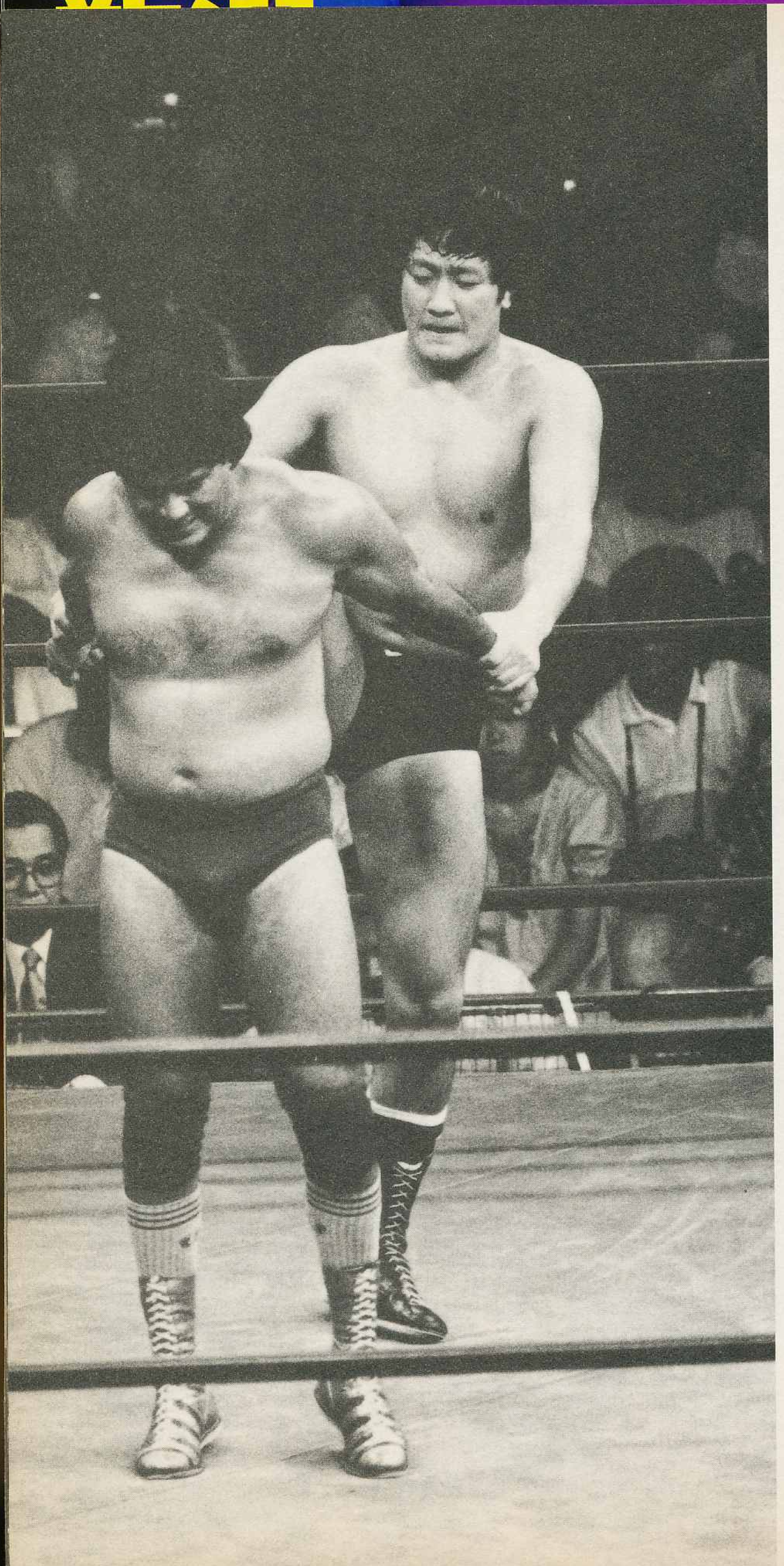
渕　でも、たまたま俺がやられたのは、缶詰切った蓋でスパーンとやられてね、首と

肩の間がザックリ切られて血が顔まで吹き出してたんだよ。
——うわぁ〜、思いっきり動脈いっちゃってるんじゃないですか？
渕　でも、俺がよけたから肩になっただけで、そのままやられてたら首切られてたからな。で、血だらけになりながら控室戻ったら、仲間のヒール連中が医務室に連れて行ってくれたんだけど、そのドクターが爪が汚いようなドクターでね（苦笑）。
ジミー　ヤブなんてもんじゃないね（笑）。
渕　それで「縫わなきゃダメだ」って言うんだけど、明日また試合だからテープ貼ってバタフライっていうホチキスみたいなヤツで傷塞いでね。夜なんか痛くて眠れないわけよ。いちおうビクター・ジョビカっていうプロモーターに「試合休めないか」って聞いてみたんだけど「やらなきゃダメだ」って言うしな。
——せっかく初日でヒート買ったんだから出ろと（笑）。
渕　しょうがないから一応やったけど、5、6分で終わらせてやったよ。頭突きくらって、向こうは「カモン、カモン」って言ってるんだけど、「立ってたまるか、さっさとフォールしろ」って言ってね（笑）。もう傷が開いてたから、「ここで死んでたまるか」ってね。
——いやぁ、でも当時はホント文字通り〝海外武者修行〟だったんですね。
ジミー　当時の海外は危険だったよね。裸足で歩いてる前に画鋲撒いたり、ビニール袋におしっこ入れてブン投げたりさ、客が熱かったよね。
渕　テネシーでは車を3回ぐらいやられたな。タイヤパンクさせられたり、ナンバープレート取られたり。
ジミー　ホント命がけだよ。
渕　でも、それも含めて楽しんでたよな。若さだな（笑）。
ジミー　興行が終わっても控室の前で客がヒールを帰らせないって待ってたりすることもあるからね。
渕　そういう時はベビーフェースが守ってくれたりしたけどな。テネシーだったらジェリー・ローラーがそういうファンの前に出て行って「俺が倒してやるから」って言ってる隙に会場の裏口から出たりとか。そういう風なレスラー同士の仁義っていうのはあったな。あとは、客として来てた木こりが挑戦してきたりとかあったよ（笑）。
——木こりがシュートを挑んできますか！
渕　当時、向こうでは結構そういうのあったんだよ。フットボーラーあがりがプロレスラーに挑戦してきたりとかな。
——道場破りじゃなくて、直接会場で挑戦してくるわけですね。
ジミー　挑戦と言えば俺が覚えてるのは、ファン時代に全日本の合宿所に遊びに行ったとき、鶴田さんに大学の空手部かなんかが挑戦してきて、渕さんが「俺が行ってやる」って砧公園かなんかに行ったら、向こうは来なかったっていうことありましたよね。
渕　ああ、あったな。それとか新宿の飲み屋で俺と薗田が飲んでるとき、そんときも大学の空手部ってヤツが、こっちに聞こえるようにプロレスをバカにしたこと言ってるヤツがいたんだよ。そしたら、薗田が「テメー、なんだと」って絡んじゃってさ、こっちも歌舞伎町のディスコでナンパしようとした女の子にフラれたあとだからムシャクシャしてたから、「じゃあ、やるか」「表へ出ろ」って話になっちゃってね（笑）。
——フラれた腹いせに大学生とケンカしちゃいましたか（笑）。
渕　それでサシでやることになったんだけど、向こうは空手の型なのか「はぁ〜〜〜〜」とか大げさに構えてやってんだよ。
——当時らしい、極真の映画やカンフー映画の見過ぎな空手家なんですね（笑）。
渕　それでこっちは先手必勝だと思って、「はぁ〜〜〜〜」とかやってる隙に顔面をバコーンと殴ったら、真後ろに倒れてアスファルトに頭から行っちゃったんだよ。受け身取らないんだよな。
——当たり前ですよ！（笑）。レスラーじゃないんだから。
渕　それでピクリとも動かないから「これはヤバい」と思ってね。オロオロしてたら飲み屋のマスターが「救急車呼んでおくから、渕さんはプロなんだからいなくなった方がいいよ」って言われて、立ち去ったんだけど、死ぬんじゃないかと思って気が気じゃなくてね。「全日本プロレスのレスラー傷害致死事件」とか新聞に出たらどうしようと思って、これは表沙汰になる前に馬場さんに言った方がいいなと思って、翌日事務所に行ったんだよ。一緒にいた薗田は酔っぱらって何にも覚えてないしさ。
——薗田さんがきっかけでケンカになったのに（笑）。
渕　それで馬場さんに「空手家とケンカになりまして……」って説明したんだけど、「相手はプロなのか？」「いや、学生らしいです」って言ったら「馬鹿野郎！」って怒られてね（苦笑）。元子さんとか原軍治さんに「お前は全日本のレスラーなんだから、何かあったら、お前じゃなくて馬場さんに来るんだぞ」「因縁つけられても相手にするな。それが基本じゃないか。逃げろ！」とか言われてね。もっともだよな、俺だって今の若いヤツに同じこと言うだろ

ダニー・ホッジは俺のことを「ジュニア」って呼んでたんだよ

LL JAPAN
WRESTLIMG


新人時代は大仁田厚、ハル薗田と共に“九州若手三羽ガラス”と呼ばれたフッチー。前座戦線でオーソドックスなプロレスの基礎をみっちり学び、その後、3年間アメリカを転戦し、本場のプロレスをたっぷりと身につけた職人なのだ。



うからな。でも、鶴田さんだけは違ったんだよ。「へ〜、渕くん凄いな〜」って（笑）。

――ダハハハハ！　一人だけ呑気なわけですね（笑）。

渕　「大丈夫大丈夫。空手やってるんだから死んでないよ」とか言ってね。で、翌日マスターのところに謝りに行ったら、「あのあと気がついて、たんこぶ出来たぐらいで大丈夫でしたよ」って言われてね。ホント心底ほっとしたよ。だからそれがプロレスラーになって最初で最後のストリートファイトだな。「もう絶対にやらない」って心に決めたからね。だってレスラーは負けたら恥かくし、勝ったら問題になるんだからな。

ジミー　勝っても全然嬉しくないよね。

渕　人殺したんじゃないかって心配で眠れないし、みんなに怒られるし。あのときは、レスラーになって3年ぐらいで、ケンカやっても負けないって妙な自信があったからやっちゃったんだけど、人を殴るのはリング上だけで十分だよ（笑）。

――そういえば、渕さんはゴッチ道場に行ってたこともあるんですよね？

渕　おう。全日本で俺だけだよ、カール・ゴッチさんのところで練習したのは。

――どういったルートでゴッチさんのところに行くようになったんですか？

渕　ルートも何も海外修行中にフロリダに転戦したとき、プロモーターのオフィスに行ったらゴッチさんがいてさ、「ユーはババのボーイか？」って聞かれて「はい」って答えたら、よくしゃべるんだ、あのオッサンが。

――放っておくと何時間でもしゃべってるらしいですよね（笑）。

渕　それでこっちも話合わせて「ゴッチ流のトレーニングはベリー・インタレスティング。ゼヒ体験してみたい」とか言っちゃったんだよ。そしたら早速翌朝ホテルの部屋に電話かかってきて、受話器取ったらやっぱりゴッチのおっさんなんだよな。

――「なんで練習に来ないんだ」と（笑）。

渕　そう。こっちはテネシーからロングドライブでフロリダまで来たばっかりなのにさ。「すぐに準備して10時までに来い」とか言って、しょうがないから行ったんだけど、着いたのが10時半だったんだよ。そしたら怒っちゃってさ、「なんだお前は！　日本人とドイツ人は時間を守るのが当たり前だ！」とか言われてな。

ジミー　ジャパニーズとジャーマニーの国民性にこだわるんだよね（笑）。

渕　厳しいなぁ、これがゴッチイズムかと思いながらやったんだけど、それから毎朝電話かかってきたんだよ。こっちは夜試合やってジャクソンビルからドライブして帰ってくるのがだいたい深夜1〜2時で寝るのは3時か4時だぜ。それなのに、毎朝9時に電話かかってくるんだよ。

ジミー　おかまいなしなんだ（笑）。

渕　それでコシティ振り回したり、ブリッジとかロープ登りとかやらされるんだけど、あんまりできねぇんだよ。そりゃそう

前田日明&上井文彦『WRESTLE-1』

だよな、疲れてるし、寝不足なんだから。そしたらあのオッサン「ニュージャパンのボーイはできるのに、ババのボーイはダメだ。全然スタミナない」とか言うんだよ。

――ダハハハ！　寝不足のままやらせといて（笑）。

渕　そうだよ！　藤波だの木戸だの藤原だのはゴッチさんのところで練習するだけで、夜は試合やらなかったからできるのであって、こっちは試合やって睡眠時間3～4時間なんだから！　あのオッサン、全然そういうこと頭にないんだよ。ホンマに1ヶ月で7キロ体重減ったよ。そしたら「オ～、グッド・シェイプ」だって（笑）。

――ある意味、ゴッチ道場でもっとも過酷なトレーニングを積んだのは渕さんだったんですね（笑）。

渕　まぁ、確かにおかげでスタミナはついたけどな（笑）。でも、ゴッチのおっさんも日本人好きで、話好きで、面白いよ。いい人だったな。「誰々が強かった」とかそういう話が好きでね。

ジミー　ビリー・ジョイス（"蛇の穴"ビリー・ライレージムの一番弟子。国際プロレスに来日）が強かったって言いますよね。

渕　そう。いろんなヨーロッパの選手の名前が出てきたよ。アメリカだったらジョージ・ゴーディエンコだとかダニー・ホッジとかルー・テーズだとかね。「ビル・ミラーは俺が教えたんだ」とか言ってたよ。「あいつの体力はドン・レオ・ジョナサン以上だ」とか「ジン・キニスキーは本当に喧嘩が強かった」とかね。

ジミー　そういう話っていいよね。

渕　意外なことにバディ・ロジャースなんかのことも、ちゃんと評価してるんだよな。「あいつはいいチャンピオンだ」って言ってたんで、びっくりしたよ。

――へぇ～、ショーマンの元祖みたいな人だと思ってましたけど。

渕　あとはバーン・ガニア、ディック・ハットンのことも評価してたな。でも、一番はやっぱりダニー・ホッジだろうな。ホッジが現役で最後に来日したのは全日本プロレスなんだよ。そしたら（マシオ）駒さんがホッジさん本人に俺のこと「"ダニー・ホッジJr."だ」とか紹介してくれてね。だからいつも俺はホッジのこと「ダニー」って呼んで、ホッジは俺のこと「ジュニア」って呼んでたんだよ。

――へぇ～、ホッジが「息子」と呼ぶ男なんですね（笑）。

渕　それでホッジと一緒に来日したのがボブ・ループとボブ・バックランド。ボブ・ループなんかメキシコ五輪出てるんだよ。

ジミー　二人ともアマレスでいいとこいったんですよね。

渕　その二人がホッジの前じゃ直立不動なんだよ。ホッジはしかもボクシングでも名選手だろ？

ジミー　ゴールデン・グローブですよね。

渕　ダニー・ホッジは、熊と闘って熊が逃げたって言うからな。

――熊も逃げ出す男！　ウィリー・ウィリアムスもビックリですね（笑）。

渕　ダニー・ホッジはいい人だった（しみじみと）。身体は細いのに握力が凄くてね。ビル・ロビンソンも「ホッジは強い」って言ってたしね。でも、ゴッチのおっさんだけは、ホッジを「強い」と言わずに「いい選手だ」って言うんだよな。やっぱり、当時はゴッチとホッジは両巨頭みたいな感じだったし、意識してた部分も大きかったんだろうな。

ジミー　ルー・テーズもホッジには一目置いてたんですよね。

渕　ホッジはアマレスもプロレスもボクシングも強いのに、紳士だから「俺が一番強い」みたいなことは絶対言わない人だったからね。だから馬場さんが呼んだんだよ。それでホッジと全日本で最初にやったのが鶴田さんで、30分時間切れだったんだよ。寝技ばっかりでね。試合後、鶴田さんが「ホッジは強いなぁ」って言ってたのを覚えてるよ。バックを取られたら、クラッチが外せなかったらしいからね。20代の鶴田さんが、引退間際のホッジのことをそう言うんだからね。ホッジのほうも「ジャンボは素晴らしい」って言ってたよ。

ジミー　プロレスの中でそういう駆け引きというか、強さを出し合うのって、とても面白いね。

鶴田さんは「もう外人とはやりたくないな」「毎日、長州とやりたい」とか言ってたよ（笑）

渕　それでさ、「ホッジは強い」って言ってる鶴田さんに向かって馬場さんがさ、「俺は全盛期のホッジとやってるんだぞ」って言ってニヤッと笑ってたけどね。

ジミー　いい話ですね！

渕　馬場＆猪木vsホッジ＆シュナイダーとかあったからね。だから実は馬場さんもテクニシャン好きなんだよな。ホッジとかパット・オコーナーとか。

ジミー　パット・オコーナーはすんごいいい仕事してましたよね。

渕　あとはホースト・ホフマン、ビル・ロビンソン、コシロ・バジリ（アイアン・シーク）とか呼んでたからね。結構好きだったんだよ。馬場さんも若いころにルー・テーズとやったりしてるからね。だから輪島さんが全日本に入ったとき、パット・オコーナーのところに行かせたりね。

ジミー　ホント全日本は本格派呼んでたんだよな～。

渕　だからいまでも全日本は外国人レスラー呼んでるんだよ。ジャイアント・バーナード、ジャマール、ブキャナン、みんないいレスラーだよ。

――いま、あれだけ外人レスラー呼ぶのは贅沢ですよね。

渕　だからお客さんいっぱい来てもらわないと（笑）。いま一番外人大事にしてるのは全日本だよ。やっぱり2メートル近くあるレスラーを見るだけでも、お金を出す価値があるじゃない。

――「デカくて千円！」って感じで（笑）。

ジミー　じゃあ、全日本プロレスは外人王国復活ですね。

渕　昔は"外人王国"って、あんまりいい意味では言われなかったけど、いまはいい意味でそうなりつつあるよな。

ジミー　いや～、ホントに夢があったな～。そういえば渕さん、このあいだ川田選手がフリーになって、全日本プロレスの最後の砦になったみたいですけど。

渕　まぁ、確かに俺しか昔の全日本を知ってるレスラーは残ってないな。自分が望んだことでもなんでもないんだけど、ただ面倒くさいことが嫌いなのに、いろいろ面倒臭いこともやってきたよな。

ジミー　別に渕さんは三沢社長と馬が合わないわけじゃないですよね？

渕　そうじゃないよ。彼らが抜けることは知ってたけど、元子さんとの間に別になにもない選手までみんな行ったのには驚いたけどな。でも、俺とか京平ちゃんは馬場さんや元子さんとの関係があるからさ、ちょっと行けなかったよな。

ジミー　確かに馬場さんの車に京平ちゃんが運転手で、馬場さんと元子さんと渕さんがいて、僕もそこに一緒に乗せてもらったこともありますからね。

ジミー　だから馬場さんの3回忌が終わって、元子さんが見事な引き際で武藤社長に引き継いで、そして馬場さんの7回忌を俺と京平ちゃんと川田でできて、ほっとできた部分があるよな。

――しかも、うまい具合にいま全日本はソフトの面で凄く充実してますよね。

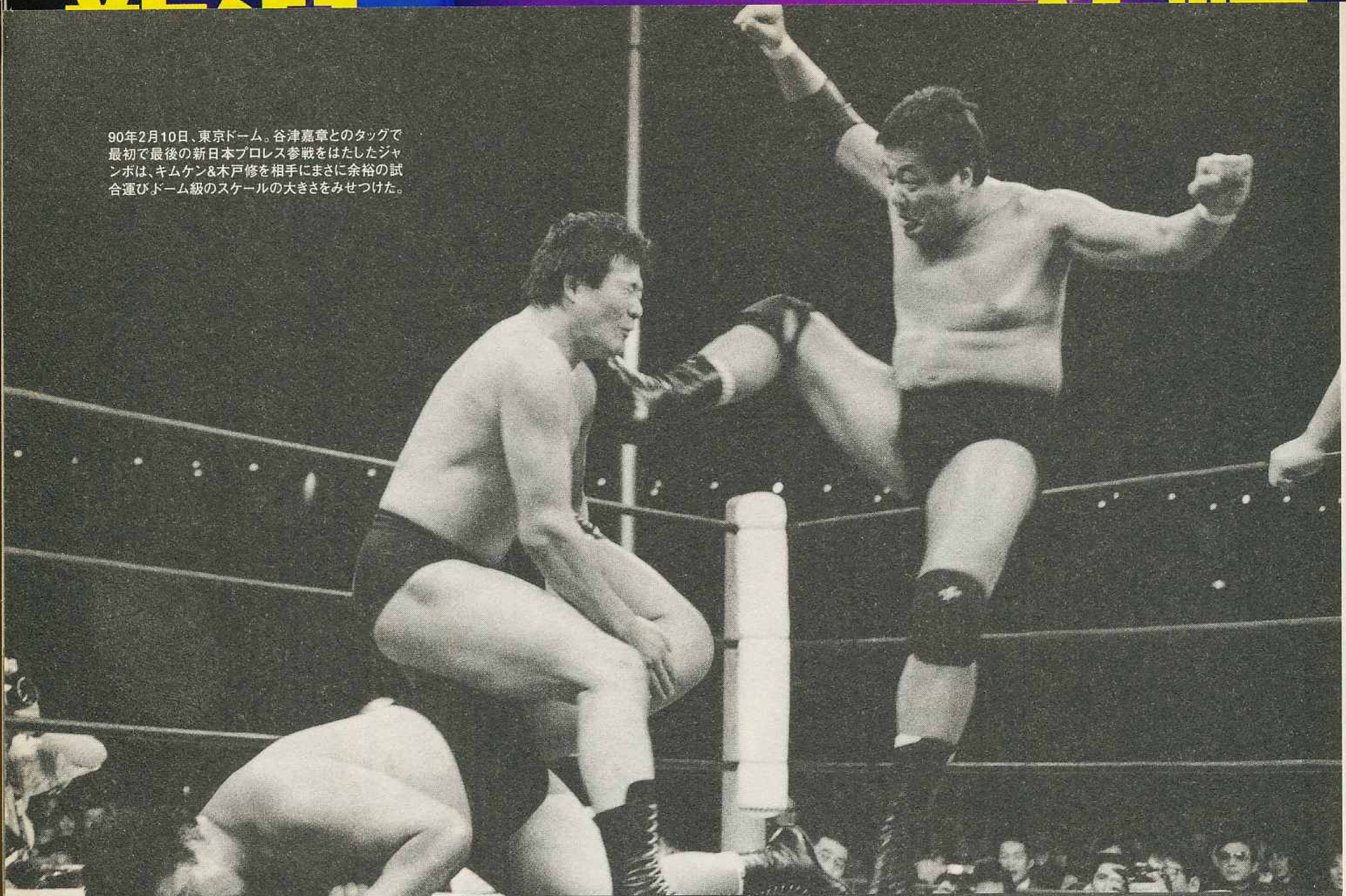
渕　だからプロレスっていうのはライブで見て面白いもんなんだよ。『PRIDE』とかK-1はテレビで見て面白いものじゃないかな。あれ会場で見たらわからない部分がたくさんあるだろ。でも、プロレスはテレビで見ても面白いんだけど、会場でのお客さん自身の楽しみ方があるから。いまウチはそのプロレスの楽しさを提供できてると思ってるから。そりゃいろいろあったよ。一時は「馬場さんの当時とは違う」とか言われたりとかさ。

ジミー　そりゃ時代が違うんだからね。

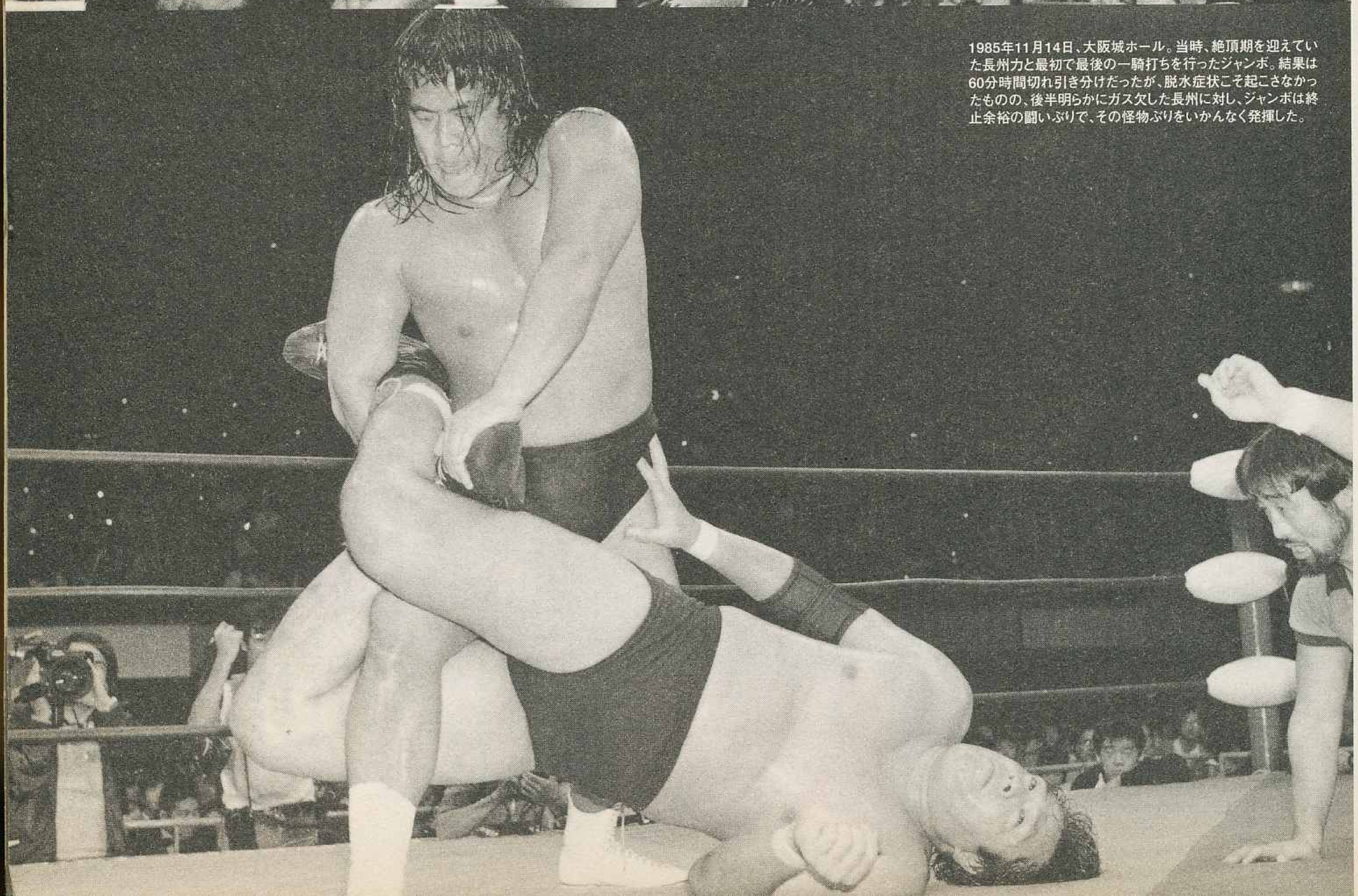
渕　名前は「全日本プロレス」だけど、馬場さんと鶴田さんがいないんだから、違って当たり前なんだよ。そんなこと言うなら、「馬場さんと鶴田さんを生き返らせてくれ」って思うよ。もう一回ジャック・ブリスコをチャンピオンにさせるぞとかね（笑）。だから俺は武藤社長に「どうしたらいいですか？」って聞かれても、「社長の自由にやったらいいんだよ」って答えてきたからね。

ジミー　それでやっといい感じになってきたんだって？

――そうですね。ジミーさんがいまの全日本・後楽園大会とか行ったら、たぶん絶賛すると思いますよ。



90年2月10日、東京ドーム。谷津嘉章とのタッグで最初で最後の新日本プロレス参戦をはたしたジャンボは、キムケン&木戸修を相手にまさに余裕の試合運びよドーム級のスケールの大きさをみせつけた。



1985年11月14日、大阪城ホール。当時、絶頂期を迎えていた長州力と最初で最後の一騎打ちを行ったジャンボ。結果は60分時間切れ引き分けだったが、脱水症状こそ起こさなかったものの、後半明らかにガス欠した長州に対し、ジャンボは終止余裕の闘いぶりで、その怪物ぶりをいかんなく発揮した。

ジミー　そういう声、最近やたら聞くよ。

渕　ありがたいことに俺に対する声援も暖かいんだよ。もう昔の面影はないラクな試合してるんだけど。馬場さんの7回忌でメインに出て、1年分働いちゃったから(笑)。

ジミー　ダハハハハ。

渕　あれ以来、腰が痛いからなるべく受け身取らないようにしてるんだよ（笑）。それでもファンは応援してくれるから、ホントにありがたいよな。

ジミー　でも、小島選手は三冠チャンピオンになるまで時間がかかりましたね。もっと早くなるかと思ったんだけど。

渕　確かにそうだけれども、時間がかかったからこそ、いまお客さんに支持されてる部分もあるからな。

ジミー　タメがあったのが良かったんですね。即席でチャンピオン作ってもファンの支持は得られないから。

渕　ジミーも知ってるとおり、あの鶴田さんだって、デビュー直後にバーッと上がっていったけど、人気的にはそこから上になかなか行けなかったからな。

ジミー　次のステップに行けなかったんですよね。

渕　前座から上がって来た新日本の藤波選手あたりに人気では押されてたからね。「ジャンボ鶴田はエリートだから」って日本人特有の苦労した人間の方を応援する気質もあったし。だから「ジャンボ鶴田は強い」っていうイメージが定着したのは天龍さんとやり始めてからだし、ホントに人気が出たのは三沢とか川田を相手にしてからだからね。鶴田さんは鶴田さんで大変だったと思うよ。いくらＮＷＡに挑戦しようがＡＷＡのベルトを取ろうが、人気面では頭打ちだったんだから。

――ジャパン・プロレスが来たときも、全日本のリングなのに鶴田さんより長州さんのほうが人気ありましたからね。



ふち・まさのぶ■1954年1月14日、福岡県北九州市出身。74年にデビュー以来、全日本プロレス一筋31年の大ベテラン。90年代に不動の世界ジュニア王者として一時代を築き、50代になった現在もフッチー人気は健在だが、マット界の独身王の座もいまだ譲る気配はない。六本木の帝王としても有名。183cm、105kg。

じみー・すずき■本名・鈴木清隆。1959年12月30日、東京都杉並区出身。世界を股にかけるプロレスリング・ジャーナリスト。学生時代は2つのファンクラブ会長をつとめ、当時からジャンボ鶴田らと親交が深い。87年に米国移住。現在は本誌ほか各プロレス誌で活躍中。ブログも大好評。
http://blog.livedoor.jp/jimmysuzuki/

渕　でも、60分フルタイムの伝説の一戦で、ファンも長州力も「ジャンボ鶴田は凄いな」ってわかったと思うけどね。

ジミー　俺はファンの目で見て、長州力にはあんまり魅力を感じなかったな。長州さんはドメスティックだったからね、やっぱりインターナショナルなジャンボ鶴田なんだよ。世界を相手にできる魅力だよ。

渕　それなのに、当時は新日本のほうが練習もよくやってるっていうイメージもあったしね。

ジミー　新間さんが「ウチには腹の出たレスラーは一人もいません」とかいつも言ってたよね（笑）。

渕　でも、試合やったらわかるんだから。俺たちだって言い返したかったけど、馬場さんが押さえてたんだよ。「言い返したら同じランクに見られるぞ」って。実際、そのあとジャパンプロレスが全日本に来て、試合で向こうはガンガン攻めてくるんだけど、こっちは受けがしっかりしてるから、時間が経つと向こうは息切れしてたしね。鶴田さんなんかずっとスーパーヘビー級の外人レスラーとやってきたから、日本人とやると余裕なんだよね。だって全盛期のハンセン、ブロディと毎日のようにやってたんだから。その前はデビュー当時からボボ・ブラジル、ビル・ロビンソンとかとやってきてるからね。

ジミー　おっきい人とやると疲れるから、逆に小さな人とやると余裕なんだよね。

渕　だから当時、鶴田さん本人からすると長州力とか日本人相手ばっかりでラクだったのに、外人とやるよりお客が入ってたからさ、「もう、外人とはやりたくないな」「毎日、長州とやりたい」とか言ってたからね（笑）。

――ダハハハ！　長州相手に毎日楽して儲けようと（笑）。

渕　逆に長州は長州で「またジャンボかよ、はぁ……」って感じだったしな（笑）。「今日は源ちゃんだけか良かった。ジャンボと源ちゃんいっぺんに来られたら身体がもたない」って言ってたって聞いたことあるから。

――それでジャンボ、天龍以外の日は、ハンセンとかゴディなんだから、長州さんもたまったもんじゃないですよね（笑）。

ジミー　やっぱり馬場さんがずっと言ってきたように、プロレスでは身体が大きい人が強いんだよ。

渕　この間のＫ－１のチェ・ホンマンなんかも、身体の大きさと運動神経だけで優勝しちゃうんだからな。あのチェ・ホンマンは馬場さんを思い出したよ。表情とか馬場さんにソックリだもんな。

ジミー　でも、その手のおっきい人って、みんな馬場さんの顔してんじゃん（笑）。

渕　いや、顔じゃなくて雰囲気だよ。途中でニヤリと笑うとことかさ、呼吸するときのアレとかさ。ちょっと変に余裕があることかな。

――あれ見ると、馬場さんの若いころだったら、Ｋ－１アジアＧＰで優勝できそうだなとか、思いますよね（笑）。

渕　だから馬場さんは強かったんだよ。

ジミー　そういうこと！

――馬場さんの強さをチェ・ホンマンが証明したっていうのも凄いですけどね（笑）。では、「やっぱり全日本は強かった」ということで、今日はお開きにさせていただきます。ありがとうございました！

【05年3月25日
／九段下全日本プロレス事務所にて収録】



5.10
新潟
NIIGATA

5.14&15
札幌
SAPPORO

高田総統 全国洗脳漫遊記

『ハッスル』全国ツアー2005

構成／ジャン斉藤
designed by matsu（TwoThree）

7.13
福岡
FUKUOKA

7.15
大阪
OSAKA

5.12新潟→7.15大阪 『ハッスル』の今後を読み解く10POINT

001 多忙な髙田総統はわざわざ田舎に足を運ぶのか？



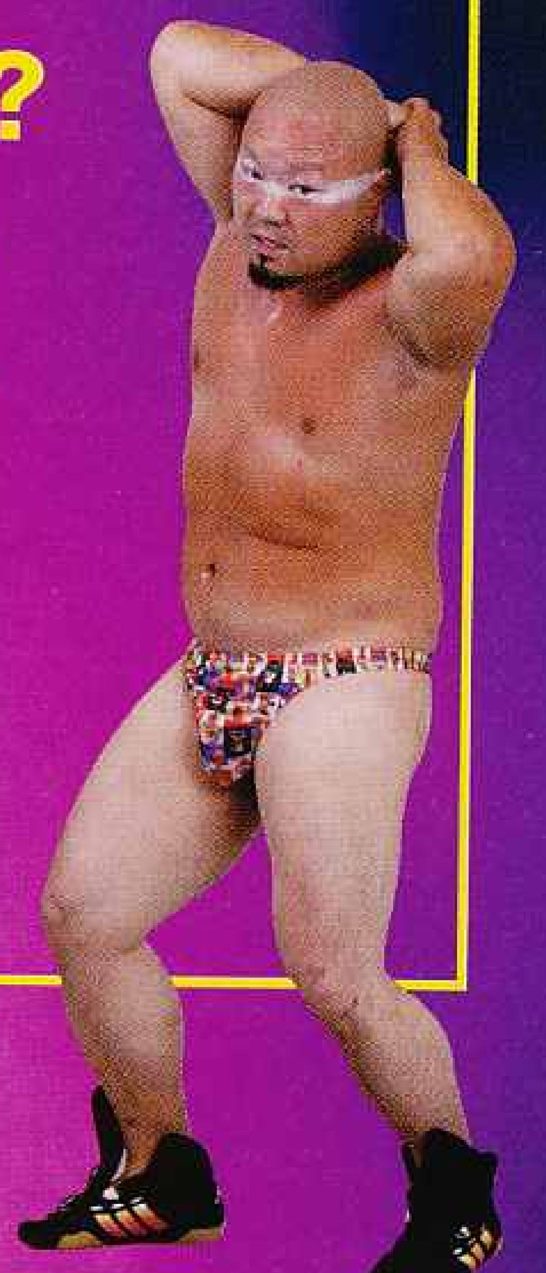
今年に入ってから『週刊チャンピオン』から『フロムA』までジャンルを問わずあらゆる一般誌に登場してその洗脳活動に力を入れている髙田総統。5月10日新潟より開始される『ハッスル』全国ツアーもモンスター軍にとっては格好の躍進機会になる。陣頭指揮を執るべく多忙な髙田総統もモンスターリムジンで乗り込んでわざわざ田舎にやってきてくださるとのこと。プロレス界の巨人・ジャイアント馬場の出身地で知られる“プロレスの故郷”新潟で総統がどんな魔言を吐いてくれるかいまから楽しみだ!

002 ハッスル仮面ピンクの正体は一体誰なのか？



『ハッスル8』でハッスル・レンジャーを結成したハッスル仮面たちは、各惑星の平和を各々が守っているため、なかなか5人が集結する機会には恵まれない。この写真撮影のときに不在だったのはピンク。その正体は臼杵PRという説が根強い。二等兵がその正体を暴くためマスカラ・コントラ・カベジェラ（髪切り・覆面はぎマッチ）を望んでいるらしいが……。

003 窮地のハッスル軍に新メンバーは加入するのか？



橋本真也は手術した右肩のリハビリにより長期欠場中、長州力は『ハッスル』出場の音沙汰がなく、プロレス修行のために小川直也は姿をくらまし、窮地に追い込まれているハッスル軍。しかし、中村カントクがその危機的状況を打破すべく、新メンバーの投入や秘策を思案しながら水商売風の女性と店外デートをしているところをキャッチ。以前、ジョーサンがハッスル軍入りを志願したが「その可能性は薄い」。ERICAさんの投入は?「あれ、モンスターでしょ」じゃあ誰が出るんです?「秘密であります。自分はビックマウスを叩きません!」と胸を張ってホテル街に姿を消した!

004 ERICAさんとインリン様のどっちのM字ビターンが美しいのか？



『ハッスル8』で実施されたM字ビターンコンテストで履歴書を詐称してエントリーしたERICAさん（24歳・家事手伝い）。ヤドカリの制止を聞かずに四股……もとい。M字ビターンを披露したがインリン様は「美しくない!!」ともっともな指摘。怒りのERICAさんは“M字ビターン争奪・観客ジャッジシステム”マッチで復讐しようと企んでいる噂もある。ゴチャゴチャ言わんと、どっちが美しいか決めればいいんや! え?　すでに決まっているって?

005 “暴力大将”坂田亘は本当にイヤな奴なのか？



これはすべて事実である。ハッスル軍・モンスター軍を問わず誰でもパシリ扱いにし、突発的に暴力を振るうのは日常茶飯事。ついに被害者が立ち上がり『坂田亘・被害者の会』が結成されてしまった坂田。あの石狩太一も坂田につま先がとんがったブーツで思い切り蹴っ飛ばされ（腫れが2週間ひかず）、火がついたタバコを投げつけられ、「オマエ、死ね!」と暴言を吐かれる。その行為にとくに意味がないことから坂田の極悪振りがよくわかるのだ。

006 やっぱりNEWモンスターは続々登場するのか？



NEWモンスターは続々登場するのか!?　髙田総統の「ビターン!」を受け、冗談としか思えないリングネームとその特性を最大限に引き出されたモンスターたち。これまでは世界各国からモンスターが発掘されてきたが、今後は地方ツアーを展開することで静岡大会に登場した「モンスターT」のようなご当地モンスターや、日本の風土が生んだモンスター、日本生まれの妖怪たちが次々と登場することになるだろう。まずは新潟は……?

008

7月は福岡＆大阪へ上陸!!
ハッスル・マニアの大きなうねりが起こるのか？



九州＆大阪初上陸! 7月13日『ハッスル10』福岡国際センター大会、7月15日『ハッスル11』大阪府立体育館大会決定!! そして今秋首都圏大会場で“ハッスル夢の祭典”『ハッスル・マニア』の開催も決定!! 2005年はこの秋の『ハッスル・マニア』が『ハッスル』最大のハイライトとなり、ハッスル軍vsモンスター軍の抗争劇はクライマックスを迎えることになるだろう!!

007

5月シリーズ目前!! 新潟＆北海道に『ハッスル』は浸透しているのか？



『ハッスル』のお膝元・名古屋や、東京や横浜の首都圏を離れて初開催される5・10『ハッスル9』新潟、そして5・14＆15『ハッスル・ハウスvol.7＆8』。“掛け声マッチ”などを含めてどれくらい『ハッスル』が浸透しているか試される大会でもある。北海道出身の石狩は「ボクがいるんだから札幌は大盛りあがりですよ～!」とのたまうが、まるで信用度はないことをここで告げておく。

新潟上陸! ハッスル9

【会場】新潟市体育館　【日時】5月10日開演18:30（予定）
【チケット】ハッスルVIP席¥10,000／アリーナ席S席¥7,000／2階指定席席¥5,000／2階自由席¥3,000

札幌2連戦!! 『ハッスル・ハウスvol.6&7』

【会場】札幌スピカ　【日時】5月14日18:00（予定）／15日15:00（予定）
【チケット】ハッスルVIP席¥10,000／アリーナ席S席¥7,000／スタンドA席¥5,000／スタンドB席¥3,000
【お問い合わせ】ドリームステージエンターテインメント　TEL:03-5464-1531

009

独占スクープ! 髙田モンスター軍が不気味な沈黙を保つ中、超ド級の衝撃写真が流出! 髙田総統＝髙田本部長の同一人物疑惑に終止符!



4月某日、本誌ハッスル取材班は、あるルートを通じてとんでもない衝撃写真を入手した。流出した写真は親友同士である高田延彦PRIDE統括本部長と髙田モンスター軍・髙田総統が肩を組んでいるというものだった! かねてから同一人物説がささやかれ、常に疑惑の目でさらされてきた両者。しかし、この歴史的な2ショット写真で疑惑に終止符を打つことに成功した。しかも、この写真をよく見ると髙田本部長は髙田総統のトレードマークである葉巻をくわえているではないか! おそらくは総統が勧めたものだと思うが、二人の仲の良さが伝わってくる。思わず「世の中にはハッスルが足りない」とキャッチコピーを打ちたくなる写真だが、ハッスルやPRIDEといった枠を超え男と男が友情で結ばれているじつに美しい写真だ。

髙田総統と流出といえば、ハッスル2後の某週刊誌に掲載されたハッスル台本流出事件が思い出される。あの時の台本の出所はいまだ明らかになっていないが、日本のプロレス界壊滅を目論む髙田総統が流出させたのではないか？ という疑惑は根強く残っている。そう考えると今回の写真流出も髙田総統が何らかの意図によって仕掛けたのではないかと邪推したくなる。

ハッスル8～ハッスル・ハウスvol.6の後、ハッスル軍では小川が「キャプテン辞退」を再三アピールし、その他の選手が小川にキャプテン復帰を呼びかけるというやりとりが続いているが、その間、髙田モンスター軍は不気味な沈黙を続けている。この間に髙田モンスター軍は水面下で何を行っていたのだろうか？

この流出写真に近い筋からの情報によれば、この写真は**髙田モンスター軍が丸ごと乗っ取った某マガジン**に掲載されるという。他にも**インリン様初の撮りおろしグラビア**や**超大物ミュージシャンと髙田総統の対談**や**髙田総統の洗脳CD**などが掲載されているという。いままでも数々のプロレス団体を水面下の破壊工作で崩壊に導いてきた髙田モンスター軍が、日本の雑誌業界を根こそぎブチ壊すつもりだとしたら非常に由々しき事態だ。本誌が取次業者から調査を進めたところ、エンターブレインより4月28日（仏滅）に発売されることが判明した。一体どのような内容になるのか？

010

小川直也はどこへ行く？

フーテンのオー、改めて〝キャプテン・ハッスル〟返上宣言!!





4月7日、ハッスル軍が決起花見集会を開き、修行中の小川から届いた手紙を報道陣に公開。一致団結して小川直也の留守を守るとコメントしたが、泥酔していた石狩は大暴言を吐きまくる!

♪奮闘努力の甲斐もなぁくぅ、今日も涙を〜！

映画『男はつらいよ』で、渥美清が演じる〝フーテンの寅さん〟は、毎作品ごとに登場する〝マドンナ〟たちとの恋に破れ東京を寂しく離れ全国放浪の旅に出ていったが、小川直也こと「フーテンのオー」もまた、プロレスファンとの恋が成就しないまま東京を去っていった。

それは3・18『ハッスル8』両国大会で「観客ジャッジシステム」が導入された川田利明との〝ハッスル軍キャプテン争奪マッチ〟――。オーちゃんは死闘の末、川田からフォールを奪い取ったが、最後は観客の支持を得られず勝負に敗れてしまったのだ。試合後、多くの観客たちが川田を支持するイエローのボードを挙げたとき、これまで『ハッスル』に心血を注いできたオーちゃんからすれば「それを挙げちゃあオシマイよ！」と寅さん風に心の中で絶叫して、東京を去る決意を固めたに違いない。「フォールされた以上キャプテンはできない」とキャプテンの座を辞退した川田の声も聞かずに、オーちゃんは翌日の「ハッスル・ハウスvol.6」静岡大会のリング上でも、キャプテンの座に留任することを頑なに拒否。それを最後に行方知らずなっていたが、4月8日、オーちゃんの安否を心配するハッスル軍に手紙で近況を知らせてきた。

「拝啓　ハッスル軍の皆様。両国大会以来、行方をくらましている私をお許しください。私、小川直也は、観客ジャッジシステムにより突きつけられた現実を真摯に受け止め、いま某所で修行を行っています。いまの私はキャプテン失格です。しかしキャプテンに足りないもの、いまの私に足りないものがおぼろげながら見えてきたところです。必ずやキャプテンにふさわしい男となって皆様の前に現れます。それまでは〝ハッスルK〟川田を中心として、一致団結してください」

〝いったいオーの野郎はどこで何をやってるのかねぇ？〟（寅屋のおいちゃん風）

――その後、力道山時代以来44年振りとなる、4・10靖国神社にて行われた「奉納プロレス」にゲスト出演するため（試合は無し）一時帰京したオーちゃんだったが、イベトが終わるや否や、「キャプテンの座にはこだわらない」とだけ言い残し、その日のうちに修行の旅へと踵を返した。

オーちゃんが不在の『ハッスル』は、5月10日新潟からスタートする全国ツアーの日程が次々に発表されているが、小川直也というハッスル軍の大きな柱を欠いたままでは、このツアーは〝悪の水戸黄門〟髙田総統の「全国洗脳漫遊記」と化してしまう恐れがある。

しかし。『ハッスル』スタート以降、これまでの〝暴走王〟キャラを大胆にも返上し、どこかマヌケであっても崇高なる思いを胸に抱き、率先して『ハッスル』の世界を構築しようとしてきたオーちゃんのことだ。通常の枠に収まる修行をするわけがない。

もしかしたら、オーちゃんグッズを露天売りしながら啖呵や口上の勉強し、髙田総統のマイクに対抗しようとしているという噂もあれば、川田戦で初披露した四の字固めに磨きをかけるためデストロイヤーに弟子入りしたという噂や、新必殺技開眼のためにモンゴル入りしているという噂まである。

暴走王でもない。キャプテン・ハッスルでもない。足かせが取れたときの小川直也ほど怖い存在はないが、5月――新たな小川直也はどのような形で我々の前に姿を現すのか？　逆に期待が膨らむというものだ。

さて、フーテンのオーが、プロレスファンという名の寅屋の軒先をウロウロするときまで、歌でも歌って待ちましょうか？　さん、はい！　♪今日も〜涙の陽が落ちる、陽が〜落〜ち〜る〜!!

（ジャン斉藤）

4·10ZERO-1 MAX靖国神社大会

奉納プロレスは“ZERO-ONE（プロレス）の原風景”だった









出店がいっぱい出ていた九段下・靖国神社の奥、相撲場で開催された、力道山以来44年ぶりの奉納プロレスは、お祭りムードに満ちていて、桜がキレイで、旧ゼロワン時代に幾度も行った地方大会の熱を感じさせるような大会だった。

「そんなところに感動するな」と言われそうだが、アダモちゃんのお尻にテングカイザーの鼻が刺さったとき、懐かしくて胸がいっぱいになった。「ちから祭り」という日本にこだわった大会名と演出、異種格闘技戦、アダモちゃん登場、テングカイザー、扱いづらい外人（ジャスティン・マッコリー）、〝格〟の違いを見せつける激しい闘い（佐藤耕平vs佐々木健介）、セミで熱い大谷晋二郎、ゼロワンの〝熱〟をかぎつけてやってくるフリー選手（村浜武洋）。「どいつもこいつも、いっぺんに事件を起こしやがって!!」と、『紙プロHand』速報記事を書く立場から怒りたくなる感じも含め、全部が全部、ゼロワンらしい。大会開催前から幾度も繰り返し語られていた「原点回帰」の答えがこの懐かしさなら、心から歓迎したいと思った。

桜の美しさが、大会に文字通り花を添えていた。ライトアップされた会場の桜と、大会後に風が吹き抜ける靖国神社内で見た桜は、「ヤバイ……!!」と言いたくなるくらいに美しかった。あの桜の綺麗さを、私は一生覚えていると思う。開花時期が遅れた今年の桜は、翌日の雨でほとんどが流され、散ってしまった。桜のベストシーズンをギリギリでキャッチできる悪運が、しっかりゼロワンには残っている。

今大会の結果・対戦カードは、靖国神社に奉納され、残るという。テングカイザー&キング・アダモ組の名前と、王拳聖vs浪口修の一戦は、靖国神社の歴史のひとつとして奉納されたのだ。日本という国の懐の深さを意外なところで感じた。数十年後に存在するプロレス団体へ、歴史のバトンを渡したい。いつか必ず、テングカイザーの末裔を奉納プロレスのリングへ呼び寄せて欲しいし、歴史を超えて浪口修と王拳聖の子孫を闘わせてほしい。

もうひとつ、晴れて本当に良かった。風が強かったのはちょっと想定の範囲外で、砂ぼこりがリングにいる選手には厳しそうだった。ゼロワンは旗揚げ時からいつも嵐が巻き起こり、MAXとなった今もつねに逆風が吹きつけている。今大会を経て、世界で唯一の「奉納プロレス開催団体」の栄誉を手にしたZERO・1 MAXは、逆風さえも桜を散らす演出に変え、熱い闘いを展開させつづけていく。

是非、奉納プロレス「ちから祭り」を毎年恒例のお祭りにして、おとずれた子供たちの記憶にプロレスを刻み込んで欲しい。「両親に連れられて靖国神社へお花見に行くたび、プロレスを見るのが楽しみだった」「靖国でやっていたプロレスで酔拳をナマで見た」と語る子供たちに出会える将来を、私は楽しみに待っている。

（ささきぃ）



当日発表の大物ゲストとして、全日本・武藤敬司が来場。佐々木健介vs佐藤耕平が行われた第3試合から、リングサイドで観戦、場内の独特なムードにも興味を示していた



大会最後に小川直也が登場し「プロレス発祥の地へ戻って来れたこと、最高です」と挨拶。「熱いファンがいて嬉しいし、ZERO・1 MAXも成長してる」と笑顔だった

は正真正銘の祭りだった！

「WRESTLEMANIA GOES TO HOLLYWOOD」と銘打たれた今年の「WRESTLEMANIA21」はカリフォルニアの青空のような素晴らしい大会となった。新旧スーパースターがズラリと勢揃いした中に、元横綱・曙まで参戦してお祭りムードは最高潮に！ ライター・阿部タケシが現地から渾身のレポートをお届けします！

文・阿部タケシ

昨年WWEは、本拠地のニューヨークを丸ごと呑み込み、街中をレッスルマニア（以下WM）一色にしてみせた。その一年後、今度はそのニューヨークの真西であるカリフォルニア州ロサンゼルスで「WM21」を開催。舞台となったハリウッドは、いわずと知れたアメリカにおけるエンターテンメントの象徴的都市だ。WWEはこの場所でレスリングエンターテインメントの年間総決算であるWMをどう見せた（盛り上げた）のだろうか？

今年も昨年同様ホール・オブ・フェイムやWWEスーパースターズによるゲーム大会など「レッスルマニア・ウィークエンド」と呼ばれるイベントが行なわれた。しかし今年最も斬新なイベントだったのは現地時間3月31日正午より、ハリウッドのど真ん中でド派手に行なわれた「WWE、SMANIA SHOW」だった。ハリウッド／ハイランド駅」の出口前屋外にリングを作り、『RAW』から2試合、『SMACKDOWN!』から2試合、そしてプロモを含めた約1時間強のハウスショーを行なった。対戦カードの事前発表はなく、誰が登場するかはテーマ曲で分かるというもの。しかも路上でのリング設営ということで観戦は無料だった。

リングを作った場所は映画のプレミア時にレッドカーペットが敷かれる有名な場所。100m先にはチャイニーズシアターやTVガイド本社、地面にはウォーク・オブ・フェイム（エンターテインメント界で著名な人物名を星型の石に刻み栄誉を讃えるもの）があるハリウッドの中心的な場所だ。このメインストリートを大胆にも完全閉鎖したWWEは、ハリウッドを訪れていた観光客などに向け「WM21」のプロモーションを敢行した。建物の屋上や、周辺のテナントの窓に人がへばりつくという異様な光景がいたるところで見られ、平日の昼間にも関わらず数千人もの人々がリングを囲んだ。

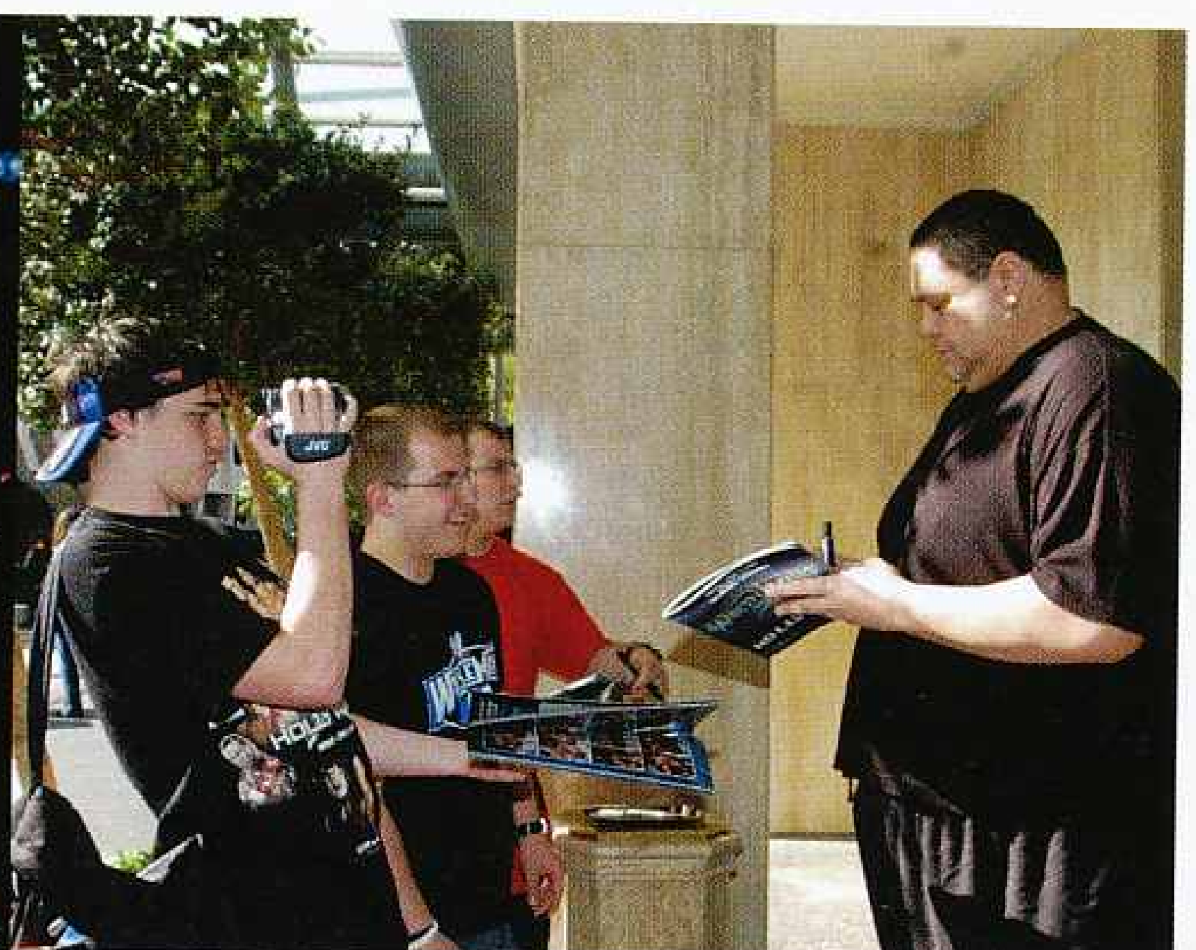
「イベント告知、プロレスへの理解を求めるなら、実際にプロレスを見せるのが一番」という実に分かり易いPR作戦は、同所がパニックになるほどの賑わいを見せた。もちろん「WM21」のチケットは発売と同時に完売（予約キャンセル分も後日売り出されたが、開催日には全て完売）している。このPRは「WM21」のPPV購入を促すプロモーションとして行なわれた（ちなみにPPV料金は49.95ドル、日本円で約5500円）。

WM開場前、会場周辺を写真に収めていたら「オマエは日本からあのスモウレスラーを応援しに来たのか？」などいろいろ聞かれた。「アメリカのファンの間でも相撲マッチは関心が高いのか？」そう思っても良いくらい現地ファンからは質問攻めだったが、結局は曙の入場時にはブーイングも起らず、声援も起らずといった具合。実際この試合への関心度はまったく低かった様子。残念！ 立会いまで何度も繰り返された一連の行動に席を立つ人が続出した。

ファンはこの試合（取組？）に否定的な


会場付近のチャイニーズ・シアターには、5月公開の「スターウォーズ エピソード3」のために、すでに行列している連中もいた。さすが映画の都！ 写真・阿部タケシ




WM明けのホテルで、さっそくアメリカのプロレスマニアのサイン攻めにあう横綱。いい絵だ！ 写真・George Napolitano

今月の新作DVDを各1名様にプレゼント 素晴らしい作品です！

今月の新作DVDはマニア必見の素晴らしい作品です！ 『ベスト・オブ・インターコンチネンタル』は90年代初頭のIC王座戦の傑作選！ そもそもWWEヘビー級王座に挑戦するための足がかりとなる同王座は、若くて勢いのある選手同士が激しくぶつかり合うため非常に名勝負が多い。この作品に収録されているのはショーン・マイケルズ、ブレット・ハート、ミスター・パーフェクトら、若き日のプロレスの達人たちが繰り広げる名勝負。じっくり見て酔いしれろ！ 今月のもう一本は『ニュー・イヤーズ・レボリューション2005』今年1月にプエルトリコで初めて行われたPPVイベントだ。〝悪魔の檻〟エリミネーション・チェンバーの中でトリプルH、バティスタ、エッジ、クリス・ベノワ、クリス・ジェリコ、ランディ・オートンが激突するサバイバル戦！ リタvsトリッシュの女子王座戦、ケインvsスニツキーの因縁マッチなど見どころ満載。特典映像として同PPVのプロモーション映像やインタビュー集も収録。どちらも4月22日（金）発売予定。

提供■ユークス

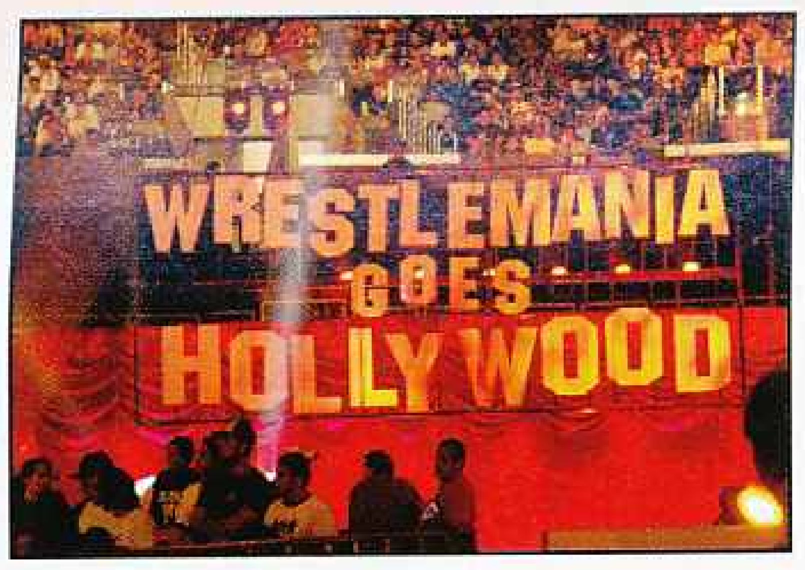


DVD
『ニュー・イヤーズ・レボリューション2005』
¥3990（税込）収録時間：165分



DVD
『ベスト・オブ・インターコンチネンタル』
¥3990（税込）収録時間：61分

※このページのプレゼント応募方法はP143を参照!!



《現地レポート》

レッスルマニア21

曙がプロ転向後、最も輝いたのは格闘技と真逆の世界であるWWEだった

意見が多かったが、ボク自身この試合こそレッスルマニア向き、WWEでしか出来ないことだと思うのだが。スポーツアリーナに土俵を作り、清塩を撒き、行司がいて、そしてビッグ・ショーがマワシを巻いた。非現実的な世界を現実にしてしまうWWEのリングで、日本の国技である相撲がフィーチャーされることは日本国民としても喜ばしいことだし、何よりも曙がプロ格闘家転向後、もっとも輝いたのが格闘技と真逆の世界であるWWEだったというのも実に喜ばしいことだと思うのだが。

昨年WWEは、MSGで10年ぶりに同大会を行ない、5時間に渡る長丁場を、無駄のない演出で一気に完走し、レスリング・エンターテインメントの最高の舞台を作り上げた。今年は約4時間で年間の集大成を創りあげ、試合以外のコーナーもハルク・ホーガンやストーンコールドといったメンバーが華を添えるという、昨年以上に濃密で贅沢な内容だった。

昨年はゴールドバーグやブロック・レスナーの離脱劇など、スキャンダラスな裏側が公演前にクローズアップされ、肝心の表の部分、「WM」が持つ本来のお祭りムードがややブレた感があったが、今年の「WM21」は久々に純粋で、曇った箇所がひとつもない本来のWMにあるべき姿だった。

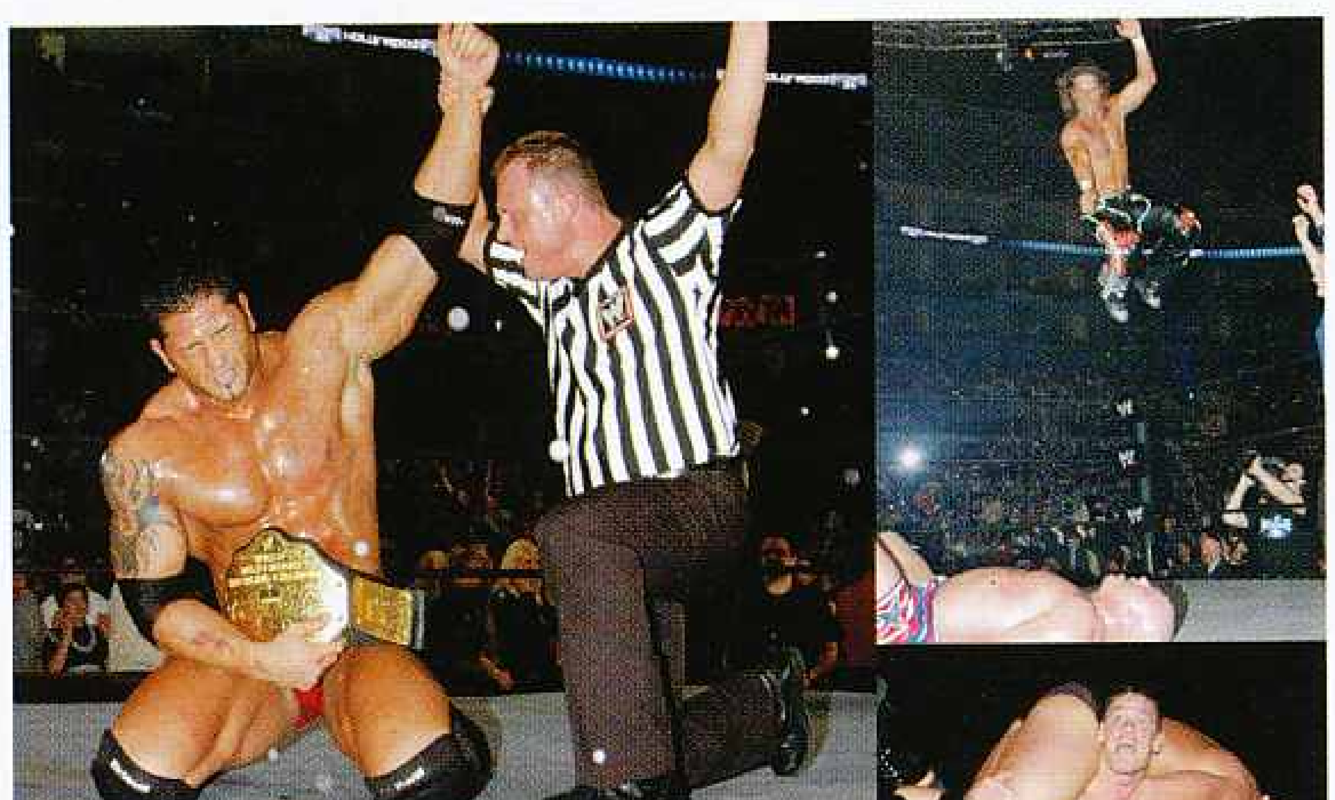


ホーガンはアラブ系ヒールのハッサン＆デバリを蹴散らし、ストーンコールドはパイパーズ・ピットに登場。ここ20年のスーパースターが勢揃いした。写真・George Napolitano

目に映る光景に素直にリアクションでき、この日までにスキャンダラスなうがった報道などは一切ない、安心してWWEの世界を満喫できる〝祭り〟の空間だったように感じた。

今回の「WM21」の入場者数は20193人。ステイプルスセンターのアリーナレコード（最高観客動員数）を記録した。毎会場アリーナレコードを更新し続ける「WM」だが、次回「WM22」はイリノイ州シカゴのオールステイトアリーナで行なわれる。

ひとつ残念だったのは、JBLとジョン・シーナによる王座戦。他の試合やプロモが長すぎた為、試合時間が大幅に削られたという。両者の「WM21」への伏線は、両者が対峙するごとに期待は肥大化していたが、両者の見せ場がなく、JBLがあっさり負けたのは実に残念。このリマッチは5月PPV「ジャッジメント・デイ」でアイ・クィットマッチとして行なわれる。



（右下）シナはＪＢＬを倒して王座獲得！　これマジ！（右上）今大会ベストマッチの呼び声も高いＨＢＫとアングルの試合。絵になる！　（上）メインでトリプルＨから遂にベルトを奪取したバティスタ。
写真・George Napolitano

ライター・阿部タケシとペイントマン・仙波氏のWMみやげプレゼント！

提供■阿部タケシ氏



RAW IS WARステッカー、ストーンコールドステッカー、JBLドル札（おもちゃ）
セットで1名様

ミスターT
ボイス・キーホルダー
1名様

今月の超目玉！ DIVAクリスティがフルヌードを披露したPLAYBOY
1名様



WM21大会記念Tシャツ
1名様　サイズ:L
提供■超スクープ写真をゲットした（次号公開予定）ペイントマン・仙波久幸氏

RVDのコミック店「5 star comics」Tシャツ
1名様　サイズ:L

HALL OF FAME
記念Tシャツ
1名様　サイズ:L

※このページのプレゼント応募方法はP143を参照!!



ビンス・マクマホン徹底論評 第11回

人間国宝フレアーの心を動かした ビンス・マクマホンのビジネスとは？

文／長谷川博一

今年の「レッスルマニア（以下WM）21」も大盛況。会場のLAステイプルセンターには2万193人のファンが詰めかけチケットセールスは210万ドルとか。同会場でのWWE興行、最高額の売上げ。確か昨年、MSG「WM20」の売上げが240万ドルだったから、去年も今年も掛け値なしのフルハウスの証なのだろう。

ベストバウトはHBK対カート・アングルの声高し。この試合の火種となったのが今年1月7日、フジテレビで行われた2月の日本ツアー発表記者会見だった。席上でHBK、カートが「どちらが本物のショーストッパーか、はっきりさせようじゃないか！」と臨戦状態に。赤ら顔で怒るカート、そしてマジな顔をして2人を分けるシェイン・マクマホンは今から思えば名演技。編集者ノブに言わせれば、会見中にシェインが隣りのディーバを通じて「もう一発HBKを怒らせろ！」とカートに伝言していたらしい。

「スーパースターは大衆に恋をしていなければならない」

ビンス・マクマホンによるプロレス道の定義がこれだった。人前に出る限りはスーパースターは自身の役割を果たす。思いがけぬ言い合いが、やがて「WM21」のマニア垂涎の試合と決められる。WWEとはまさに常在戦場。団体自体がエニィウエア・フォールマッチのような成り立ちなのだと知る。このドラマ性。緊張感。つくづくプロだなあと感嘆してしまう。

今年の「WM」のPRで大いに楽しんだのが一連のハリウッド映画のパロディCF。ユージーンとリーガル師匠による「フォレスト・ガンプ」。アンダーテイカーの「ダーティハリー」……。団体の公式WEBでも人気投票を募っていたが、筆者がベストと思うのはトリプルHとリック・フレアーによる「ブレイブ・ハート」編。戦士になりきるトリプルH、奔馬の代わりに山羊を引くフレアーの演技は秀逸。一番初めにTVオンエアされた理由も分かる。

少し前のことになるがリック・フレアーの自伝「トゥー・ビー・ザ・マン」が日本でも出版された（エンターブレイン刊）。これが滅法面白い。世の中に星の数ほどあるプロレス関連書の中でも（筆者も一石を投じている）最高クラスと思える出来である。何せマット界の人間国宝のようなフレアーの自伝。アメプロの歴史が良く分かり、先輩レスラーが耳元で打ち明けるレスリングの秘密にも興奮。そのドライブ感ありすぎの半生はグレイトフル・デッド風に言えば「何て奇妙なトリップ」であることか。最高にファンキーな56歳なのだ。

同じく最高にファンキーな59才ビンス・マクマホンも話の端々に登場している。物語中のビンス像は優秀なビジネスマンで人間味があり、詩人。ことエリック・ビショフやダスティ・ローデスへの辛辣な表現に比べるとフレアーの心からの尊敬が分かる。いくつかのエピソードを本書から抜粋してみたい（翻訳者は計3名、日本語版監修は阿部タケシ）。

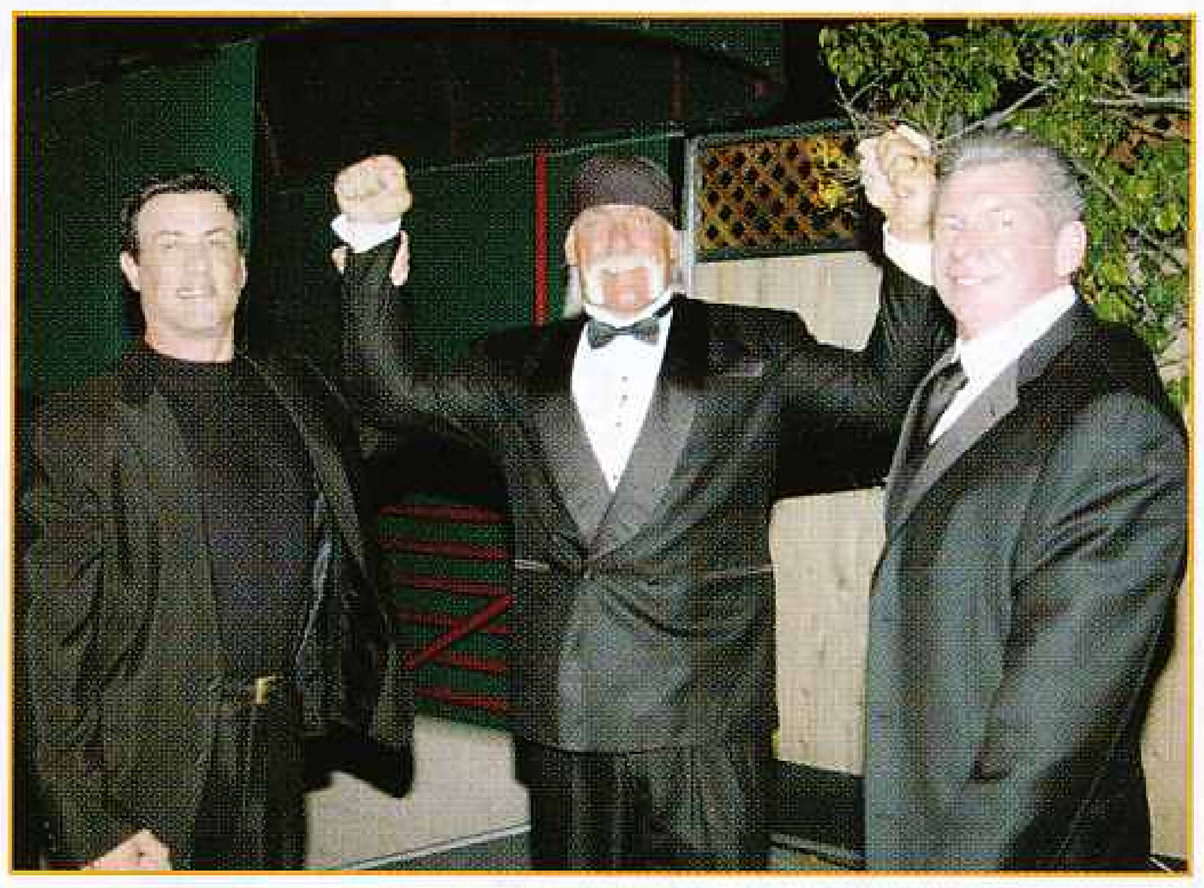
1988年にビンスはフレアーを当時のWWFに誘ったが、フレアーはNWAへの義理を感じ辞退した。しかし、その後のWCWの無秩序状態に嫌気が差して91年にフレアーはWWFに移籍を決める。ビンスとは話し合いの席上で、握手を交わしこんな会話をした。

「あなたの言葉を信じていますよ」とビンス。

「もちろんだ」とフレアー。

「握手をしたということは、リック。私はあなたの言葉を信じ、あなたは私の言葉を信用したということです」

丁重な物言いに、フレアーは初めて本物のビジネスマンに出会った気がしたものだった。



写真・George Napolitano

リング外でのケアも一流。フレアーは当時、国税庁に20万ドルもの追加の税金を納める必要がありビンスに相談をした。すると日本遠征から帰る頃には20万ドルが用意されていたという。今だ握手を交わしただけで本契約前の出来事だった。

WWFでフレアーはホーガンやランディ・サベージと好勝負を演じ、93年に再びWCWに戻る。その後はまさに受難の日々。団体の不協和は相変わらず激しくビショフやビンス・ルッソといったライター陣に人間以下の扱いを受け、フレアーはレスラーとしての自身も野望も失ってしまう。

01年、WCWは崩壊し約2500万ドルと噂される金額でWWEに買収された。WWEのストーリーラインに参加してほしいと再びフレアーは誘われる。「ロイヤル・ランブル02」でのビンス対フレアーの一戦を持ちかけられた。フレアーはマクマホン家との話し合いの席で**「私はもがき苦しんでいる」**と素直に打ち明けた。するとビンスは近寄ってフレアーを抱きしめたという。

「みんな乗り越えなければいけないものを持っているんだ」

そして自分を示して言葉を続けた。

「ここにもいるじゃないか」

「ランブル」当日になってもフレアーの体は絞り切れていない。入場口のカーテンでビンスに声をかけるとビンスは思わず涙目になり、こう言った。

「あなたのために今夜をできるだけ大きな夜にしたい」

マット界の伝説を大舞台に迎える際のビンスの励まし方は、以上の如く実に心のこもった素敵なもの。さらなる問答も胸に迫る。フレアーはある日、ほぼ同世代のビンスに尋ねた。どうやっていつも、あの顔を保っているのか。

「やらなければならないからな」

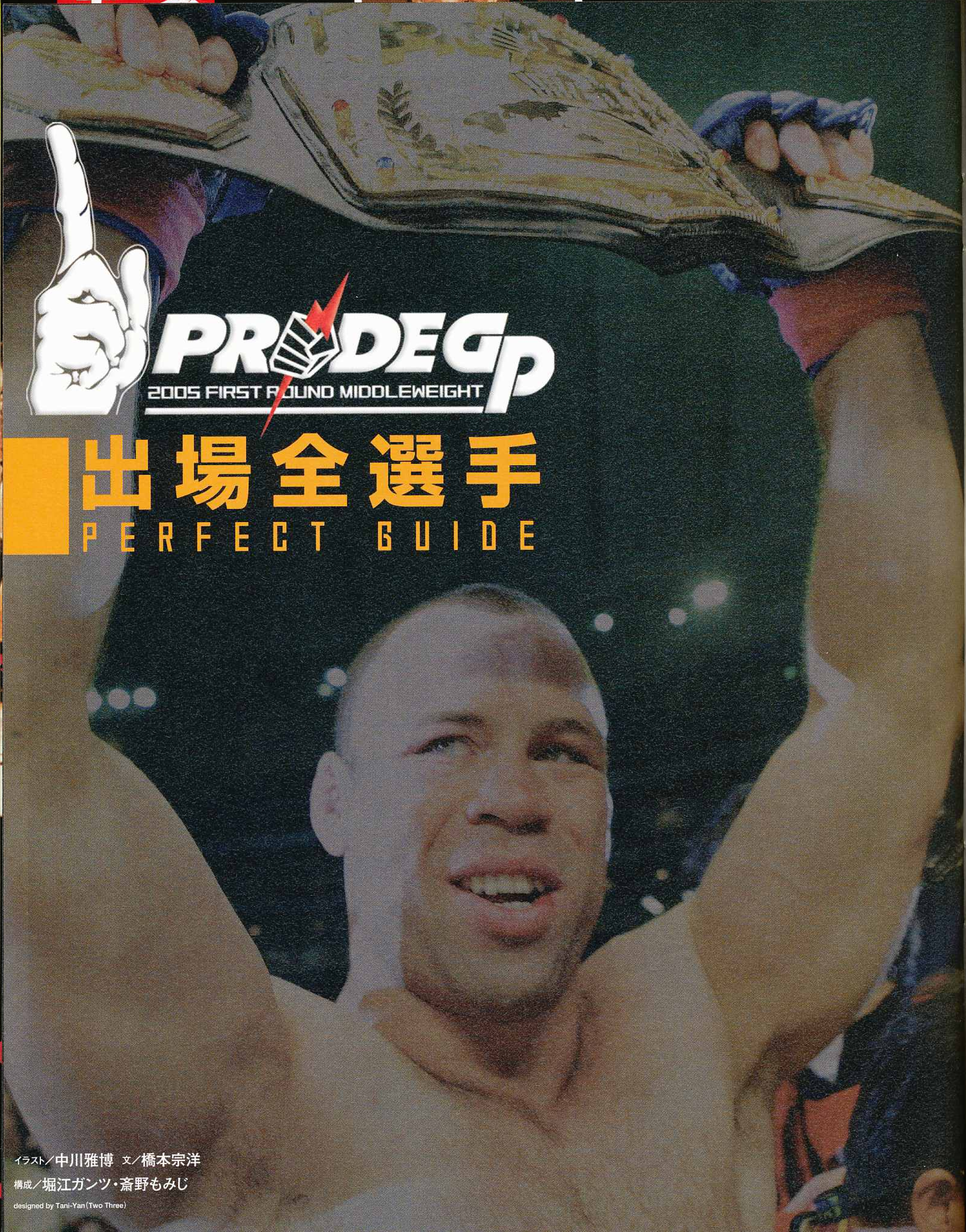
一言だけ答えが返ってきた。不安にならないのかと重ねて聞くと。

「もちろんなるさ。ただ、それを誰にも気づかせないだけさ」

ワン・アンド・オンリー。ビンスの孤高な勇気と気概を知るのである。

「リック・フレアー自伝　トゥー・ビー・ザ・マン」は500頁にも及ぶ大ボリューム。ラスト20頁部分で描かれる、03年『RAW』で急遽フレアーがトリプルHの世界ヘビー級王座に挑戦することになり、その後ボーイズ総出のフレアーを称えるセレモニーが開かれる件には、図らずも落涙してしまった。これは名著である。気品のある一冊なのだが、帯コピーには「〝プロレスインポ〟もこれでビンビン!!」とある。喫茶店で読む時に筆者は思わず帯を外してしまった。この辺の気弱さが未だ〝一本立ち〟できていない証なのか。ビンビン。それから〝Wooo!!〟

37年の歴史に幕
全女



PRIDE GP 2005 FIRST ROUND MIDDLEWEIGHT

出場全選手
PERFECT GUIDE

イラスト／中川雅博　文／橋本宗洋
構成／堀江ガンツ・斎野もみじ
designed by Tani-Yan(Two Three)

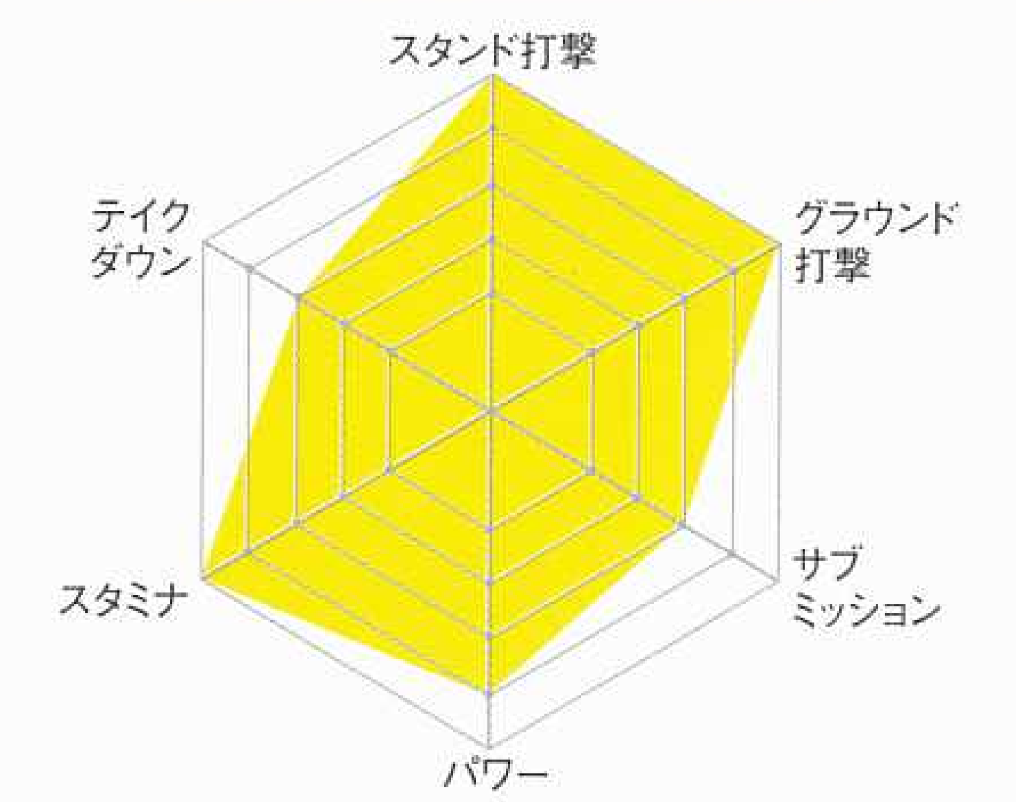
大本命の〝絶対王者〟がGP2連覇に挑む!! 不安要素はストライカーとの対戦？

WANDERLEI SILVA

ヴァンダレイ・シウバ



選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	シュートボクセアカデミー
生年月日	1976年07月03日
出身地	ブラジル・クリチバ
身長／体重	182 cm／91 kg
バックボーン	ムエタイ
PRIDE戦績	18勝1敗2分
タイトル歴	初代PRIDEミドル級王座 PRIDE GP2003ミドル級トーナメント優勝

過去の戦績

大会・日付	対戦相手	結果
PRIDE 男祭り 2004 -SADAME- 2004.12.31	●VS マーク・ハント	3R終了 判定2-1
PRIDE.28 2004.10.31	○VS クイントン“ランペイジ”ジャクソン	2R 3分26秒 KO
PRIDE GP2004 FINAL ROUND 2004.08.15	○VS 近藤有己	1R 2分46秒 KO
PRIDE 武士道 其の弐 2004.02.15	○VS 美濃輪育久	1R 1分09秒 KO
PRIDE GP2003決勝 2003.11.09	○VS クイントン“ランペイジ”ジャクソン	1R 6分28秒 TKO

PRIDEデビュー以来、ミドル級では負けなしの〝絶対王者〟がGP2連覇に挑む。2回戦からの出場が可能だったにもかかわらず「自分がチャンピオンだということを証明する！」と自ら開幕戦出場を希望、さらに相手として吉田を〝逆指名〟するなど、モチベーションも恐ろしく高い。

セールスポイント

ズバリ言って大本命。スタンド打撃、パウンド、踏み付けとあらゆる局面でKOできるだけでなく、最近は寝技の腕前もグングン上昇。また、爆発的なラッシュはもちろんのこと、王者になってからは相手の出方をじっくり見極めてから攻めに転じる〝待ち〟の闘い方も目立つ。となればますます攻略は難しい。

ウィークポイント

シウバの弱点は、意外にも打撃か。ランペイジの打撃でダウンしたのは記憶に新しいが、その他にもパンチを直撃されたシーンあり。連覇へのカギはストライカーとの対戦？

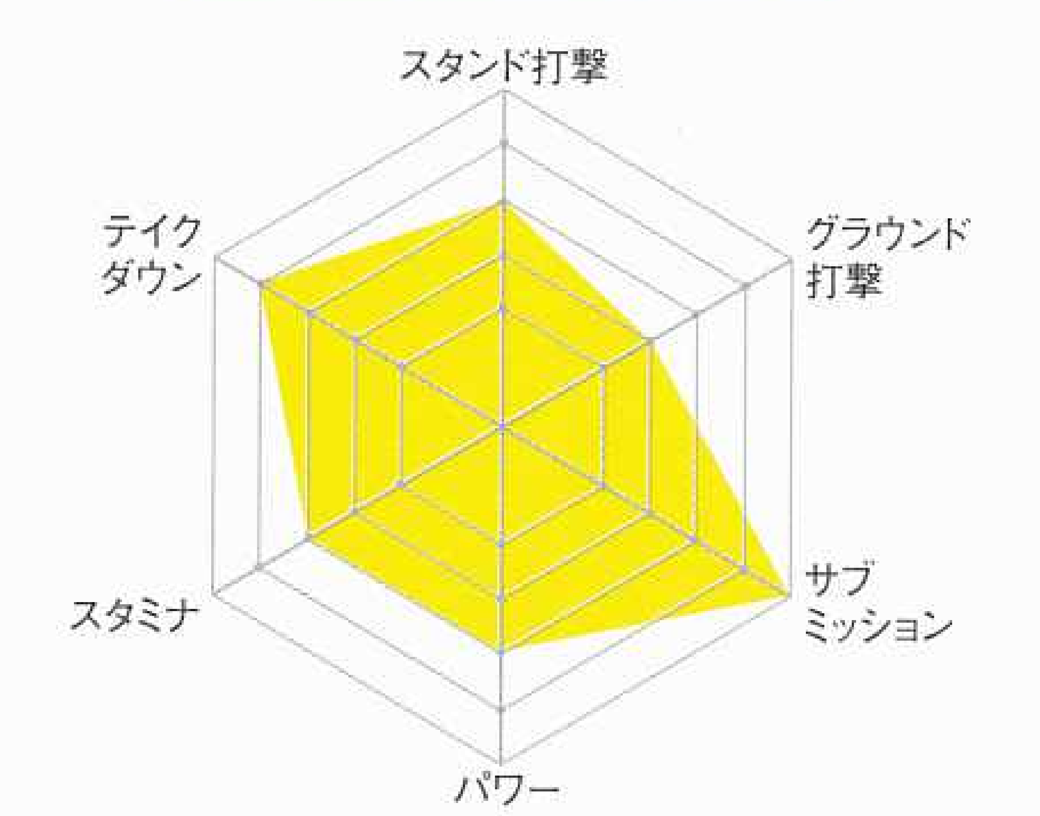
身体能力は外国勢に引けをとらず！〝柔道王〟の復讐劇は成功するか!?

YOSHIDA HIDEHIKO

吉田秀彦



選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	吉田道場
生年月日	1969年09月03日
出身地	愛知県大府市
身長／体重	180 cm／92 kg
バックボーン	柔道
PRIDE戦績	3勝2敗1分
タイトル歴	92年バルセロナオリンピック 柔道78キロ級金メダル 柔道 全日本学生選手権

過去の戦績

大会・日付	対戦相手	結果
PRIDE 男祭り 2004 -SADAME- 2004.12.31	●VS ルーロン・ガードナー	3R終了 判定3-0
PRIDE GP2004 2nd ROUND 2004.06.20	○VS マーク・ハント	1R 5分25秒 腕ひしぎ逆十字固め
PRIDE 男祭り2003 2003.12.31	△VS ホイス・グレイシー	2R終了 ドロー
PRIDE GP2003決勝戦 2003.11.09	●VS ヴァンダレイ・シウバ	2R終了 判定3-0
PRIDE GP2003開幕戦 2003.08.10	○VS 田村潔司	1R 5分06秒 袖車絞め

PRIDEの柔道王がGPでの復活&打倒シウバにかける。前回GPでシウバに惜敗、その後ホイス戦での大苦戦、ガードナー戦敗北と一時の勢いを失ったかに見える吉田だが……。こういうときこそ、生来の負けず嫌いが発揮されるはず。

セールスポイント

日本勢で実力トップなのは間違いない。五輪を制した投げ（テイクダウン）、柔道衣を巧みに使った極めはいずれも一級品。パワーをはじめ外国勢に負けない身体能力の高さも際立つ。前回の対戦でシウバ相手に打撃戦を挑んだように、キレたら何をするか分からないメンタルの強さも魅力だろう。

ウィークポイント

周知の通り、道衣は相手にとっても武器になる。長丁場ではスタミナを奪うこともあり、改良道衣の完成度が気になるところ。タックラーではないため、テイクダウンまでもっていくことができるかどうかもポイントになるはずだ。

37年の歴史に幕
全女



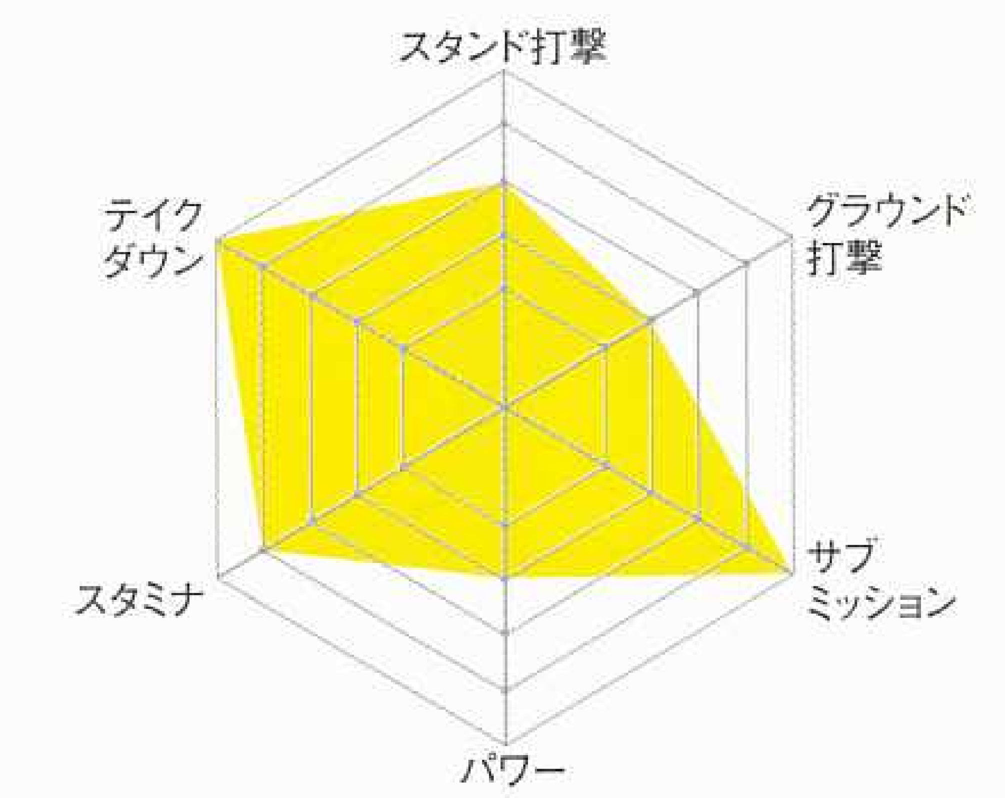
SAKURABA KAZUSHI

桜庭和志

元祖・IQファイターがグランプリ参戦 4月、大阪に桜は咲くか!?



選手の特徴



過去の戦績

PRIDE GP2004 2nd ROUND　2004.06.20 ○vs ニーノ・エルビス・シェンブリ	3R終了 判定3-0
PRIDE 男祭り2003　2003.12.31 ●vs アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ	3R終了 判定3-0
PRIDE GP2003決勝戦　2003.11.09 ○vs ケビン・ランデルマン	3R 2分36秒 腕ひしぎ逆十字固め
PRIDE GP2003開幕戦　2003.08.10 ●vs ヴァンダレイ・シウバ	1R 5分01秒 KO
PRIDE.25　2003.03.16 ●vs ニーノ・エルビス・シェンブリ	1R 6分07秒 KO

PERSONAL DATA

所属	高田道場
生年月日	1969年07月14日
出身地	秋田県南秋田郡
身長／体重	180 cm／90 kg
バックボーン	レスリング
PRIDE戦績	15勝6敗1分
タイトル歴	UFC-J'97トーナメント優勝

言わずと知れたPRIDE最大のヒーローである。前回のGPは衝撃のワンパンチKOでシウバに3敗目を喫し、一回戦敗退。その後もケガに泣かされて満足のいく試合ができていないが、誰もが復活を待ち望んでいる。

セールスポイント

悲愴感漂いまくりのはずだが、本人は飄々としたもの。本誌前号での「つちのこ」発言、ユン・ドンシクとの日韓対決が決まれば「ボクは日本人じゃなく宇宙人なんで」。だがこれは気合いの裏返しと受け取りたい。ランデルマンに一本勝ちしているように、そのグラウンド・テクニックは健在。会見では「全員から一本取れる」と自信の発言も。

ウィークポイント

一に二にもコンディション。ヒザ、『男祭り』欠場の原因となった脇腹など、不安な要素は確実にある。減量して93キロの外国勢に比べれば、体格面でもハンデあり。万全の体調で、かつての動きを取り戻すことが優勝への必須条件だろう。

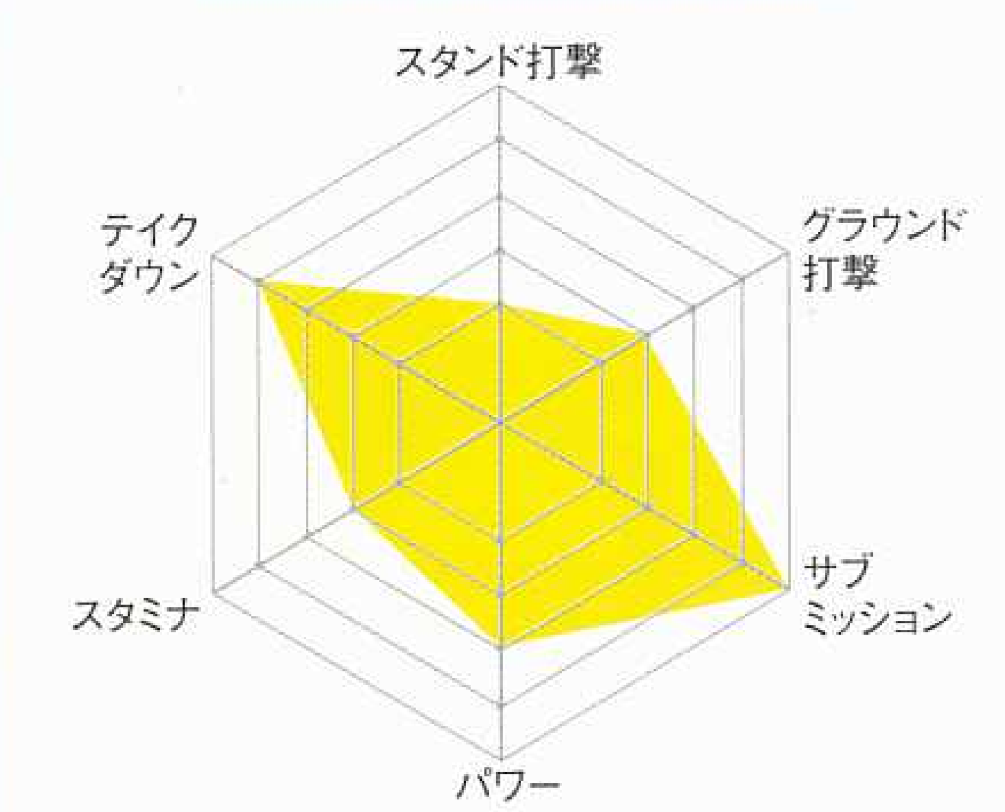
YOON DON SIK

ユン・ドンシク

"無冠の韓国柔道王"ユン様、『PRIDE』参戦 日本の桜を韓流ファイターが刈る!?



選手の特徴



過去の戦績

MMA初挑戦

PERSONAL DATA

所属	フリー
生年月日	1972年08月24日
出身地	韓国・ソウル
身長／体重	183 cm／91 kg
バックボーン	柔道
MMA戦歴	初参戦
タイトル歴	柔道 ミュンヘン世界選手権 銅メダル パリオープン選手権 優勝　ドイツ国際大会 優勝

PRIDE初参戦にしてGP出場の大抜擢を受けた韓国柔道界・影の大物にして自称・寝技十段。学閥が絡む疑惑の判定で五輪出場こそ逃したが、パリオープン、ドイツ国際など数々の優勝歴を持つ。古賀稔彦に勝ち、瀧本誠を絞め落とした経験もあり「吉田、瀧本は寝技が強くない」、「桜庭とやったグレイシーの寝技より自分が上」と言い放つ強気っぷりにも注目が集まる。

セールスポイント

戦前から挑発的なコメントを続ける背景にあるのは、寝技への絶対的自信に他ならない。練習風景のVTRを見る限り、かなり細かい技術を駆使しているようだ。

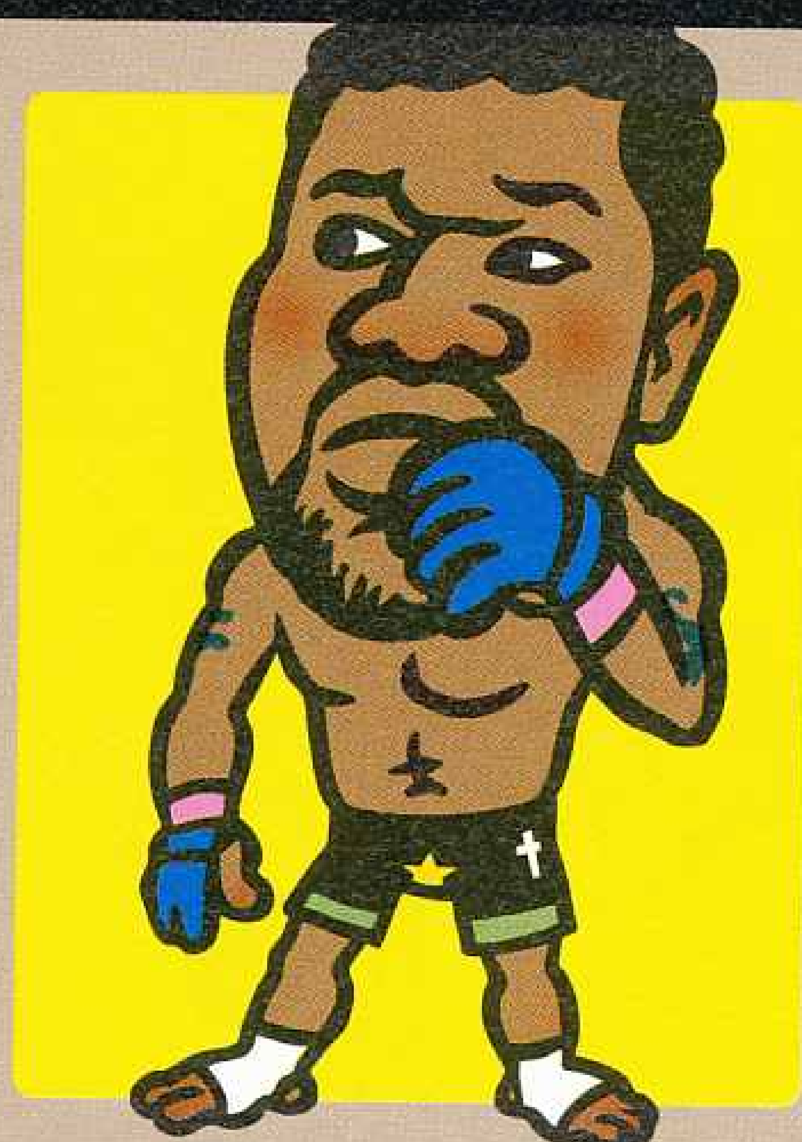
ウィークポイント

柔道と総合はやはり別物。打撃ありで裸の相手をどう仕留めるか、闘って初めて分かることも多いはず。ローキックに悶絶し、顔面パンチにたじろいで「総合をナメてました」パート2になる可能性も、決して低くはない。

今年の「レッ
21」も大盛況。
センターには8
詰めかけチケッ
ルとか。同会場
額の売上げ。昨
20」の売上げを
ら、去年も今な
ウスの証なのだ
ベストバウト
ングルの声高し
たのが今年1月
われた2月の日
だった。席上で
らが本物のシュ
りさせようじゃ
赤ら顔で怒るカ
して2人を分け
は今から思えば
わせれば、会見
ィーバを通じて
せろ！」とカー
「スーパースタ
ければならない
ビンス・マク
の定義がこれだ
はスーパースタ
す。思いがけめ
M21」のマニ
る。WWEとい
自体がエニィウ
ような成り立た
マ性。緊張感。
嘆してしまう。
今年の「W
んだのが一連の
ィCF。ユージ
る「フォレスト
イカーの「ダー
の公式WEB
たが、筆者がべ
Hとリック・

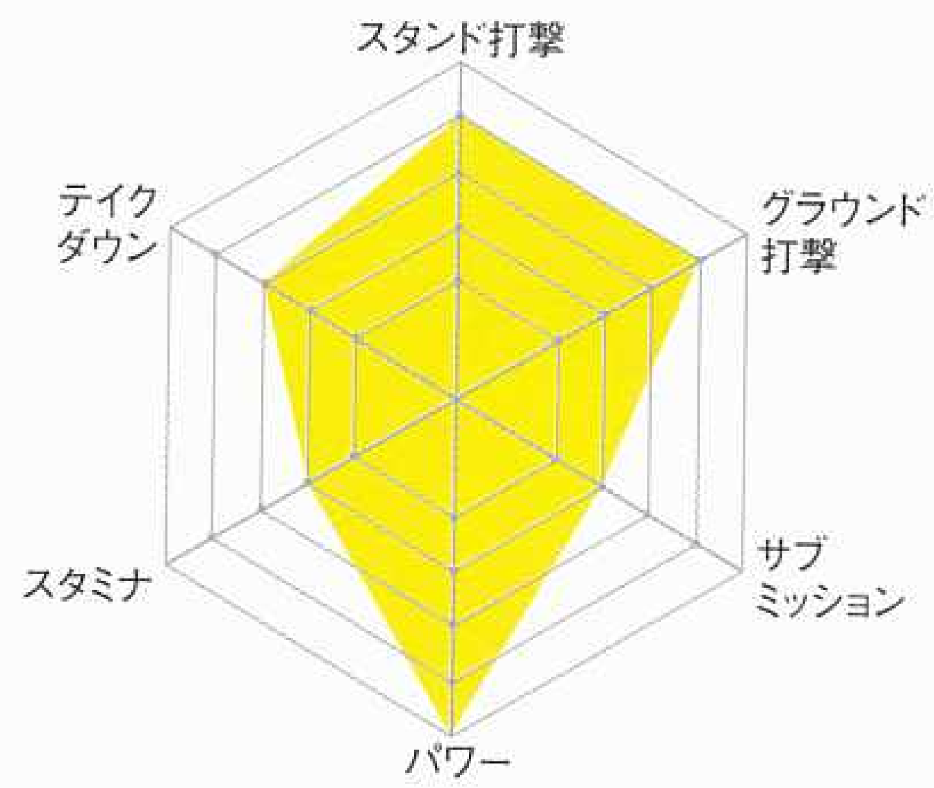
QUINTON RAMPAGE JACKSON

クイントン"ランペイジ"ジャクソン



ミドル級ナンバー2・ジャクソン、頂点、そしてシウバを狙って吠える!!

選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	チーム・オーヤマ
生年月日	1978年06月20日
出身地	アメリカ・テネシー州
身長／体重	185 cm／93 kg
バックボーン	レスリング
PRIDE戦績	10勝4敗
タイトル歴	PRIDE GP2003ミドル級トーナメント 準優勝

過去の戦績

大会	日付	結果	対戦相手	内容
PRIDE.29	2005.02.20	○	vs ムリーロ・ニンジャ	3R終了 判定2-1
PRIDE.28	2004.10.31	●	vs ヴァンダレイ・シウバ	2R 3分26秒 KO
PRIDE GP2004 2nd ROUND	2004.06.20	○	vs ヒカルド・アローナ	1R 7分32秒 KO
PRIDE 男祭り2003	2003.12.31	○	vs 美濃輪育久	2R 1分05秒 TKO
PRIDE GP2003決勝戦	2003.11.09	●	vs ヴァンダレイ・シウバ	1R 6分28秒 TKO

一昨年のGPでは見事、準優勝。初来日時は"暴走ホームレス"という異名のイロモノ的キャラだったが、結果と内容でメインストリームに食い込んだ叩き上げ。昨年のシウバ戦ではダウンを奪うシーンもあり、3度目の正直でシウバ超え、そして優勝を狙う。

セールスポイント

圧倒的なパワーを活かした打撃と投げは、誰が相手でも恐怖の的。投げでKOできるのは大きな魅力だが、グラップラーと闘ったときにも差し合いを制することができるという点で強力な武器となる。打撃の威力は、もはや言うまでもない。

ウィークポイント

シウバ戦でペースを掴みきれず、アローナ戦で大苦戦したように、やはり寝技にはまだまだ課題が残る。テイクダウンされたときはもちろん、下から仕掛けられたときにいかにさばき、パウンドを浴びせていくか。ドロドロの展開になると、案外もろいかも。

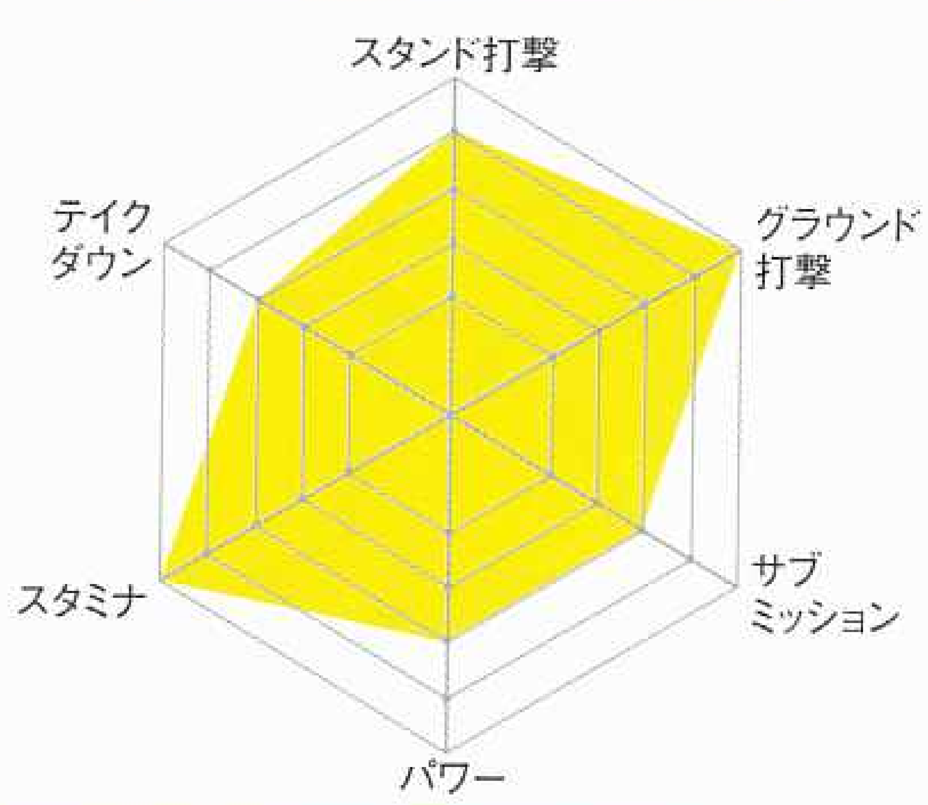
MAURICIO SHOGUN

マウリシオ・ショーグン



殺戮集団からショーグンが参戦、フットスタンプが嵐を起こす！

選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	シュートボクセアカデミー
生年月日	1981年11月25日
出身地	ブラジル・パラナ州
身長／体重	182 cm／92.9 kg
バックボーン	ムエタイ
PRIDE戦績	4勝0敗
タイトル歴	なし

過去の戦績

大会	日付	結果	対戦相手	内容
PRIDE.29	2005.02.20	○	vs 金原弘光	1R 1分40秒 KO
PRIDE 武士道 其の伍	2004.10.14	○	vs 滑川康仁	1R 6分02秒 KO
PRIDE 武士道 其の弐	2004.02.15	○	vs 郷野聡寛	1R 9分04秒 KO
PRIDE 武士道	2003.10.05	○	vs 小路 晃	1R 3分47秒 KO
メッカ・バーリトゥード	2003.08	○	vs エバンゲリスタ・サイボーグ	TKO

殺戮集団シュート・ボクセの新星にして、PRIDEマット全体を見渡しても最も勢いがある男である。PRIDEデビュー以来4連勝、日本人をことごとく葬ってきた。一回戦の相手は兄ニンジャを下したランペイジ。自ら対戦表明した相手であり、壮絶な潰し合いになることは確実だ。

セールスポイント

殴る、蹴る、踏みつける。あらゆる局面で相手の顔面を破壊しにかかる"シュート・ボクセ・スタイル"の完成形。一見ケンカファイトに見えるが、そこには確かな技術も存在。ジャンピング・フットスタンプで確実に顔面を捉える精度の高さは、この男ならではのものだといえる。シウバとの同門決勝戦が実現する可能性も充分にあり。

ウィークポイント

ここまでの闘いは全て圧勝。逆にいえば、守りに入った姿を見たことがない。ディフェンスはどうなのか、攻め込まれたときの防御、反撃力は……？

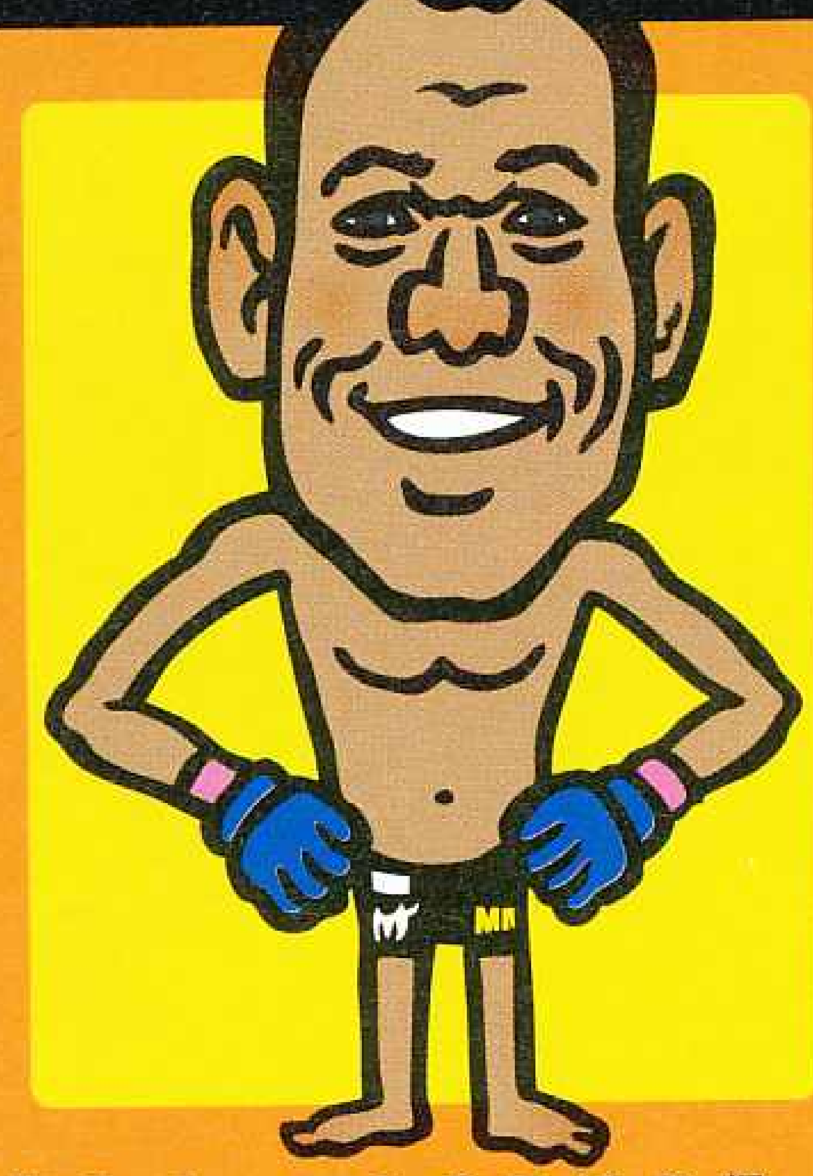






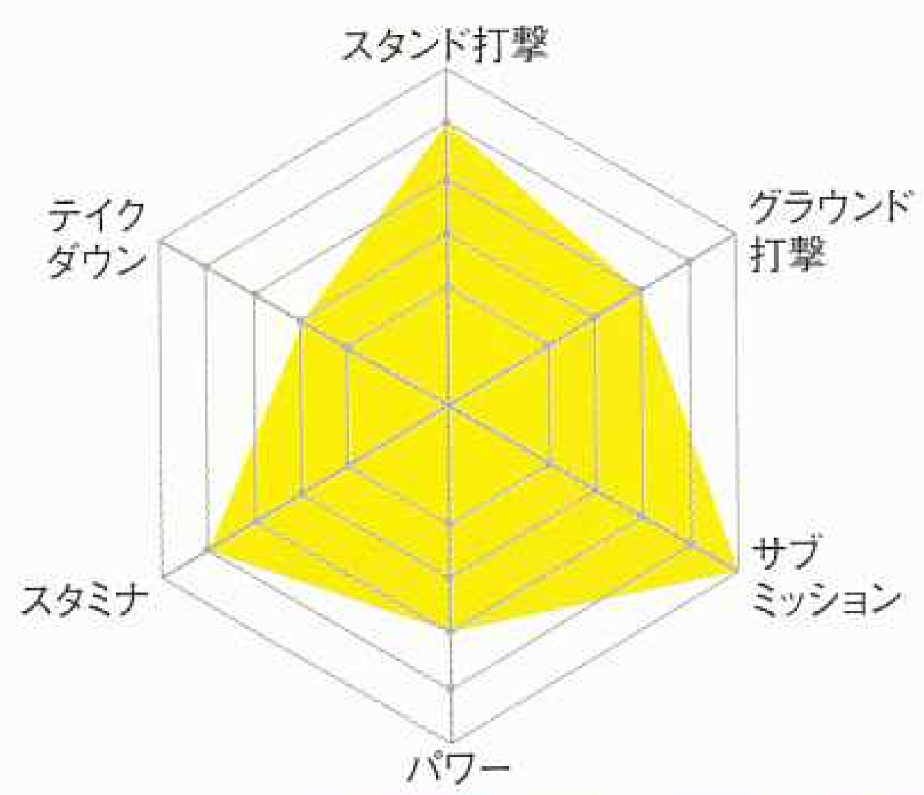
ANTONIO ROGERIO NOGUEIRA

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ



スピニング・チョークの開発者 グランド・テクニックはトップクラス！

選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	ブラジリアントップチーム
生年月日	1976年06月02日
出身地	ブラジル・リオ デ ジャネイロ
身長／体重	191 cm／92.8 kg
バックボーン	ブラジリアン柔術
PRIDE戦績	6勝0敗
タイトル歴	'99 ブラジリアン柔術世界選手権無差別級3位 アマチュアボクシング・バイア州選手権優勝

過去の戦績

PRIDE.29	2005.02.20	
○vs アリスター・オーフレイム		3R終了 判定3-0
PRIDE 武士道 其の四	2004.07.19	
○vs 中村和裕		2R終了 判定2-1
男祭り2003	2003.12.31	
○vs 桜庭和志		3R終了 判定3-0
PRIDE.25	2003.03.16	
○vs 中村和裕		2R 3分30秒 腕ひしぎ逆十字固め
PRIDE.24	2002.12.23	
○vs ガイ・メッツァー		3R終了 判定2-1

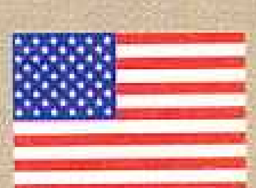
双子の兄・ミノタウロがヘビー級王座を狙うなら、弟はミドル級の頂点を目指す。どうしても兄の活躍に隠れがちだが、PRIDEではここまで6連勝中。打撃優位のPRIDE戦線で、柔術の意地を見せたいところだ。

セールスポイント

グラウンド・テクニックにおいてはGP参加選手中でもトップクラス。スピニング・チョークを開発したのはホジェリオだとも言われている。桜庭戦では打撃でペースを掴むなど、オールマイティな強さも身につけている。どんな展開になっても勝負を捨てない粘りも、土壇場で効果を発揮するはず。

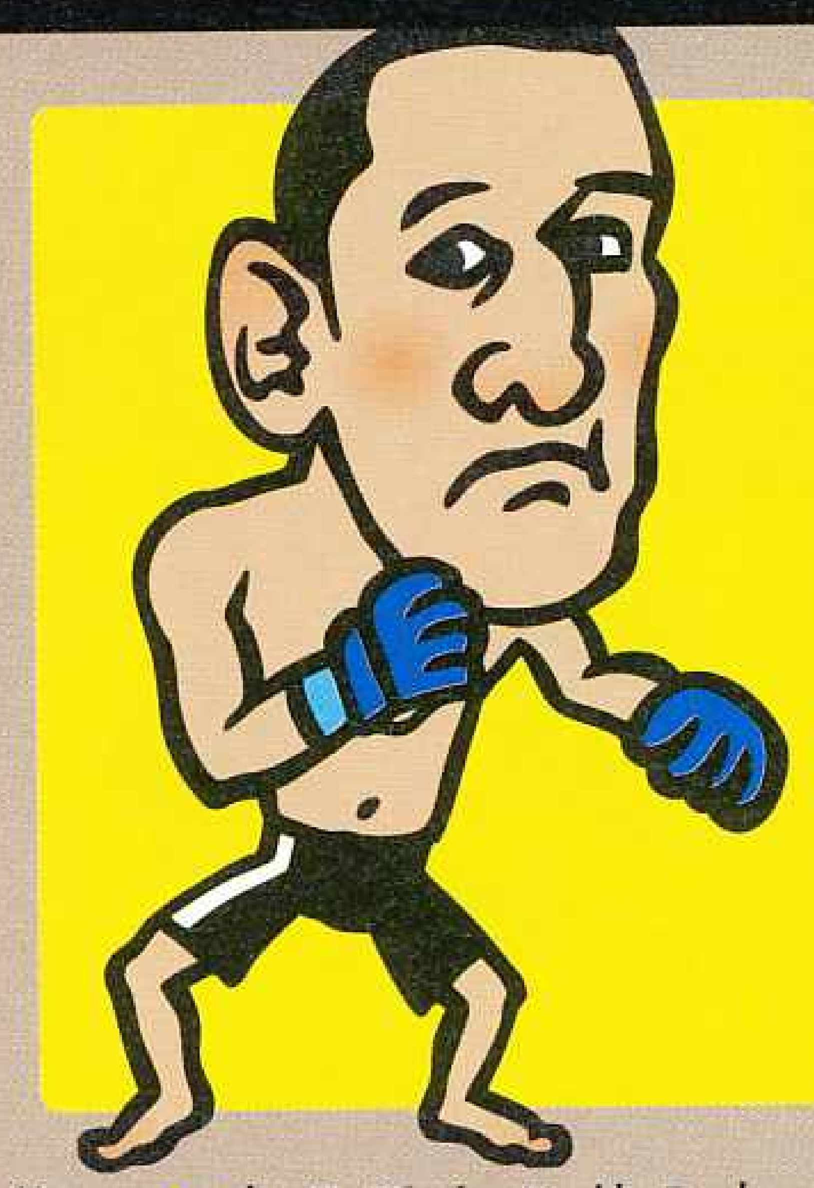
ウィークポイント

ここまで本格的なストライカーとの対戦はアリスター戦の一回だけ。シュート・ボクセ勢のような破格のラッシュに直面したときこそ真価を問われるだろう。大崩れしないが、〝極め〟に兄のようなキレが感じられないのもマイナス・ポイントか。



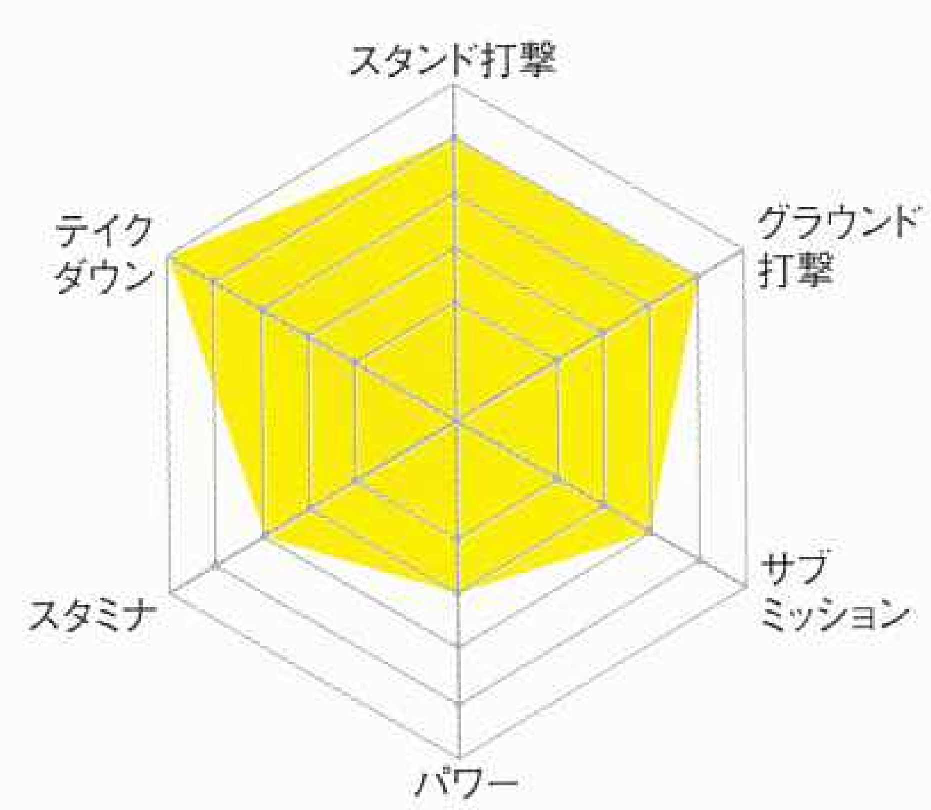
DAN HENDERSON

ダン・ヘンダーソン



レスリング＋打撃の第一人者!! 格闘エリートがPRIDEの頂点へ！

選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	チーム・クエスト
生年月日	1970年08月24日
出身地	アメリカ・カリフォルニア州
身長／体重	180 cm／90 kg
バックボーン	レスリング
PRIDE戦績	7勝3敗
タイトル歴	UFCミドル級トーナメント優勝 リングスKOKトーナメント初代王者

過去の戦績

PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-	2004.12.31	
○vs 近藤有己		3R終了 判定2-1
PRIDE.28	2004.10.31	
○vs 中村和裕		1R 1分15秒 KO
PRIDE GP2003決勝戦	2003.11.09	
○vs ムリーロ・ブスタマンチ		1R 0分53秒 KO
PRIDE.25	2003.03.16	
○vs 大山峻護		1R 3分27秒 KO
PRIDE.24	2002.12.23	
●vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ		3R 1分49秒 腕ひしぎ逆十字固め

第一回KOKトーナメントを制した大物ファイターが、待望のGP初出場。グレコローマン・レスリングで2度の五輪出場を果たし、UFCライトヘビー級トーナメントでも優勝している格闘技界きっての〝トップアスリート〟だけに、この男の勝敗がトーナメントの行方を大きく左右するかもしれない。

セールスポイント

レスリング＋打撃という、総合格闘技で勝つための重要な条件を完璧に満たしている選手。差し合いにめっぽう強く、相手の首根っこを掴んで殴る〝クリンチ打撃〟は相手に致命傷を与える。五輪アスリートだけに、闘いに向かう真摯な姿勢、緻密なファイト・プランもポイントが高い。今年35歳でありながら、3R戦い抜くスタミナも充分。

ウィークポイント

大晦日の近藤戦では、体調不良もあってかヘロヘロになる醜態を晒してしまった。まずは万全のコンディションで試合に臨むことだろう。

今年の「レ
21」も大盛況
センターには
詰めかけチケッ
ルとか。同会
額の売上げ。
20」の売上げ
ら、去年も今
ウスの証なのだ
ベストバウ
ングルの声高
たのが今年1
われた2月の
だった。席上で
らが本物のシ
りさせようじゃ
赤ら顔で怒る
して2人を分け
は今から思えば
わせれば、会見
ィーバを通じて
せろ！」とカー
「スーパース
ければならない
ビンス・マク
の定義がこれが
はスーパースタ
す。思いがけぬ
M21」のマニ
る。WWEとは
自体がエニィウ
ような成り立ち
マ性。緊張感。
嘆してしまう。
今年の「W
んだのが一連の
ィCF。ユージ
る「フォレスト
イカーの「ダー
の公式WEB
たが、筆者がべ
Hとリック・

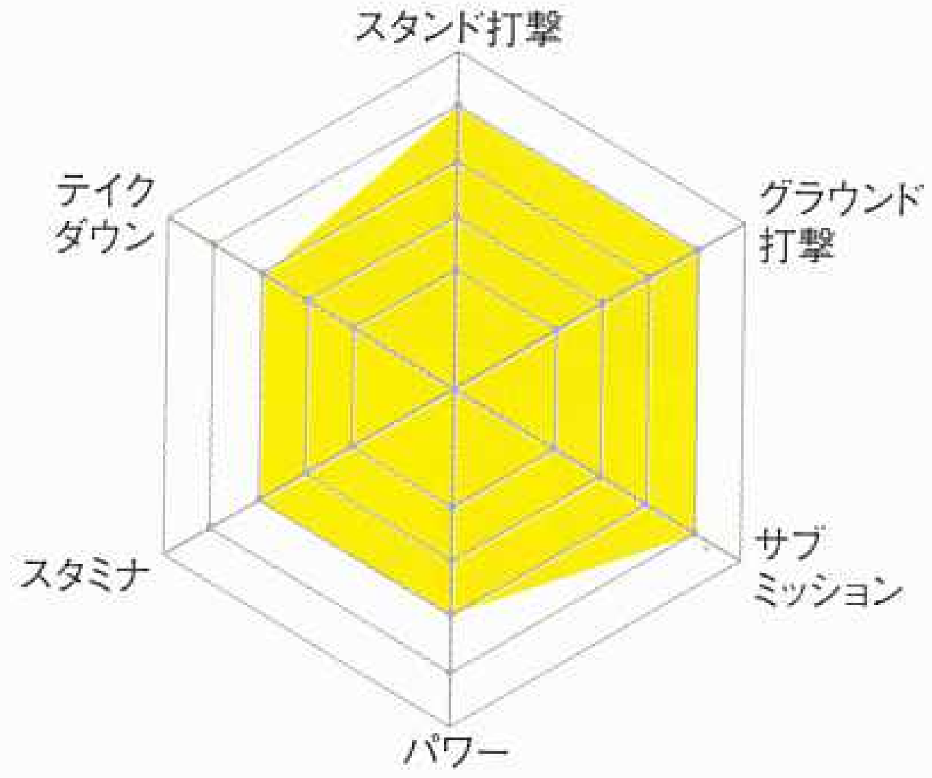
VITOR BELFORT

ビクトー・ベウフォート

シウバをKOで倒したUFCの刺客！ ベウフォートがUFCの強さを証明するのか？



選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	フリー
生年月日	1977年04月01日
出身地	ブラジル・リオ デ ジャネイロ
身長／体重	183 cm／90 kg
バックボーン	ブラジリアン柔術
MMA戦歴	12勝5敗
タイトル歴	UFCライトヘビー級王者 アブタビ01年無差別級3位

過去の戦績

UFC 51　2005.02.05 ●VS ティト・オーティス	3R終了 判定2-1
UFC 49　2004.08.21 ●VS ランディ・クートゥアー	3R終了時 TKO
UFC 46　2004.01.30 ○VS ランディ・クートゥアー	1R 0分49秒 TKO
UFC 43　2003.6.5 ○VS マービン・イーストマン	1R 1分10秒 KO
UFC 37.5　2002.06.20 ●VS チャック・リデル	3R終了 判定3-0

UFC代表として乗り込んでくるのは、前ライトヘビー級王者のビクトー。弱冠20歳でUFCヘビー級トーナメントを制した早熟の天才児であり、かつてはPRIDEでも活躍。UFCでさらに名を挙げたいま、満を持してPRIDE逆上陸を果たす。

セールスポイント

かつての師匠カーウソンに「グレイシーの名を使ってもいい」と免許皆伝された柔術の使い手でありながら、ボクシングも超のつく一級品。試合開始直後、パンチ連打で一気にカタをつける爆発力がある。UFCでは若手時代のヴァンダレイ・シウバをわずか44秒でKOした実績もあり。シウバへの得意意識、桜庭和志へのリベンジと、モチベーションも高い。

ウィークポイント

立ってよし寝てよしで穴がないが〝特にこれ〟というモノがない。UFCでもティト、クートゥアーに敗れている。久々となるリングでのファイトもビハインドになるのでは？

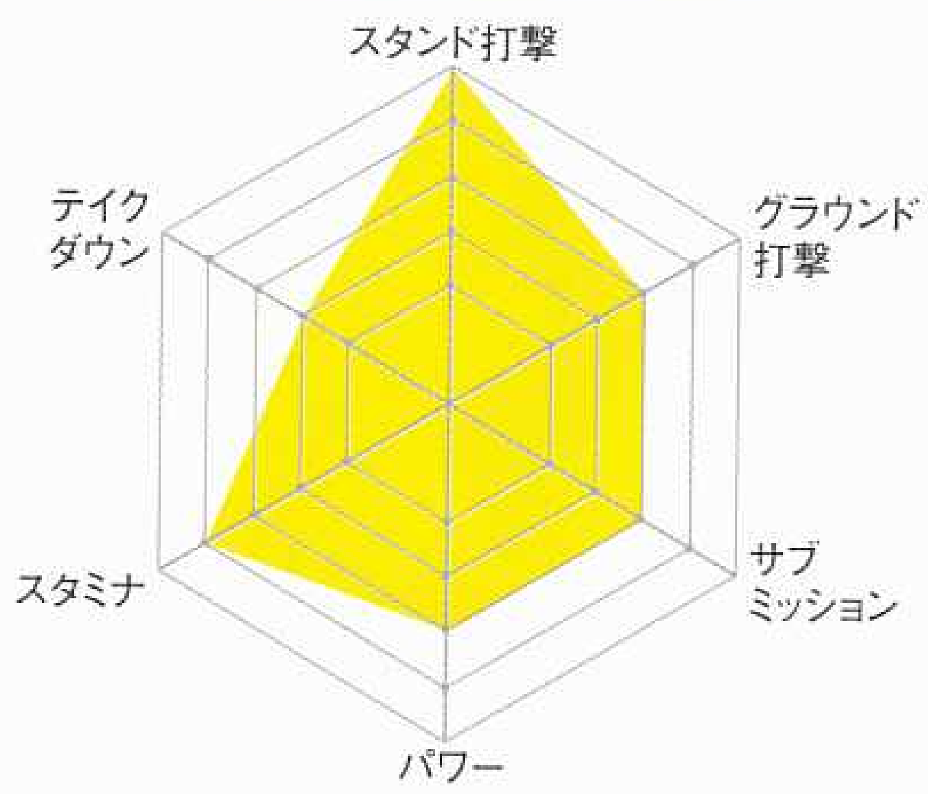
ALISTAIR OVEREEM

アリスター・オーフレイム

〝ダッチ・サイクロン〟ミドル級GPへ飛来!! アリスターのヒザがベウフォートを襲う!!



選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	ゴールデン・グローリー
生年月日	1980年05月17日
出身地	オランダ・ユトレヒト
身長／体重	195 cm／95 kg
バックボーン	キックボクシング
PRIDE戦績	3勝2敗
タイトル歴	2H2H ライトヘビー級王者

過去の戦績

PRIDE.29　2005.02.20 ●VS アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ	3R終了 判定3-0
PRIDE.28　2004.10.31 ○VS 金原弘光	2R 3分52秒 TKO
PRIDE.24　2002.12.23 ○VS 橋本友彦	1R 0分36秒 TKO
PRIDE GP2003開幕戦　2003.08.10 ●VS チャック・リデル	1R 3分09秒 KO
PRIDE.26　2003.06.08 ○VS マイク・バットマン・ベンチッチ	1R 3分44秒 KO

格闘王国オランダの希望の星。このところ苦しい闘いが続くオランダ勢だけに、アリスターにかかる期待は大きい。まだ荒削りな面もあるが、それだけに今大会での大化けを予想する関係者も多い。

セールスポイント

〝ダッチサイクロン〟とも称される、長身から繰り出す大胆な打撃が最大の武器。特に跳躍力を活かした飛びヒザ蹴りの威力は抜群だ。ツボにはまれば、ファースト・コンタクトで押し切ってしまうだけの力がある。前回のミドル級GPではUFC最強のストライカー、チャック・リデルをあと一歩のところまで追い込んでもいる。

ウィークポイント

打撃は超一流だが、それだけが特性ともいえるのが辛いところ。秒殺KOがある一方で、ホジェリオに判定負けしたようにグラウンドに持ち込まれると厳しいだろう。潜在能力を活かしきるだけの成長を果たしているかがカギになる。

IGOR VOVCHANCHYN

イゴール・ボブチャンチン



"北の最終兵器"が"不動心"と激突！ロシアンフックが炎を吹く!!

2000年のGPで準優勝、ヘビー級で数々のKO劇を演出してきた元祖・PRIDEの打撃王がミドル級に転向。げっそりとこけた頬は凄味を感じさせずにはおかない。昨年のヘビー級GPはケガのため欠場、戦績も芳しくなかったが、ミドル級での大復活に期待がかかる。

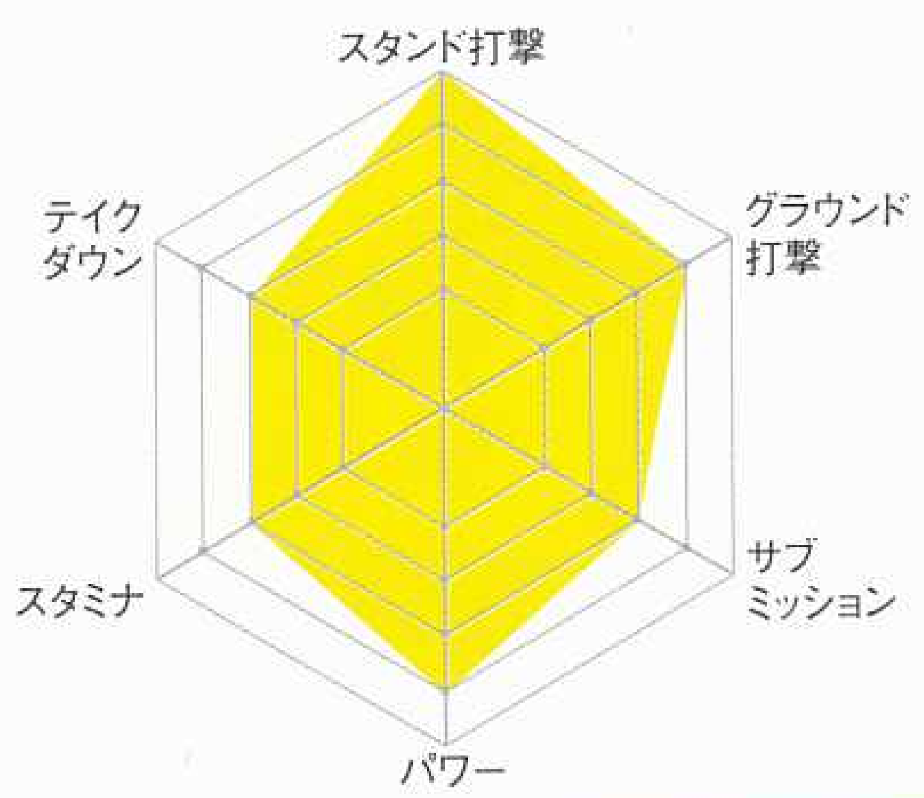
セールスポイント

減量してのミドル級参戦は大正解。ロシアンフックの威力はそのままに、スピードは格段にアップ。高橋義生戦で見せた動きは戦慄そのものだった。体格面での有利もあり、相手に与える圧力は相当なものだろう。この男を優勝候補に推す声も多い。

ウィークポイント

打撃は言うまでもなく破格だが、スタイルとしては"大砲"型。ミドル級ならではの連打にどう対抗していくか。グラウンドで下になったときの対処も、トップどころとの対戦では疑問視されるところ。守りに入ることなく勝ちきることが重要になる。

選手の特徴



PERSONAL DATA

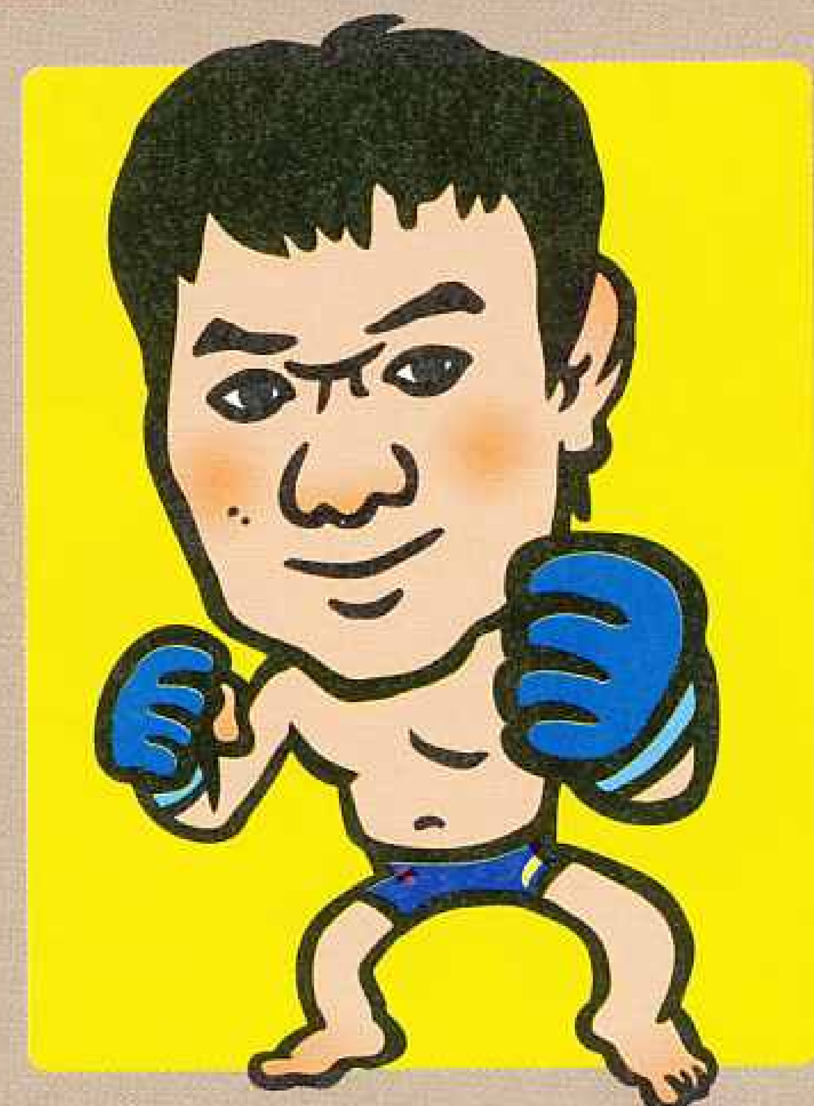
所属	フリー
生年月日	1973年08月06日
出身地	ウクライナ・ハルコフ
身長／体重	176 cm／92.4 kg
バックボーン	キックボクシング
PRIDE戦績	17勝6敗1分
タイトル歴	PRIDE GP2000 トーナメント準優勝／IAKSA世界ヘビー級王者／'96 IVC優勝／'97 アブソリュート・ロシアンオープンカップ3優勝

過去の戦績

PRIDE.29 2005.02.20 ○vs 高橋義生	1R 1分10秒 KO
PRIDE 武士道 其の伍 2004.10.14 ○vs 藤井軍鶏侍	1R 4分02秒 KO
PRIDE.27 2004.02.01 ○vs ダン・ボビッシュ	2R 1分45秒 KO
PRIDE GP2003開幕戦 2003.08.10 ●vs ミルコ・クロコップ	1R 1分29秒 KO
PRIDE.22 2002.09.29 ●vs クイントン"ランペイジ"ジャクソン	1R 7分17秒 KO

KONDO YUKI

近藤有己



"不動心"近藤、世界の舞台へ！日本人ファイター、世界制覇なるか!?

現ライトヘビー級キング・オブ・パンクラスが、ついにGP初出場を果たす。過去にフランク・シャムロック、サウロ・ヒベイロ、マリオ・スペーヒーをKOし、ダンヘンとも互角以上に闘った実力は申し分がない。

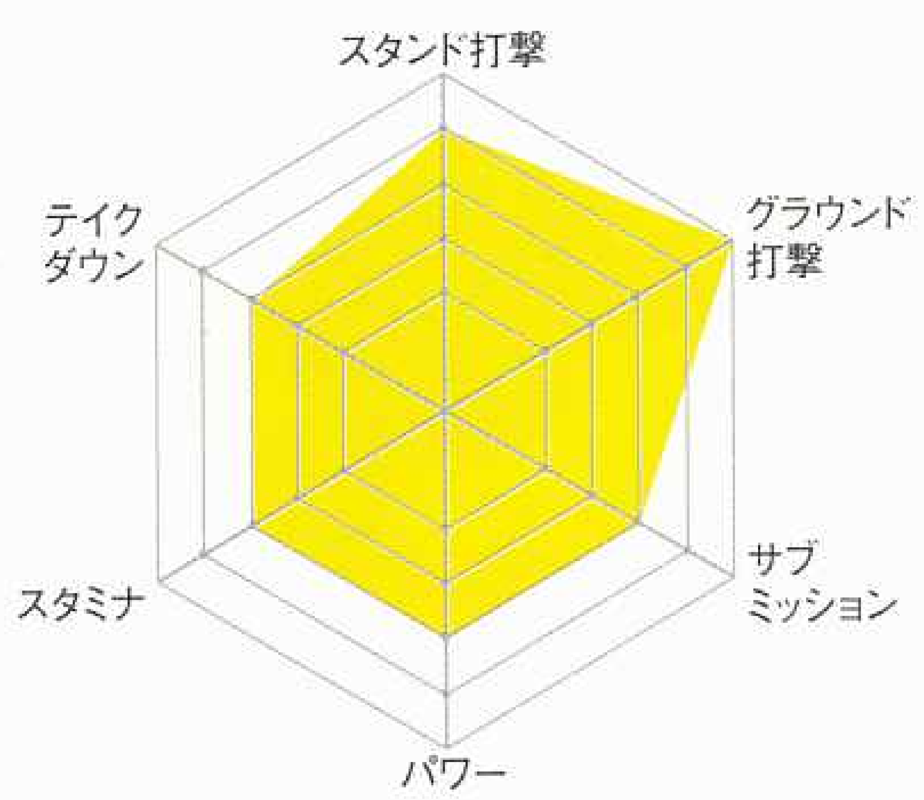
セールスポイント

その打撃力は日本でも最高といっていい。地味に見えながら確実に効かせる"痛い"パンチ、垂直にボディをえぐるヒザは差し合いで効果を発揮する。つまりは"殺し"のカタマリのような男。グラウンドへの対応も成長を重ね、死角はなくなりつつある。日本人で最高位にいくのは、ズバリこの男ではないか。

ウィークポイント

PRIDEでは1勝2敗と負け越し。日本のトップが世界のトップとどこまで闘えるか、ここからが本当の正念場。ファイトスタイルに高い理想を持っているだけに、勝敗よりその理想に殉じてしまうんじゃないかという不安もある。今回は勝ちにこだわれ！

選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	パンクラスism
生年月日	1975年07月17日
出身地	新潟県長岡市
身長／体重	180 cm／88.7 kg
バックボーン	少林寺拳法
PRIDE戦績	1勝2敗
タイトル歴	パンクラス 第3代ライトヘビー級王者 パンクラス 第5&8代無差別級王者

過去の戦績

PRIDE 男祭り 2004 -SADAME- 2004.12.31 ●vs ダン・ヘンダーソン	3R終了 判定2-1
PANCRACE 2004.11.07 ○vs エバンゲリスタ・サイボーグ	3R終了 判定3-0
PRIDE GP2004 FINAL ROUND 2004.08.15 ●vs ヴァンダレイ・シウバ	1R 2分46秒 KO
PANCRACE 2004.06.22 ○vs シャノン"ザ・キャノン"リッチ	1R 1分01秒 ヒザ十字固め
PANCRACE 2004.03.29 ○vs スティーブ・ヒース	1R 4分01秒 チョークスリーパー

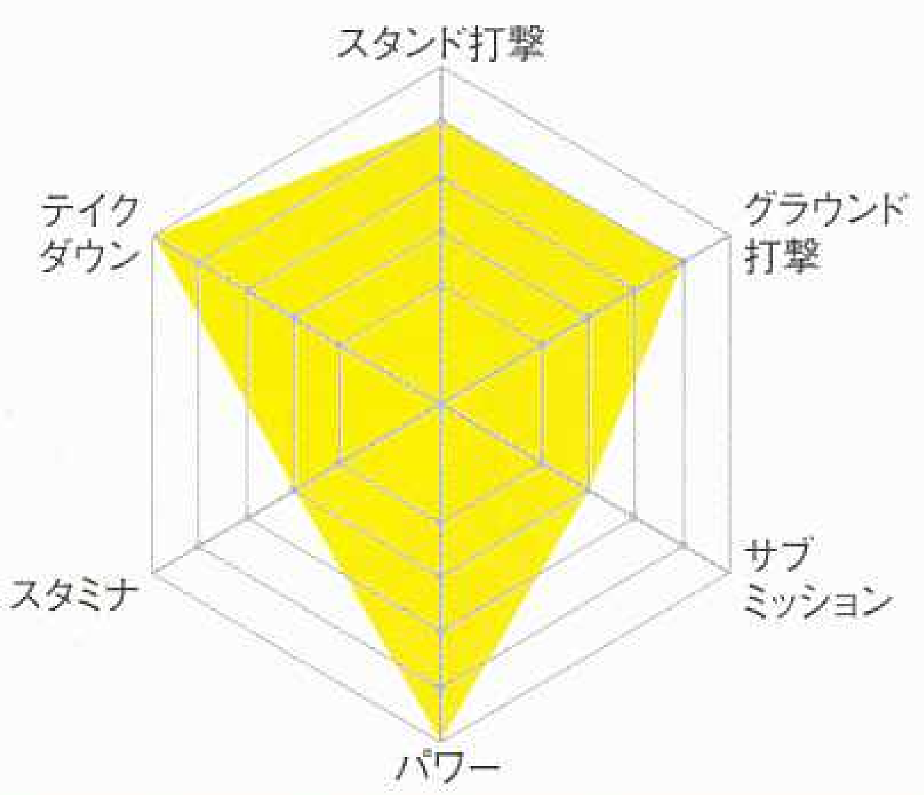
KEVIN RANDLEMAN

ケビン・ランデルマン

ドンキーコング、ミドル級でも大暴れ！ミドル級GPをランデルマンが駆け回る



選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	ハンマーハウス
生年月日	1970年08月10日
出身地	アメリカ・オハイオ州
身長／体重	178 cm／93 kg
バックボーン	レスリング
PRIDE戦績	4勝5敗
タイトル歴	UFCヘビー級王者 レスリング　フリースタイル全米選手権

過去の戦績

大会	日付	対戦相手	結果
PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-	2004.12.31	●VS ミルコ・クロコップ	1R 0分41秒 フロントチョーク
PRIDE GP2004 FINAL ROUND	2004.08.15	●VS ロン・ウォーターマン	1R 7分44秒 V1アームロック
PRIDE GP2004 2nd ROUND	2004.06.20	●VS エメリヤーエンコ・ヒョードル	1R 1分33秒 アームロック
PRIDE GP2004 1st ROUND	2004.04.25	○VS ミルコ・クロコップ	1R 1分57秒 KO
PRIDE GP2003決勝戦	2003.11.09	●VS 桜庭和志	3R 2分36秒 腕ひしぎ逆十字固め

昨年のヘビー級GPでミルコをKO、ヒョードルをバックドロップで投げきって台風の目となった〝ドンキーコング〟がミドル級GPにも参戦。あらゆる意味で破天荒なこの男の魅力は、もはやPRIDEには欠かせないものになっている。みんなでAボタン連打！

セールスポイント

とにかくもう身体能力！　メチャクチャな跳躍力、鋼のような筋肉に裏打ちされたパワーはミドル級でより猛威を振るうことになる。ミルコを倒したパンチ、パウンドの連打はツボにはまったら誰も止められないだろう。加えて確かなレスリング能力、名参謀マーク・コールマンの存在も見逃せないところだ。

ウィークポイント

関節技、ポジショニングは明らかな減点材料。ハマれば怖いが、萎えるときはとことん萎えるメンタル面も穴になる。イエローカードを出されたときにも冷静でいられるかどうか……。

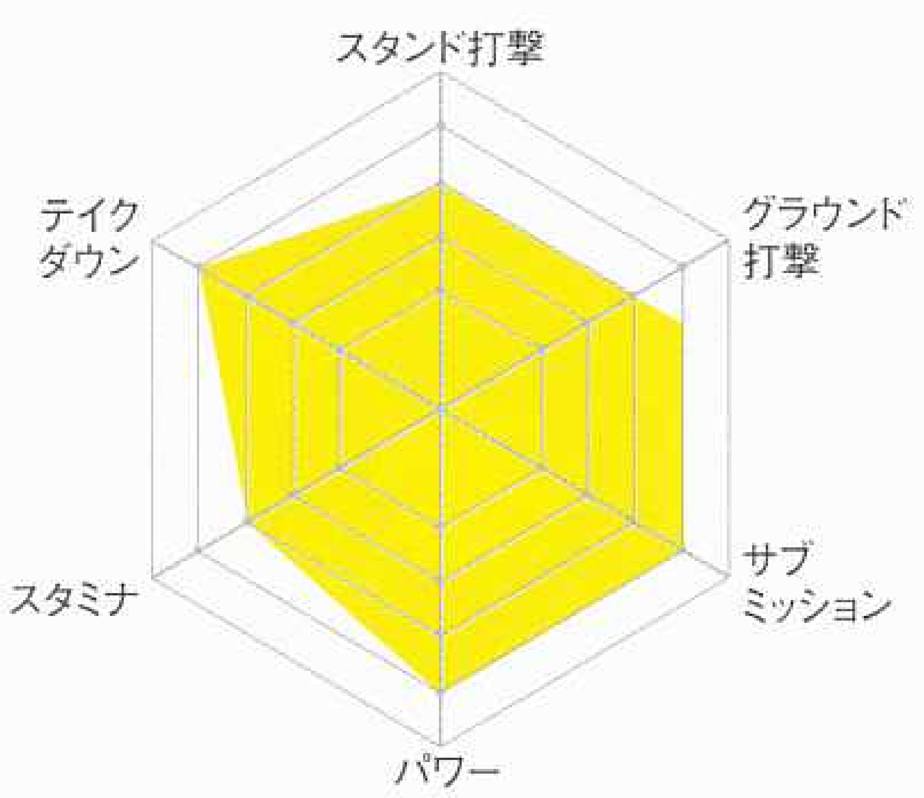
NAKAMURA KAZUHIRO

中村和裕

吉田の一番弟子から、〝中村和裕〟へ！ミドル級グランプリへカズゴール!!



選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	吉田道場
生年月日	1979年02月21日
出身地	広島県福山市
身長／体重	178 cm／92.8 kg
バックボーン	柔道
PRIDE戦績	5勝3敗
タイトル歴	柔道　全日本実業団個人選手権

過去の戦績

大会	日付	対戦相手	結果
PRIDE.29	2005.02.20	○VS ステファン・レコ	1R 0分55秒 TKO
PRIDE.28	2004.10.31	●VS ダン・ヘンダーソン	1R 1分15秒 KO
PRIDE GP2004 FINAL ROUND	2004.08.15	○VS ムリーロ・ブスタマンチ	3R終了 判定3-0
PRIDE 武士道 其の四	2004.07.19	●VS アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ	2R終了 判定2-1
PRIDE 武士道 其の参	2004.05.23	○VS ハリッド・ディ・ファウスト	1R 4分45秒 腕ひしぎ逆十字固め

これまで派手な活躍はしてこなかったが、ムリーロ・ブスタマンチに勝利するなど着実に実績を挙げ、GP参戦権を掴んだ。ブラジル単独修行を敢行するなど〝吉田の一番弟子〟という立場から脱却しようという姿勢を打ち出している。「GPは僕を中心に回ります」とまで言ってのけた覚悟（？）に期待。

セールスポイント

柔道出身だが、デビュー戦から道衣を脱いで〝総合対応〟しており、完成度は高い。立ってよし寝てよし、極めだけでなくパウンドで確実にポイントを取れるのも強みだろう。総合的なバランスという意味では、参加日本人選手中トップかもしれない。

ウィークポイント

穴がない、というだけで勝ち上がれるほどGPは甘くないし、外国勢のレベルは低くない。パワフルかつ嵐のような外国勢の猛攻を食らったときに、どこまでさばくことができるか。ここ一番での粘り強さが問われる。

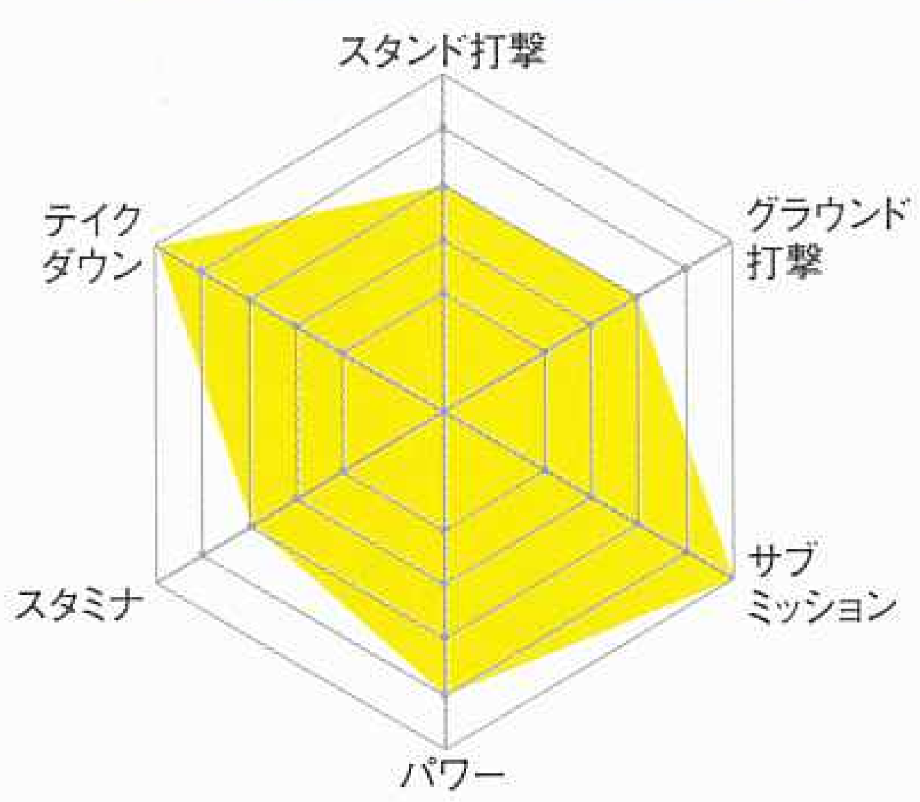
37年の歴史に幕
全女

RICARDO ARONA
ヒカルド・アローナ

寝技激戦区の潰し合い、スタート！ トップチームの威信を守ることは出来るか？



選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	ブラジリアントップチーム
生年月日	1978年07月17日
出身地	ブラジル・リオ デ ジャネイロ
身長／体重	180 cm／90 kg
バックボーン	ブラジリアン柔術
PRIDE戦績	4勝1敗
タイトル歴	アブダビ01年無差別級&-98Kg級王者 リングス ミドル級王者／柔術世界選手権王者

過去の戦績

PRIDE.28 2004.10.31 ○vs セルゲイ・イグナチェフ	1R 8分37秒 チョークスリーパー
PRIDE GP2004 2nd ROUND 2004.06.20 ●vs クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン	1R 7分32秒 KO
PRIDE.23 2002.11.24 ○vs ムリーロ・ニンジャ	3R終了 判定3-0
PRIDE.20 2002.04.28 ○vs ダン・ヘンダーソン	3R終了 判定2-1
PRIDE.16 2001.09.24 ○vs ガイ・メッツァー	3R終了 判定2-1

リスターがアブダビ無差別級王者なら、アローナはスーパーファイト王者（5月のスーパーファイトは事実上この一戦へスライド）。PRIDEでも、5戦して敗北はわずかに一つ。前回のミドル級GPはケガで無念の欠場。今回はその雪辱を果たしたいところだ。

セールスポイント

ビクトーと並ぶ、ブラジリアン柔術が生み出した〝VT対応〟のヴィンテージ。確かなテクニックはもちろん、弾丸のようなタックルで間合いを潰し、自分のペースに持ち込む戦法も確立されている。ランペイジ戦ではパワーボムでKOされたが途中までは圧倒。ダンヘン、ニンジャに僅差ながら勝った〝しぶとさ〟が最大の武器。

ウィークポイント

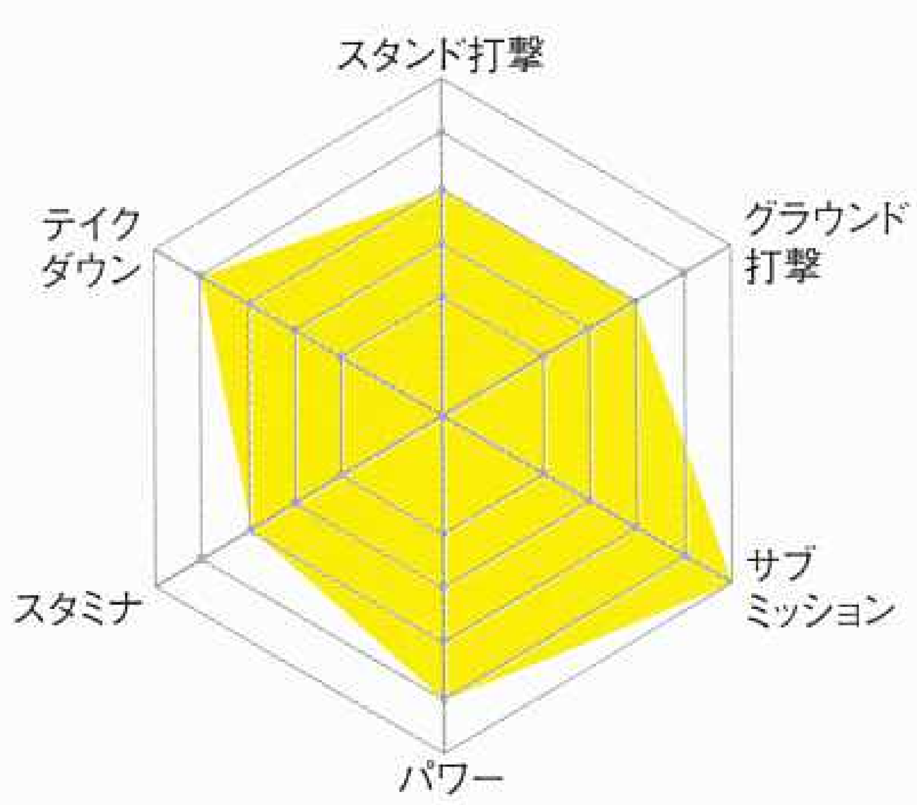
穴はないが爆発力もない。実績はあるが〝あのときのアレは凄かった！〟というインパクトを残していないのだ。自分のペースに持ち込めなければグダグダになって沈没、というパターンは充分にあり得る。

DEAN LISTER
ディーン・リスター

アブダビコンバット王者対決、実現!! トップチームとの寝技対決に挑む！



選手の特徴



PERSONAL DATA

所属	ファビアノ・サントス柔術
生年月日	1976年02月13日
出身地	アメリカ・サンディエゴ
身長／体重	183 cm／92.9 kg
バックボーン	
MMA戦績	7勝3敗
タイトル歴	03年アブダビ無差別級王者 KOTCミドル級王座

過去の戦績

PRIDE 武士道 其の六 2005.04.03 ○vs 小路 晃	1R 3分13秒 三角絞め
PRIDE 武士道 其の四 2004.07.19 ●vs アマール・スロエフ	2R終了 判定2-1
KOTC.31 2003.12.06 ●vs ジェレミー・ホーン	判定
KOTC.29 2003.09.05 ○vs ジェームス・リー	腕ひしぎ逆十字固め
KOTC.25 200306.29 ○vs ブライアン・スリーマン	腕ひしぎ逆十字固め

アブダビ・コンバット無差別級優勝、『キング・オブ・ザ・ケイジ』王者という実力者が、いよいよPRIDEで本格的に暴れ回る。ラストワン・トーナメントを勝ち上がってのワイルドカード参戦だが、その実力は他の選手になんら劣るものではない。

セールスポイント

4・3『武士道』ラストワン・トーナメントで見せた寝技の実力は、まさにホンモノといってよかった。03年のアブダビ・コンバットではネイサン・マーコート、サウロ・ヒベイロらを破っている。分厚い肉体を誇りながら、下から柔らかい動きができるのは強み。加えてパンチも得意とくれば、トーナメント台風の目候補になる可能性も出てくる。

ウィークポイント

小路戦で見せたような動きが、果たしてミドル級トップファイター相手にもできるのか。それが最大のポイント。じっくり寝技勝負を挑めるほど、PRIDEのリングは優しくない。

PRIDE GP MIDDLEWEIGHT 2005

識者＆選手による大予想
（50音順）

I編集長
井上義啓

本命　ヴァンダレイ・シウバ
対抗　マウリシオ・ショーグン
穴　吉田秀彦、桜庭和志

【コメント】本命は、やはりシウバ。吉田がシウバに勝ってもダメージは大きいだろうから、次の6・26の準決勝では勝てないと見た。本当は勢いを買って、本命＝ショーグンとしたいところだが、榊原社長のシブイ顔が頭をかすめたのでやめにした。穴は吉田、桜庭の2人。もちろん、ケガとの相談。この世界、明日はどうなるかわからない。幸運の女神を道連れに、ヒデとサクが日本人選手の意地を見せてほしい。

ボヤキング
金原弘光

本命　ヴァンダレイ・シウバ
対抗　イゴール・ボブチャンチン
穴　ケビン・ランデルマン

【コメント】ホントは予想したくないんだけどな～。だってさ「1回戦出る前に負けてる男が偉そうに予想するな」って言われそうじゃん（笑）。まぁ、仕事だからしょうがなくやるけどさ。でも実際のところトーナメント表が決まらないとわからないよ。組み合わせって凄く重要だからさ。その中でもあえて本命を挙げるなら、やっぱりシウバかな。それで、そのシウバを倒せそうなヤツと考えると、ボブチャンチンが一番手で、あとはランデルマンも苦手なタイプだと思うんだよ。だからその2人が対抗と穴だろうね。これだけのメンバーだから、日本人はキツいと思うけど、なんとか頑張ってほしいよ。4人とも実力はあるから、最初に一人勝てば、その勢いでみんな勝つってこともあるからね。ほら、KOKのときも俺と山本（宜久）さんとTKが揃って決勝トーナメント進出したじゃん。だから、誰がやるかわからないけど、最初に出てくる日本人には特に頑張ってほしいね。それよりさ～、俺の次の試合いつ組まれるのかな～。

毒舌サンボ姫
しなしさとこ

本命　ヴァンダレイ・シウバ
対抗　ダン・ヘンダーソン
穴　桜庭和志

【コメント】シウバは打撃、寝技の対処、どこをとっても穴がない。心の強さも天下逸品。本当は吉田選手に勝ってもらいたいけど、絶対王者はトーナメントでも絶対的な強さを発揮するんじゃないかなぁ。対抗のダンヘンは、驚異的なスタミナとポジションキープ力、強烈な打撃で決勝まで勝ち残ると思います。ショートアッパーで相手の心を折りまくり、四点ポジションでの膝でKOの山を築くんじゃないかしら。大穴は桜庭さん。ヒザの具合もいいみたいだし、インタビューで桜庭選手自身が「誰でも極めれる！」と言ってたので期待！　やっぱり『PRIDE』は桜庭選手が活躍しないと面白くないと思います。全体的に、全員が本命、全員が対抗、大穴なので、予想はとても難しいですね。

デカいことはいいことだ
ジャイアント・シルバ

本命　チビ
対抗　チビ
穴　チビ

【コメント】おう。俺様だ。世界一デカイ男ジャイアント・シルバ様だゾ。残念ながら俺様は減量に失敗してこのチビ級GPには出られない。みんなゴメンな。で、優勝者予想だろ？　まぁ誰が優勝しようが所詮チビには変わりはないんだゾ。来年は、身長2メートル30センチ以上限定のジャイアント級GPを俺様主催でやるから期待しているんだゾ。以上、俺様からでした。

ハッスル宣教師
ターザン山本！

本命　なし
対抗　なし
穴　なし

【コメント】大、大、大混戦。ミドル級GPに本命なしだ。競馬にたとえるとゴール横で1着から5着までが、すべてハナ、ハナ、ハナの写真判定になるようなもの。実力伯仲の一長一短。帯に短したすきに長し。なにもかもが紙一重の世界。KO勝ち、一本勝ちは至難の業だ。全試合判定決着もあると見た。よって、ミドル級は玄人好み、専門家好み、格闘家好みの試合になる可能性（危険性？）あり。ヘビー級GPの開放感のある迫力（大味？）兼スケール感（あっけなさ？）に対抗するには、何が必要なのか？　何が足りないのか？　それがテーマだ。素人好みによる表の本命、玄人好みによる裏の本命と、本命に2つありだ。ダブルスタンダードがミドル級の魅力か、それともアキレス腱か？　ミドル級は大穴予想しか意味なし。これが私の自論。大穴の本命は近藤だ。大穴の対抗が無難にランデルマンとして、大穴中の大穴が桜庭。ミドル級は大穴発見を苦しみとすべしなのだ。

殺戮ピラニア
長南亮

本命　吉田秀彦
対抗　ヴァンダレイ・シウバ
穴　中村和裕

【コメント】予想というより個人的な願望も入っていますね。普段から一緒に練習している吉田さんやカズに頑張ってもらいたいし、ヤバいガイジンがたくさん出ますけど、2人とも強いのは肌でわかっていますから。それにカズはブラジルのファス道場やノヴァウニオンで修行してきた成果が楽しみです。あと、こないだの『武士道』で高阪さんがあのヒョードルと必死に闘う姿を見て、凄く勇気づけられたところもあるので、吉田さんとカズにも日本人選手の代表としてぜひガイジンをブッ倒してもらいたいです。あ、もちろんボクも次の『武士道』でニーノをブッ飛ばしてやりますよ。グフフ…。

リトアニア・ブシドー代表
ドナタス・シマナイティス

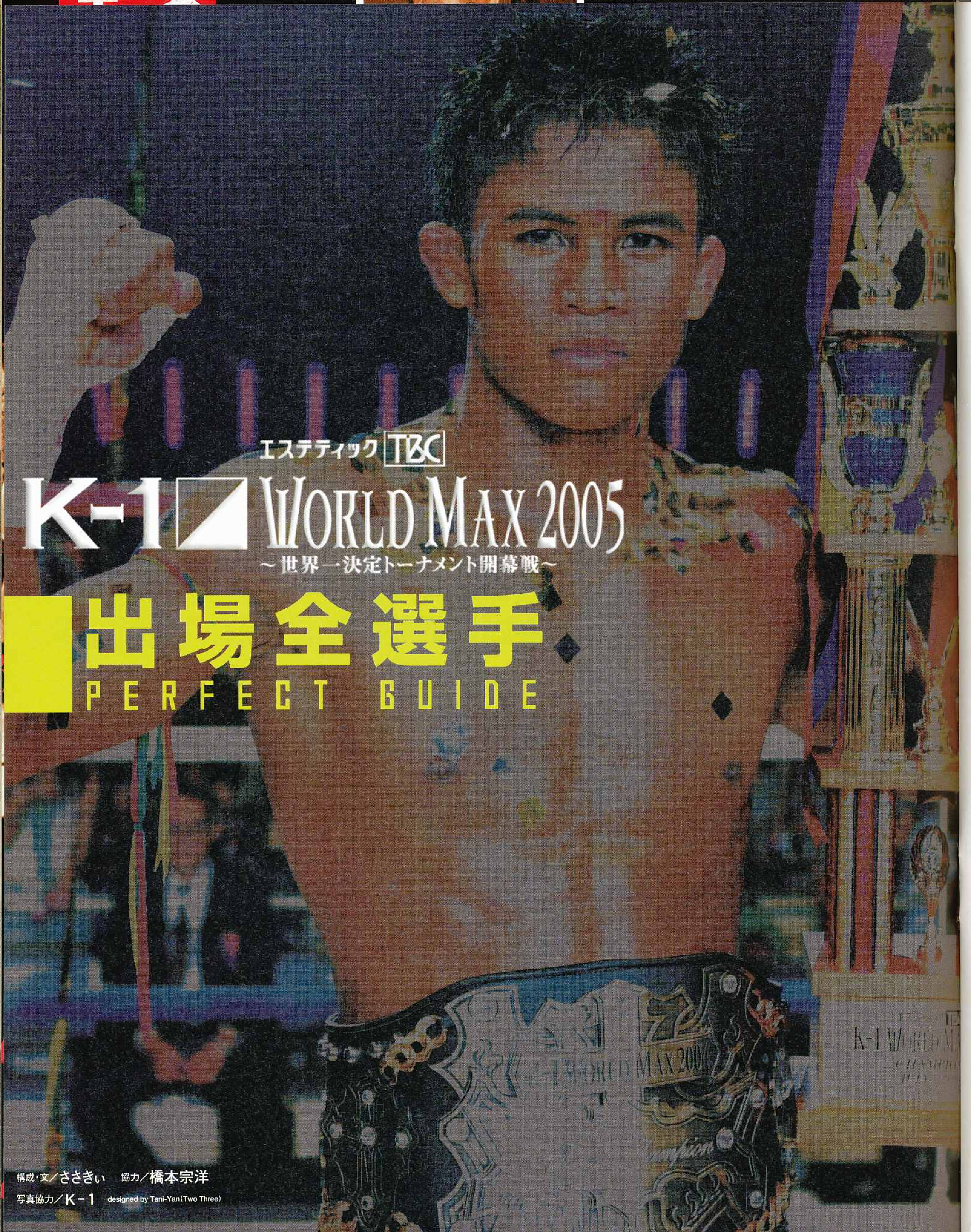
本命　ヴァンダレイ・シウバ
対抗　吉田秀彦
穴　ダン・ヘンダーソン

【コメント】強豪ばかりが並んでいて、誰が優勝してもおかしくないでしょう。正直なところ予想はしづらいのですが、強いて挙げるとすれば、やはりシウバになるでしょうか。とにかく、いい試合を期待してます。

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

本命　クイントン・ランペイジ・ジャクソン
対抗　ヴァンダレイ・シウバ
穴　ヒカルド・アローナ、ダン・ヘンダーソン

【コメント】なんと言っても私はランペイジに注目してます。彼は試合をするたびに必ず成長してきています から、今回もきっと試合のたびに驚かせてくれるんじゃないかな。彼は最初は怪力だけだったのに、パンチを中心にどんどんテクニックを覚えていってますからね。それでいて怪力はそのままだから、ある意味、〝理想のボブ・サップ〟を体現してるんじゃないかと思います。というわけで、私の直感では、決勝はシウバとランペイジの3度目の一戦となり、ランペイジが優勝すると思います！



エステティック TBC

K-1 WORLD MAX 2005

～世界一決定トーナメント開幕戦～

出場全選手 PERFECT GUIDE

構成・文／ささきぃ　協力／橋本宗洋

写真協力／K－1　designed by Tani-Yan(Two Three)

今年の「レ
21」も大盛況
センターには
詰めかけチケ
ルとか。同会
額の売上げ。
20」の売上げ
ら、去年も今
ウスの証なの
　ベストバウ
ングルの声高
たのが今年1
われた2月の
だった。席上
らが本物のシ
りさせようじ
赤ら顔で怒る
して2人を分
は今から思えば
わせれば、会目
ィーバを通じ
せろ！」とカー
「スーパース
ければならない
　ビンス・マ
の定義がこれ
はスーパース
す。思いがけ
M21」のマニ
る。WWEと
自体がエニィ
ような成り立
マ性。緊張感。
嘆してしまう。
　今年の「W
んだのが一連の
ィCF。ユージ
る「フォレスト
イカーの「ダー
の公式WEB
たが、筆者がベ
Hとリック・

MASATO
魔裟斗

JAPAN

所　　属
シルバーウルフ

生年月日
1979.3.10

身長／体重
174cm／69.5kg

タイトル
K-1 WORLD MAX 2003　王者
K-1 WORLD MAX 2004　準優勝

過去3大会のK-1戦績

2004.12.31
○vs 山本"KID"徳郁　▶3R判定 2-0

2004.7.7
●vs ブアカーオ・ポー.プラムック　▶延長R 判定3-0

2004.4.7
○vs セルカン・イルマッツ　▶3R判定3-0





CHI BIN LIM
イム・チビン

KOREA

所　　属
K.pプロモーション

生年月日
1979.10.9

身長／体重
175cm／70.0kg

タイトル
韓国格闘技協会ライト級王者
世界プロテコンドー王者

対戦成績・全日本キックでの主な戦績

49戦43勝5敗1分／28KO

2003.3.8(全日本キック)
○vs小林聡　▶2R 1:53 KO ※パンチ連打

一昨年王者・魔裟斗が再度の王者返り咲きに挑む

　ブアカーオへのリベンジ、再度の世界王者返り咲きを誓い、昨年大晦日から4ヶ月ぶりに魔裟斗が登場する。実力と練習量、MAXに懸ける思いは世界一の男なだけに、気力さえ充実していれば問題はないが、一度転落した王者の座へたどり着くのは、クラウスを見ていても分かるとおり容易ではない。敗北を喫することはもちろん、試合内容でふがいなさを見せることも許されない一戦を前に、魔裟斗がモチベーションを保ち続けられるかが大きな課題となる。

"韓国の魔裟斗"K-1に登場。またしても番狂わせを起こすか？

　韓国格闘技協会ライト級王者にして、世界プロテコンドー王者のイム・チビン。2002年の全日本キックライト級トーナメントで小林聡をKO。劇的アップセットで、一夜にしてイッキにその名をとどろかせた。完璧な防御と、相手のスキを見逃さない目で獲物を捕らえ、猛ラッシュを放つ攻撃スタイルそのままにウェルター級へ変わったのだとしたら、魔裟斗が開幕戦で消える可能性も十分。韓国では大人気で、ファンサイトは1万人以上の会員がいるという。

BUAKAW POR.PRAMUK
ブアカーオ・ポー.プラムック

THAILAND

所　　属
ポー.プラムックジム

生年月日
1982.5.8

身長／体重

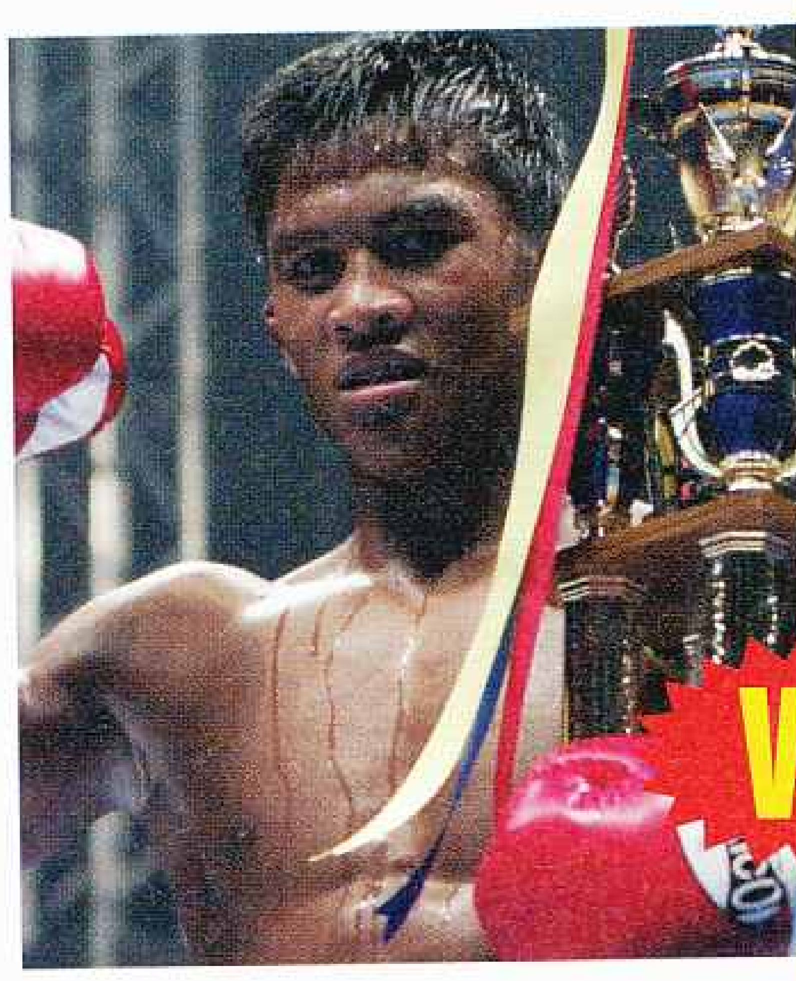
タイトル
ルンピニースタジアム　ライト級 第2位
K-1 WORLD MAX 2004 王者

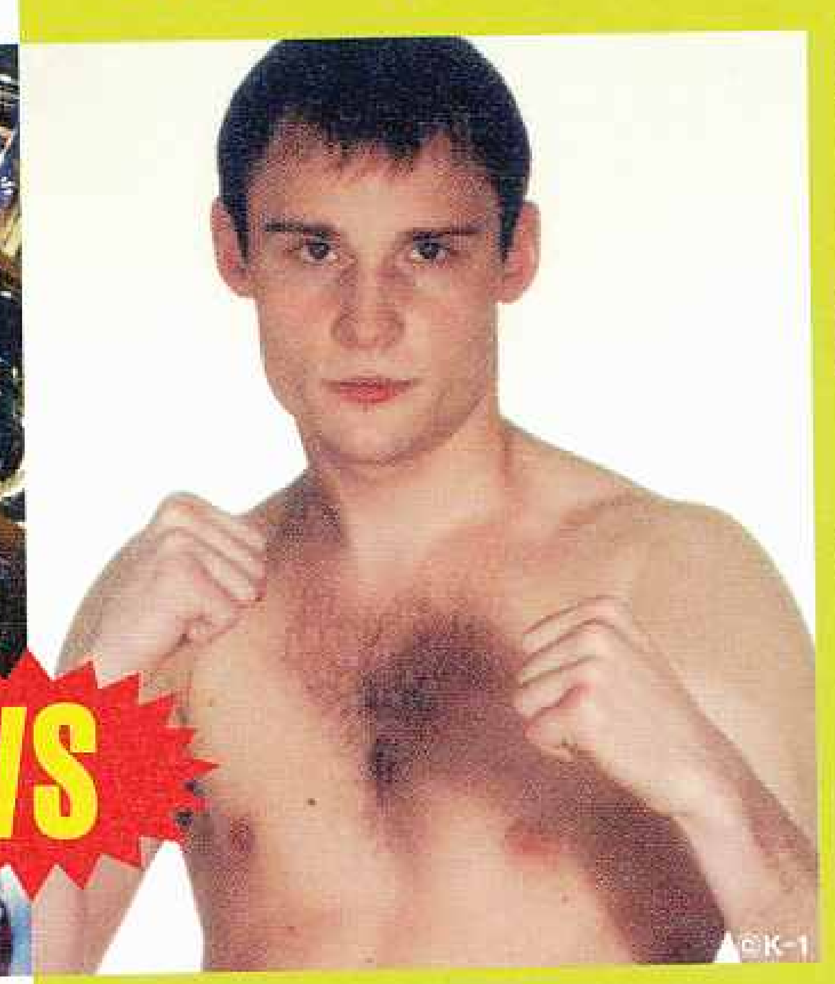
過去3大会のK-1戦績

2005.2.23
●vs アルバート・クラウス　▶延長R 判定 1-2

2004.10.13
○vs 武田幸三　▶延長R 判定3-0

2004.7.7
○vs 魔裟斗　▶延長R判定3-0





VASILY SHISH
ワシリー・シシ

BELARUS

所　　属
チヌックジム

生年月日
1982.8.7

身長／体重

タイトル
IKF世界プロチャンピオン'01
ISS世界チャンピオン'03

対戦戦績

47戦38勝9敗22KO

前人未踏のMAX二連覇に向けて昨年王者が開幕戦をいかに乗り切るか

　昨年の決勝戦で魔裟斗を破り、ガオグライ・ゲーンノラシンとともにK−1へムエタイブームを起こしたブアカーオ。新日本キックで行われた予選から勝ち上がって王者までたどり着いた、ジャパニーズドリームの体現者でもある。昨年大晦日はアルバート・クラウスに判定負けを喫したが、その無念さで前蹴りと鋭いパンチをさらに磨きあげた。泥臭い印象がぬぐえなかった昨年に比べ、日本へ来るたびにあか抜けていく様も気にかかる。

イグナショフ所属ジムから赤サソリがMAXに放たれる

　アレクセイ・イグナショフの所属するベラルーシ・チヌックジムから、ウェルター級の赤サソリ、ワシリー・シシがMAX初参戦。バックボーンはイグナショフと同じムエタイらしいが、武器がそれだけなら正直ブアカーオの前には歯が立たないだろう。MAX参戦に向け、チヌックジムがシシに授けたであろう、イグナショフばりのヒザが爆発することに期待だ。長身から放たれる蹴りとパンチで、いきなり王者食いを達成するか？

ALBERT KRAUS
アルバート・クラウス

HOLLAND

所属 ブーリーズ ジム
生年月日 1980.8.3
身長／体重 175cm／70.0kg

タイトル K-1 WORLD MAX 2002 王者 / K-1 WORLD MAX 2003 準優勝

過去3大会のK-1戦績

2005.2.23
○VS ブアカーオ・ポー.プラムック ▶延長R判定2-1

2004.10.13
●VS 小比類巻貴之 ▶3R 判定3-0

2004.7.7
●VS 魔裟斗 ▶3R判定0-3



MAX初代王者クラウス、再度の王座奪還に賭ける

魔裟斗を固いパンチでマットに沈め、MAX初代王者に輝いたアルバート・クラウス。正統派スタイルとルックスでMAXを支えてきた選手のひとりだが、ここ最近は判定決着が続いている上、どうにも〝守られている〟感がぬぐえない。名伯楽の送り込む選手とはいえ、初代王者が無名選手相手にまさかの結果・試合内容を見せるようなことがあれば、今後の参戦が危うくなる可能性もある。後ろ髪が伸びてきたのは、練習に打ち込んでいる結果であると願いたい。

VIRGIL KALAKODA
ヴァージル・カラコダ

SOUTH AFRICA

所属 スティーブス ジム
生年月日 1979.12.24
身長／体重 178cm／70.0kg

タイトル 元IBC79kg級世界チャンピオン / IBFミドル級世界チャンピオン

対戦戦績

31戦27勝3敗1分



©K-1

名伯楽・カラコダの息子がMAXに初参戦

マイク・ベルナルド、ヤン〝ザ・ジャイアント〟ノルキヤ、フランソワ〝ザ・ホワイトバッファロー〟ボタらをK-1に送り込んだ名伯楽、スティーブ・カラコダ氏の息子。写真で見る限りは微妙な印象も受けるが、スティーブ氏のところで強豪らとトレーニングを積んでいるのであれば、パンチを武器にMAX戦線を掻き回す可能性も大。もうひとつ注目なのはクリスマス生まれというところ。イエス・キリストと同じ誕生日の〝リアル神の子〟として、K-1を超える活躍を期待。

ANDY SOUWER
アンディー・サワー

HOLLAND

所属 シュートボクシング
生年月日 1982.11.9
身長／体重 172cm／70.0kg

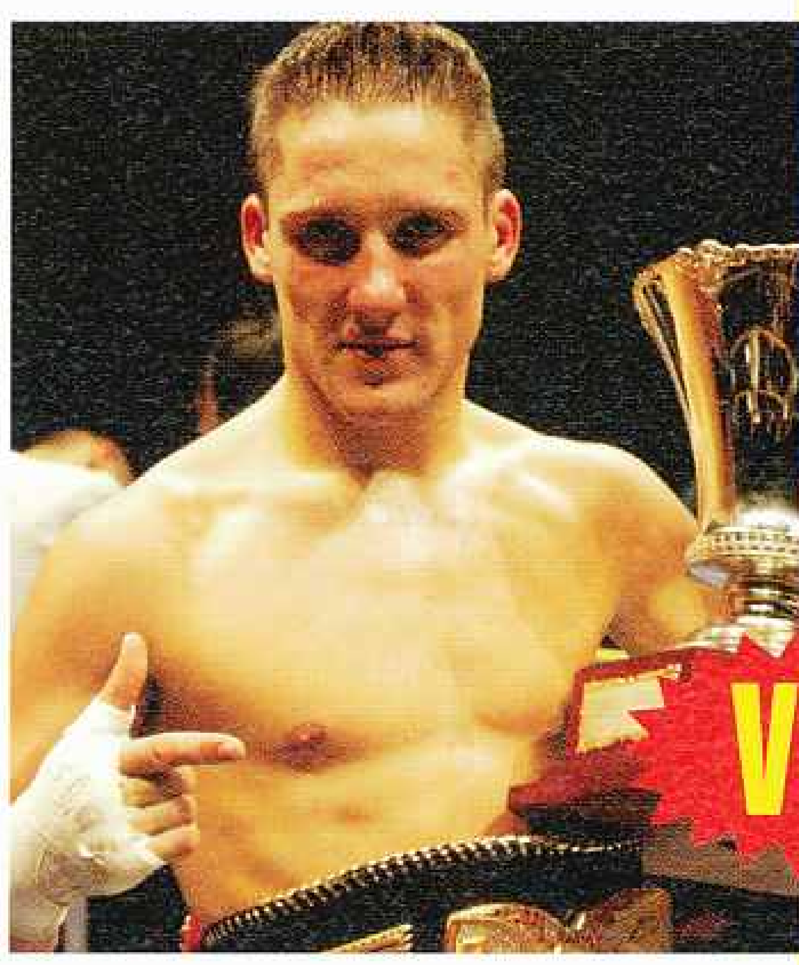
タイトル WMTA/WKA/ISKA/WPKA/FIMC 世界スーパーウェルター級王者 / 『S-cup』2002&2004王者

主な過去3大会の戦績

2004.9.13(S-Cup2004決勝)
○VS 宍戸大樹 ▶2R 判定 3-0

2003.11.18
○VS 村浜武洋 ▶3R 判定2-0

2003.4.13
●VS アルバート・クラウス ▶1R終了時、TKO



『S-CUP』2年連続覇者がKのリングで真価を見せられるか

『S-CUP』をはじめとする、シュートボクシング（以下SB）のリングで驚異的な強さを見せていながら、どうもK-1ではよそ行き感が拭えないアンディー・サワー。3回目の参戦、盟友・土井広之のカタキ討ちでもあるこの一戦に、どれだけ良い意味での気負いを持って望めるかに加え、昨年若きお父さんとなったアンディが、子連れ狼カノレッティにどこまで非情になれるかがポイントになるだろう。一撃で相手の心を折る、壮絶なレバーブローは必見。

MARFIO "THE WARRIOR TIGER" CANOLETTI
マルフィオ“ザ・ウォーリヤータイガー”カノレッティ

BRAZIL

所属 シッチ マスター ロニー
生年月日 1978.6.12
身長／体重 172cm／70.0kg

タイトル K-1 WORLD MAX 2002 in Brazil チャンピオン

過去3大会のK-1戦績

2004.10.13
○VS 大野崇 ▶3R 判定 3-0

2004.4.7
●VS シャミール・ガイダルベコフ ▶3R 判定2-0

200311.18
○VS 土井広之 ▶3R判定3-0



ブラジルの子連れ狼がKを背負ってSの刺客と激突する

「そんなにMAXに懸ける気持ちが大きいのか」と、ついつい背中『MAX』ロゴのタトゥーにばかり目がいってしまう、ブラジルの子連れ狼カノレッティ。テクニシャンタイプに勝利を収めている戦績を見ると、技術よりもケンカに強い精神の持ち主という一面も見える。消えない十字架を背負った〝MAXの門番〟の、最後まで勝負をあきらめない闘いは、Sの王者・アンディーをねじ伏せられるのか。娘は相当かわいいので、来日を期待。

JOHN WAYNE PARR

ジョン・ウェイン・パー

AUSTRALIA

所属
ブンチュージム

生年月日
1976.5.25

身長／体重
177cm／70.0kg

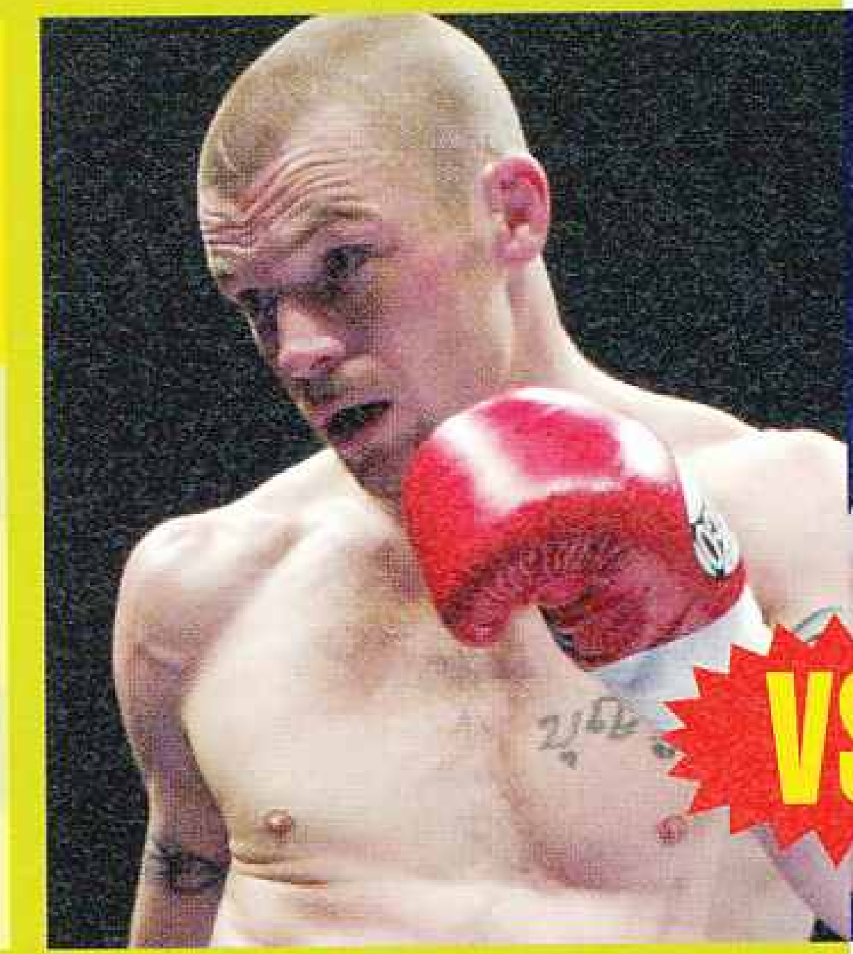
タイトル W.K.A.A.スーパーライト級チャンピオン
W.K.A.S.P.スーパーライト級チャンピオン

過去3大会のK-1戦績

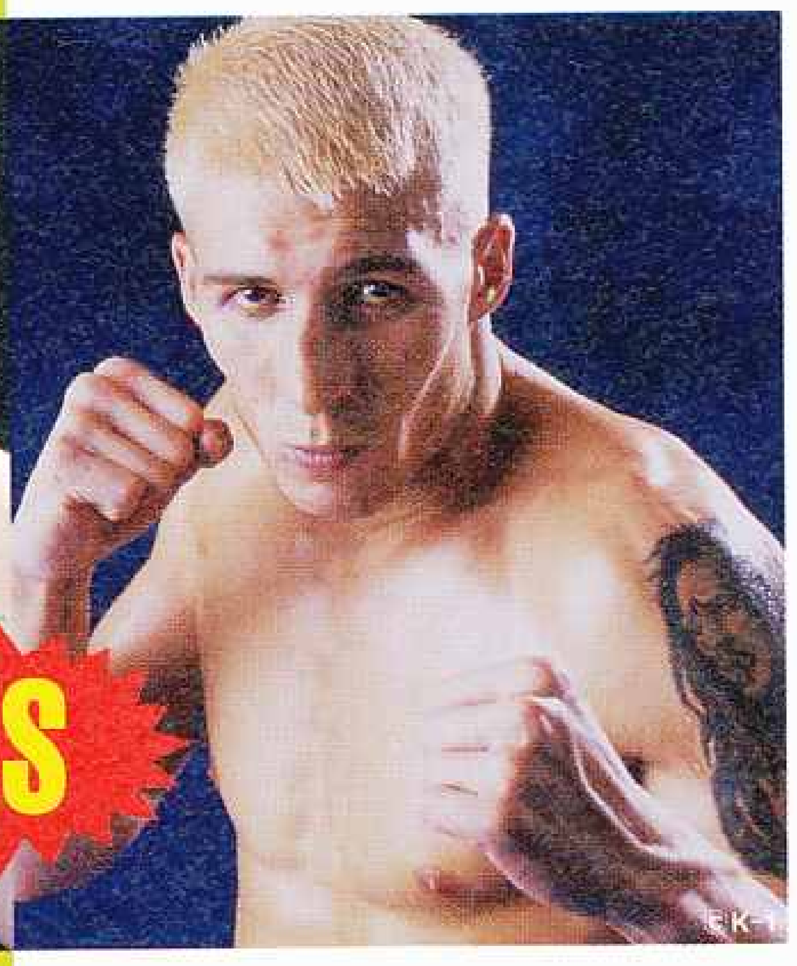
2004.10.13
●vs アースラン・マゴメドフ ▶延長R 判定 0-2

2004.7.7
●vs ブアカーオ・ポー.プラムック ▶延長R 判定1-2

2004.4.7
○vs ドゥエイン・ラドウィック ▶3R判定3-0



VS



SHANE CHAPMAN

シェイン・チャップマン

NEW ZEALAND

所属
フィリップ ラム リーガージム

生年月日
1978.7.4

身長／体重
183cm／69.4kg

タイトル K-1 オセアニア中量級トーナメント2002優勝

主な過去3大会の戦績

2003.6.1（シュートボクシング）
○vs 緒形健一 ▶5R 判定3-0

2003.4.13（シュートボクシング）
●vs アンディー・サワー ▶延長1R 反則 ※金的蹴り

2002.5.11
●vs アルバート・クラウス ▶3R 判定0-3

正統派でオールマイティーな男前が事実上の決勝戦で闘いの芸術を見せる

パンチもキックも全部出来て全部レベルが高く、パワーがあるのにテクニシャン、対日本人の戦績は抜群。しかも男前という非常にやっかいなオールラウンドプレイヤー。タイの『S-1』でも優勝、5R制のムエタイスタイルに慣れているせいか、3R制のK-1ではダイジェスト扱いや判定に泣く場面もあったが、スイッチが入った時の猛ラッシュは驚異であり脅威。昨年優勝者のブアカーオを最も苦しめた中量級の第一人者が、K-1制覇に挑む。

反則上等男が久々のMAX参戦 オセアニア地区潰し合いの行方は?

SBのリングで緒形健一と対戦、肺に穴をあけて緒形を長期欠場に追い込んだ男。アンディー・サワー戦では、金的を放って反則負けに。たまたま試合を見たターザン山本!が「チャップマンは強いよ!」と炎上。プチ・チャップマンブームを起こさせた。パンチも強くキックも強く、ヒザまで強い。その上いざとなれば大会もブッ壊すという"反則上等"男チャップマンとジョン・ウェインの激突は、今大会の裏メインと呼ぶにふさわしい一戦だ。

TAKAYUKI KOHIRUIMAKI

小比類巻貴之

JAPAN

所属
チームドラゴン

生年月日
1977.11.7

身長／体重
180cm／70.0kg

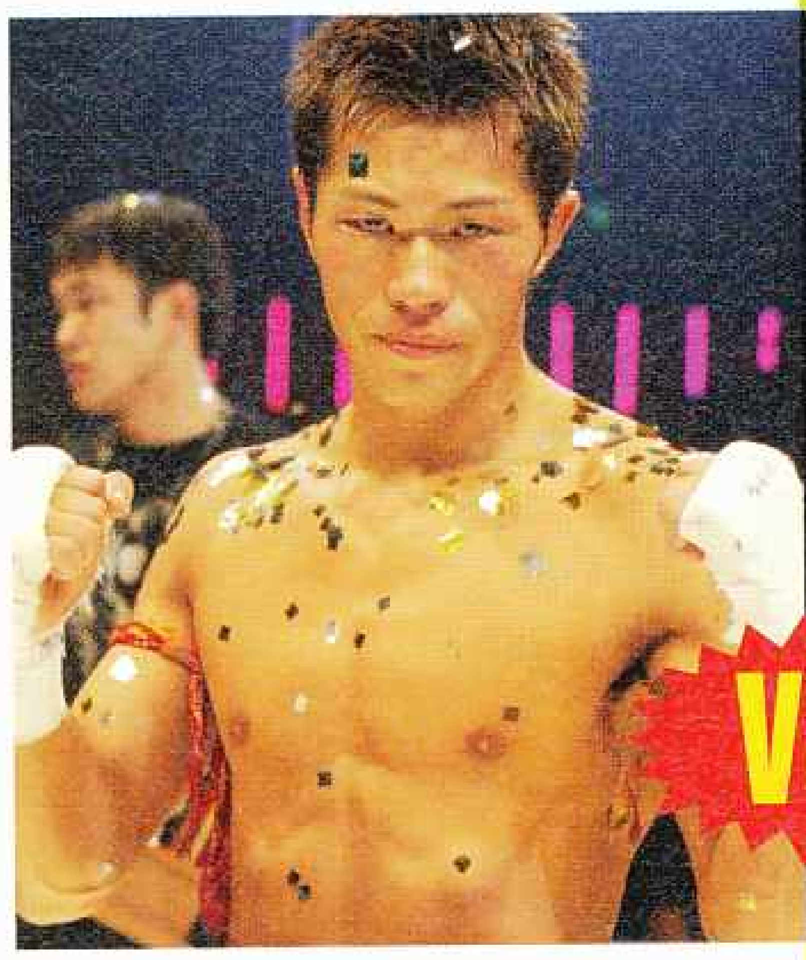
タイトル なし

過去3大会のK-1戦績

2005.2.23
○vs 新田明臣 ▶1R 0:36 KO ※右前蹴り

2004.10.13
○vs アルバート・クラウス ▶3R 判定3-0

2004.7.7
●vs ブアカーオ・ポー.プラムック ▶2R 0:42 KO ※2ノックダウン



VS



DARIUS SKLIAUDYS

ダリウス・スクリアウディス

LITHUANIA

所属
リングスリトアニア

生年月日
1981.6.18

身長／体重
176cm／70kg

タイトル なし

『ZST』戦績［5戦4勝1分］

2004.11.3
○vs 宮川博孝 ▶1R 0:48 KO

2004.9.12
○vs 磯崎則理 ▶1R 0:49 KO

2004.7.4
○vs HIROAKI ▶1R 2:29 TKO ※レフェリーストップ

日本トーナメント2年連続覇者ミスター・ストイックが世界を狙う

「今日は俺の日でした」の名言を残した昨年に続き、今年も3試合中2試合KOで日本王者二連覇を成し遂げた小比類巻貴之。安廣一哉戦の判定に疑問符を唱える声があったものの、小次郎をマットに沈めた直後、新田明臣を一瞬の前蹴りで葬るなど、今年のコヒは自信から来る勝負強さと度胸が魅力的。ダリウスの猛攻で心を折られるか、それとも耐えて耐えて耐えて飛び出すコヒの"ストイックなヒザ小僧"が勝負を決めるか、注目だ。

『ZST』の怪物が『MAX』初参戦 左ミドルが小比類巻を襲う

リングス・リトアニアの怪物、ダリウス・スクリアウディスが満を持しての『MAX』初参戦。パンチと蹴りの強さに加え、リトアニア勢の恐ろしいところは圧倒的なラッシュで相手を倒しにかかる、超のつく気の強さだ。強烈な左ミドルが一番の武器だが、パンチの強さも折り紙つき。ダリウスのパンチが『MAX』で振り下ろされた瞬間、オープンフィンガーグローブでこれを受けていた『ZST』ファイターたちに誰もが同情するだろう。

37年の歴史に幕



KAZUYA YASUHIRO
安廣一哉

JAPAN

所属
正道会館

生年月日
1976.8.22

身長／体重
170cm／70.0kg

タイトル なし

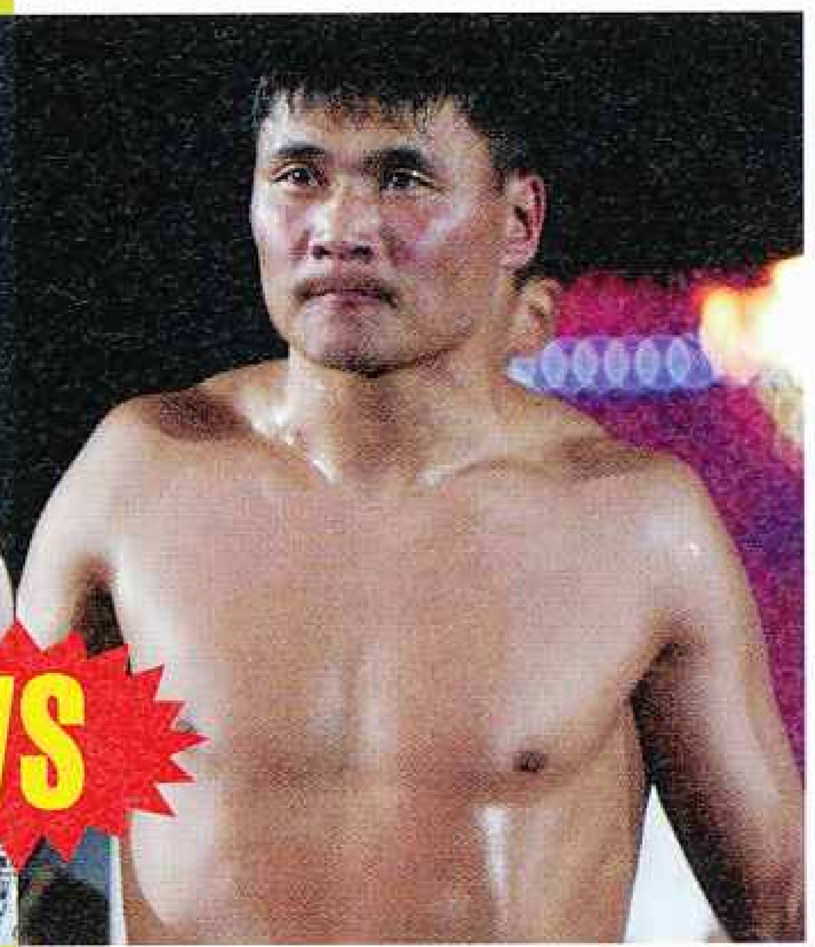
過去3大会のK-1戦績

2005.2.23
●vs 小比類巻貴之 ▶延長R 判定1-2

2004.10.13
○vs サミール・ベルバーチ ▶3R 判定2-0

2004.2.24
●vs セルカン・イルマッツ ▶2R 1:33 KO ※2ノックダウン





モンゴルの大自然男を相手に道産子・安廣の真価が問われる

正道空手軽量級のチャンピオンでありながら、極真のウェイト制大会でも活躍。高い格闘センスを持ちつつ、胴回し回転蹴りのような大技を出せるハートの強さも有り。日本大会での小比類巻貴之戦で判定負けを喫したが、逆に小比類巻に迫ったその実力・判定を受け入れた潔さが見えたことで評価を高めた感もある。あとは世界の壁を前に、どこまで自分を貫き通せるかが課題だ。入場曲・コメントの〝ひとり癒し系〟キャラにも磨きをかけたい。

JADAMBA NARANTUNGALAG
ジャダンバ・ナラントンガラグ

MONGOL

所属
モンゴリアンレスリング連合

生年月日
1975.12.16

身長／体重
170cm／70.0kg

タイトル なし

主な過去3大会の戦績

2004.10.13（総合格闘技ルール）
●vs 山本"KID"徳郁 ▶1R 1:55 KO ※右ストレート

2004.7.7
●vs 魔裟斗 ▶3R 判定0-2

2004.4.7
●vs アルバート・クラウス ▶延長R判定0-3

モンゴルのパワーファイターが悲願のMAX初勝利を狙う

モンゴル相撲仕込みのパワーをベースに、極真空手・キックの技術を併せ持つナラントンガラグ。『MAX』では初戦でいきなり魔裟斗と対決し判定で敗れ、アルバート・クラウスからダウンを奪い、パンチの威力を見せつけるも判定に泣く。MMAルールで行われた山本KID徳郁との一戦では、KIDのハイキックでまさかの一撃KO、と、参戦以来強豪相手に黒星が続くナラントンガラグ。安廣を破り、初勝利で継続参戦をつかみ取りたい。

NORIFUMI "KID" YAMAMOTO
山本"KID"徳郁

JAPAN

所属
PUREBRED TOKYO

生年月日
1977.3.15

身長／体重
163cm／64.5kg

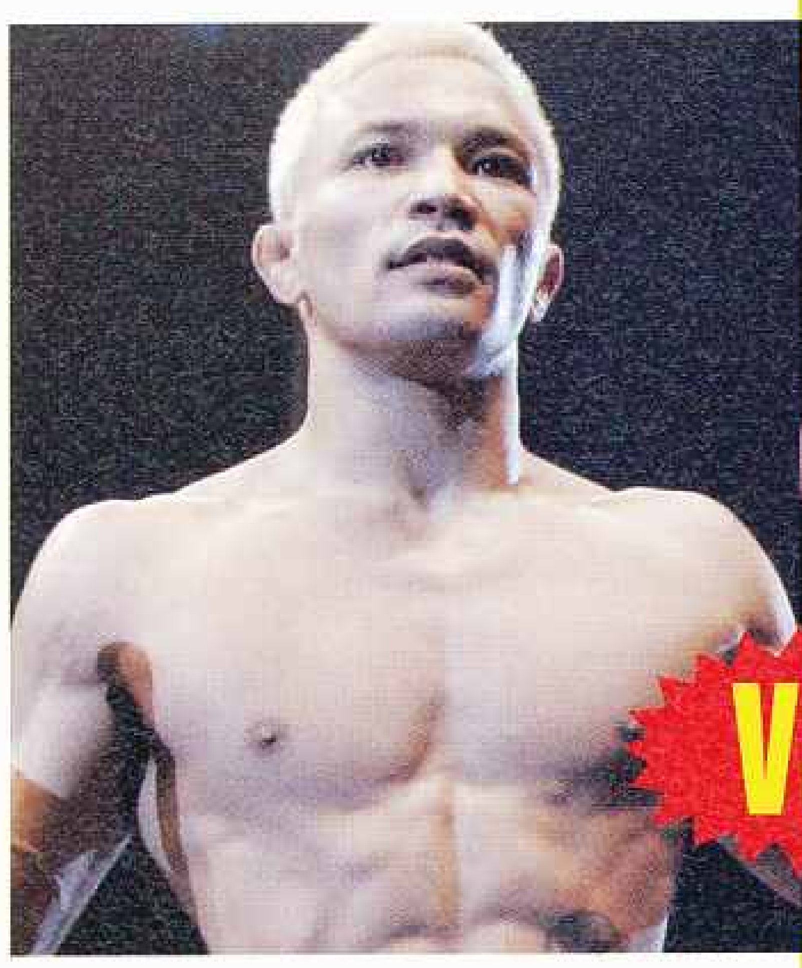
タイトル 修斗ライト級 第2位

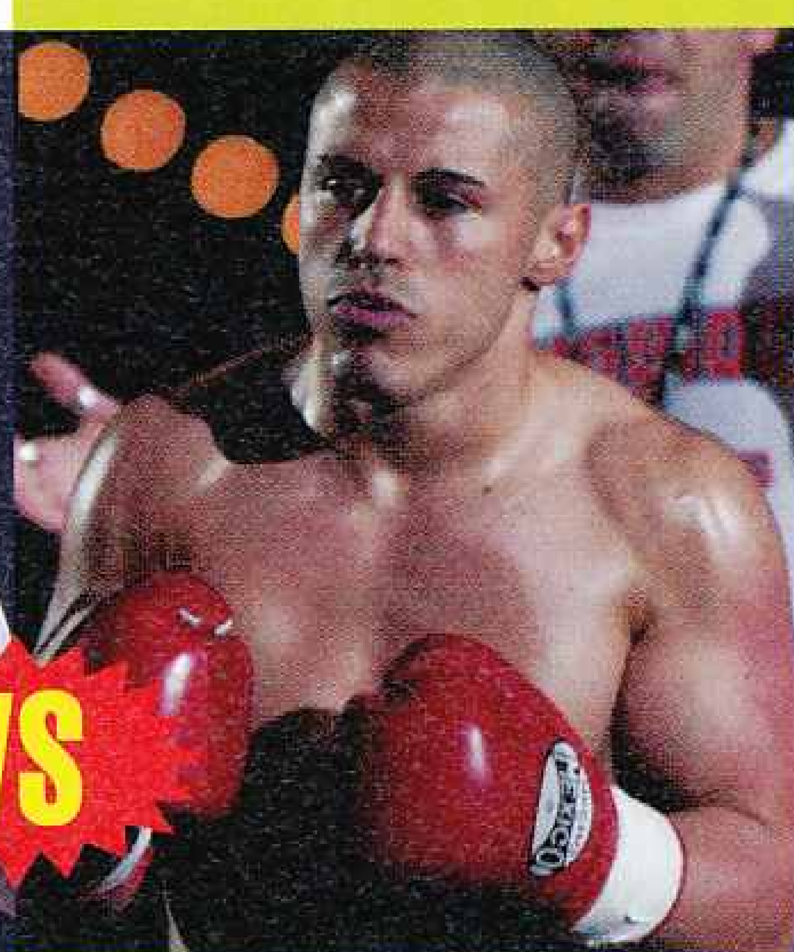
主な過去3大会の戦績

2004.12.31
●vs 魔裟斗 ▶3R 判定2-0

2004.10.13（総合格闘技ルール）
○vs ジャダンバ・ナラントンガラグ ▶1R 1:55 KO

2004.2.24
○vs 村浜武洋 ▶2R 2:38 KO ※左フック





神の子、スーパーファイトに参戦ザンビディスの豪腕に挑む

トーナメントの目玉として参戦を熱望されながら、まさかの前日欠場となった山本KID徳郁がスーパーファイトに登場。復帰戦でありながらK-1ルール、しかも相手はギリシャの豪腕マイク・ザンビディスという、ある意味〝制裁マッチ〟のような対戦カードを、〝神の子〟がどう切り抜けるのか。勝敗を超えて、参戦するたびに大会MVPをかっさらう男・KIDが、肩の負傷とザンビディスをいかに克服してみせるのか、目が離せない。

MIKE ZAMBIDIS
マイク・ザンビディス

GREECE

所属
メガ ジム

生年月日
1980.6.15

身長／体重
167cm／70.0kg

タイトル WORLD PROFI 欧州チャンピオン'98 WOKA世界チャンピオン'00

主な過去3大会の戦績

2004.10.13
○vs 小次郎 ▶1R 2:21 KO ※右フック

2004.7.7
●vs 小比類巻貴之 ▶3R 判定0-3

2004.4.7
○vs HAYATO ▶3R判定3-0

ギリシャの豪腕・ザンビディスがKIDにKOを突きつけるか

K-1 MAX初参戦でいきなり初代王者アルバート・クラウスを一撃KO、鮮烈デビューを飾ったザンビディス。03年トーナメントではスプリット判定に泣いたが、全試合中王者・魔裟斗を最も苦しめたのは間違いなくザンビディスの豪腕だった。小比類巻貴之には判定で敗れた後、04年10月には小次郎を戦慄の1RKO。身長、殴り合うファイトスタイルともにかみ合うKIDとの一戦で、文句なしの主催者推薦枠を手にしたい。

”ささきぃの 極私的立ち技格闘技連載
STAND BY ME（仮）

第8回

気まぐれ対談『K-1MAXの見所とは何か？ もしくは、ダリウス・スクリアウディスとイム・チビンとは何か？』

どうもです！　『紙プロ』立ち技担当のささきいです！　一回戦から好カードが揃った今回の『K-1MAX』、このページでは小比類巻貴之と魔裟斗が対決する本誌大注目ファイター、ダリウス・スクリアウディスとイム・チビンの2人についてたっぷり紹介したいと思います。それでは橋本さん、今月も宜しくお願いします！

ささきぃ　今回は日本一イム・チビンとダリウス・スクリアウディスに詳しいフリーライター、橋本宗洋さんに『K-1MAX』の見所を教えていただきたいと思います！

橋本　名誉な紹介だねぇ（笑）。

ささきぃ　いよいよ5・4『K-1MAX』の世界大会のカードが発表されました。今回は初参戦選手もかなり豪華ですよね。

橋本　胸躍るねぇ。バルト三国最強の男・ダリウス参戦！　ホントに俺はこの日を待っていたよ。

ささきぃ　『ZST』ファンに、世界にはまだまだ強いファイターが居るんだっていう喜びと、リトアニアというどこだかよく知らない国に格闘ロマンを感じさせたファイターの1人ですよね。

橋本　単なる総合ファイターのK-1参戦じゃないからね。期待できますよ。

ささきぃ　具体的にどう違うんですか？

橋本　ダリウスがいるジムは、もともとムエタイとか空手の道場が総合に対応してきた、シュートボクセと同じようなパターンなわけ。だから立ち技の専門的な技術を持ってる。タイにもひんぱんに行ってるらしいし。リトアニアでサンドバックに左ミドルを蹴ってるところをたまたま見たんだけど、これがもう爆発的にすごかった。小比類巻はマジでヤバイと思うよ。

ささきぃ　これ、実は『HERO-S』が生んだ夢のカードなんですよね。

橋本　そうそう、『HERO-S』効果。つまり、前田日明とつながることによって、谷川さんがやっと『ZST』のビデオを見た。

ささきぃ　『HERO-S』会見後に「ダリウスとレミギウスっていうのは、いい選手ですねぇ」っていきなり言って、報道陣がみんな「今頃知ったのかよ」と、ビビってたじろいだという（笑）。

橋本　やっと見てくれたかって。『紙プロ』バックナンバーの82号を見てもらえれば、俺がどれだけダリウスを押していたかが分かってもらえると思うよ。

ささきぃ　誉めるのも変ですけど、いい選手だと気づいたらすぐに出す、谷川さんのフットワークの軽さは本当にスゴイですよね（笑）。

橋本　行動早いよね。今回の『MAX』には、谷川さんが『格闘技通信』編集長だった頃の情熱と純粋さを感じるよ（笑）。



魔裟斗、小比類巻貴之に加え、日本トーナメントで「小比類巻選手に唯一倒されなかった（by谷川プロデューサー）」安廣一哉が参戦決定。山本“KID”徳郁はスーパーファイトでマイク・ザンビディスと対戦する

KIDを含め、日本人の相手は全員手強い。開幕戦で全員が消える可能性も十分あるね（橋本）

ささきぃ　全体通して非常にいいカードなんですけど、もうひとつのポイントとして、魔裟斗の相手はいったい何者なんだと。

橋本　ついに来たね、全日本キックでは小林聡をKOしたイム・チビン。これはたまらんよ。シビれたなぁ。

ささきぃ　どっかで聞いた名前だなぁと思っていたんですけど、まさか全日本キックから出てくるのが、イム・チビンとは読めませんでしたね（笑）。〝元全〟の佐藤嘉洋でもなく、山本優弥でもなく、宝樹まもるでもなく。

橋本　イム・チビンだったと。しかもジンクス的に、小林聡に勝った男はK-1で出世するという習わしがあるからね。

ささきぃ　ブアカーオに続いて第2弾ですね。小林聡ファンには迷惑な話だなあ（笑）。

橋本　イム・チビンは、基本的にはパンチなんだけど、キックもうまいね。ローキックが重い。あと目がいいね。相手の攻撃を涼しい顔でかわしちゃう。バランスがよくて、魔裟斗とは手が合う、面白い試合になると思うよ。イム・チビンには韓国で焼き肉食いながらインタビューしたことがあるんだけど、「犬は食い飽きた」って言ってたよ。

ささきぃ　韓国は犬食べますからねぇ。野良犬はもう食ったと？

橋本　だから、日本にシルバーウルフを食いに来たわけだよ。

ささきぃ　うまいなぁ（笑）。安廣一哉、山本KID徳郁戦も含めて、この開幕戦は日本人が全員消えちゃう可能性ありますよね。

橋本　いやホント、2人以上がKOで消える可能性も十分あるよ。ダリウスやイム・チビンは、K-1ファン的には無名だろうけど、決して〝金魚〟じゃないから。次回大会は横浜アリーナ初進出らしいんだけど、日本人が全部負けちゃったらどうなるのかなぁ……。

ささきぃ　その場合は、『W-1』か『HERO-S』に変わるんじゃないですか？

橋本　あるかもしれないなぁ（笑）。そうならないためにも、なんとか日本人には頑張ってもらわないと。でも、俺だけはイム・チビンとダリウスをこっそり応援するよ（笑）。

【4月8日・ダブルクロスにて収録】

『エステティックTBC K-1 WORLD MAX 2005 ～世界一決定トーナメント開幕戦～』
5月4日（水・祝）　東京・有明コロシアム　試合開始 17:00

【K-1 WORLD MAX 世界一決定トーナメント開幕戦】
安廣一哉（日本/正道会館）vs ジャダンバ・ナラントンガラグ（モンゴル/モンゴリアンレスリング連合）
小比類巻貴之（日本/チームドラゴン）vs ダリウス・スクリアウディス（リトアニア/リングスリトアニア）
ジョン・ウェイン・パー（オーストラリア/ブンチュージム）vs シェイン・チャップマン（ニュージーランド/フィリップ ラム リーガー ジム）
アンディー・サワー（オランダ/シュートボクシング）vs マルフィオ“ザ・ウォーリヤー・タイガー”カノレッティ（ブラジル/シッチ マスター ロニー）
アルバート・クラウス（オランダ/ブーリーズジム）vs ヴァージル・カラコダ（南アフリカ/スティーブス ジム）
ブアカーオ・ポー.プラムック（タイ/ポー.プラムックジム）vs ワシリー・シシ（ベラルーシ/チヌック ジム）
魔裟斗（日本/シルバーウルフ）vs イム・チビン（韓国/K.pプロモーション）

【スーパーファイト/K-1ルール】
山本KID徳郁（日本/PUREBRED TOKYO）vs マイク・ザンビディス（ギリシャ/メガジム）

『K-1 WORLD MAX』トーナメント開催概要

開幕戦7カードに勝利した選手が7月の決勝大会に進出。今大会の試合内容を元に選出した主催者推薦1選手を含めた8人で、1DAYトーナメントを行う。7月大会は横浜アリーナで開催される予定。初の横浜アリーナ進出となる。

チケット料金（全席指定・消費税込み）

SRS席	25000円
S席	13000円
魔裟斗応援シート（S席・特典つき）	13000円
A席	6000円

チケットについての問い合わせ
キョードー東京　03-3498-9999

大会についての問い合わせ
FEG　03-3529-3301

37年の歴史に幕
全女沈没



松永会長もギブアップ宣言！



全女沈没

遂にこの日がやってきた……

遂にこの日がやってきた……。数年前から「危ない」と言われ続けてきた全日本女子プロレスだったが、4月17日の後楽園大会が全女としてのラスト興行となる可能性が高いという。松永会長は、その日をもって勇退を表明。今後は糖尿病の治療のため入院するとのことだが、はたして全女の運命はいかに!?　すべては17日に明らかとなる！

構成／松澤チョロ　designed by nogu（Two three）

開幕戦で全員が消える可能性も十分あるね（橋本）

【4月8日・ダブルクロスにて収録】



全女&松永会長に縁の深い3人からのラストメッセージ



ターザン山本！

　ついにというべきか全女が解散した。松永会長にはまことに不謹慎な発言になるが「お見事でした……」というしかない。そこには、私の好きな〝野垂れ死にの思想〟が現実として証明されているからだ。すべての繁栄のあとには必ず挫折と敗北が待っているという法則。それを全女は1ミリたりとも誤差のない足跡を刻んでいったのだ。

　その資本はいつも恵まれない少女たちだった。そしてそこには治外法権が支配する完全に女たちによる閉鎖的世界。絶対服従の上下関係がすべてなのだ。ああ、自由と平等、差別と階級のない社会という超嘘っぱち現代日本社会においては、我がなつかしき全女よ永遠なれなのだ。

　それにしても少女を資本にして商売をたくらむというのは凄い発想だ。恐れ入る。それこそまさしく、「無が有を生むビジネス」ではないか？　そう、全女は女子プロレスによって錬金術をめざしていたのだ。

　この錬金術はビューティ・ペアとクラッシュ・ギャルズによって2回、大成功を収めた。一大ゴールドラッシュの時代をつかんだのだ。その反動は余りにも大きかった。ゴールドラッシュのあとには無残な廃虚しかなく、第三、第四の錬金術には失敗。

　いや、交流戦という〝禁断の木の実〟を食べることで東京ドーム興行をやったのがピークだった。あれが最後のゴールドラッシュだった。全女はあらたなスター作りという自家栽培による錬金術が出来なくなった時、衰退していくしかなかったのだ。

　理屈はこれくらいにして私の全女に対する個人的な思い出を書くと、池下ユミさん、今どうしているの？　あと、とにかくお色気抜群だったのがルーシー加山さん。みんなもういい年齢になっているんだろうなあ。

　マミ熊さん。彼女は妙に女っぽかった。好きだったなあ。トミー青山さんも印象に残っているんだよなあ。女子プロというとなぜか女として〝幸薄い〟というイメージがある。

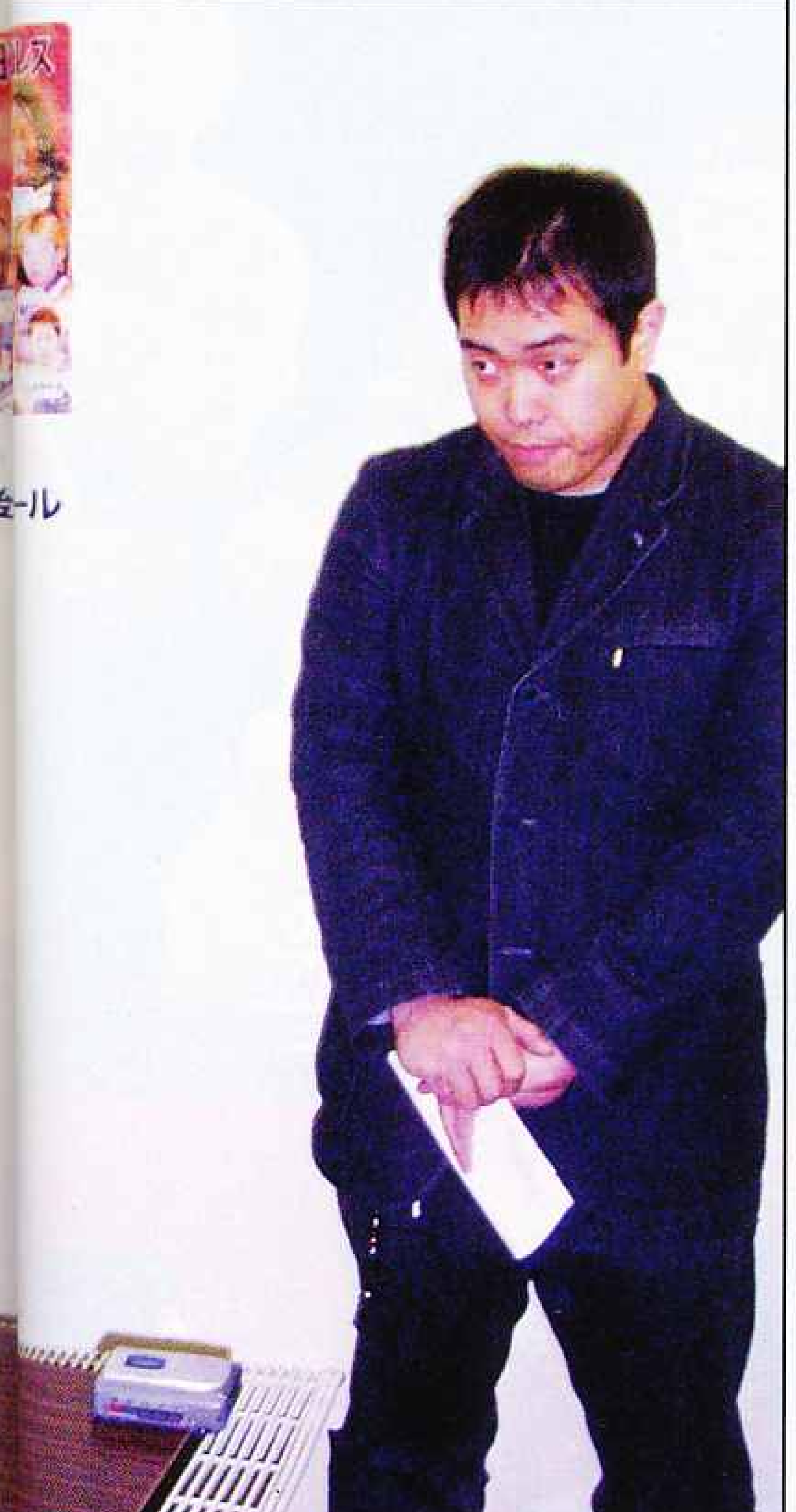
　彼女たちの消息がわからないというのがまた私の幻想をふくらませてくれる。世の中と表舞台の両方から人知れずフェイドアウトしていった彼女たち。できることなら現実の世界ではなく、夢の中でルーシーやトミーに会ってみたいよ。青春はある地点で一瞬にしてゴールがくるから青春たり得るのだ。

　25歳定年制という全女のルールは、女子プロを職業にはするな。限られた時間における青春を思い出にしろというメッセージだったのだ。あのルールが破れた時、全女にはもう青春はなくなった。そこに全女帝国崩壊の最大の原因があった。職業としての女子プロレスラー。これはある部分だめでしょう。

　本人たちはそれが生きがいとしてあったと思うが、私はそれを望んでいない。求めてもいない。期待もしていない。早いうちに引退してフェイドアウトするのが、青春を生きたことになるのだ。ニューヨークに渡り結婚後、居酒屋を出して成功している山崎五紀さんは女として妻として母として幸せになった人だ。作家の村松さんも五紀さんのことは一番、気に入っていたんだよなあ。人生に大ジャンプして日本を離れた（捨てた）五紀さんの生き方には大いなる知恵があった。

　女子プロという青春の記憶を封印するにはそれは素晴らしい決断と勇気だった。北斗晶は例外である。あの女（失礼、彼女）はタフすぎる。たくましすぎる。しかしあれでいて彼女ほど努力し頭を使って生きている人はいないのだ。自力型人間のトップランナーだ。

　あとの人たちは人生に流されて、まるで流木のようにどこかの離れ島の砂浜に打ち上げられても仕方ない運命だ。豊田真奈美には今でも特別な思いがある。もし私が20歳若かったら結婚を申し出ていたかもしれない。それがだめだったら「ボクの子供を生んで下さい」と言っただろう。おそらく生まれた子供は最強のプロレスラーになったはずである。それが私の中で唯一の心残りになっている。ホントに年だけは取りたくないよなあ…。



3月29日、松永会長と正嗣渉外が神奈川・金沢区産業振興センター体育館大会の前に記者会見を開き、糖尿病の悪化による会長の勇退と、4月17日の後楽園ホール大会をファースト・オン・ステージ主催で行うことを発表した。一部新聞で「全女解散」と報道されたことに対し、正嗣氏は「解散は決定していない。正式な発表を待ってほしい」とこれを否定。37年間、女子プロレス界に君臨した松永帝国の経営が破綻し、2度の不渡りを出した97年には、その負債総額なんと35億！　記者の「返済できるのか？」との質問に、会長はアッサリ「返せないやね」と一言。さらに「アタシが引退すれば全日本女子プロレス興業株式会社はなくなる」と、解散を否定する正嗣氏と微妙なすれ違いを見せた。

37年の歴史に幕

全女沈没





編集長 井上義啓
形あるものはやがて滅びる さらば、全日本女子プロレス…。

「編集長。女子プロなんかを載せたら駄目ですよ。週刊ファイトだけですよ、載せてるのは……」

私の顔を見るなり、坂口征二（現・新日プロ相談役）が言った。私は黙ったままで、答えようとはしなかった。昭和45年、全日本女子プロレスが産ぶ声を上げて2年がたった大阪大会の選手通路だった。

〈力道山と同じことを言う〉

そうは思ったものの、力道山が「女子プロレスなんかストリップと同じじゃないか。あんなものを新聞が書くな！」と女子プロレスの記事を抹殺したいきさつを知っているわけではない。いくら古狸でも、女子プロレスの女王、ミルドレッド・バークが来日し、東京などの主要都市で興行を打って回った昭和29年の出来事など知る由もない。

そして、昭和43年6月29日。全日本女子プロレス興行会社が立ち上げられた。全日本との団体名が示すように、当時、日本女子プロレスなる団体が存在していた。ところが、A代表が新人に等しいBをメーンイベンターに据えたのである。Bは A代表の愛人だった。激怒した巴ゆき子、柳みゆき、山口洋子ら主力選手が営業担当だった松永高司氏と図り、別団体をいきなり発足させて日本女子プロレスを崩壊に追いやった。

松永社長（当時）が女子選手に厳し過ぎる〝三禁〟を強いたのは、これが理由だった。主力選手は都内のアパート住まいだったが、宮本芳子（後にジャンボ宮本）ら新人選手は道場に住み込みで、柳みゆきらの厳しい監督下に置かれた。この方策が、全日女をハイレベルで規律ある団体に仕上げた。私は、この姿勢を高く評価したのである。

当然のように、どのマスコミも全日女を取り上げはしなかった。書いたのは私だけで、主力選手の京愛子、赤城まり子などは、私が記者席に座っていると知ると、試合後の疲れ果てた体を引きずるようにして、「有り難うございました」と深々と頭を下げて控え室に帰って行った。

こうしたハイレベルな全日女にファンは沸いた。しかし、ビューティー・ペア（ジャッキー佐藤＆マキ上田）にリングで歌を歌わせ、宝塚歌劇のような会場シーンに変えた時から、〝本物〟の全女ファンは消えていった。

ある日、30代後半とおぼしき熱心なファンが私の所に来て言った。「私は男子プロレスを上回る全日本女子のマットをよしとして来ました。アレはもう、私の全日女ではありません」

昭和39年春4月。私は母のたっての誘いで京都の円山公園に桜百景のトップに選ばれていた枝垂れ桜を観に行った。一目見た瞬間、私はあまりの美しさと見事さに言葉を失った。

〈何なんだ、これは……〉

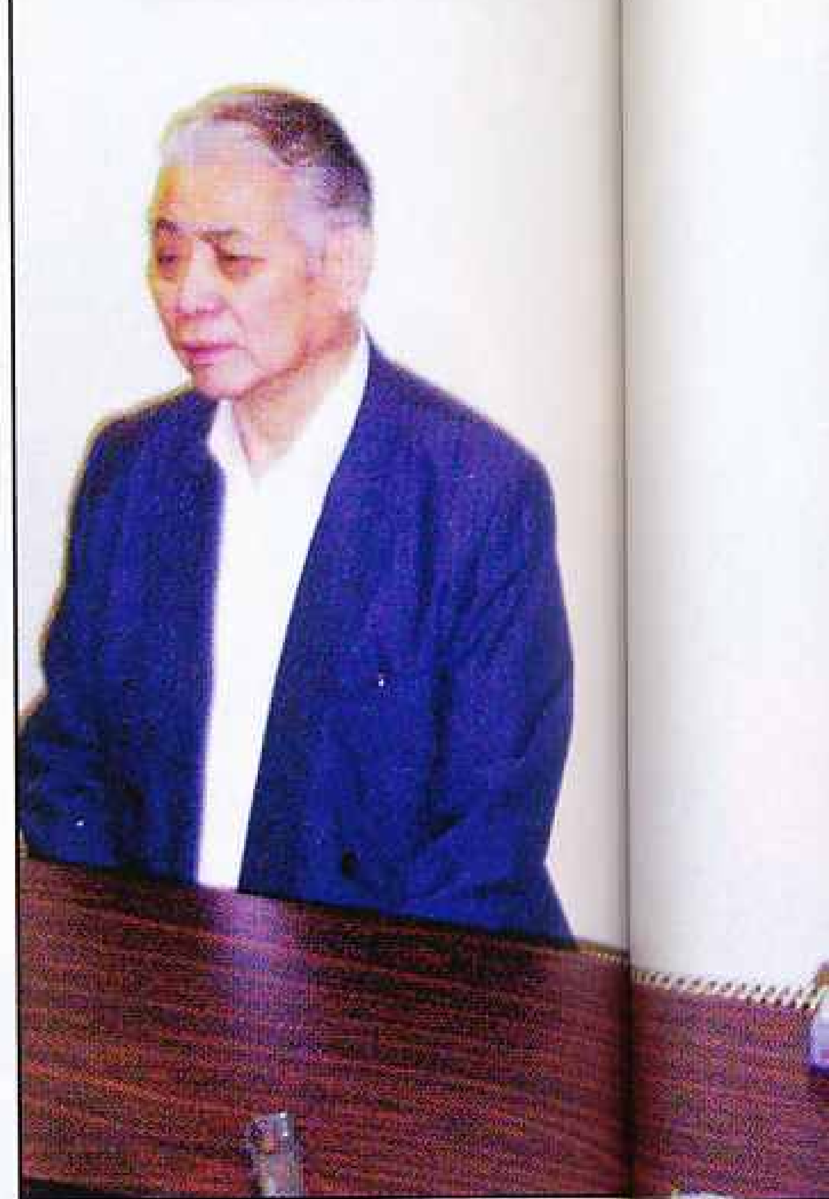
母も死に、円山公園のサクラも、年を取って老いた。今では辛うじて枝葉を広げ、とぼしく力の失せた花を咲かせているに過ぎない。

4月8日。私はその老いた枝垂れ桜の前にいた。毎年のことながら、枝葉を失いやっと立っているだけの老嬢の前で人々は記念撮影に興じていた。

〈あなた方は、40年前の美しかった姿を知っていますか。もしもあの頃にNHKのハイビジョンが誕生しており、当時の見事な美しさを映像として、大型の液晶テレビで映し出したとしたら、あなた方は黙って、この場から立ち去るでしょうね〉

人の世はうつろう。形あるものはやがて滅びる。老いさらばえたサクラと同じように全日女もまた誕生し、美しさを満天下に誇示し、そして死んでいった。

関東エリアの年老いた全女ファンのみなさん。全日女ゆかりの場所に石碑を建ててくれませんか。その石碑に、こう刻んでほしいのです。全日本女子プロレス此処に在りき と……。



グリズリー岩本
全女がなくなる寂しさ? ないない。全然ない（キッパリ）。

―グリズリーさんは、あまり興味がないのかもしれませんが、全日本女子プロレスが遂に解散するみたいです。

グリズリー（以下グリ） 解散って言うけど、倒産した時にもう終わってるでしょ。

―負債額は30億以上ってことです。

グリ それで、もう貸してくれるような人もいないわけでしょ。

―まともところからは、もう借りられないでしょうね。

グリ なんかね、アタシが辞める1年前ぐらい前から、「もう全女はヤバイ」っていうのを聞いてたんだよね。

―「全女はヤバイ」って、もう何年も聞いてるような気がしますけどね（笑）。

グリ そうだよねぇ。

―それでも、松永会長は「誰か1人、スターが出れば」って、ずっと言い続けてきましたからね。

グリ だから「スターが出れば」じゃなくて、会社の上が全部代わらなければ無理！……いや、冷たい、アタシって（笑）。

―でも、グリズリーさんも何年か在籍した全女がなくなるって聞いたら、ちょっとは寂しさもあるんじゃないですか？

グリ ないない。全然ない（キッパリ）。

―まあ、そうかと思ってましたけど（笑）。

グリ だって、選手にお金も払わないのに、団体なんて言ってちゃダメでしょ。それにさぁ、やってる選手もバカなんだよね。……ってアタシは思うけど。

―アルバイトしながら続けてる人が多いみたいですからね。

グリ 逆に「なくなっちゃうのかぁ」っていうのはないんだけどさぁ、「ザマアミロ！」とか思っちゃうんだよね（笑）。

―さすが、グリズリーさん（笑）。最後と言われている4月17日の後楽園……。

グリ （遮って）見たくもない！ 全女なんて大嫌いッ！

―予想通りのお答え、ありがとうございました!!（笑）。

この日がファイナル!? 全日本女子プロレス

■日時　4月17日(日)試合開始12:00
■会場　東京・後楽園ホール
■決定カード
★渡辺智子(全女)＆伊藤薫(フリー)vs豊田真奈美(フリー)＆下田美馬(AtoZ)
★三田英津子(NEO)＆椎名由香(NEO)vs田村欣子(NEO)＆タニーマウス(NEO)
★デビル雅美(フリー)＆A.kong(フリー)vs井上京子(NEO)＆元気美佐恵(NEO)
★ジャガー横田(フリー)＆立野記代(LLPW)＆井上貴子(LLPW)vsダンプ松本(極悪同盟)＆ZAP・T(極悪同盟)＆サソリ(極悪同盟)
★前川久美子(全女)＆前村早紀(全女)vs堀田祐美子(AtoZ)＆西尾美香(AtoZ)
★吉田万里子(M's Style)vsザ・ブラディ(TeamOK)
■チケット
リングサイド　6000円
指定A席　5000円
指定B席　4000円
指定C席　3000円
■問　全日本女子プロレス　03-5788-6535
■HP　http://www.zenjo.com/

ダンプ松本の

マジだぜ！

極悪ダンプが語る
全女解散の真実!!



掟ポルシェ 極悪同盟
PG談（仮）

「127kgの成長日記」というタイトルでブログ（インターネット上での日記）を書いているのが極悪同盟の首領・ダンプ松本。このブログでダンプは一連の全女解散騒動以前から「今日はギャラが出なかった」等といった大胆告白の連続で大反響を巻き起こしていた。なにげに、現在の全女のポスターの中心にもなっているダンプに、全女解散の真相から松永ファミリーの真実まで語ってもらいました！　ちなみに、ポルシェの「P」と極悪の「G」でPG談です。マジだぜ！

構成／松澤チョロ　撮影／福島勝儀
designed by nogu（Two three）

37年の歴史に幕

全女沈没

掟　ダンプさん、ブログ日記読んでますよ！　崩壊直前の全女の内情を事細かに書いてて驚きますよね。「今日もギャラが出なかった」とか。

ダンプ　ホントはもっといっぱい書きたいんだけどね。所属選手は不平不満言えないから、代わりに言ってあげてるの。

掟　ダンプさんが全女がおかしくなってきたと感じたのはいつぐらいからですか？

ダンプ　いや、「会社がおかしくなったから手伝ってくれ」って言われて。

掟　傾いちゃってからテコ入れしてくれと（笑）。まあ、とうの昔に全女は不渡り2回出してますからね。

ダンプ　そうそう、2年前かな。横アリでジャンボ（堀）とかいろんな人に声かけてOG戦をやるってときに、国松っちゃん（松永国松・社長）から連絡来て「極悪同盟を復活させて欲しい」って言われて。で、「試合はしなくてセコンドでいいよ」って言うから、それまでにもJdで試合しないで総長みたいな変なヤツやらされてたし、別にいいよって。でもそれが終わったら「次からも試合に出てくれ」って。話が違うじゃない（笑）。

掟　その頃、選手としてやってくには体力的にどうだったんですか？

ダンプ　全然。だって15年振りだしさ、いまでも動けないのがもっとだよ。25キロ以上太ったからね。現役当時みたいな動きは無理だよね。

掟　でも「あのダンプ松本が帰って来た！」って、ファンは期待を持って見に来るわけじゃないですか。

ダンプ　出てくるだけでいいみたいよ。「客寄せパンダ」だから（笑）。

掟　いやぁ、これほどまでに客を呼べるパンダはそうそういませんよ！　ポスターにも一番デカく載ってますし、いつの間にか全女がダンプさんの団体になってますよね（笑）。さすがに最初のうちはギャラとか出てたんですよね？

ダンプ　うん。でも途中からガクッと減って。自分がもらったばっかりに下の子がノーギャラだと可哀想だから、しょうがないけど。それでも14万ぐらい未払いあるよ。選手だと、一番多い人で●00万近く、年収の何年分もらってないから。でもあんまり言っちゃいけないって言われた（笑）。

掟　それもブログに書いちゃってます（笑）。

ダンプ　ギャラもらってないのは本当のことだし、自分は全然どこも悪くないと思って書いてるんだけどね、「これはヤバいからすぐ消した方がいいです」って言われても、消し方っていうのがまたわかんないわけじゃん（笑）。パソコン持ってないし。

掟　前は実名入りでフロント批判とか凄い内容でしたよね。

ダンプ　●●払ってないとか、プロレス団体全部に関わっちゃうことだからダメなんだって。でもそれを平気で書いちゃってたからね。

掟　生々しすぎます（笑）。でももう誰かが真実を書かないと、この危機的状況がファンに伝わりませんからね。

ダンプ　うん。ファンはなんにも聞かされてないでしょ。選手も会社がいよいよ危ないってことを1回呼ばれて言われただけみたいで、「だけど公表はしないでくれ」って。ファンの子にも聞かれるけど、選手全員箝口令が敷かれてて言えなくてさ。それ言っちゃうと……●●●が来ちゃって試合にならないからって。

掟　お金を取り立てに来るのも明らかに話が通じない人たちなわけですよね。

ダンプ　そうそう。それじゃあ肝心の試合もできなくなる。

掟　その全女も4月17日でいよいよ最後になるんですよね……。

ダンプ　淋しいよね。でもね、自分は会長（松永高司）は好きなの。だから「これ以上全女の内部告発をすると会長の身が危ないからやめた方がいい」って言われて、本当はぶちまけたくてしょうがないけど、会長のためにホントにヤバイことは書かないようにしてる。

掟　一節には借金の総額が30億円って言われてますけども。

ダンプ　まあ、松永兄弟が懐にガッポガッポ入れていい思いしてた時期があったから、今苦しい思いもしてるんだけど。でもさ、全女がヤバくなった本当の原因は他にあってね。試合の内容にしてもマンネリ化してたりで、客がつまんなくって逃げちゃってるわけだから、全部会長のせいってわけじゃないじゃん。



こちらが松永会長の勇退が発表された3・29横浜・金沢大会のポスター（もちろん使い回し）。中央の一番いいポジションに、どでかく写っているのはダンプ松本。マジだぜ！

掟　極悪とクラッシュの抗争や、獄門党のデスマッチ路線の頃は、対立構図がわかりやすくて面白かったんですよ。

ダンプ　国ちゃん（松永国松・社長）が音頭をとってやってたときの方が面白かったよね。ちゃんと選手も、頑張れば上に上がれるっていうか、燃えるような試合の組み立てをやってきてたのに、いまは一番嫌われ者のM、これも前にブログで名前書いたんだけど、実名出すなって言われてさ（笑）。そいつがマッチメークから何から全部やってからダメになっちゃったのね。全女が悪い方向に行ったのを自分の責任と思ってないからね。

掟　以前グリズリー岩本さんにインタビューしたときに、昔、タイトルマッチの1本目をガチンコでやったことがあるって話を聞きまして。それで勝った方がちゃんとフロントにも上の選手にも誉められるから、そういう緊張感が試合をよくしてたっていうか。

ダンプ　まして、いまなんてさ、選手もお金もらえないし頑張れないじゃん。どうせ一生懸命頑張っても、自分たちの試合やろうとするときは「今日もギャラ出ないらしいよ」って噂が流れてるみたいな感じだからさ。

掟　やる気なくなりますよね。

ダンプ　ね。だけどファンの子が遠くまで来てくれて一生懸命応援してくれてるから選手は頑張るじゃない。だからといって頑張った人がベルトに挑戦できるようにはなってないわけよ、Mのえこひいきばっかりだから。

掟　タイトル挑戦もMさんの心づもりひとつでしかなくなったと。

ダンプ　そうそう、それは可哀想。だから全女がなくなっちゃうってことに対して悲しいと思ってる人ってそれほどいないんだよね……。「もっと前からなくなってればよかったんだ」とかさ。

掟　いい時代だった全女はとっくの昔に終わってるんですかね。

ダンプ　うん、中身も違うからね。あと、今試合に出てない選手が「いまの試合じゃダメだ」とか言ってても「お前の言うことじゃねえだろ」って感じもあるじゃない……ごまかしごまかししゃべってるんだけど、わかる？

掟　ハイ、なんとなく。こういう悲惨な状況でしかも選手はほとんどノーギャラ続きですからね。

ダンプ　うん、みんなバイトしてるよ……。プロレスだけで飯を食ってくのは大変だよ。

掟　バイトレスラーが当たり前になりつつあるのが現在のプロレス界の現状ですよね。

ダンプ　ましてや全女なんて（地上波の）テレビ放送ないじゃない。サムライTVなんてさ、お金払わなくちゃ見れないし、ちょっと高いんでしょ？　それ入ってまで見ようとは思わないじゃない。

掟　まったく興味がない人がプロレスを好きになるきっかけがないんですよね。

ダンプ　フジテレビでやったりとかしてると、地方の人たちも、いつどこで試合するかがわかるじゃない。それに地方のお店に一軒一軒頭下げてポスター貼らせてもらったりとか、営業努力もしてない。

掟　で、こうしてる間にも問題のMさんはハワイで結婚式を挙げて。

ダンプ　ホントだよ、冗談じゃないよ！　どこに金があるんだって感じでね。

掟　選手の給料も出てないのに。

ダンプ　「あの結婚資金はネコババした金だ」ってみんなは言ってるんだけどさ（笑）。さすがに会長たちも怒ってたみたいだけどね。その前にレフェリーの（松永）太が結婚したけど、式も挙げてなければなにもしてないわけじゃない。あの子は巡業でもね、缶コーラ飲むのにさ、氷だけ100円ぐらいで売ってるヤツあるじゃん、「今日は贅沢しちゃおう」なんて言いながら氷買って飲んで……そ

所属選手は不平不満言えないから、代わりに言ってあげるの

（井上）貴ちゃんも「私、写真集のお金もらってないし」って言ってた

んな姿を見てると、可哀想って思っちゃうじゃない。

掟　片やコーラの氷、片やハワイって、メチャクチャですよ！

ダンプ　たとえ女房の親がお金を全部出すとしても、せめて4月17日が終わってからにするのが筋でしょ？　それで「今度は俺が社長になるから、みんなついて来い」って言ってるみたいだから笑っちゃうよね。

掟　実際、新・全女みたいなものはこれから始まるんですか？

ダンプ　……あるんじゃないの？　でもMについてく人はいないでしょ、2人ぐらいしか。

掟　写真集でヌードになったお金が入らないって選手もいたわけですよね。前村早紀選手とか。

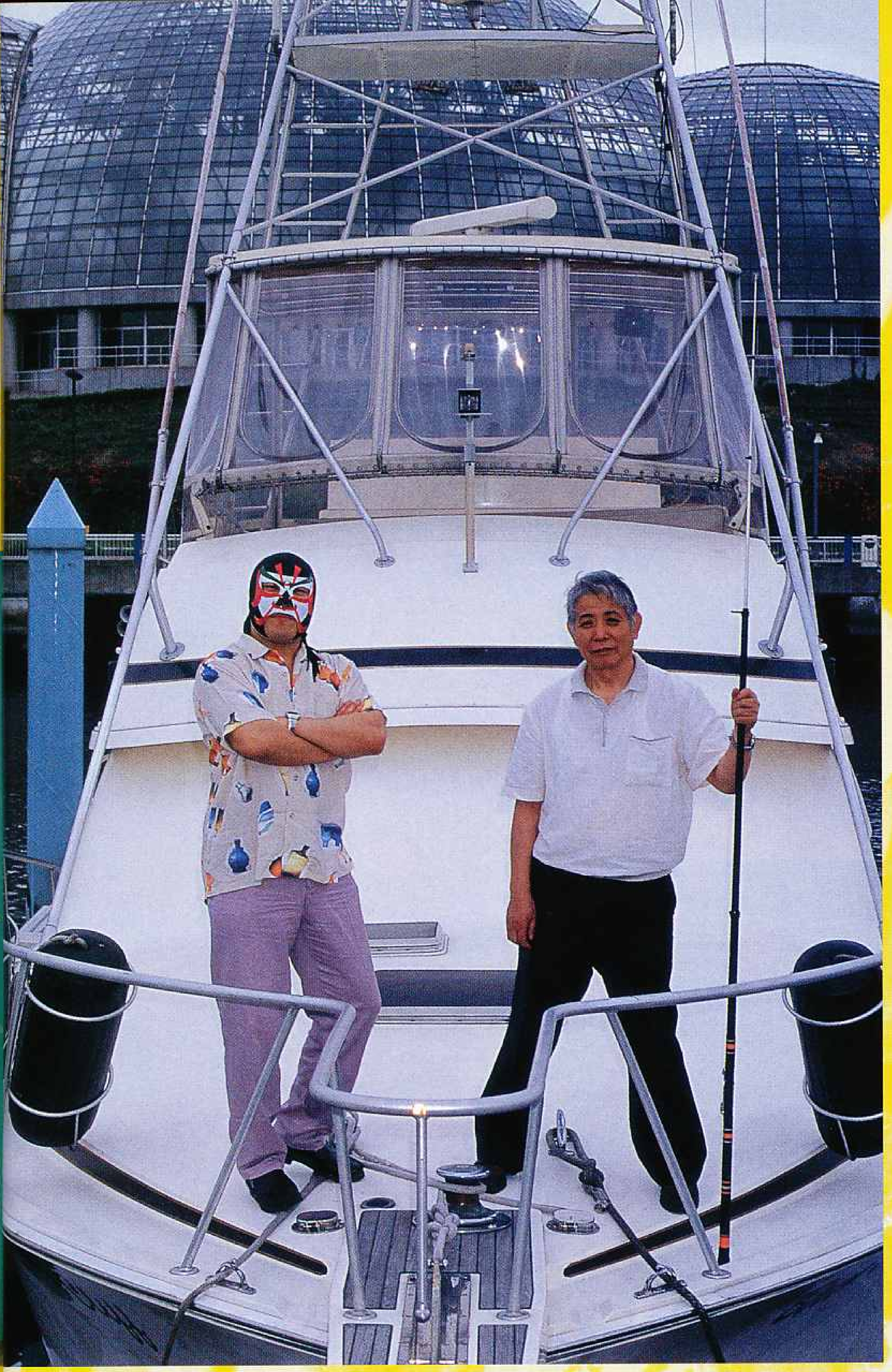
ダンプ　それだってMが勝手に契約しちゃったみたいでさ。ヌードの撮影現場には普通は女の人がついてくでしょ？　それもMが行ってさ、お尻とか見えちゃうのにヒドイよね。しかもギャラだって会社じゃなくてMを通して来るわけだから、いくら抜いてるかわからないじゃん。。

掟　お金に困ってるからそういう写真集を出して稼いでるのかなって思ってる人は多いと思うんですけど、それでも一円も入らないっていうのは切ないですよね。

ダンプ　（井上）貴ちゃんも「私、写真集のお金ももらってないし、ギャラももらってない。せめて試合のギャラだけは取り立てしたいですよね」って言ってたけどね。

掟　あれだけ写真集出てるのにですか!?　そりゃもう出し損ですよね。

ダンプ　ホントだよ。たかが30万とか50万とか言われてもさ、こんだけギャラが無配で苦しいんだから、尻でもなんでも出しちゃうと思うよ。サソリだってやっちゃうよ（笑）。



7年前、まだサスケが社長時代に行った松永会長との豪華クルーザー対談。このときの松永会長は「不況の時代こそプロレスが国民にエネルギーを与えなきゃいけない」と豪語。あれから数年、全女不況は好転することはなかった……。

掟　ある意味、見てみたいですね（笑）。

ダンプ　後姿見たら坊さんにしか見えないけどな（笑）。

掟　でも貴子さんの例を挙げるまでもなく、全女がお金にルーズっていうのは昔からですよね。

ダンプ　昔の極悪同盟の頃は客入ってたから給料と別にもらえる大入り袋だけで余裕で飯が食えるぐらいだったんだけど、その頃だってプロレス以外の仕事は全部ギャラ半分だったよ。

掟　『たこ焼きラーメン』のCMとかのギャラも？

ダンプ　そう、●00万ぐらいだったとしても●00万ぐらいしかもらってないし、ほとんど会社が持ってっちゃう。グッズ収入とかも、子供だったからわかんなくてさ。辞めてからもらってないことに気付いたって感じ。

掟　全女の選手と行くツアーとかも昔ありましたよね。

ダンプ　ファンの集いでね、サイパン行ったりとかハワイ行ったりとか。

掟　ハワイとかサイパンなのに、参加費が30万近くするんですよね（笑）。

ダンプ　それは自分たちの家族を連れてくためなの。

掟　ダンプさんのご家族も同伴だったんですか？

ダンプ　違うよ、松永家の家族だよ。ウチらは家族どころか選手も5000円ずつ積み立てさせられてたんだから。

掟　えっ、自分たちのファンの集いに自費参加!?

ダンプ　自費だよ。行きたくないから「返してくれ」って言ったら「行かないと困る」って言われて。だから選手は自分の金で行ってるんだよ。

掟　とことん松永ルールだなぁ（笑）。当時の雑誌のダンプさんの直筆インタビューで、「今年の夏の思い出を披露してください」って項目に「ファンの集いでハワイに行ったけど楽しくなかった」って書いてありますよ（笑）。

ダンプ　そんなこと書いてた？　楽しくなかったんだね……でも、懐かしいなぁ。

掟　まぁ、全女の場合、給料明細みたいなものがそもそもないんでしょうし、どのギャラがいくらなんてわからないですよね。

ダンプ　引退する前に6ヶ所ぐらいデパートでさよならサイン会とかしたけど、1回もギャラもらったことないんだよ。だけど退職金はドバッともらったから「じゃあいいや、これで」ってなっちゃったんだけど、結局その退職金だって自分で働いたお金なんだよね。芸能界に入ってからそういうお金のことを知るようになってったの。

掟　そのお金が全部サイドビジネスの外食産業や株式投資に消えたのも口惜しいですね。

ダンプ　いま、選手がバイトしてギリギリで生活してるのに、松永家は誰1人バイトしてる人いないからね。どうやって生活してるんだって感じでしょ？　前とか売店の売上を1万ずつ自分のファミリーにはあげてたのよ。1万ずつもらえば十分じゃん、あの人たちなんにもやってないんだから。そういうのを何回も見てて、その日にギャラが出ないっていうことがあって。「なんで？　あのとき配ってたお金はなに？」って思っちゃう。

掟　会長が焼いた焼鳥や缶ビールの売上げは別だと。

ダンプ　立川の阿部（四郎）ちゃんの興行で、阿部ちゃんは「ちゃんとギャラは渡した」って言ってたんだけど、お金が出なかったことがあったの。渡辺と前川と国ちゃんが「今日ギャラが出ない説明をしろ」って感じで話してて。自分は車に乗ってたの、関係ないから。そしたら健ちゃん（松永健司・副会長）が来て「お前ら、なにやってんだ！　この不景気でギャラなんか出ないよ、サッサとリング片付けろ！」って怒鳴ってる姿を見て、思わず笑っちゃったんだけどね。

掟　いつのまにか不景気のせいに（笑）。

ダンプ　明らかにお客さんが入ってるの

37年の歴史に幕
全女沈没

にギャラ出ないこともあるからね。それで全女がなくなったら、未配のギャラはどうなるのっていう心配ばっかりみんなしてるしね。自己破産されちゃうと、もうなしになっちゃうんでしょ？

掟　破産しないで未だにやってるのが不思議ですよ。いったん潰して違う組織にしちゃった方が利口というか。

ダンプ　でも自己破産しようがなにしようが、●●●●ところからお金借りてるから無駄だよ。新しい社長になろうが、新全日本女子プロレスにしようがそれはかわらないみたい。

掟　経営陣に松永一家が一切絡まないってことにならないと無理でしょうね。

ダンプ　それでもまだやろうとしてるから、頭イカレちゃってるんじゃないかって思うよね。

掟　選手はバイトしてるって話でしたけど、渡辺智子さんは先日100円ショップの面接に行ったんですよね。

ダンプ　ああ、あれ、落ちたって（笑）。

掟　100円ショップ不採用！　切なすぎますよ！

ダンプ　面接でテストやって計算させられたんだって。割り算とかルートとか、そういう難しいヤツが出てきて引っくり返ったってよ（笑）。しょうがないから、面接官の見てる前で携帯の計算機で計算して答え書いたって。

掟　反則は5カウント以内ならOKですか……さすがはプロレスラー（笑）。

ダンプ　前川は子供たちに空手の指導してるのと、週に2回だけセブンイレブンかなんかで夜中に。渡辺選手も今度セブンイレブンに面接に行くって（笑）。

掟　セブンイレブン、どんどん全女色濃くなりますね……。

ダンプ　サソリ君たちだって、前村さんとちゃんこ屋さんのお手伝いしてるみたいよ。

掟　今井リングアナもやってるとこですよね。

ダンプ　うん、ブッダマンとかも。そうじゃなくちゃ試合ないんだもん、生活できないよね。

掟　ちょっと今の全女の話になると暗い話ばかりになるので話題を変えます。ダンプさんは、阿部四郎さんの紹介で最近よくテレビの仕事もされてますよね。『おもいっきりテレビ』とか見てますよ！　悩み相談のコーナーでは、とにかくダンプさんがフンフン頷いてて。まぁ、ハッキリ言うとほとんど何も回答してないんですが……。

ダンプ　だって言っちゃいけないんだもん、結婚してないから。

掟　へ？　どういうことですか？

ダンプ　余計なことを言うと「結婚してない女に主婦のなにがわかるんだ！」って視聴者から電話がいっぱい来るんだって。プロデューサーからは「ちょっとしゃべりすぎです。うるさいって電話があるんでもうしゃべらないでください」って言われるし、色々大変なんだよ、あれ。

掟　それで黙ってるんですか、『おもいっきり生電話』のコーナー！

ダンプ　ホントは言いたいんだよ、「バカじゃないの？　ふざけんなよ」って。

掟　また相談内容がくっだらないものばかりで。「娘の夫に風俗通い歴があったことが発覚。その途端、娘が娘婿を不潔だといって毛嫌いし始めました。どうしたらいいんでしょう」っていう相談が60歳のババァからあったりとか（笑）。

ダンプ　あのね、始まる前に控室に「今日はこういう相談です」って来るの。みんなボロクソ言ってんだよ、控室では。だけどテレビじゃそれは言えないんだよね。

掟　真面目に相手にするのもバカバカしいですよね。ホントにダンプさん、一言もしゃべんないんですよ。ずっと時計見てるし（笑）。

ダンプ　「早く終わんないかな」ってね（笑）。

掟　実はしゃべれない事情があったんですね。

ダンプ　うん。「嫌だったら離婚しちゃえよ」って思うよね。

掟　当の娘本人が相談するんならいいけど、母親からですからね。もうガキじゃねぇんだからほっとけっていうか。

ダンプ　「嫌だ、嫌だって毛嫌いしてるけど、毎日ヤッてるよ」とかって言いたいんだよ、ホントは。

掟　ダハハハハ！

ダンプ　「そのうち赤ちゃん生むから心配するな。よその子かもしれないけどな」って言いたいぐらいなんだけどな（笑）。

掟　それ言ったら面白いですけど、ちょっと面白すぎですね（笑）。芸能活動といえば歌はもうやらないんですか？　昔の雑誌を見ると「10年後の私は？」って質問で「37歳、マドンナとコンサートをしてるでしょう」って答えてますが（笑）。

ダンプ　ハハハハハハ！

掟　桃色豚隊（ピンクトントン＝大森ゆかりとの芸能界デビュー用ユニット。）も順調に売れてれば、マドンナとコンサートしてたかもしれないですね。

ダンプ　桃色豚隊ね～……それはないな（笑）。

掟　極悪同盟時代は豪華な面子のソロアルバム『極悪』も出してましたし。

ダンプ　ハハハハハ！　すごい人が曲を書いてくれてるんだよね。

掟　坂本龍一や44マグナムとか。整合性は一切ないですけど（笑）。ステージやリングの上で歌ったことってないんですか？

ダンプ　ない……あ、1回だけ、千葉の……クラッシュがコンサートしたところで、2部で極悪がやって。ファンも一緒なんだけどね、盛り上がったんだよ、アンコールが来て。

掟　うわ！　見たかったですよ、それ！

ダンプ　あと、後楽園ゆうえんちのステージがあるじゃない、ウルトラマンが闘ったりするような。そこでライブやったかな。

掟　ドン・チャック・ショーと入れ替わりで極悪同盟が！　奇跡ですよ！

ダンプ　全部口パクだけどね。「口パク？」って言われたから「その通りです」って言った。

掟　歌唱力も存在もパンクでしたよね。

ダンプ　ひどいよね、ヘタクソで。いま聴くと笑っちゃうもん。

掟　極悪同盟といえば、ブログ日記にブル中野さんのことも書いてありましたけど、いまニューヨークに住んでるんですか？

ダンプ　うん、今年12月にブルちゃん帰って来るときにも極悪同盟興行やって、



3月29日、横浜金沢大会の試合前に松永会長は会見を行い、4・17後楽園ホール大会をもって会長職から勇退することを発表。その後、松永会長は、いつものように売店に直行すると、松永健司氏と共に焼き鳥やビールを売っていた。

12月にブルちゃんが帰ってくるとき極悪同盟興行やろうと思ってる

今月号の『紙プロ』、売上アップかもよ。ブログに宣伝載せるから

試合は出てもらえなくてもリングには来てもらおうかなって計画してるんだけどね。

掟　ブルさんはまだプロゴルファー修行中なんですか？

ダンプ　もう10何年経って受かんないからね、厳しいよね。緊張しちゃうんだって、テストになると。で、ビール飲んじゃうんだって。

掟　リラックスするためにビール！　それ、大丈夫なんですか？

ダンプ　うーん、そうするとね、今度はテンション下がりすぎてダメなんだって（笑）。一昨年ぐらいに一緒にサイパン行ったんだけどね、朝からずっとビール飲んでるもんね。

掟　プロテスト受かるまではブルさんは引退試合しないと公言してましたよね。

ダンプ　それで忘れられちゃうのもいやだよね。全女もなくなってね、どこで引退式するのってなっちゃうじゃん。そのときは是非極悪同盟の興行でやってあげたいよね。

掟　全女ＯＧは引退後意外な道を目指す人が多いですよね。一番意外だったのはジャガーさんが結婚されて主婦になったことですけど（笑）。

ダンプ　ね、ビックリしちゃうよね。でも最近旦那がわざとらしいから面白くないね。

掟　ダハハハハ！　テレビ出演時、妙に萎縮した感じを全面に出しすぎでわざとらしいと。

ダンプ　最初のうちは面白かったけど、ちょっとわざとらしくなってきちゃったね。宇野ちゃんのとこの方がまだ面白いかな。

掟　健介さんは最高ですよねえ！　ちなみに、ホントちなみにですけど、ダンプさん……結婚のご予定とかは？

ダンプ　あるわけないじゃない（うんざりした顔で）。『おもいっきりテレビ』であんなくだらない相談ばっかり聞いてて結婚する奴いないって。

掟　世間の夫婦の多くは幸せになってないって言いますからね。

ダンプ　うん、友達も幸せじゃないし。クレーン・ユウもジャンボも離婚したしね。みんな離婚して文句言ってんの聞いてんのに、わざわざ結婚なんかしなくたっていいよね。結婚しなければ付き合って、嫌だったらすぐ別れればいいんだもんね。「幸せだよ、結婚はいいよ」って言う人なんて1人もいない！　でも、もし自分がしたら騒がれるよね。

掟　ジャガーさんだってなんの前触れもなかったですから、わかりませんよ！　いきなり新聞の1面飾らないでくださいよ！

ダンプ　タレントと結婚すればそういうこともあるかもな。

掟　じゃあ一時熱愛の噂のあった黒田アーサーさんとそうなっていたかもしれないですよね。

ダンプ　ハハハハハ！　アーサーね。

掟　二人でデュエットＣＤシングルまで出して。

ダンプ　あれは歌出すための話題作りだから（サラッと）。

掟　あ、やっぱり（笑）。

ダンプ　プロデューサーに「言ってくれ」って言われてしょうがなくて。あれでいい思いしたのアーサーだけ。

掟　まぁ、あのゴシップを真剣に信じていた人は、誰もいないとは思いましたけどね（笑）。

ダンプ　だってそれまで無名だったのが、自分と噂になったから黒田アーサーって名前が上がって、ＣＭも出たでしょ？　それで杉浦幸でガクッとなって、今度は安達祐実。だから女によって自分を上げようとしてるとしか思えないよね。

掟　ダンプさんから安達祐実さんって、相当振り幅の広い人に見えますよね。一体どういう趣味なんだと（笑）。

ダンプ　『アッコにおまかせ』でコメント下さいっていうから、「ロリコンだから早めに結婚した方がいいですよ、年取ると捨てられますよ」って言っといた。

掟　ダハハハハ！　あのときはビックリしましたけどね。

ダンプ　ああ～、「今日、『紙プロ』のインタビュー受けるんだ」ってＺＡＰには言ってあるんだけど、「余計なこと言ってくるな」って言われたなぁ。

掟　でも余計なことを言わないとダンプさんじゃないですよ！

ダンプ　ホントにね。

掟　『ドンと来い芸能界！』を出したときから、ダンプさんといえば、ちょっと言いすぎぐらいのところが面白いわけですから。

ダンプ　そうだよね。今月号、売上アップかもよ。ブログに「今日、『紙のプロレス』の取材してきた」って載せるから。

掟　ぜひお願いします！

【4月5日／高田道場近くの喫茶店にて収録】



だんぷ・まつもと■1960年11月11日、埼玉県熊谷市生まれ。80年代、クラッシュギャルズのライバルとして、全女の黄金期を支えたスーパーヒール。88年2月に引退するが、03年に電撃復帰、極悪同盟を復活させた。
極悪ダンプの『127kgの成長日記』は下記のサイトで絶賛更新中! 必見!!
★極悪同盟公式サイト　http://f61.aaa.livedoor.jp/~gokuaku/

おきて・ぽるしぇ■
【ロマンポルシェ。ライブ情報!】
5・3（祝）新宿ロフト（03-5272-0382）出演はロマンポルシェ。、赤犬、秘密博士、他。チケットは前売￥2,500でローソンチケット（Lコード:36024）、ぴあ（196-047）にて発売中!

37年の歴史に幕
全女沈没



4月10日、GAEA JAPANが惜しまれつつ10年の歴史に幕を下ろし、同時に長与千種も25年の選手生活にピリオドを打った。3日の横浜文体ではライオネス飛鳥が引退し、最後のクラッシュ2000を披露。後楽園も横浜も、超満員の観客で埋め尽くされた。解散発表は約半年前。氷河期といわれる女子プロ界においてGAEAは、柔軟な思考を持つ長与のプロデュースのもと、大会数は少ないが確実に興行を満員にする方法で、実質女子プロ界の盟主といえる存在に。経営が順調なままでのGAEAの解散を、経営が苦しい他の団体はどのように受け取るのか?



日本マット界最狂のマネージャー
北海道芦別市議会議員

将軍KYワカマツ

将軍KYワカマツが帰ってきたゾ〜ッ（拡声器で怒鳴り散らしながら）!!　新日本プロレスで一躍“悪のマネージャー”としてブレイクし、SWSの設立に深く関与、渋谷のホテル街で乱闘したかと思えば、政界進出というサプライズを巻き起こす……!　“国際プロレスの何でも屋”だった男は、どうして一流の“プロレスラー”になれたのか?　濃密裏方人生を振り返ってみた。

聞き手／堀江ガンツ　構成／ジャン斉藤　designed by shiraki(TwoThree)

SWS 50億円のプロレスバブルはこの男から始まった!!

“S”の黒幕にして“悪の正太郎君”の濃密裏方人生!!



今月
かもし

試合は出てもら
てもらおうかな
ね。
掟　ブルさん
中なんですか
ダンプ　もう1
らね、厳しい
て、テストにな
ゃうんだって。

—今日は、"悪のマネージャー"として一世を風靡し、あのＳＷＳ設立に深く関わっていたワカマツさんのプロレスラー人生をたっぷり振り返りたいと思っています！

ワカマツ　こちらこそよろしくお願いしますね。こんな夜遅くなっちゃってホント申し訳ないですけど。

—いやいや、試合（3・26ＩＷＡ後楽園ホール大会）を終えたばかりなのに、こちらこそ御無理言って申し訳ありません。ワカマツさんはいま北海道芦別市議会議員としてご活躍されているわけですけど、久しぶりの上京だったりするんですか？

ワカマツ　いや、東京には議員として行政視察によく来てるんですよ。去年から3回くらい来ています。議員としていまは2期目なんですよね。

—2期目！　ということは再選されたと。

ワカマツ　ええ、おかげさまで（笑）。

—それはおめでとうございます！　あの"悪の正太郎君"が再選をはたすとは、まさに宇宙パワーのなせる業というか、地元ではすっかり名士なんでしょうね。

ワカマツ　いやいや（照れ笑い）。私は自分の育った町をよくしたい思いで議員になったわけですけど、ほら、いまは国の財政が大変な状況でしょ。そのしわ寄せが地方に来てるんですよ。地方交付税がもう13％くらいも減らされて、どの自治体も予算を組むのに大変で四苦八苦してますから。

—北海道経済もここ10数年、かなり揺れてるみたいですね。

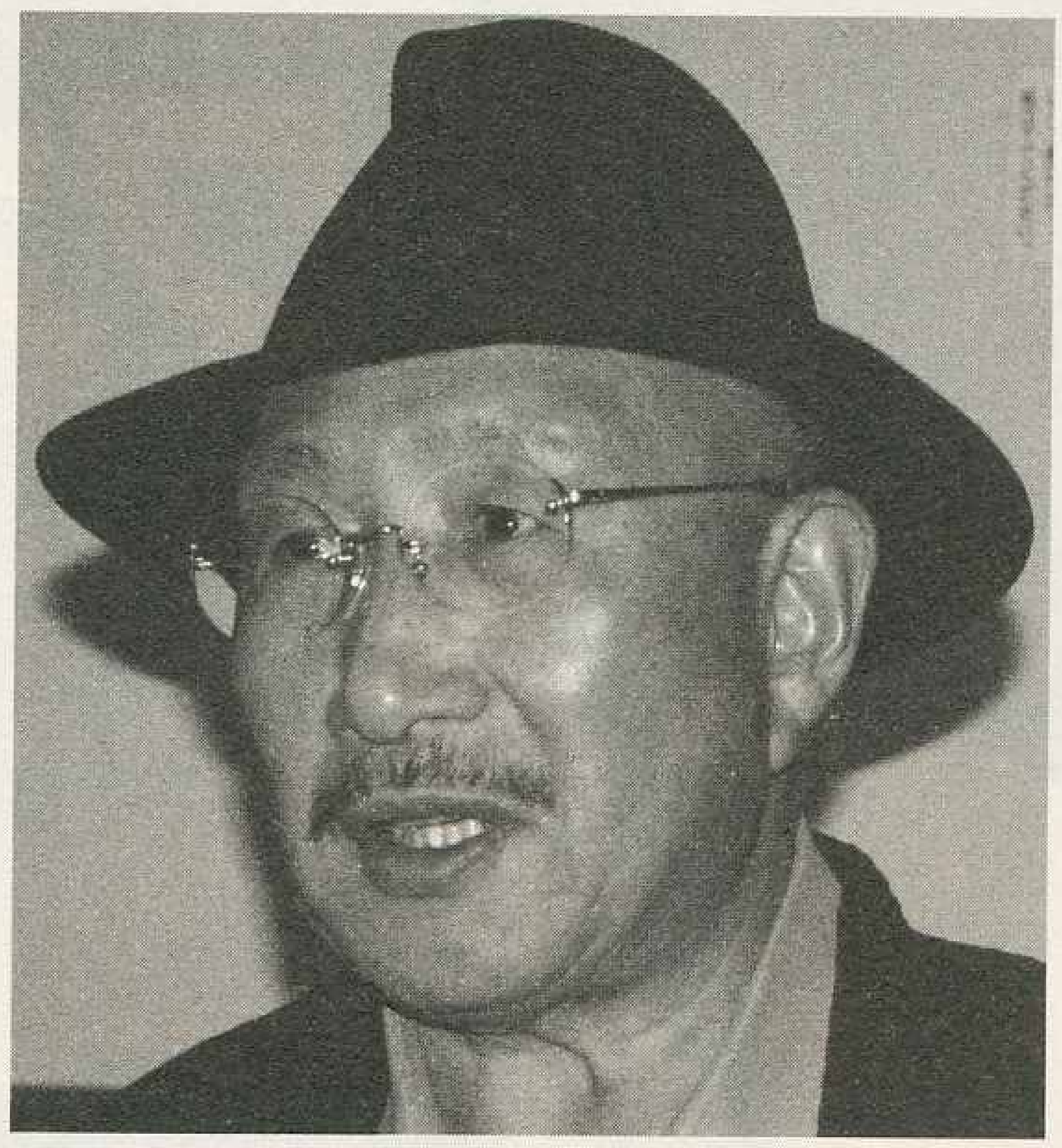
ワカマツ　本当に危ない。だからウチの市も必死で頑張ってます。赤字財政になったら道自体が落ちるんじゃないかと言われてますから。そうなればですね、他の地方の自治体も連鎖反応で落ちるという危機感があるんです。こういう厳しい時代でも、金を持ってる会社はあるんですけどねぇ。（ライブドアの）堀江さんみたいに。

—景気のいい話がバンバン出てきてますよね（笑）。

ワカマツ　でもお金を持ってないとこは大変ですよね。アメリカ経済に貢献しているようなもんですよ、いまの日本は。私も何とかしないといけないと思ってましてね。

—で、今回は久しぶりにプロレス参戦になったわけですけど、東京登場は単発のＦＭＷを除けばおそらくＰＷＣ以来ですよね。ＰＷＣでワカマツさんは高野拳磁さんと渋谷のラブホテル街で乱闘したり、あの宇宙パワーを生みだしたりとメチャクチャなことをやっていた記憶があるんですけど（笑）。

ワカマツ　長崎で試合をやったときなんか（高野拳磁を）海へ落としたからね。



おかげさまで市議会議員として2期目になります

—ガハハハハ！　そんなことまで！

ワカマツ　海に落としたときにちょうど船が来たんですよ。高野選手が船に挟まれて死ぬんじゃないかとちょっと慌てましたね。彼は泳げないから（笑）。

—危うく高野拳磁を殺しかけるところだったんですか（笑）。

ワカマツ　けっこうそういうことがあったんですよ。

—度々殺しかけてましたか（笑）。そもそもどういう理由で高野拳磁さんとやることになったんですか？

ワカマツ　どういうわけかああなったんです。

—ＳＷＳから産み落とされたＮＯＷから高野さんが抜けられたときに誘われたんですか？

ワカマツ　いや、あまり何か話し合いがあったとか、そういうことはなかったんだよね。

—自然の流れであの抗争がスタートした（笑）。

ワカマツ　おそらくこれからも自然の流れでね、いろんな人のつながりの中でやっていくと思いますよ。

—今回のＩＷＡ参戦も自然の流れなんですか？

ワカマツ　そうですね。日本経済と同じくプロレスも何とかしないといけないと思いまして身体が自然に。

—ああ、プロレスも経済と同じく危ない！　と。

ワカマツ　いまのプロレスはＫ-１だとか総合格闘技に差を付けられているじゃない。いま自分がプロレスに貢献できるかといえば、それはわかんないですけど、とにかくプロレスのために何かをしなきゃならんと思ってね。

—そんな野望を抱いてのＩＷＡ参戦だったんですか（笑）。

ワカマツ　そんな大袈裟なもんじゃないですけどね（笑）。

—で、ワカマツさんがプロレス入りした頃のお話も伺いたいんですけど。ワカマツさんは30歳というずいぶん遅い年齢でプロレス入りされてますよね。

ワカマツ　ああ、遅い方ですよね。（阿修羅）原さんも私と変わらない年齢で国際に入団したけど、原さんはラグビーをやってましたからね。私は何かスポーツをやっていたわけじゃない。

—そんな若松さんがどうしてプロレスラーになろうと思ったんですか？

ワカマツ　自分はもともと新日鉄の関連企業に勤める技術屋だったんですよ。でも、机に座って仕事をしながら「このままでいいのかな」「俺はこの仕事をやっていていいんだろうか」と常々疑問に思っていましてね。何か別の生き方をいつも模索していたわけです。

—自分に合った他の生き方があるんじゃないか？　と。

ワカマツ　そんなときにたまたまテレビを付けたらプロレスが放映されてまして。

—テレビ放映のプロレスがきっかけなんですか？

ワカマツ　まぁその前からプロレスには興味を持っていたんですけどね。何度か会場に行って観戦をしたり。その頃は馬場さんや猪木さんや吉村道明さんがいた時代ですね。

—力道山亡き後の日本プロレスの頃ですね。

ワカマツ　年を取ったらおそらくプロレスなんかできないじゃない。プロレスは若いときからやっていないとできない。それで思い立って国際プロレスに入門したんですよ。

—何かツテはあったんですか？

ワカマツ　何もない。

—何もない！　よく入門できましたね。当時のプロレスは狭き門だったと思うんですけど。

ワカマツ　何のアテもなく北海道から上京したんですけど、何かスポーツをやっ

ていたわけじゃないから身体はできてないし、体重は80キロぐらい。「入門しようとしてもすぐ断られるだろう」と思いまして、しばらく力仕事をやっていたんですよ。身体を鍛えるために1年半ぐらいウエイトトレーニングの施設にも通って。そして昭和46年の9月くらいかな。国際プロレスの事務所に直談判に行きまして、それで吉原（功）社長に入門の許可をもらったんですよ。

――若松さんはなぜか資材部に配置されたそうですけど（笑）

ワカマツ　そうなんです。自分としてはプロレスラーとして入門したつもりだったんですけど、実際は資材部だったんですよ（笑）。「それは何でもやりますから、入れてください！」って言ったからなんですけど。

――その言葉通り、国際でワカマツさんは何でもやられていたとか。

ワカマツ　トラックを運転して、リングを運んでリングの設営をして、売店でパンフレットも売ってましたね。そのあと選手の皆さんと一緒になって稽古をして。そんな生活が1年8ヶ月くらい続きましたよ。

――新弟子というより、まるっきりリング屋さんですね（笑）。

ワカマツ　あとレフェリーもやったんですよ、これが。

――レフェリーデビューの方が先でしたか（笑）。

ワカマツ　やらない仕事はなかったですね。やらなかったのは社長業だけ（笑）。夜なんか寝ないでリングを積んだトラック運転して、次の巡業先に向かうわけですよ。あとから亡くなった冬木（弘道）さんが国際に入ってきて私の仕事を手伝ってくれましたけど。

――冬木さんは若くして国際に入門されたんですよね。

ワカマツ　彼は高校卒業してすぐ入ってきたんですよ。冬木さんも私と同じで何も格闘技をやってなかったから、社長が「一緒にトラックに乗せてプロレスの勉強をさせてくれないか」という具合に頼まれまして。私と同じ仕事をやりながら、プロレスの稽古していたわけですよ。だから冬木さんという人は、プロレスのイロハのイから学んだ人間なんですね。

――リング上だけじゃなくて、大きな意味でのプロレスという興行全体を学んだというか。

ワカマツ　国際はそういうやり方だったんですね。当時冬木さんはまだ若かったから、仕事が苦しくて泣いていたときもありましたよ。こっちも心を鬼にして「俺もやるんだから君もやんなきゃダメだ！」ってやらせましたけど。そういう修行を積んだことで冬木さんは素晴らしく個性豊かな人間になりましたね。

――しかしワカマツさんはレスラー志願だったのによくそこまで他の業務を熱心にこなしましたよね。普通はイヤになりますよ（笑）。

ワカマツ　昔のことを振り返るとよくやってたなあと思いますよ（笑）。それはプロレスが大好きだったことも大きな理由なんですけど、やっぱり吉原社長の人間性にぞっこん惚れ込んでいたからなんですよ（しみじみと）。

――吉原社長にはよくかわいがってもらったんですか？

ワカマツ　私だけじゃなくて吉原社長はエコヒイキせずにみんなに温かく接してましたよ。私が初めて海外遠征に行くときなんて、吉原社長が持っている一番いい背広をプレゼントしてくださって。その背広はいまでも持ってます。国際の選手の人柄、営業の人柄というのは、そんな吉原社長の豊かな人間性に影響されている。レスラーも営業マンも吉原社長に倣（なら）っちゃう。だから国際はみんな良い人ばかりで揉め事もなかったわけですよ。

――国際には、プロレス界でありがちな

マシンはキン肉マンとして登場するはずだったんですが、著作権の問題でボツになったんです



新日本プロレスで一世を風靡したマシン軍団。そしてマシンたちをコントロールするワカマツ。白装束に拡声器とムチを携えるワカマツの出で立ちは、とにかくビジュアルインパクトが抜群だった。



今月
かも

試合は出ても
てもらおうかな
ね。
掟　ブルさんは
中なんですか
ダンプ　もう1
らね、厳しい
て、テストに
ゃうんだって。

内部の派閥抗争や揉め事はあまりなかったってよく聞きますね。

ワカマツ　あまりというか全然ない（キッパリ）。

――揉め事なし!!　それは魑魅魍魎のプロレス界らしからぬ話ですね（笑）。

ワカマツ　やっぱり、それだけ吉原社長という人が偉大だったんですよ。吉原社長は会社の経営者としての裁量に長けていたというか、お金の面では大変に苦労されていたと思いますけど、教育者としても素晴らしい。プロレスによる人間教育ができていて、吉原社長もプロレス社会の中で教育されたんじゃないかな。私はそう思っていますね。

――その愛すべき吉原社長が率いる国際がなくなったときは、相当ショックだったんじゃないですか？

ワカマツ　そうですねぇ。国際は56年の8月、北海道の羅臼の大会で解散しましたよね。そのあと私は高田馬場にあった事務所に寝泊まりしながら一ヶ月かけて会社の残務整理をしまして。そして最後は事務所に一礼して引き払ったんです。

――それを機にプロレス界から足を洗おうとは思わなかったんですか？

ワカマツ　いや、そうは思わなかったですね。じつは、国際プロレスがなくなる前の年の5月に地元の北海道で海外壮行試合をやっていたんですよ。だから国際がなくなってもプロレスを辞めようという気にはならなかったですよ。

――壮行試合をやってもらった手前、行かずに田舎へ帰るわけにいかなかったわけですね。国際解散後、すぐ海外遠征に旅立たれたわけですか？

ワカマツ　いや、旅費がなくてすぐにはいけなかったんですよ。それで埼玉の越谷に国際プロレスを応援してくれていた、東京電力の協力会社の社長さんがいたんですけど。いまでいうタニマチかな。その会社で電気の修正を担う工事を1年ぐらいやっていたね。そこで海外への旅費を稼いでいたんですよ。

――はぁ～。本当に辛抱強いですねぇ。

ワカマツ　やっぱりプロレスがやりたかったから。ヘルメットを被って夜も昼も働いて。もう朝の5時ぐらいに起きて越谷から都心に出かけて電気の線の埋め立てをするんですね。それでようやくカナダに行けたんです。

――どういうルートでカナダに行かれたんですか？

ワカマツ　カナダには安達（ミスターヒト）さんがいましたけど、何かツテがあったわけじゃないですね。

――というと、何のアテもなく飯場で働いていたんですか（笑）。

ワカマツ　そうなんですよ（笑）。でも幸運なことにブレッド・ハートのお兄さんでスミス・ハートというレスラーが国際に留学生として来てたんですね。スチュ・ハートの息子。彼とは合宿で仲良くなって、父親に私のことを言ってくれたんです。だからスミスさんがいなかったらカナダには行けなかった。こっちは試合なんかナンボもしていない。レスリングのレの字も知らないんだから（笑）。

――リング屋のエキスパートだったわけですからね（笑）。

ワカマツ　で、カナダに行ったら、ブルースやブレットがいかにしてボクのことを使おうかと考えてくれたんですよね。それでマネージャーとして使い出されて、プレイング・マネージャーという役割ができたんですよ。

――いまにいたる〝悪のマネージャー〟は、プロレスの名門ハート一家のアイデアだったんですか。

ワカマツ　そう。いまの〝将軍KYワカマツ〟という名前もブルース・ハートが付けてくれたんですよね。

――これは長年の謎だったんですけど、将軍KYワカマツの「KY」というのはどういう意味なんですか？

ワカマツ　それはね、むかしカナダに「KY」という悪い将軍がいたらしいんですよ。それでヒールにはピッタリのネーミングだろうということで付けたんだと思います（笑）。

――カナダの悪将軍が由来！　長年の疑問がやっと解けました（笑）。

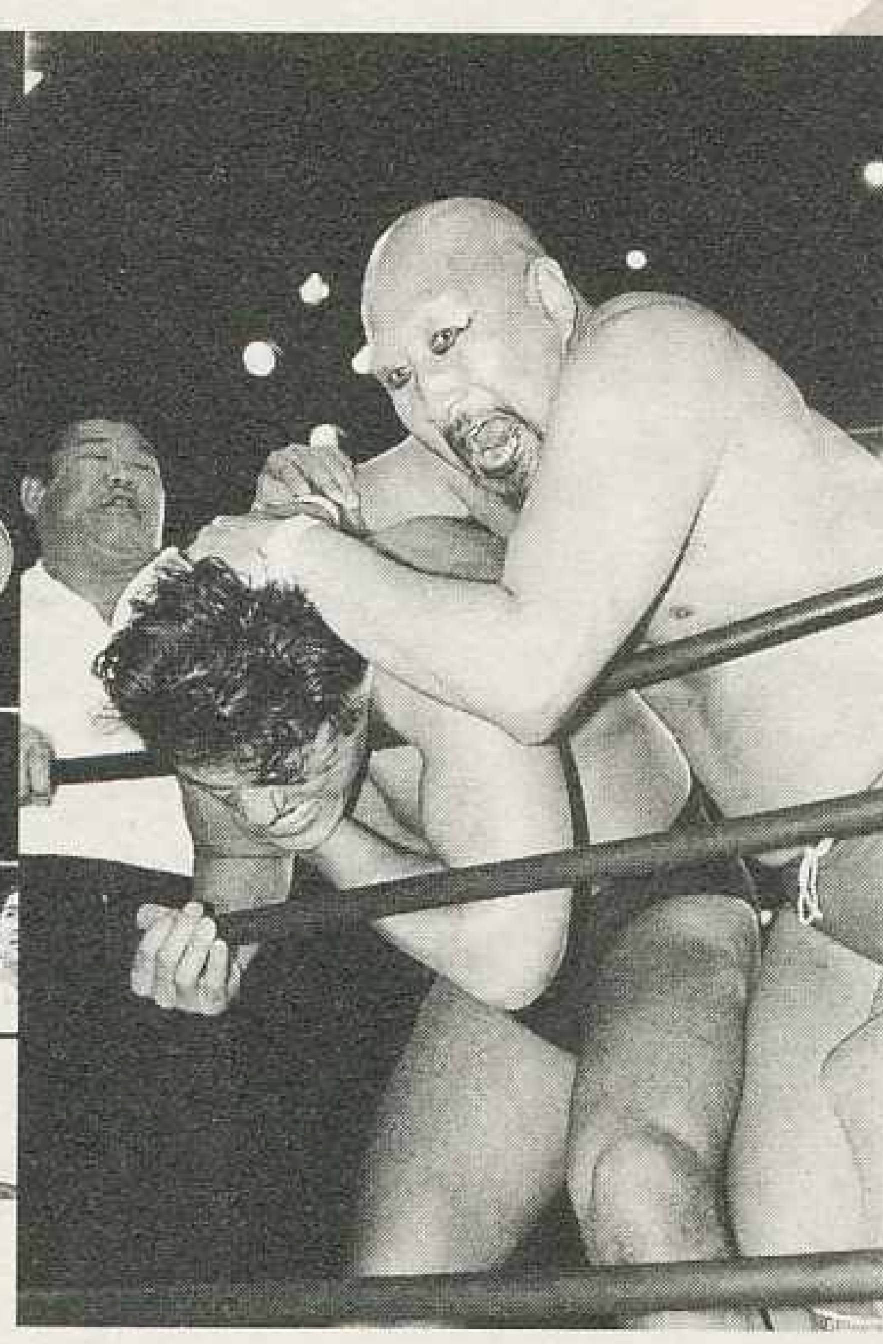
ワカマツ　その将軍はムチャクチャ悪かったらしいですよ。そんなおっかない名前を付けたことで、お客さんが怒って私にムチャなことをやってくるんだ。女性にうしろから急所を蹴られるし。

――ガハハハハ！　そこまでの悪役ぶりでしたか（笑）。

ワカマツ　そんなのはまだいいほう。イスにでっかい鋲を置かれて、知らないでイスに座ったこともありますから。

――うわ～!!　それはメチャクチャ危険ですね！





ワカマツはアンドレとのタッグで猪木と対戦！“昭和のジョー・サン”とも言える風貌だ。そのアンドレが扮した、正体が人目で丸わかりのジャイアント・マシンもコントロールしていた。“プロレス”の魅力溢れる光景である。

ワカマツ　危険も何も鋲がお尻に刺さって血で真っ赤になって。もうムチャなんだわ。ナイフも持ちだしてくるしねえ。

――でも、それだけヒールとして一流だったという証でもありますよね。のちのマシン軍団で一世を風靡するワカマツさんのキャラはカナダに確立されたことがよくわかりました！

ワカマツ　カナダでは私もムチャクチャやりましたからね。だからねえ、リングを降りても気が抜けないんですよ。試合終わって食事いくでしょ。夜の11時ぐらいなんですけど、観客が私のことをやっつけるために待っているんだから。

――ガハハハハ！　それはイヤな出待ちですね（笑）。

ワカマツ　しょうがないから近寄ってこれないように「ウガー!!」って叫んで威嚇するわけですよ。でも、カナダの冬は下手したらマイナス45℃ぐらいの世界だから、口を開けると息ができなくなるんですよ。

――叫んだら口の中が凍ってしまう世界。威嚇もおちおちできないと（笑）。

アンドレから「WWFに一緒に行こう」と誘われたことも

ワカマツ　あとカナダの冬はアイスバーンになっちゃうから。そっちも怖いわけね。大剛鉄之助さんなんかは交通事故で足の手術をしたし、けっこう日本人で交通事故に遭ってる人は多いですよ。

――大きな鹿がいきなり道路に飛び出してきて事故が起きたりするみたいですね。

ワカマツ　もう熊や馬みたいな大きな鹿

ぐらいやっていたね。そこで海外への旅

ワカマツ　それはね、むかしカナダに「K

ですね!

ワカマツ　もう熊や馬みたいな大きな鹿

将軍KYワカマツの「KY」の由来?
それはカナダのハートー[illegible]が……。



がいっぱいいるんだもんね、これが。北海道のエゾ鹿よりもずっと大きいんです。そんな鹿がアイスバーンの道路に飛び出してくるわけだからおちおち気が抜けないわけですよ。

——とにかくリング内外で命がけだったわけですね。

ワカマツ　もう信念だけでやってましたね。いずれは日本に帰らなきゃならないと。いつまでもカナダにいるわけにはいけない。そういう気持ちだけで頑張っていました。月曜日から土曜日まで試合があるんですけど、休みの日曜日も練習して身体をつくって、いつか日本に帰るという目標を掲げてました。

——日本に戻って、全日本プロレスか新日本プロレスで活躍したいという気持ちがあったんですか?

3・26IWA後楽園ホール大会に登場したワカマツ。その試合前に"悪の正太郎君"コスチュームを撮影したが、年齢を感じさせないハイテンション振りは、プロレスラーの鏡だった。インタビューの時とはまるで別人である。

ワカマツ　全日本、新日本というよりね、日本にまず帰らなきゃという気持ちが強かったんですよ。先のことは何も考えていない。たまたま吉原社長が「新日本に参戦してみないか」ということで、それで新日本に出たわけですけど。

——国際崩壊後、吉原さんは新日本の特別顧問になられたんですよね。吉原さんはワカマツさんがカナダで〝悪のマネージャー〟をやっていたことは知ってたんですか?

ワカマツ　知ってました。

——では、新日本のリングでマネージャーをやることはスムーズに決まったんですか?

ワカマツ　そうですね。あの頃は、ちょうど長州（力）さんとか（アニマル）浜口さんとか、前田（日明）さんが新日本を出て行ったときでかなり大変な時期だったんですよ。

——前田さんや高田（延彦）さんが旧UWFに走って、長州さんら維新軍が全日本へ電撃移籍した時期だったんですね。

ワカマツ　主力選手が誰も残っていないんです。そのときいたのはジョージ（高野）選手、高野俊二（現・拳磁）選手だとか。あと新弟子だった武藤（敬司）さんだとか、山田恵一選手（ライガー）。

——若い芽は育っていたけど、マット界を巻き込む話題性がほしい新日本からすれば、ワカマツさんは格好の存在だったというか。

ワカマツ　私は新日本で3年半近くも大騒ぎましたからねえ。金曜日のゴールデンタイムは20％必ずいきましたよね、あの頃は。

——いまだにワカマツさんの知名度は凄いですもんね。間違いなく当時の影響はありますよ。

ワカマツ　その頃はさ、あの視聴率なんか当たり前かなと思っていたけど、いまのプロレス界のことを考えると、大変なことだったんですね。

——視聴率の数字的価値は当時といまではだいぶ違いますけど、あのK－1や『PRIDE』でも毎週放送して高視聴率をマークしているわけじゃないですからね。

ワカマツ　いま振り返ってみるといい時



メガネスーパーの田中八郎さんにはどうにかして恩返しをしたいです



豪快なエピソードを数多く残した“巨大資本プロレス”SWS。当時はターザン山本!率いる『週刊プロレス』の報道で、田中社長は大ヒールに仕立て上げられたが……いまとなっては悔やまれるSWS崩壊である。

代でしたよねぇ……（しみじみと）。プレイング・マネージャーという役割を日本で初めて私がやったから、それが面白く映ったこともあったんじゃないですか。

――そもそもあの“悪のマネージャー”ワカマツとストロングマシーンズというのは誰のアイディアだったんですか？

ワカマツ　私。

――ワカマツさんのセルフ・プロデュースでしたか！（笑）。

ワカマツ　ご存知だとは思うんですけど、マシンは最初「キン肉マン」としてデビューするはずだったんですよ。

――らしいですね。最初にマシンが登場したときはスキー帽を被ってましたけど、なぜかワカマツさんはキン肉マンの人形を投げながら入場してきて（笑）。

ワカマツ　でも著作権が問題になってね、キン肉マンはボツになったんですよ。予告編をやっておきながらね。

――ガハハハ！　著作権をクリアしないでやろうとしたんですか（笑）。

ワカマツ　それで急遽ストロングマシンになったわけです。

――でも、ワカマツさんはキン肉マンのマネージャーとして登場する予定だったんですよね？

ワカマツ　そうですね。

――キン肉マンって正義のヒーローですよね。“悪のマネージャー”が付くのは違和感があるような……。

ワカマツ　それはマシンがボツになったから“悪のマネージャー”としてスイッチしたんですよ。

――じゃあ、当初の計画通り「キン肉マン」だったら、ワカマツさんが「ミート君」みたいな役割だったかもしれないわけですか（笑）。

ワカマツ　私は臨機応変だからね。とにかくどうやったらファンが盛り上がるのか？　問題はそっちの方ですね。良い・悪いとかじゃなくて、問題は観に来てくれてるお客さんが、また会場に来てくれるようなことを考えなきゃならんし、やらなきゃならん。そういう面では、ピピッと臨機応変にできますから。

――素晴らしい方向転換ですよね。あの白装束に細いサングラスというショッキングなのコーディネートはすべてワカマツさんご自身がされたんですか？

ワカマツ　自分で全部やるんですよ。なんでもかんでも。拡声器も自分で調達してくるんですよ。

――拡声器まで！　ホントたくましいですねえ（笑）。

ワカマツ　やっぱりそれまでの経験で突き動かされているところはあると思いますよ。

――その新日本では、プロレスラーとして一試合だけリングに上がったことがありますけど。

ワカマツ　両国国技館のメインイベントでアンドレと組んだ試合。

――そのタッグで猪木&上田馬之助組と闘ったわけですけど、本当にプロレスの醍醐味を象徴する、ケレン味溢れるカードですよね（笑）。

ワカマツ　あのね、全盛期のアンドレと組んだ日本人は私が初めてですよ。



90年10月18日に行われたSWSの旗揚げ戦「闘会始」で、ワカマツは新倉史浩と対戦。必殺のKYスペシャルで勝利を得たが、プロレスの一線を超えたとしか思えない新倉の打撃でワカマツの顔は酷く腫れ上がった！ これぞ“顔が腫れる”プロレス!!

――そういえば、当時のアンドレは大ヒールということもあって外人レスラーとしか組んでなかったですね。

ワカマツ　あとアンドレがマスクを被ってジャイアント・マシンになったときがありましたけど、そのときアンドレから「NYのWWF（現WWE）に一緒に行かないか」というような話もされたんですよ。

――あのアンドレとパックでWWF入りですか！

ワカマツ　でも私はテレビ局との契約があったから。それで行かれなかった。

――でも、そこまでアンドレから信頼されていたわけですね。

ワカマツ　アンドレはですね、最初に日本に来たのは国際だったじゃないですか。モンスター・ロシモフとして。きっとアンドレは、当時の国際プロレスで私が朝から晩までトラックに乗って、風呂にも入んないで仕事をしている姿を見ているわけですよ。

――つまり、アンドレは人間・若松市政のプロレスに懸ける姿を知っていたのではないか、と。

ワカマツ　吉原社長との繋がりもあるし、そんな人間的な絆が強かったんじゃないかな。自分なんかよりも素晴らしい選手はいっぱいいるんじゃないですか。そういう選手と組んでいた方がアンドレにとっても都合がいいのに私とのコンビを選んでくれたわけですから。

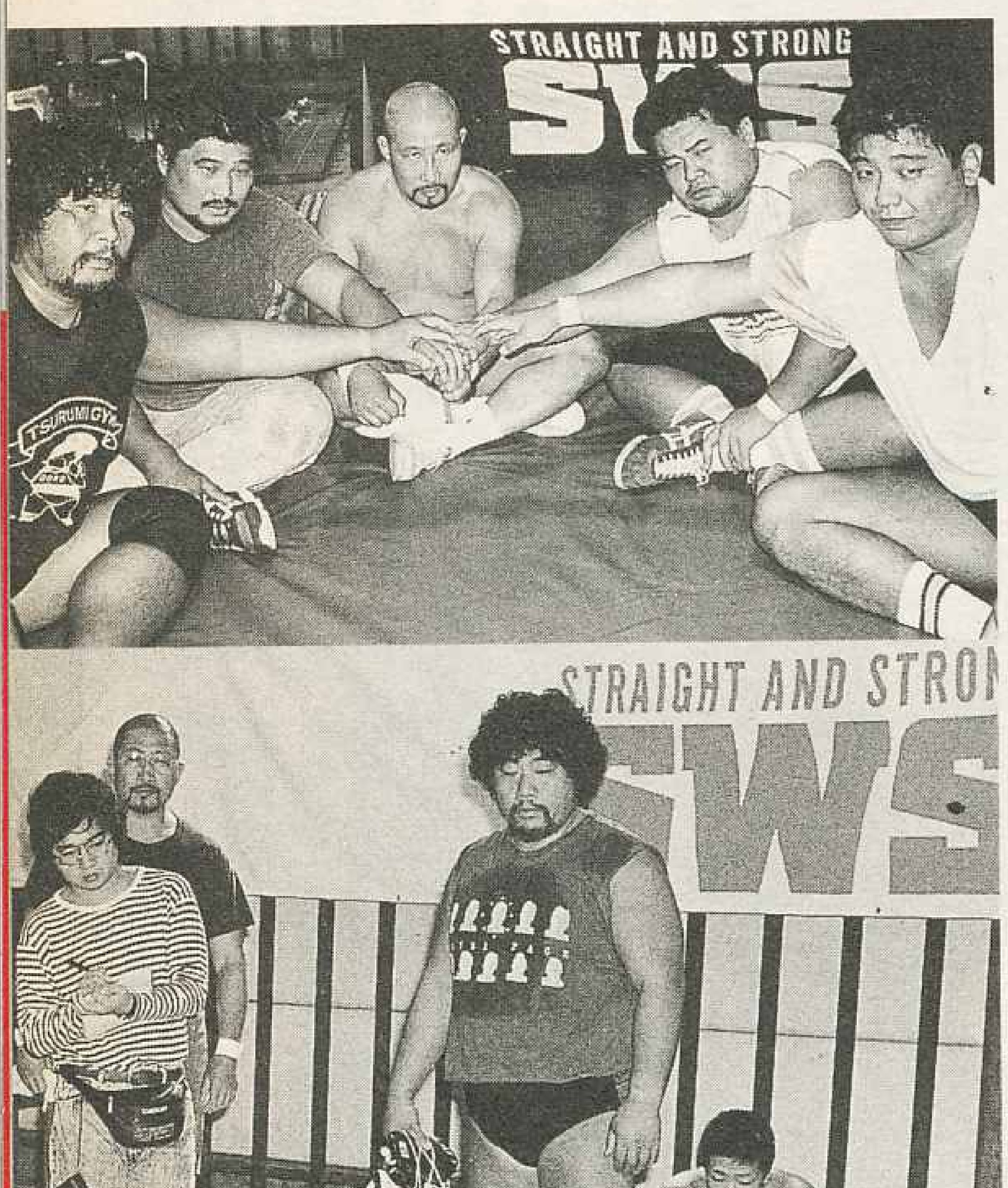
――アンドレとワカマツさんのコンビは、新日本の方針というよりも、アンドレの方針やお二人の絆から生まれたということですね。

ワカマツ　そういうことなんです。当時のアンドレは新日本に強くものが言えましたから。

――アンドレはドル箱もドル箱のスターでしたからね。

ワカマツ　いろいろ私に良くしてくれましたよ、アンドレは。いい人間というのは、早く死ぬね……。悪い人間というのはこうやって生きているでしょ（笑）。

選手にとってSWSは素晴らしい環境でした 泡のように消えてしまいましたけど



部屋別制度が導入されたSWSでワカマツは「道場・激」の道場主に就いた。ケンドー・ナガサキや谷津嘉章、鶴見五郎、仲野信市、維新力など渋いメンツがズラリ。また、SWSは"顔を腫らすプロレス"を道場マッチで展開する一方で、ワカマツはイギリスのランカーシャレスリング"蛇の穴"から師範代ロイ・ウッドを招聘。あの"無我"の先を行く"プロレス原点回帰"も目指していたのだ。

――ダハハハ。で、その新日本を離れてしばらくたったあとに、あのSWSを設立して業界を震撼させるメガネスーパーの田中八郎社長（現・会長）と出会うわけですよね。

ワカマツ　あ〜、そうでしたねぇ。もうすっかり忘れていましたよ（笑）。

――忘れちゃダメですよ！（笑）。SWSはもともとワカマツさんと田中社長の出会いが発端だったと聞いてます。一体どのようにして田中社長と知り合われたんですか？

ワカマツ　田中社長と親しい人がいるんですよ。その方がテレビ朝日の重役と懇意にしていて、そのテレビ朝日の重役が吉原さんと先輩・後輩の関係なんですね。そういう繋がりがあって田中さんを紹介してもらったんですけど、まさかプロレス団体をつくるなんて当時は思ってないから。ごく普通にお付き合いをさせていただいていたんです。

――田中社長はSWSを始める前は、第二次UWFのスポンサーだったわけですけど、その縁でワカマツさんと田中社長が一緒にUWFを観戦していたのは、かなり不思議な光景でした（笑）。

ワカマツ　そうそう。行きましたよ。田中社長が「行きませんか？」って誘われて。とくに深い意味はあったわけじゃないですけど、そのうち田中社長の方からプロレスの話をしてきまして。

――田中社長はどういう団体構想を抱いていたんですか？

ワカマツ　いやいや、プロレスで旗揚げするというより、プロレスラーで恵まれてない人がいるんじゃないかと。才能が埋もれているとでもいうのかな。そういうプロレスラーをね、田中八郎さんが団体をつくることによって、うまく活用されればいいんじゃないかということだったんですよ。ハッキリ言います。田中さんはプロレスで儲けようなんて一切思ってなかったんです。

――田中社長はもともとお金を持っていたわけですからね。

ワカマツ　そうなんですよ。田中八郎さんはプロレス界を支えたい思いだけだったから。

――田中社長とはどんなプロレスのお話をされていたんですか？

ワカマツ　いや、そういう話をしたことなかった。

――え？　したことないんですか？（笑）。

ワカマツ　はい。ただね、「ワカマツを男にしてやりたい」とは言っていたというから。

――「ワカマツを男にしてやりたい」！　なかなか言えるセリフじゃないですよ！（笑）。じゃあ、もともと田中さんは、ワカマツさんのプロレス団体をつくってあげるというお話だったわけですか？

ワカマツ　ホントはそうだった。最初はそうだったんですよね。でも結果的にそうならなかった。結果的にはね、何がなんだかわかんないようなことになっちゃったから……。

――お金の匂いに嗅ぎつけたのか、レスラーがどんどん押し寄せて来ちゃったというか（笑）。

ワカマツ　そうですねぇ。当時は「引き抜き」とか騒がれていましたけど、どちらかといえば、みなさんが「SWSに入れてくれないか？」というかんじでしたから。

――SWSは一流のスポーツ選手並のギャラを用意していて、軒並み凄い年収だ



今月号
かも


試合は出ても
てもらおうか
ね。
掟　ブルさん
中なんですか
ダンプ　もう
らね、厳しい
て、テストに
やうんだって。

ったみたいですもんね。
ワカマツ　とんでもない契約金だって用意してましたからね。ケタ外れの扱いでしたよ、すべてが。
――結局、ＳＷＳは内部闘争のゴタゴタとか、国際プロレスとは正反対のことが次々と起こったわけですけど。
ワカマツ　いろんなことが内部で起きたけど、私はこんな性格ですから。あんまり立ち入るようなこともなかったし。ただ田中さんがいよいよ「もうやめる」というから、いろいろあったんだなあと思ってね。
――内部のイザコザや専門誌のバッシングがあったり、田中社長はかなり嫌な思いをされたと思うんですよ。あれだけ資金を快く注ぎ込んでいたのに。
ワカマツ　そうですね……。もう50億円くらいのお金を使った。
――50億円!!　にわかには信じられない金額ですね！
ワカマツ　一口で50億って言っても……あの、50億ですよ！
――いまなら西武ライオンズが買えますよ！（笑）。
ワカマツ　ＳＷＳはＷＷＥも丸ごと呼んでましたもんねえ。
――あと部屋別にそれぞれ道場を建てたり、大会ごとに特殊効果の演出も凄かったですもんね。つまり、田中社長にはプロレス界を自分のものにできちゃうぐらいのお金があった。でもプロレス界に手助けしようという考えだからそういう直接的な手段を取ろうとはしなかった。
ワカマツ　そうなんです。プロレスにちゃんとした基盤ができてなかったことを田中さんは危惧してたんですね。それに応えるべくＳＷＳの若い方も一生懸命だったもんね。私なんかも朝9時から一緒になって稽古をやってたけども。
――ＳＷＳの道場では若手主体の道場マッチもやられてましたよね。
ワカマツ　うん。やってましたね。入場料５００円で。
――あの道場マッチはいまでいう〝顔が腫れるプロレス〟ですよね。50億円使ったＳＷＳでボコボコ殴り合うプロレスや北尾さんの試合が５００円で見れたという（笑）。素晴らしい団体ですよ！
ワカマツ　ＳＷＳはそういう実験的なこともやっていたし、他にもいろんなことをやっていたんですよね。田中さんも画期的なことができる突出した素晴らしい経営者だったから。
――で、ＳＷＳが解散したときはＷＡＲやＮＯＷなどいくつかの団体に分かれましたけど、田中社長は、それぞれの団体のお手伝いもされてたんですよね。
ワカマツ　はい。してましたね。なかなかできることじゃないですよ。
――そこも評価されるべきですよね。「契約切れで終わり」じゃなくて、みんながそれぞれ生きていける団体をつくって身を引いたわけですから。
ワカマツ　うん。できないことですよね。いま振り返ってみると、もう少しね、（ＳＷＳを）大事にしてくれれば、いまのプロレス界も全然違ったかもしれないですね。いまのように格闘技に押されるような構図にはなってなかったかもしれない。まぁいろいろな問題はありましたけど、結局はバブルの崩壊がＳＷＳ解散の大きな原因だと思います。
――ＳＷＳも言わばプロレスバブルみたいなもんでしたね。
ワカマツ　うん。泡のように消えてしまった。それでも3年近くね、プロレスという好きな仕事をして、いままでもらったことのない報酬をいただいて、いままでにない素晴らしい環境だったわけですよ。そういう意味では、田中八郎さんはプロレス界の歴史に名を残したんじゃないですか。
――本当に惜しいことをしましたねえ……。ＳＷＳが終わってから、田中社長とご連絡を取ったりはしているんですか？
ワカマツ　私が東京にいた2年ぐらいはお世話になってましたけど……。あのね、私は田中さんに言葉で言い表されないぐらい感謝していますよ。どうにかして田中さんにお返しできるかなあとは考えているんだけど。
――ワカマツさんの気持ちは尊重したいですけど、いまのプロレス界の状況だと、一致団結しても困難な話ですねえ。
ワカマツ　そうですねえ。でも、人間というのはどこでどうなるかわからない運命じゃないですか。いずれ何かお役に立てればいいなとは思っていますよ。人間というのは、何かやることによって生きてる存在感というのを見極めようと必死なんですよ。今回（のＩＷＡ参戦）もその思いだけですから。いまは少子高齢化の時代ですけど、私でもこういう馬力が出せる、60歳や70歳になってもできることを観客にわかってもらいたいことも一つある。それで今回（ＩＷＡに）出てきたところもあるんですよ。
――今日のＫＹスペシャルにはそんな崇高な思いが詰まっていたんですね（笑）。
ワカマツ　この年になってもやれる！　という気概はあるんですよ。逆にこの歳だからやらないかん部分もあるわけです。70になっても80になっても、元気なうちは自分ができることをやらないかん。
――そういう思いがあって、かつて北海道に設立した道場の名前は「どさんこプロレス道場元気」だったんですか？
ワカマツ　そうですね。浜口さんじゃないけどさ、とにかく元気に気合いを入れる！　私の場合、機嫌が良ければだけど（笑）。
――ガハハハ。では、日本経済とプロレスが元気になる活動を期待しております！

〔05年3月26日／都内某所で収録〕



【しょうぐん・けいわい・わかまつ】本名・若松市政。昭和17年1月1日、北海道函館市出身。昭和47年、30歳にして国際プロレスに入社。その翌年にプロレスデビュー。国際プロレス崩壊後は、自費でカナダに渡り、悪徳マネージャーとして成功する。帰国後は新日本プロレスでマシン軍団を統率。ＳWS設立には深く関与した。平成11年4月、北海道芦別市議会議員に当選。現在2期目を務める。



現代に蘇った怪獣の知られざる生態が明らかに!!

柔術怪獣 ヒカルド・モラエス

謎の生命体ヒカルドンも完全調査!

聞き手／斎野もみじ　撮影／乾晋也

designed by さおとめの事務所

96年、リングスで日本初上陸を果たし、ただならぬ風貌と、柔術家ならぬ豪腕で一躍脚光を浴びたヒカルド・モラエス。その比類なき強さは、当時「柔術は紫帯だが、バーリトゥードは黒帯」と評された恐怖の柔術怪獣である。その後、PRIDE、アブダビ・コンバット、ジャングル・ファイト、アルティメット・クラッシュと様々なメジャー団体で猛威を振るい、今年4月、約5年ぶりにPRIDE再上陸。前田日明、〝ヒカルドン〟の由来、長期の戦線離脱、そしてプロレス……。その知られざる半生と、怪獣の生態に迫る！

——今日はよろしくお願いします！

モラエス （前田日明&高田総統が表紙の『紙のプロレスRADICAL』No85を見ながら）おお、ミスター・マエダか。か、彼はとてもいい人だった。

——その前田さんのお話も含めて、モラエスさんにはお聞きしたいことがたくさんあるんですよ！

ブッカーK 彼は日本の複雑な状況はまったく知らないんで、あまり難しい質問はしないで下さい。基本的にむかしの藤原組長ばりのどもり口調ですし（笑）。

——え⁉ なにか聞いちゃマズいことでもあるんですか？

モラエス そ、そんなことはないぞ。なんでも聞いてくれ。

——ウチのマガジンは、以前モラエスさんとインタビューのお約束をしたんですが、モラエスさんがグロム・ザザに敗退してブラジルに帰ってしまわれたことがあったんです。覚えてますか？（※下段カコミ参照）。

モラエス （しばらく固まって）……ま、まったく覚えがない。

——了解しました（笑）。では、まず最初にお聞きしたいのが、モラエスさんがいま着ているTシャツについてなんですが、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラがブラジリアン・トップチームと平行しているチーム・ミノタウロのTシャツですよね？

モラエス そうだ。ま、まだ始まって間もないチームだが、所属してもう8ヶ月ぐらいになるな。

——そうでしたか。では、モラエスさんが柔術を始めたキッカケを教えて下さい。

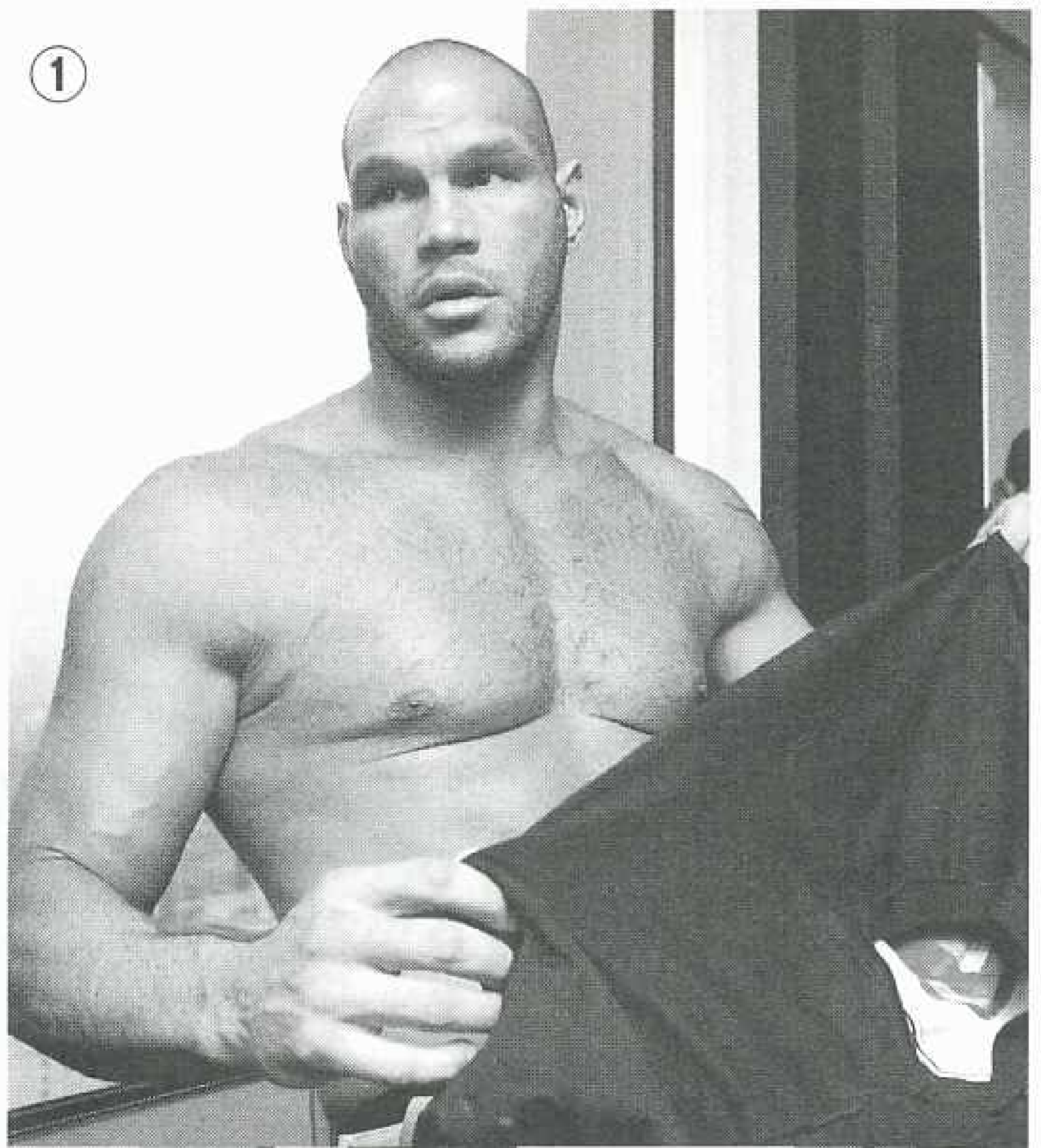
モラエス いまから21年前、従兄弟が柔術をやっていたのがキッカケとなったんだ。しばらく柔術に専念していたが、柔術だけじゃなくバーリトゥード（以下VT）にも興味が沸いてきたんだ。当時のブラジルではVTをやる選手は柔術の黒帯を取ったヤツだけで、自分は紫帯だったが、どうしてもやりたくて、いろんなVTの試合に出場していったんだ。

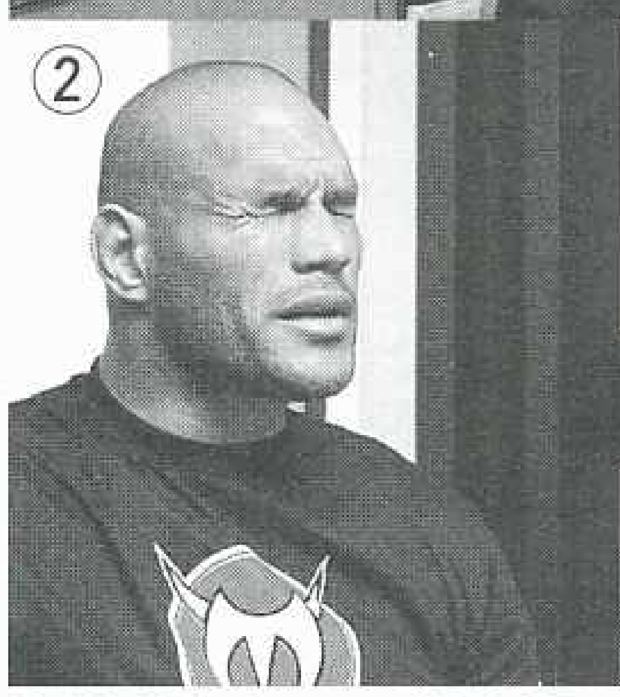
——ロシアの金網VT大会『アブソリュート』にも出場されたんですよね？

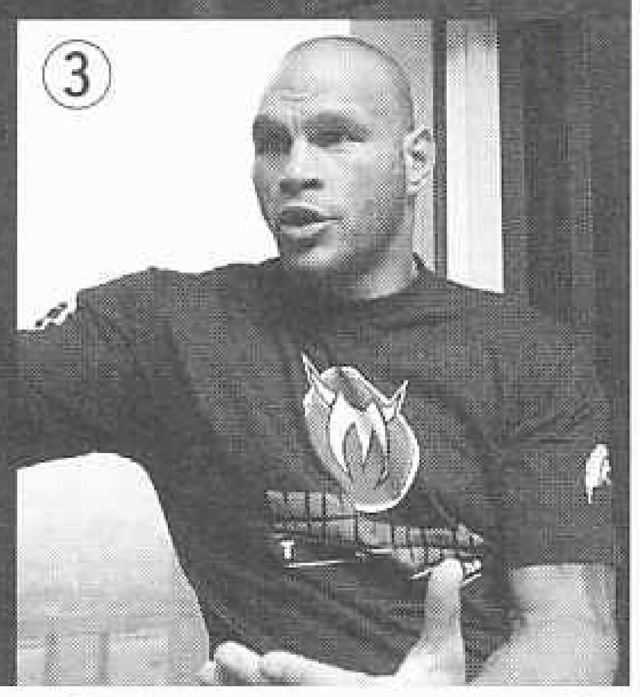
モラエス 1日に5試合というハードなトーナメントに出場して、決勝戦はイリューヒン・ミーシャだった。とてもタフな選手で厳しい試合だったが、チョークスリーパーで勝っている。そういった経験が、自分自身に対する絶対的な自信につながっているんだ。俺は常に何事をも恐れてはいけないと考えている。じ、自分で言うのもなんだが、俺はもの凄くガッツがあるヤツなんだ。

——それは十分に伝わってます！ そして96年8月、リングスに初登場するわけですが、

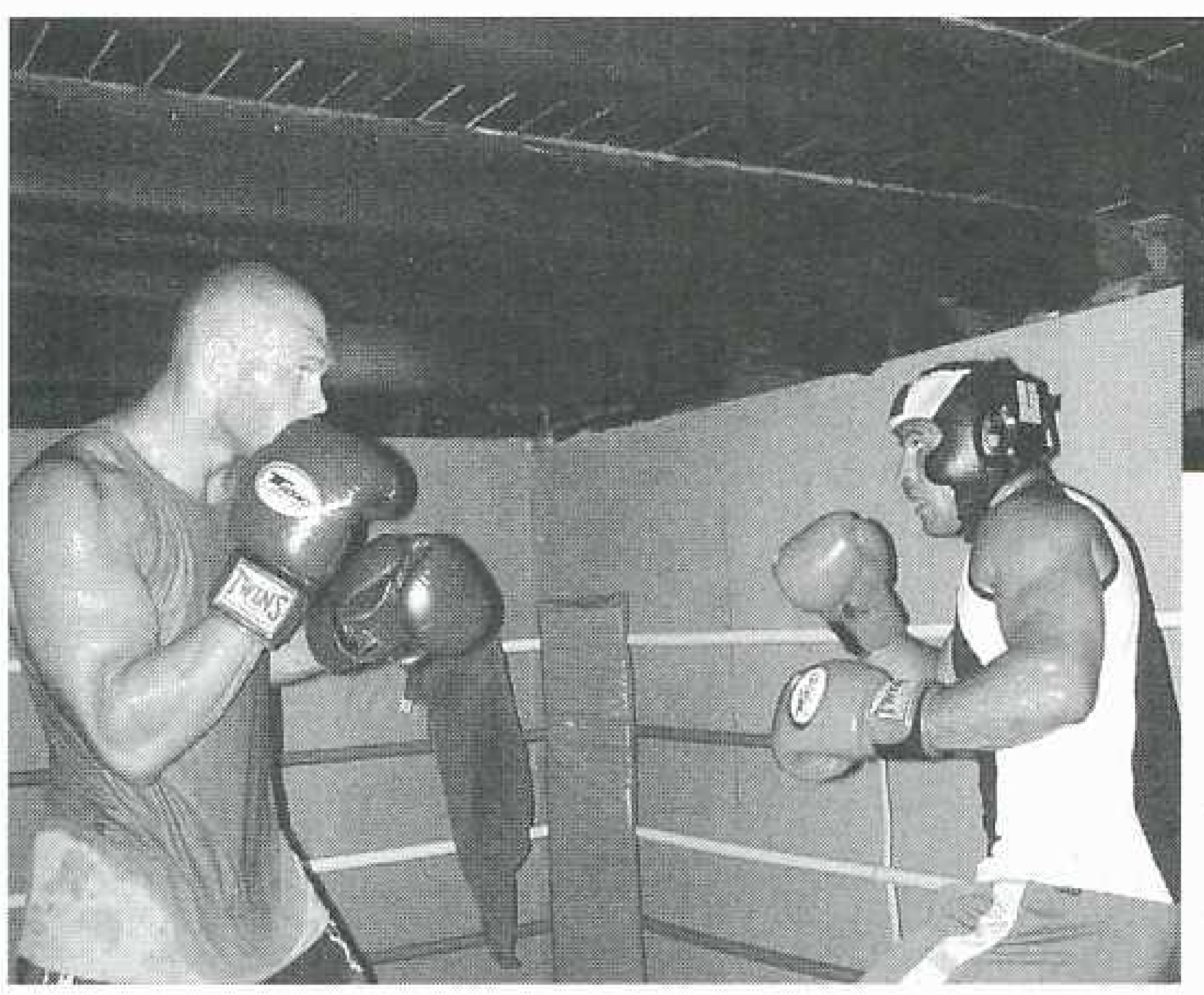
ヒカルド モラエス

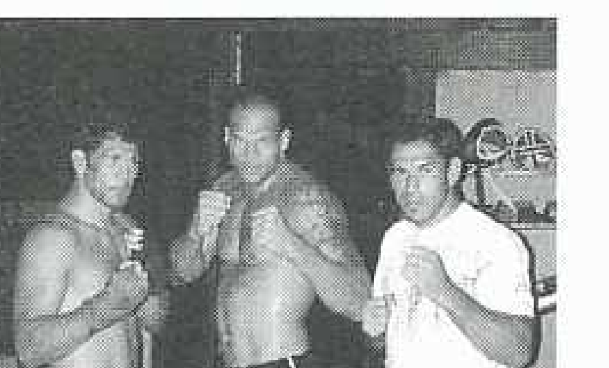






①胸筋断裂の生々しい手術跡を見せてくれたモラエス。コールマン戦では腰を痛め、背中にもメスを入れた跡が。身体中にキズがあるため、ブラジルでは“ミュータント”と呼ばれているらしい。そのアダ名は、日本だったらイジメである。②単語に詰まると、ご覧の表情で言葉を絞り出そうとするモラエス。その様子は、まるでデカすぎる裸の大将だ。③身体がデカいからなのか、声も必要以上にデカい。こっそり教えてくれたアレキサンダー戦の作戦も、完全に部屋の外へ漏れていた。





現在、モラエスはチーム・ミノタウロに所属し、世界最強の双生児・ノゲイラ兄弟とともに練習している。アレキサンダー戦後、「パンチに痛みは感じなかった。スパーリングのときも、俺はヘッドギアをつけない」と豪語していたが、これがその証拠写真。怪獣にそんなまどろっこしい防具は必要ないのだ。





これが『紙のプロレスRADICAL』No.8のインタビュー・ボイコット記事。いまから約7年以上前、誰もがその勝利を疑わなかったモラエスが、グルジアの伏兵ザザにまさかの敗退! よほどショックだったのか、それともただ単に忘れていただけなのか、モラエスは試合後、緊急帰国してしまった。

"柔術怪獣"モラエス(orヒカルドン)
バーリトゥード戦績

95/9/25『アブソリュート・ファイティング ロシア連邦
【第2回アブソリュートチャンピオンシップ トーナメント決勝戦】
○vsイリューヒン・ミーシャ●
(9分45秒 チョークスリーパー)

96/8/24『リングス』東京・有明コロシアム
○vs山本宜久●
(46秒 KO)※パンチ

97/6/21『リングス』東京・有明コロシアム
△vsコーチキン・ユーリー△
(20分時間切れ ドロー)※判定なし

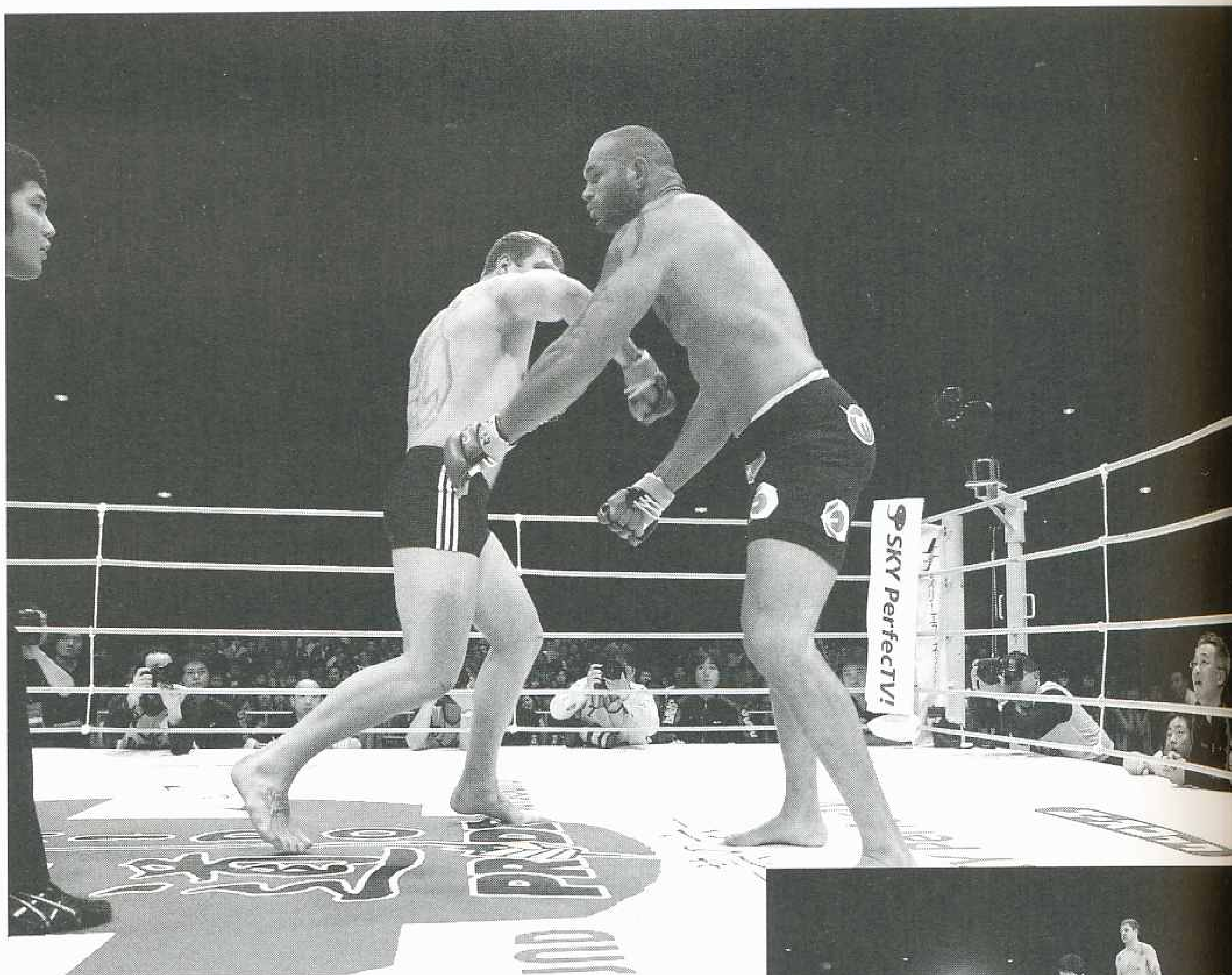
97/12/23『リングス』福岡国際センター
●vsグロム・ザザ○
(20分時間切れ 判定)

99/2/21『リングス 前田日明引退試合 "THE FINAL"』神奈川・横浜アリーナ
○vs金原弘光●
(20分時間切れ 判定)

99/11/21『PRIDE.8』東京・有明コロシアム
●vsマーク・コールマン
(2R判定4-0)

03/9/13『ジャングルファイト』ブラジル共和国
○vs メストレ・フマッサ
(1R 2分06秒 TKO)※パンチ

03/10/13 新日本プロレス『アルティメットクラッシュ』東京ドーム
●vs高阪剛○
(3R 判定 3-0)





『PRIDE武士道-其の六-』(05/04/03 神奈川・横浜アリーナ)

● ヒカルド・モラエス [1R 0:15 KO] **エメリヤーエンコ・アレキサンダー ○**

開始早々、アレキサンダーのワンツーがモラエスのアゴにヒット! 12発もの速射砲を顔面に浴び続け、モラエスは巨木が倒れるが如くマットに轟沈。約5年ぶりの『PRIDE』参戦は、実力を微塵にも発揮することなく終ってしまった。しかし、やられっぷりのよさが幸いしてか、今大会のベストマッチに推す声もチラホラ。

ミスター・マエダ？ 彼にはいい思い出と悪い思い出がある。

柔術家という触れ込みだったのに、剛腕パンチで山本宜久さんを秒殺したあの一戦は、リングスファンにとってホント衝撃的だったんですよ!

モラエス 試合はよく覚えてないが、お、俺は人の顔を殴るのが好きだからな(ニヤリ)。

——リングスでは2勝1敗1分という戦績で、コーチキン・ユーリー戦は判定なしの引き分けでしたが、内容はモラエスさんが圧倒してましたし、惜しくも負けてしまったザザ戦に関しても、極められることもなく、ただ押さえ込まれただけでしたからね。

モラエス ザザ……確かグルジア出身の選手だよな? その試合は覚えている。相手はただ押さえ込んで、ちょっとパンチを出してきただけだった。それで20分が過ぎ、残念ながら判定負けになってしまったんだ。だが、その試合をキッカケに、人間は謙虚でいなくてはいけないと感じたんだ。そ、それまでの自分は、誰にも負けることがないと確信していたからな。

——試合の結果を真摯に受け止めて、人間的に成長したと。現在はチーム・ミノタウロ所属ですが、当時はヘンゾ・グレイシーの弟子として参戦してました。いまもヘンゾとは師弟関係なんですか?

モラエス もちろんだとも。お、俺は所属チームを何度か変えているが、ヘンゾとはいまでもいい友達だし、柔術の師匠であることは一生変わりはない。

——なるほど。では、先ほど話に出た前田さんとの思い出があれば聞かせて下さい。

モラエス そ、それはいい思い出を聞きたいのか? そ、それとも悪い方の思い出を聞きたいのか?

——できれば両方お願いします!(笑)。

モラエス ザザに負けたとき、ミスター・マエダが俺の肩に手を置いて「試合というものは、勝つときもあるし負けるときもある。気を落とさないでくれ」と言ってくれたのが印象に残っている。

——いいエピソードですねえ。では言える範囲で構わないので、悪い方の思い出も聞かせてもらえますか?(笑)。

モラエス い、いや、もうそれは過去のことだから触れる必要はない。基本的に俺にとってミスター・マエダはいい人だったからな。

ブッカーK まあ、その話題についてはこれぐらいで(笑)。

——わかりました(笑)。99年に『PRIDE.8』でマーク・コールマンと闘ってますが、当時のルールではブレイクが少なくて、残念ながらザザ戦同様、終始押さえ込まれた試合でしたよね。

モラエス ウガーッ! お、俺は何者をも恐れないサムライの心を持ってるから、もっと激しい勝負がしたかったんだ! まあ、試合のあとコールマンは泣いていたけどな。

——え!? あのコールマンを泣かせちゃったんですか?

モラエス お、俺に勝てて嬉しかったんだろうな。そしてそれ以上に、俺がゴジラみたいで怖かったんじゃないのか?(笑)。

——コールマンの気持ちがわかるような気がします(笑)。そしてその後、アブダビコンバットにも出場されてますが、2000年の

俺のことがよほど怖かったのか、コールマンは試合のあと泣いていたぞ

大会で、準決勝まで勝ち上がりながらも、リコ・ロドリゲス戦を前にリタイアという結果でした。一体、試合で何があったんですか？

モラエス　実は胸肉が両方とも断裂しまって、長い間、試合に出ることができなくなってしまったんだ。こ、これを見ろ！（と言いつつ豪快にTシャツを脱ぎ捨てる）

——うわ、凄いキズですねえ！　ではアキレス腱固めで一本勝ちしたマーク・ロビンソン戦は、筋肉が断裂したまま相手のアキレス腱をねじ上げてたんですか⁉

モラエス　グフフ、そういうことになるな（自慢げに）。VTではパンチで勝ってばかりいたが、俺は寝技も得意なんだぞ。ケ、ケガがなかったら優勝するのは俺だったはずだ。サーシャ（アレクサンドル・サフコ／柔道で名を上げ、レスリングでも世界大会で活躍したアブダビコンバットクラブのレスリングコーチ）の元でも訓練してたしな。

——優勝したのはマーク・ケアーでしたが、ケガがなければ、当時〝霊長類最強〟の名をほしいままにしてケアーも問題ではなかったと。

モラエス　ケ、ケアーは霊長類だろう？　俺は怪獣だからな、グフフ。

——ごもっともです（笑）。ではそのケガが原因で長期の戦線離脱となりますが、その期間、パン屋さんで働いていたという噂を聞いたんですよ。それは事実なんですか？

モラエス　そ、その通りだ。俺はパ、パンを焼いていた。

——実にデカいパン屋さんですねえ（笑）。

モラエス　じゅ、重傷だったし、ずっと練習もできない状態が続いたんだ。身体中ボロボロだったし、引退も考えていた。だが俺は、どうしても闘うことを忘れることができなかったんだ。

——2003年のジャングル・ファイトで復活されたんですよね？

モラエス　ジャングル・ファイトか……。確かにいい経験を積むことができたことは間違いないが、あ、あまり語りたくはないな。

——いい思い出ではないんですか？

モラエス　ミスター・イノキは素晴らしい人物で尊敬してるが、ただ彼と一緒に仕事をしているスタッフに、一人どうしようもない人物がいやがったんだ。

——もしかして、その人物とはヴァリッジ・イズマイウですか？（笑）。

モラエス　オ、オ、オマエ、頭がいいな！（笑）。そうなんだ。ア、アイツがすべての問題だったんだ。

——やっぱり（笑）。なぜかイズマイウは日本で妙な注目を集めるんですよ。

モラエス　こ、ここはおかしな国だな。と、とにかくアイツのことは語りたくないんだ！

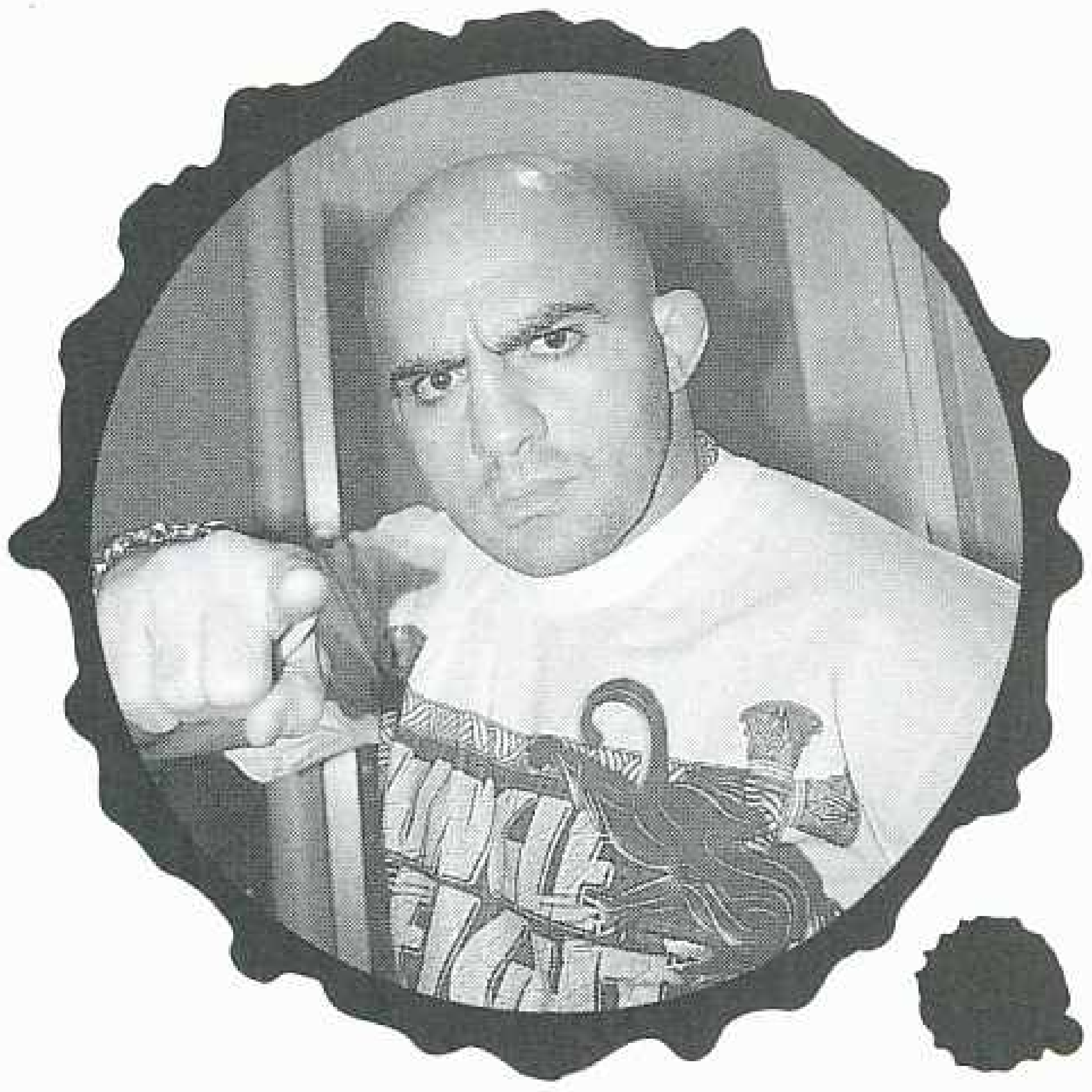
——いやあ、その反応だけで十分です（笑）。

ところで、新日本プロレスのアルティメット・クラッシュに参戦したときは〝ヒカルドン〟という名前で闘ってましたが、その由来を教えてもらえますか？

モラエス　ヒ、ヒカルドン？……俺はそんな名前で出てたのか？

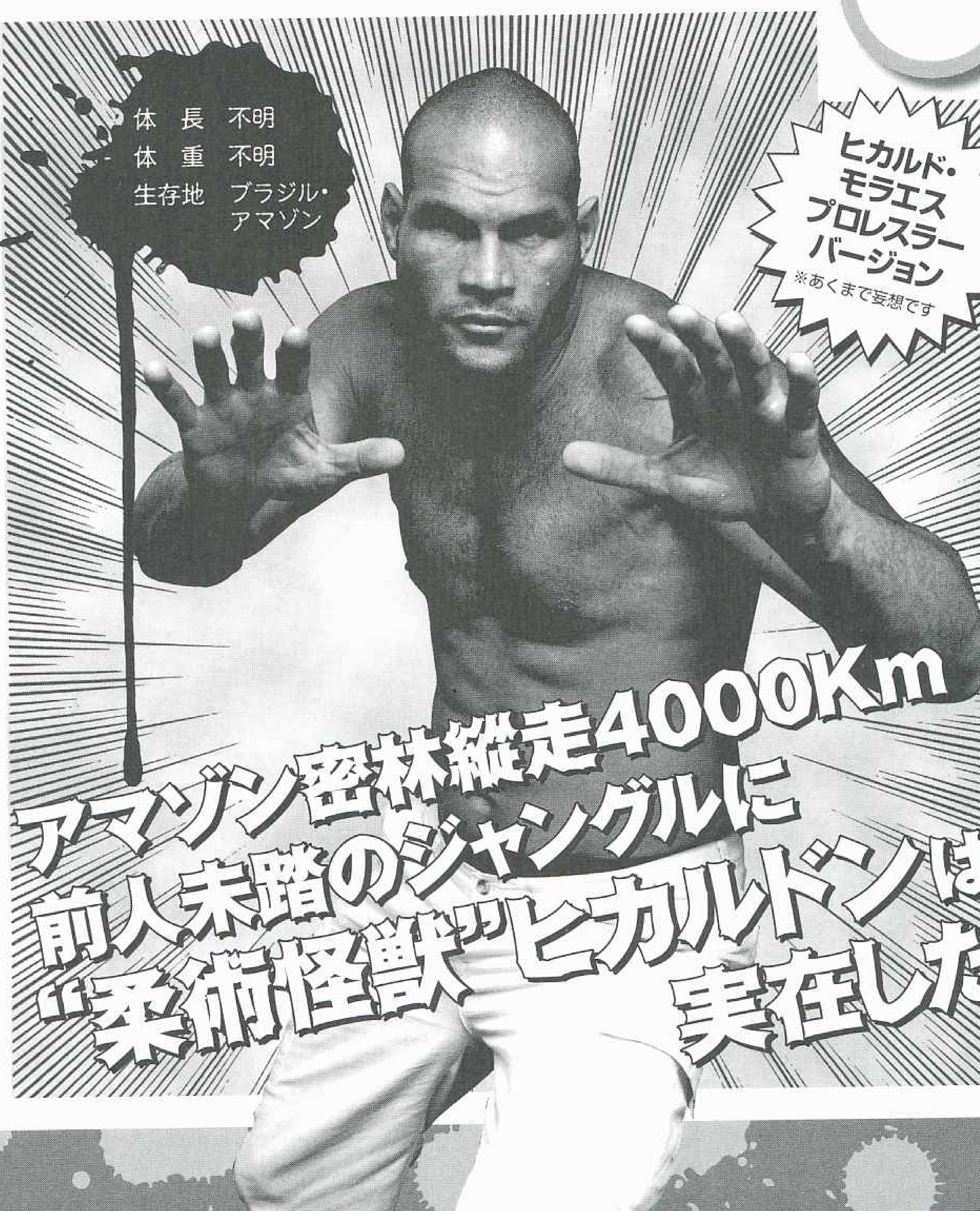
ブッカーK　彼は名前を変えられてる自覚はないんですよ。普段通りオファーがきて、いつも通り試合に出場しただけですから。

——ではプロモーターが勝手に付けた名前だと。では明日（インタビューは4月2日）の



不思議なほどいい噂が聴こえてこない、ご存知われらがイズマイウ。アントン総帥が現れるところに必ず出没するため、付いたアダ名が“闘魂ストーカー”。しかし本人曰く「ブラジルではサッカーといえばロナウド、VTといえばイズマイウ様だ!（真顔で）」。現在は格闘技界に距離を置いて（ホサれて）いるとのことだが、確実に再浮上の機を窺っているハズ。『紙プロ』だけはアナタの復活をお待ちしてます!!

ヒカルド モラエス



俺はプロレスでもVTでも強さがアピールできれば何でもいいんだ

『PRIDE武士道』に共に出場する高阪剛選手とそのアルティメット・クラッシュで闘ってますが、高阪さんの印象を教えてください。

モラエス　コ、コーサカとの試合？　コーサカと誰が闘ったって？

――え？　モラエスさんが闘ったんですけど、約1年半前の試合ですが、覚えてらっしゃいませんか？

モラエス　コーサカと俺が？（長考）……お、思い出したぞ！　コーサカは素晴らしいファイターだが、ただあのときの俺は、時間がなくて柔術のトレーニングが十分にできなかったんだ。だからグラウンドの技術でコーサカが上回ったが、その他の部分で俺はまったく負けてはいなかったはずだ。

――VTの試合だったとはいえ、結果的に新日本というプロレスの団体のマットで試合をされたわけですけども、プロレスに対する興味はありますか？

モラエス　プ、プロレスはやったことがないが、きょ、興味はあるぞ。

――日本にはモラエスさんのようなモンスターにピッタリな『ハッスル』というイベントがあるんですが、ご存知ですか？

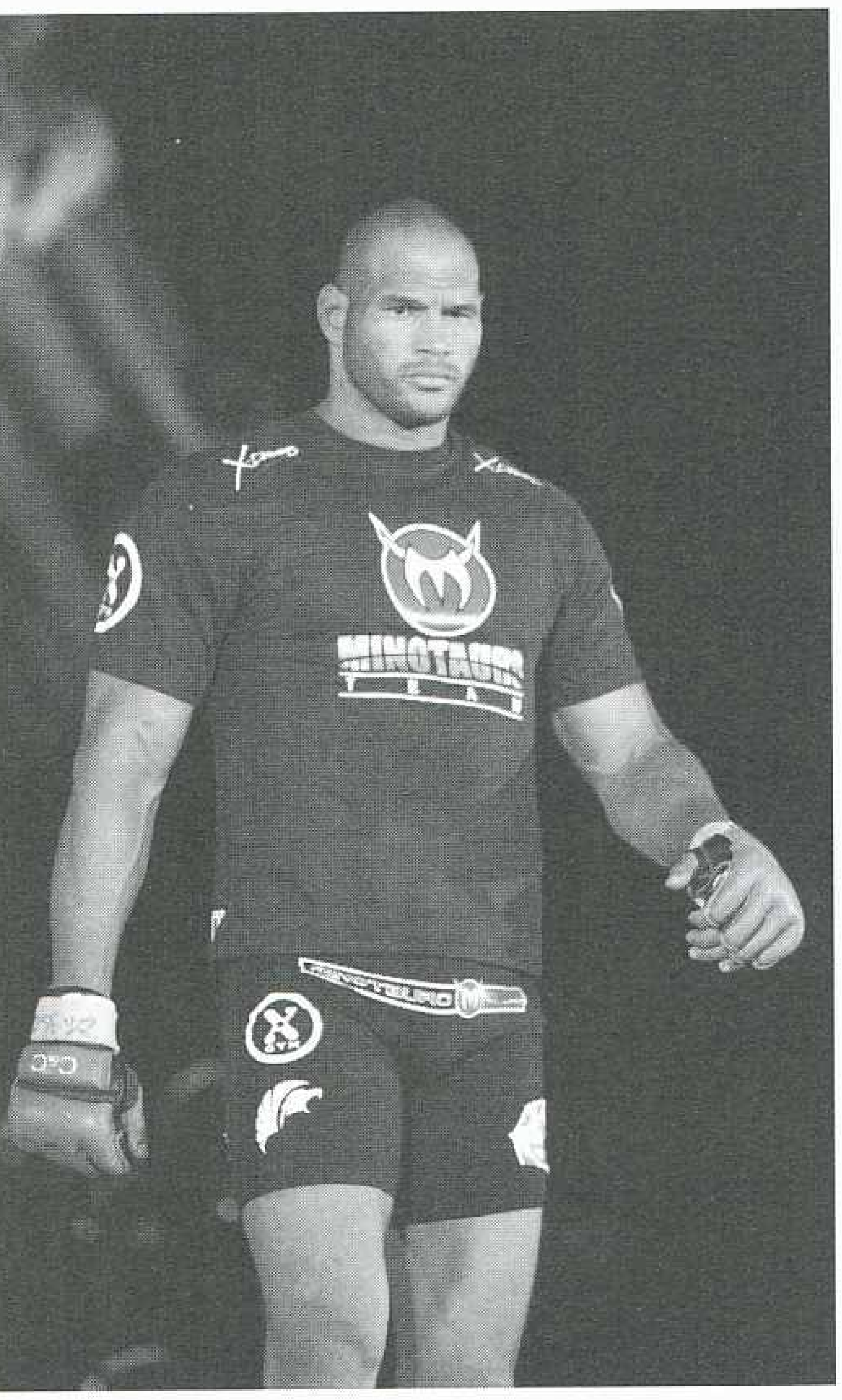
モラエス　『ハッスル』？　な、なんだそれは？　とにかくプロレスでも俺の強さをアピールできれば何でもいいんだ。もしその機会があれば、オ、オマエが言ったヒカルドンという名前でやってみてもいいな。（自分に言い聞かせるように）ヒ、ヒカ、ヒカルドン、ヒカルドン、ヒカルドン……。

――楽しみにしてます（笑）。ところで身長205センチと、文字通りモンスター級のデカさを誇るモラエスさんですけども……。

モラエス　（遮って）ちょ、ちょっと待て。俺の身長は202センチだ！

――オフィシャルのプロフィールには205センチとあるんですが……。

モラエス　俺はウソが嫌いんなんだ！　202センチに直しておけ。



ひかるど・もらえす■1967年2月26日、ブラジル・リオデジャネイロ出身。96年8月、ヘンゾ・グレイシーの弟子としてリングスに初来日。山本宜久を秒殺KOするという衝撃の日本デビューを果たし、リングスの外敵ナンバーワンの賞金首となる。その後、PRIDE、アブダビ・コンバット、ジャングルファイトで活躍。03年10月、アルティメット・クラッシュに"ヒカルドン"として参戦。そして今年4月、約5年ぶりのPRIDEに再登場。205 cm（自称202cm）、121 kg。

――意外と細かいですねえ（笑）。質問に戻りますが、これまでご自分より大きな相手と闘ったことはありますか？

モラエス　俺よりデカくはなかったが、同じ身長の相手とだったら、ボクシングの試合をやったことがある。

――それはド迫力ですねえ。『PRIDE』には230センチの大巨人ジャイアント・シルバというモンスターがいますが、彼との闘いに興味はありますか？

モラエス　（廊下を指差し）デ、デカすぎてあの辺は通れないんじゃないか？（笑）。そんなデカい相手と闘ったら面白いだろうが、それは神が決めることであって、自分が決めることではない。

――VTでもプロレスでもいいんで、ゼヒ見たいですねえ。

モラエス　俺はなんでもできるからな。去年はハリウッドの映画会社からスクリーン・デビューの話がきてたんだぞ。

――凄いじゃないですか！　モラエスさんの風貌とキャラクターだったら、すぐにでもハリウッドで十分通用しますよ!!

モラエス　グフフ、そう思うだろう？　だ、だが残念ながら、アメリカ大使館から、どうしてもビザが下りなかったんだ。

――映画でも大暴れするモラエスさんが見たかったですねえ。それでは最後に、明日に迫ったエメリヤーエンコ・アレキサンダー戦について意気込みを語って下さい。

モラエス　ベ、ベストを尽くして勝つ、それだけだ。今日は特別に、オマエに明日の作戦を教えてやろう。作戦は……アレキサンダーの顔面にパンチを入れることだ（ニヤリ）。

――いつも通り闘うということですね（笑）。

モラエス　（真顔で）いいか。これは口外するんじゃないぞ。

――も、もちろんです。いやあ、自信満々ですねえ。

モラエス　当たり前だ！　もう一ヶ月もセックスしてねえんだから、こちとらエネルギーは有り余ってんだ（笑）。

――それでは溜まりまくったエネルギーを試合で爆発させて下さい（笑）。アレキサンダーに勝ったら、お兄さんのエメリヤーエンコ・ヒョードルのベルトに挑戦したいという意思はありますか？

モラエス　も、もちろん俺は常に試合に勝つことを目指している。だがベルトへの挑戦は将来的なことだし、それを決めるのは神の仕事だ。い、いまはアレキサンダー戦のことだけを考えたい。まあ、明日になればわかることだ（ニヤリ）。

――では、明日の試合と、個人的に実現して欲しいプロレス参戦を楽しみにしてます！

【05／4／2 都内ホテルにて収録】

4月2日の『PRIDE武士道』アレキサンダー戦は、モラエスにとって残念な結果に終ってしまったが、そのデカさとキャラクター性は、格闘技でもプロレスでも、まだまだ目が離せそうにない。我々はこれからも柔術怪獣ヒカルド・モラエスの活躍（＆イズマイウの動向）を追い続けます！

紙のプロレス RADICAL No.87



チョロの マニアックな視点で女子格闘技を考察する！

女子バーネット

見てみ、この顔ッ！　このボディ！　というわけで久々に女子格がカラーページに進出！　この2人のグラビアは**P137**からで〜す!!





スマックガール大会情報2連発！

■大会名称：SMACKGIRL-F 2005
〜今年もやるぞ！　スマックF祭り〜

■開催日時：2005年4月29日（金/祝）
第1部　13:30開場　14:00試合開始（予定）
第2部　17:30開場　18:00試合開始（予定）
■開催場所：北沢タウンホール（東京都世田谷区）
■主催/お問合せ：スマックガール実行委員会（Tel：03-3324-8790）
■チケット料金：
□第1部　ＳＲＳ指定席 6,000円/Ｓ席 4,000円/Ａ席 2,000円　※当日券　500円増
□第2部　ＳＲＳ指定席 7,000円/Ｓ席 5,000円/Ａ席 3,000円　※当日券　500円増
■チケット発売所：チケットぴあ　0570-02-9999/後楽園ホール　03-5800-9999/フィットネスショップ水道橋店　03-3265-4646/東京イサミ　03-3352-4083/ＳＯＤ女子格闘技道場　03-5917-0026/秋葉原ＢＡＣＫＤＲＯＰ　03-3255-8701/書泉ブックマート　03-3294-0011/LUTADOR FIGHT　03-3382-3205/スマックガール公式サイトhttp://www.smackgirl.com/
■大会概要：
■第1部：GRAPPLER' S holiday 2005
□SGG1Dayトーナメント2005　-48kg級&-58kg級
□参加予定選手（50音順）
・-48kg級→新井寛子（フリー）、川村静代（ALIVE）、玉田育子（ガールファイトAACC）SGG1Dayトーナメント2004ライト級準優勝、尚美（TEAM TOPS）SGG-F -50kg級トーナメント04優勝
・-58kg級→SAYAKA（ガールファイトAACC）SGG1Dayトーナメントミドル級2002準優勝、関口菜緒子（TRI-FORCE）、二宮亜基子（ALIVE）SGG1Dayトーナメント2002ミドル級優勝/04準優勝、村上京子（パレストラ東京）パンクラス・アテナグラップリング-60kg優勝
※他、ワンマッチ数試合を予定
■第2部：The Next Cinderella Tournament 2005
□SGS公式ルール　-50kg契約　5分2R
茂木康子（ストライブル）vs深谷愛（フリー）
※深谷愛はタレントとして活躍中で、TV東京にてオンエアされていた『格闘Xパンクラス』でレポーターを務めた際に、格闘技に興味を持ち、番組終了後、ｸﾞﾗﾊﾞｶｼﾞﾑに通い練習を続け、今回がﾃﾞﾋﾞｭｰ戦となる。
□The Next Cinderella Tournament 2005　-48kg級&-59kg級1回戦
□参加予定選手（50音順）
・-48kg級→金子和美（フリー）、関友紀子（SOD女子格闘技道場）、永易加代（パレストラ東京）、山田純琴（y-park）、渡邉浩財子（SOD女子格闘技道場）他
※akinoriは怪我の為欠場。
・-59kg級→赤野仁美（ガールファイトAACC）、佐々木絹加（総合格闘技闇愚羅）、せり（SOD女子格闘技道場）、端貴代（和術慧舟會東京本部）、バッカス羽鳥（BBdoll）、森藤美樹（TEAM TOPS）他
※木村由佳は怪我の為欠場。

■大会名称：SMACKGIRL2005　〜COOL FIGHTER LAST STAND〜

■開催日時：２００５年4月３０日（土）
１７：００開場　１７：３０開始
■開催場所：キラメッセぬまづ（静岡県沼津市）
■主催/お問合せ：スマックガール実行委員会（Tel：03-3324-8790）
■チケット料金：ＳＲＳ指定席 10,000円/ＲＳ指定席 7,000円/Ａ席 5,000円/立見 3,000円　※当日券500円増
■チケット発売所：チケットぴあ　0570-02-9999[Pコード　594-764] /LUTADOR FIGHT　03-3382-3205/PUREBRED京都　075-254-7777/SOD女子格闘技道場　03-5917-0026 ※チケットは上記販売所他で好評発売中！
スマックガール公式サイトhttp://www.smackgirl.com/
■予定対戦カード：
□メインイベント　近藤有希引退試合
SGS公式ルール　5分3R
近藤有希（PUREBRED京都）vsマーロス・クーネン（オランダ/タツジン・ドージョー）
□スマックガールライト級王座次期挑戦者決定トーナメント1回戦
SGS公式ルール　5分2R
松本裕美（PUREBRED京都）vsジェット・イズミ（クロスポイント吉祥寺）
□スマックガールライト級王座次期挑戦者決定トーナメント1回戦
SGS公式ルール　5分2R
おっさん（総合格闘技闇愚羅）vs舞（パレストラ松戸）
□スマックガールライト級王座次期挑戦者決定トーナメント1回戦
SGS公式ルール　5分2R
１５（所属不明）vs吉田正子（NATIVE SPIRIT）
□スマックガール初代ミドル級王座決定トーナメント1回戦Aブロック2試合
□出場予定選手
藪下めぐみ（SOD女子格闘技道場）、テビ・サイ（HAVTE TENSION）、菊川夏子（総合格闘技闇愚羅）
■同大会、近藤選手の引退試合の模様がＮＨＫＢＳハイビジョンにて、特集されます。
□番組名　「ハイビジョンふるさと発」
□放送局　ＮＨＫ衛星ハイビジョン
□放送日　5月27日（金）20:00〜20:54
6月1日（水）12:15〜13:09（再放送予定）
□内容
スマックガール4.30沼津大会を中心に、PUREBRED京都所属の近藤有希・松本裕美両選手のドキュメンタリー

SOD女子格闘技道場で女子柔術セミナー開催！

SOD女子格闘技道場では4月21日に女子柔術セミナーを行う。
講師は全日本BJJ選手権04年ガロ級優勝の村野麻子選手（紫帯）とクロスセクションであの大室選手に勝った浜島加代子選手（青帯）。小学生以上の健康な女性ならば、誰でも参加可能。ただし、限定20名までなので申し込みはお早めに！
日時：4月21日　20時〜21時半
場所：SOD女子格闘技場
住所：豊島区要町1-1-11 要町KTビル５F
（有楽町線「要町」駅　４番出口目の前）
対象者：小学生以上の健康な女性（20名限定）
参加費：1,000円
申込み：電話、ＦＡＸまたはメールにて
電話：03-5917-0026
FAX：03-5917-0027
メール：dojo-info@sod.co.jp
（氏名、住所、電話番語明記のこと）

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

7・18 NOAH東京ドーム大会決定! 詳細は『週プロ』&『ゴング』で!!

3月27日、札幌中島体育センターではなく歌舞伎町クラブハイツにおいて、藤原組長が試合前の泉州力をテロ襲撃! 遺恨が勃発した両者の決着戦は、大阪城ホールではなく北沢タウンホール! 5・5泉州興行に注目だタココラ! 情報ページ担当/斎野

Fight & Ticket 試合・大会情報

パンクラス横浜大会で 2大タイトルマッチが実現!!

『PANCRASE 2005 SPIRAL TOUR』

■日時 5月1日(日)試合開始17:00(開場16:00) ■会場 神奈川・横浜文化体育館

■決定カード 【キング・オブ・パンクラス ミドル級タイトルマッチ 5分3R】[王者]ネイサン・マーコート vs 竹内出[挑戦者]
【ウェルター級王者決定戦 5分3R】井上克也 vs 北岡悟 【ウェルター級戦 5分3R】長谷川秀彦 vs アライケンジ
【ライト級戦 5分2R】矢野卓見 vs NUKINPO! 【スーパーヘビー級 5分2R】アレックス・ロバーツ vs アンソニー"辰治"ネツラー
【ライトヘビー級戦 5分2R】渡辺大介 vs 白井祐矢 【ウェルター級戦 5分2R】石毛大蔵 vs 長岡弘樹

■チケット(当日500円up) VIP席(最前列)16000円 ※パンクラス電話受付でのみ発売、SS席 13000円、RS-A席 8000円、RS-B席 6500円、2F-A席 10000円、2F-B席 6,000円、3F席 5,000円

■問 パンクラス 03-5792-0815 ■HP http://www.pancrase.co.jp/

クソぶっかけてやる! 因縁の対決・泉州 vs 組長が決定!!

『MAGNITUDE MAX』

■日時 5月5日(木)試合開始13:00 ■会場 東京・北沢タウンホール

■参戦予定選手 健心、橋本友彦、石倉正徳、カブキキッド、吹本賢児、菅沼修、藤原卓也、川久保勝、ユーエング・サミー、小仲=ペールワン、虎龍鬼、阿部健司、他

■チケット 泉州力応援席 5000円、自由席・立見 3000円

■対戦カード 泉州力 vs 藤原喜明 ■問 0729-52-1390

リキプロ立石代表の結婚式と同日!! 5・14新日本プロレス東京ドーム大会

『NEXESS』

■日時 5月14日(土)試合開始18:00 ■会場 東京・東京ドーム

■チケット アリーナA 30000円、アリーナB 15000円、1FスタンドA 10000円、1FスタンドB 7000円、2FスタンドC 5000円、2FスタンドD 3000円、親子席(当日のみ)大人3000円 子供2000円、小中高生席(当日のみ)2000円※要学生証

■決定カード 【IWGPヘビー級選手権試合】小島聡 vs 天山広吉

■HP http://www.njpw.co.jp/ ■問 新日本プロレスリング 03-6407-3111

大谷革命第1弾! プロレス界の価格破壊が実現!!

価格革命第1弾興行『子供達見に来いや!!』

■日時 4月18日(月)試合開始19:00 ■会場 愛知・名古屋国際会議場

■チケット(※小・中学生無料!!)特別リングサイド席 3000円!!、自由席 2000円!!

■対戦カード
【オスカー・デイビッド指名試合】大谷晋二郎&大森隆男&高岩竜一vs佐藤耕平&横井宏考&ジャスティン・マッコリー
【マンチェス杯争奪特別試合】田中将斗vsスペル・クレイジー
【NWAインターナショナルライトタッグ選手権】60分1本勝負●(王者)日高郁人 & 藤田ミノル vs 佐々木義人 & 浪口修(挑戦者)
金村キンタローvsキング・アダモ
【がんばれサブゥー! キラー・コワルスキー道場提供マッチ】
坂井澄江 & エディ・エドワーズ vs エイプリル・ハンター & スリック・ワグナーブラウン 崔リョウジ vs 不動力也
※当日18:30より20分間、リングを子供たちに開放!!

『崔リョウジと行く富士急ハイランドツアー』

■日時 5月2日(月)8:00〜20:00 ■料金 19990円

■募集人数 20〜30名(定員になり次第締切)

■特典 01MAX選手5〜6名とクイズ大会(参加選手は当日のお楽しみ!)
選手愛用品プレゼント/富士急ハイランド1日遊び放題

■問 ファーストオンステージ 03-5730-3966 ■HP http://www.zero-one-max.com

サブゥーチャリティー興行で 伝説のベルトがオークションに!!

病床のサブゥーのためのチャリティー興行『WE LOVE SABU』が開催される。チャリティーオークションにはサブゥーのお友達ミック・フォーリーも提供。なんとミックがザ・ロックから奪取したホンモノのWWF世界ヘビー級チャンピオンベルトが出展される。当日は大枚を握りしめてディファに集まれ!!

『WE LOVE SABU』

■会場 東京・ディファ有明 ■日程 4月17日(日)

■開始時間 第1部12:30(開場11:30)/第2部18:30(開場17:30)
※1部と2部の間に参加団体、選手によるサイン界などのイベントあり

■チケット(当日1000円up) A席(最前列)5000円、B席 4000円

■第1部・決定対戦カード(12:30開始)
怨霊 & ザ・クレイジーSKB & 忍 vs アジアン・クーガー & アジアン・コンドル、アジアン・モンキー
ドレイク森松 vs ミス・モンゴル
【実況解説付男女混合ロイヤルランブル方式バトルロイヤル】澤宗紀、カブキ・キッド、佐野直、TA☆KU、KAZUKI、ファング鈴木、おばっち飯塚、石川美津穂、賀川照、亜利弥'、GAMI、April Hunter 他数試合

■第2部・決定対戦カード(18:30開始)
田中将斗 & 日高郁人 & 藤田ミノル vs 金村キンタロー & 黒田哲広&マンモス佐々木
サンドマン & 伊東竜二 vs BADBOY非道 & ネクロ・ブッチャー
【キラー・コワルスキー道場マッチ】スリック・ワグナー・ブラウン vs ダイハード"エディ・エドワーズ他数試合

■HP http://lovesabu.exblog.jp/

We Love SABU前夜祭『Suicide! Homicide! Genocide!』

■会場 東京・新宿ロフトプラスワン ■日時 4月16日(土)開始19:30(開場18:30)

■料金 1000円(飲食別) ※We Love SABU興行のチケット持参で50%OFF

■出演 急行、セラチェン春山、サブゥーゆかりの選手やECWフリーク!! ■HP http://www.loft-prj.co.jp/

WWS富山大会のメイン ポーゴ様vs組長は電流爆破!!


婦女子にも容赦ない、相変わらずのポーゴ様

■日時 6月1日(水)試合開始18:30 ■会場 富山・高岡テクノドーム

■対戦カード 豹魔 vs 宮本裕向 スーパー・インベーダーNo.666 vs 大島輝義
セニョール伊勢崎 & 近藤博之 vs 茂木正淑 & 磯英弥
【ミックストタッグ】末吉利啓 & 亜利弥 vs 山本拓 & おばっち飯塚
【電流爆破デスマッチ】ミスター・ポーゴ & 黒犬 vs 藤原喜明 & ザ・バファロー

■チケット(当日1000円up) 特別リングサイド 6000円、自由席 4000円、立見 3000円、小中学生 1500円 ※当日のみ

■HP http://homepage3.nifty.com/wws/index.html

SB20周年記念第2弾! 土井&森谷&菊地が大阪に登場!!

『SHOOT BOXING 20th Anniversary Series 2nd "STAND UP!"』

■日時 4月29日(金)試合開始17:00(開場16:00)

■会場 大阪・難波マザーホール

■チケット料金(税込み)
VIP席 19000円、SRS席 17000円、RS席 15000円、S席 13000円、A席 7000円、B席 6000円、C席 5000円、スタンド席 4000円

■対戦カード
❶ナグランチューン・マーサ"M16" vs 脇田誠 ❷山口太賀 vs 黒田禎 ❸ファントム進也 vs 中西拓人
❹寒川慶一 vs 伊豆丸正人 ❺伊賀弘治 vs 木村悟之 ❻菊地浩一 vs 龍二
❼森谷吉博 vs リチャード・ヘス ❽及川知浩 vs ヘンドリー・ヴァン・オプスタイル
❾土井広之 vs マーク"THE MACHNE"ホーミニック

■問 03-3843-1212 ■HP http://www.shootboxing.org/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001　東京都渋谷区東1-25-2 丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002　大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025　東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011　東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■掣圏会館
075-352-3109
〒600-8216　京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073　東京都千代田区九段北1-5-10　九段有楽ビル6F　http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒142-0062　東京都品川区小山4-4-9-2F
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053　神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■髙田道場
03-5749-5030
〒142-0062　東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂　03-5464-2806
〒150-0011　東京都渋谷区東2-17-12-404号
http://www.Takayama-do.com

■ドリームステージエンターテインメント(PRIDE)
03-5464-1531
〒107-0061　東京都港区北青山3-12-9　花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048　神奈川県横浜市中区蓬莱町2-247 SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063　岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■レッスルエイドプロジェクト
03-5456-2345
〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂2-20-12

■A to Z　03-3678-7777
〒132-0013　東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT　03-5360-6653
〒106-0022　東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071　愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP：http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036　東京都渋谷区南平台6-7　MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004　東京都新宿区新宿2-15-13　第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター
03-5524-2339
〒107-0052　東京都港区銀座1-8-21　第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP　03-5849-2341
〒121-0052　東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014　東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO　044-422-8344
〒211-0011　神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085　東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）

■SMACK GIRL実行委員会
03-3324-8790
〒156-0041　東京都世田谷区大原1-63-9　恒心ビル801　株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053　神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R　044-833-7042
〒213-0027　神奈川県川崎市高津区野川2193－11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW
03-3362-3014
〒164-0003　東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン　03-3337-1889
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WMF
049-239-3520
〒350-0812　埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS　0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE MAX
03-5730-3966
〒105-0014　東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST
03-5321-9595
〒106-0023　東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

3王者が揃い踏み! 5・2WAP後楽園大会!!

『東京事変1（STRONG-S昭和）』



■日時　5月2日（月）試合開始18:30
■会場　東京・後楽園ホール
■決定カード【キング・オブ・エクスキャリバータイトルマッチ】[王者]ジョー・レジェンド vs バンビ・キラー[挑戦者]／【マスター・オブ・エクスキャリバータイトルマッチ】[王者]ピーティー・ウィリアムス vs クリス・セービン[挑戦者]／【NWA認定女子パシフィック & NEO認定シングル選手権】[王者]倉垣翼 vs ナディア・ハート[挑戦者]／ジャック・エバンス vs “マッドドッグ”ジョー・キンボール
■参戦予定選手　三宅綾 他
■チケット　SRS席 7000円、RS席 5000円、SS席 4000円
■問　03-5456-7700
■HP　http://www.wrestle-aid.com/

大ちゃんが団体旗揚げ! 懐かしのバチバチファイトが蘇る!!

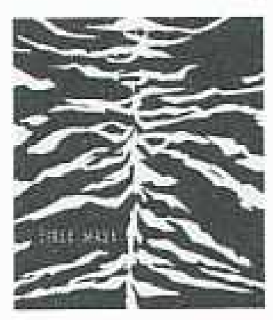
『BATI-BATI』
■日時 4月24日（日）試合開始17:00（開場16:00）　■会場 神奈川・横浜赤レンガ倉庫1号館
■決定対戦カード
【バチバチルール】石川雄規 vs 池田大輔　小坪弘良 vs 小野武志　臼田勝美 vs 飯伏幸太
■参戦予定選手　日高郁人、藤田みのる、原学、他
■チケット　SRS席 7000円、RS席 6000円、指定席A 5000円、指定席B 4000円、立見（当日券のみ）4000円
■問　フーテン・プロモーション 03-3373-7939　■HP　http://www.fu-ten.jp/

伝説のチーム“赤まむし”復活! メインは非道&葛西&ウィンガー!!

『赤まむし興行』
■日時 4月23日（土）試合開始18:30　■会場 東京・バトルスフィア東京
■対戦カード　◎松崎“番長”駿馬 vs スタンリー　◎怨霊 vs MIYAWAKI
◎ディック東郷 vs DJニラ　◎金村キンタロー&“黒天使”沼澤邪鬼 vs 佐々木貴&GENTARO
【赤まむし式TLCCマッチ～Tables,Ladders,Chairs&Chain.Oh! mamusi.～】
BADBOY非道&The WINGER&葛西純vs伊東竜二&黒田哲広&マンモス佐々木
■チケット（当日500円up）　全席自由 4500円、中高生立ち見3000円（当日のみ発売。要身分証明）
■問　GEP!　0749-64-1711　■HP　http://www.gep-u.com/

And Others　その他情報

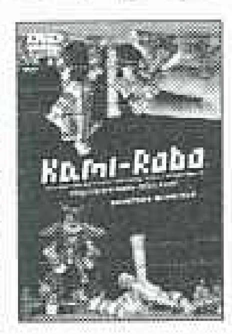
佐山皇帝の美声が轟く! 『真説タイガーマスク』の主題歌発売!!



佐山聡が歌う『真説タイガーマスク』の主題歌『ハングリーアングリータイガー』が、エンディングテーマ『どぶねずみ』（唄：長谷川雄二）と併せ、4月27日に発売される。佐山“エルビス”聡のセクシーボイスに萌えまくれ!! なお、着うたサイト・レコード会社直営サウンド♪にて上記2曲が絶賛配信中!!

『ハングリーアングリータイガー／どぶねずみ』
■発売日　4月27日（水）　■価格　1000円（税込）
■問　東芝EMI 03-3587-9028　■HP http://www.seiken-do.com/
■長谷川雄二オフィシャルサイト　http://melonest.com/
■レコード会社直営サウンド♪　http://recochoku.jp

究極のひとりプロレスごっこ 『カミロボ』って一体なに?



ある造形師が幼少の頃から27年間、独自のプロレス的ストーリーのもと紙製ロボットを作り続け、その数いまや200体! 商品化&アニメ化、そしてDVD化と静かながら着実にブームを巻き起こしているKamil-Roboの展示会は、4月25日まで渋谷で開催! そのディープな世界観にドップリひたれ!!

『カミロボ・エキスポ2005』
■日時　4月1日（金）～25日（月）10:00～21:00（入館は20:30まで）
■会場　東京・渋谷パルコ パート3/7F パルコミュージアム
■料金　一般500円　学生400円　小学生以下無料
★広島パルコ本館8F スペースハッカイ　4月29日（金）～5月10日（火）
★名古屋パルコ西館7F パルコギャラリー　5月20日（金）～6月6日（月）
■HP　http://www.kami-robo.com/

ヤノタクが技術セミナーを開催



アブダビコンバットやリングス、ZSTで活躍し、現在はパンクラスを主戦場にする矢野卓見が、P's LABで関節技を中心とした技術セミナー“ヤノタクラス”を開催する。ヤノタクの“洗濯バサミ”や“あぐら固め”といった必殺技を習得するチャンスだ!!

■日程　5月8日、15日、22日、29日の4回（全て日曜日）
■時間　15:00～16:00（受付14:45～）　■定員　20名
■場所　P's LAB東京（東京都港区南麻布4-2-25）
■受講料（※1回 2100円、以下は4回分）一般 7350円、P's LAB会員 5250円、4月24日『パンクラスゲート2』参加者 6300円
■問　P's LAB東京　03-5792-7079
■HP　http://www.pancrase.co.jp/

一生分を買い漁れ! Tシャツ・ラブ・サミット開催!!

日本最大規模のTシャツ展示即売会Tシャツ・ラブ・サミット開催!! 『紙プロ』でもお馴染みのハードコア・チョコレートを始めとする、インディーTシャツブランド80団体が出店し、約2000種類にも及ぶTシャツが集結する。特設ステージでは“お笑いサバイバーシリーズ”“バカTシャツサミット”など催し物も目白押し。しかも入場料はたったの100円!　春の新作はここで先取りだ!!

『Tシャツ・ラブ・サミットvol.6“フルカラー”』
■日時 4月30日（土）11:30～18:30／5月1日（日）11:00～17:30
■会場 科学技術館9・10号館（東京都千代田区北の丸公園2-1）
■入場料　100円!!
■HP　http://www.t-lovesummit.com

紙プロHand　更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、パンクラス・近藤有己選手コラムに続いてシュートボクセのマウリシオ・ショーグン＆ムリーロ・ニンジャ兄弟コラムを配信開始!! 毎日のニュース・試合結果配信に加え、『PRIDEミドル級GP』全大会の特典付きチケット先行予約も実施ッ!!　先月号で予告した『破壊王・橋本真也の人生ケサ斬りチョップ』もスタート、ただいま絶賛お悩み受付中！　写真は中川画伯のイラストカレンダー待画。絶賛配信中！



Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲	紙プロHand
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技	紙プロHand
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技	紙プロHand

桜満開！ 発売日頃にはどうでしょうな読者ページ

紙プロ元気大学

俺、ヤバイ。なぜなら……もうとっくに〆切は過ぎてるから！ ……山本KID徳郁風で、ありきたりなオチをつけてしまいました。こんにちは。読者ページ担当・本業は電気部のささきいです。新しめ読者さんに「さささぃさんって女性だったんですね」と書かれたり言われたりすることが増え、そんな時期かとしみじみしています。別に男のふりをしていたつもりもないし、女性だと隠していたつもりもないんですが、よく言われます。なんでだろ。さささぃは「付け乳首」ブームに怒るような、わりと古くさい今年29歳の女です。それでは、はじまりはじまり。



（東京都・ヤー）➡ハッスル・キングと……私の似顔絵。まぁ、かわいらしく描いていただいて、しかもキングのお隣に並べていただいて。どうもありがとうございます。オレンジ・赤茶・金に近い茶髪と冒険してきましたが、今は黒髪です（痛みました）。そんなわけで新しめ読者さん、こういう顔の担当です。よろしく。ちがうちがう、アフロじゃなくて左のショートのほうが担当だ。間違えるな。

校内巡回

『紙プロ』85号 面白かった記事

★クリス・ドールマンインタビュー。久々にドールマンやリングス・オランダのことがよくわかった。（千葉県・大貫尚志・37歳・会社員）

➡前号の面白かった記事ナンバーワンは……リングスファン感涙、クリス・ドールマンインタビュー！ 「義理と人情を重んじるその姿に感涙」とのおたよりがたくさん届きました。

★桜庭和志！ とにかくサクのインタビューはおもしろい!! 「サクなら誰でも極められる！ なぜならサクだから！」（北海道・葉柴和範・28歳・会社員）

➡超僅差で第2位は、〝サク節〟サク裂、桜庭和志インタビュー。つちのこ捕獲部隊も喜んでいました。ここからは順不同でお送りします。

★柴田勝頼インタビュー。好感がもてるから。名前を間違われてヘコむところも良い。（埼玉県・稲葉聡・25歳・無職）

➡読者ページのエピソードまで読んでくれてありがとう。試合が延期になっちゃって、ヘコんでないか心配です。前号のプレゼント競争率ナンバーワンは柴田勝頼選手Tシャツでした。

★ハッスルの記事です。なぜなら、私は小川さんの大ファンで、いっぱい写真が大きくのっていて感動しました。また、本人のインタビューもあり、よかったです。（青森県・木村あかね・16歳・学生）

➡おお、なんてピュアな言葉。きっとキャプテンも喜びますよ。青森の子かぁ。地方の声は暖かいなぁ…。

★草野仁さん。今回、マジでビビってたじろぎました。VIVAヒトシくん！（大阪府・山内義久・36歳・おもちゃ屋営業）

➡前号で驚異の肉体を披露してくださった草野さん、「芸能界レスリング王決定戦」スゴかったですねぇ。何の説明もなく、番組中普通に「HBK」呼ばわりされている草野さんを見て、お茶の間の何割がこの面白さに気づいているのか、そのうち何割が「HBK」がショーン・マイケルズのことだと知っているのか、と思いました。恋泥棒・スーパーひとしくん、あなたのハートをボッシュート……すいません、取り乱しました。

★次号予告。1ヶ月以内に次号発売するほどのハッスルぶりが良かった。（皮肉じゃないですよ）（兵庫県・高橋哲郎・35歳・妖怪会社員）

➡どうもありがとう。ハッスルしすぎて、今ちょっと死にそうです。

★金ちゃんのドンとやってみよう！ が良かった。やっぱりボヤいてこそ金ちゃん。次は是非勝って欲しい。（石川県・浅井清治・31歳・会社員）

➡ボヤいても金、ボヤかなくても金！ 次こそ勝って「強かったよぉ～」とボヤいてほしいですね。

『紙プロ』85号 つまらなかった記事

★立石史さんのページ。リキプロの女社長、立石さんのことが密かに好きだったのに……。北斗死ね！（うそです…）立石さん、北斗さん、くやしいけどお幸せに。（香川県・国方知也・17歳・高校3年）

➡立石代表の幸せレポート。やっかみで「つまらなかった記事」に投票する人多し。リキプロ次回大会はこの本の発売日「潰し合い」という、胎教に悪そうな大会名です。

★ターザンの記事は読まないので、その分金を返してほしい。（大阪府・山崎知恵・36歳・主婦）

➡真っ向からずいぶんなお願いですね。それは、ヤスカクがキライだから『週プロ』にその分金を返せというようなものですよ。奇をてらおうとして、ありきたりなたとえをしてしまいました。大阪の主婦の底力を感じた思いです。でもお金は返しません。

その他のおたより

【3・26『HERO'S』感想】★宇野選手が、ラスト何秒かで残念でした。判定で勝ったなとホッとしたら……。「ゴングが鳴るまで気をぬくんじゃねぇッ!!」と、自分自身にカツを入れました。（大分県・高原恵子・37歳・会社員）

➡あの試合を見て、自分を省みた人のハガキはたくさん届きました。最後まで気を抜かずに、家に帰るまでが遠足です。宇野選手、惜しかったなぁ。

★今回レプリカマスクが欲しくて勇気を出して買ったまではいいですが、あて先の後の「妊娠ド真ん中」には参りました。2度もはずかしい思いです…。マスク当たりますように!!（福岡県・匿名希望・23歳・事務員）

➡『紙プロ』を買うことや宛先が恥ずかしいという気持ちが新鮮で、つい掲載してしまいました。ペンネームが書いてなかったんですが、なんとなく気をつかって匿名希望にします。当たるといいね。



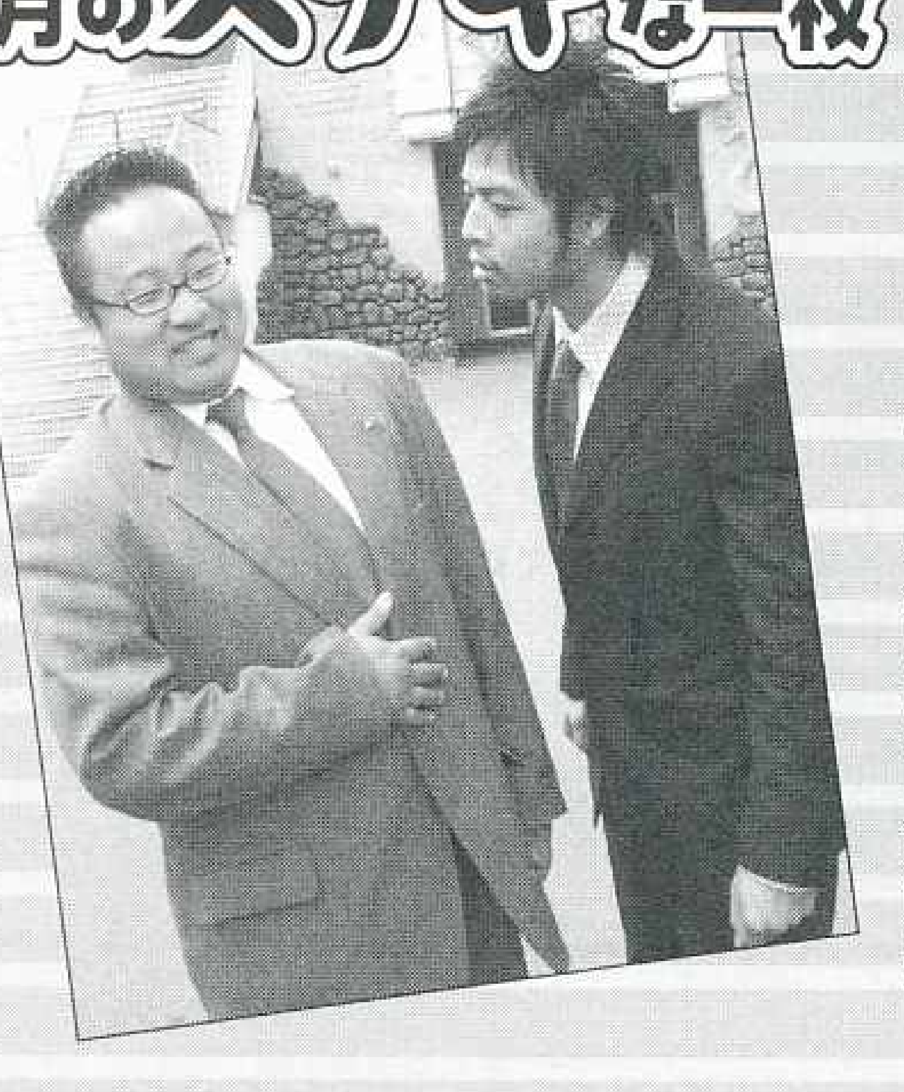
（杜生町・鈴木裕治）➡先々月号の「ザ・検証」ですね。俺、後藤。これ。イラストをよくよく見ると、手渡しているのはお歳暮。ぶっきらぼうな自己紹介の後、丁寧なお付き合い。ふしぎ。海洋冒険家の鈴木さん、住所がマンガ『ジョジョの不思議な冒険』に出てくる架空の町名「杜王町」になってますけど、こちらでいいんですか？

紙プロ85号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 クリス・ドールマンインタビュー
2位 桜庭和志 インタビュー
3位 "HBK"草野仁×浅草キッドインタビュー
4位 上井さん×ターザン山本対談
5位『ハッスル8』特集

1位はクリス・ドールマンインタビュー！ 前田前田前田ーッ！ ……リングス会場のヤジは面白かったなぁ……。2位はつちのこ・桜庭和志インタビュー。続いて芸能界最強・草野仁×浅草キッドインタビュー。草野さんは世界の61歳中でも、かなり強いのではないかと思います。4位は言いたい放題ターザンと上井さん対談。シーザー会長、緒形健一選手、ともに名前間違えててホントすいません！ 5位はキャプテンの表情がせつない『ハッスル8』特集、以降は田村潔司インタビュー柴田勝頼インタビューと続きました。

今月のステキな一枚



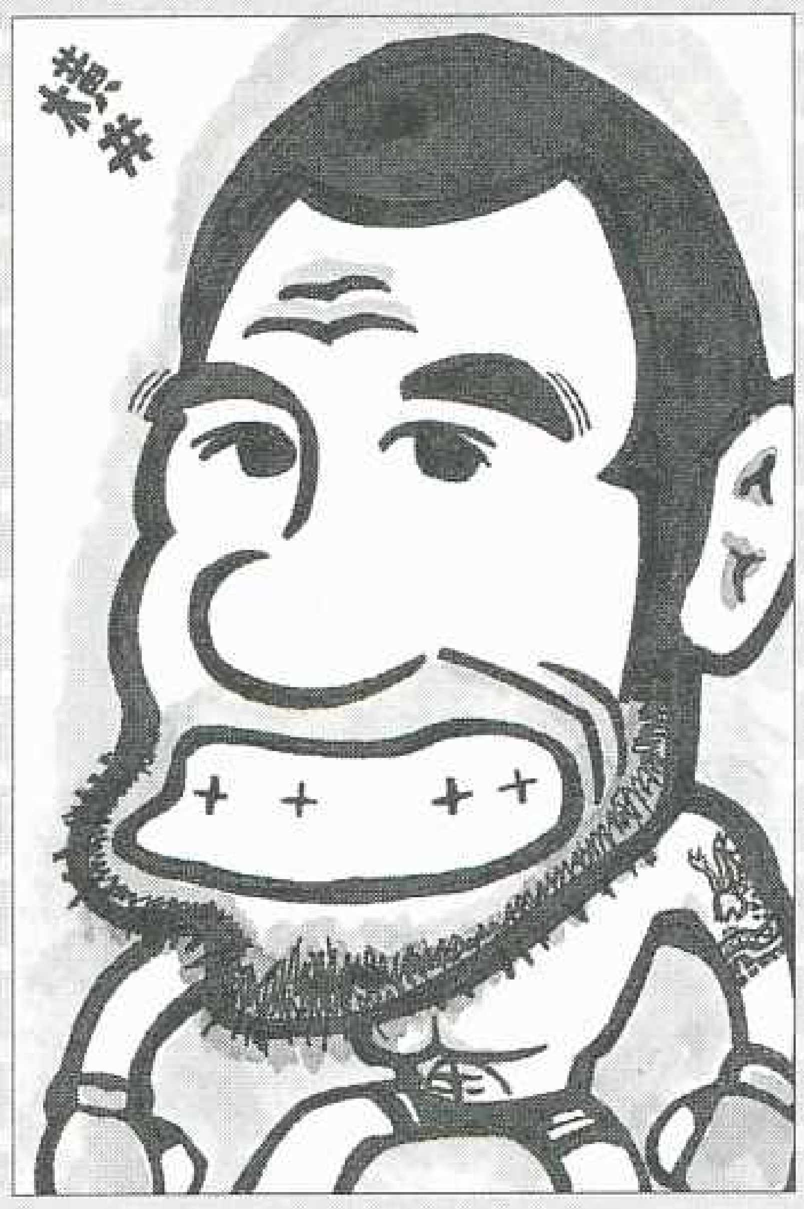
4月1日、ディファ有明で行われた「第2回ディファカップ」開催会見において、熱い目でオッキーこと沖田実行委員長を見つめるKENTA選手。3月5日、ZERO・1 MAX勢がノア武道館大会に参戦した時、金網の向こうで勝利を喜ぶオッキーの姿が非常に印象深かったというKENTA選手、その姿がよほど気に障ったのか「僕の目にはオッキーしか映っていない」と、実行委員長への対戦を表明していました。これに対しオッキーは「私、基本的にイケメンは大変キライでございます。世の中にはイケメン以外の人間がどれほどいると思っているのか」と激白。KENTA vs オッキーの闘いは舌戦含めて注目です。小林健太時代には登場もありましたが、「KENTA」選手としてはこれが『紙プロ』初登場？ 次はぜひ女性ファン向けグラビアなどお願いします。

5月7日（土）&5月8日（日）『第2回ディファカップ』
東京・ディファ有明 試合開始（両日ともに）18:00
[出場決定選手]・プロレスリング・ノア / 丸藤正道&KENTA・ZERO-1 MAX / 日高郁人&藤田ミノル・全日本&ハッスル / カズ・ハヤシ&スパンキー・DDT / KUDO&飯伏幸太・NOAH&DRAGON GATE / タイガーエンペラー&（スペル・シーサー ※交渉中）・アパッチ軍 / 佐々木貴&GENTARO・KAIENTAI DOJO / TAKAみちのく&X（もう1チームは未定）
※ジュニアタッグ8チームによるトーナメント形式。7日はトーナメント1回戦および準決勝、8日は決勝戦と3位決定戦を行う。
問：株式会社ファースト・オン・ステージ 03-5730-3966

今月のタレコミ部



（住所不定・松澤チョロ）
悪い方の鈴木健さんこと、Uインターの仕掛け人・ちっちゃいほうの鈴木健さんが手がける焼き鳥屋「壱屋苑」オープニングパーティでの1枚です。首を絞められている松澤チョロさん、となりには安生洋二さんに招待された美人ナースさんたち。『紙プロ』バックナンバー12号に掲載されたものですが、いただいたサインをよくよく見るとそこには「インリン」の文字が！　チョロさんの右隣にいる女性は、インリン様になる前のインリンさんだったのです!! とすると、この日のパーティに来ていたのも安生洋二さんではなくて、アン・ジョー司令長官だったのではないでしょうか？　当時から続いていた、高田モンスター軍の黒いつながり。用賀イチ美味い焼き鳥屋、壱屋苑が危ない！　……自分とインリン様の早すぎたツーショットを「載せろ」と強要するチョロさんに言われるまま、スペースを作ってみました。満足ですか？(by中邑真輔)



（石川県・シーザー孝志）「マリオに負けちゃったけど、めげずに頑張って欲しいです」➡奉納プロレス会見で話を聞きましたが、肉離れが原因らしいですね。「リアル・ダイナマイト四国」と呼んであげてください。怒られるかもしれません。ごめんなさい。本人、気持ちはメゲてないと思うので、応援しましょう！



（神奈川県・岡田健生）「この春、会社で主任に昇進しました。一応同期ナンバー１です。自慢です」➡おめでとうございます。すごく久しぶりに出世した人の話を聞きました。どうした、私の友達たち。ミドル級柔道王、カッコイイ！



（埼玉県・稲葉聡）➡葛西純。カラーです。クレイジー・モンキー、最近見に行けてないんですよ。スゴそうなんで、早く見てみたいです。



（北海道・アカツキ）➡浅草キッド・水道橋博士日記では「キム・ミンス、堀江ガンツ説」が出ていましたが、佐野アナにも似ているキム・ミンス。前田日明さんが、キム・ミンスを見たときにふと堀江ガンツのことを思い出したりしていないかな、と夢を見ました。3人とも似ています。



（神奈川県・葉チャン）「スパー中のサクちゃんです。私をムギュっとしてくれないかなぁ…。痛くても、我慢しますから…」➡たぶん、全国の桜庭ファンが同じことを考えたと思います。そうだろう！　少し前は恥ずかし固めだったでしょうが、今は断然ムギュでしょうね。ユン様をムギュっといわしてほしいです。



（広島県・山田彰）➡毎月ありがとうございます。山田さんの「ほんとにジョーク？」シリーズです（え？　違う？）。リトアニア勢の名前は言いがいがありますよね。だりうす・すくりあうでぃす。



（東京都・小技）➡クリス・ベンワー、もしくはベノワ、もしくはワイルド・ペガサスのクリップラーフェイスロック。ですよね？　一応、このシリーズは毎回調べている私です。かけられてる選手は誰でしょうか？



（滋賀県・多久健一）「春先はよく絵を描きます」➡なるほど。春先は活動が活発になるんですかね。…じゃあ、ほかの季節は？　ハッスルリキシ。ハッスルあちちとカントクの、ぎこちないダンスが印象深いです。



（埼玉県・小川徹）➡ドラゴン復活。まだまだここからですよ！　まだ引退しませんよ！　小川くんが「会社員」になっていたことに、時の流れを感じました。ビジネスメンになってもよろしくね。

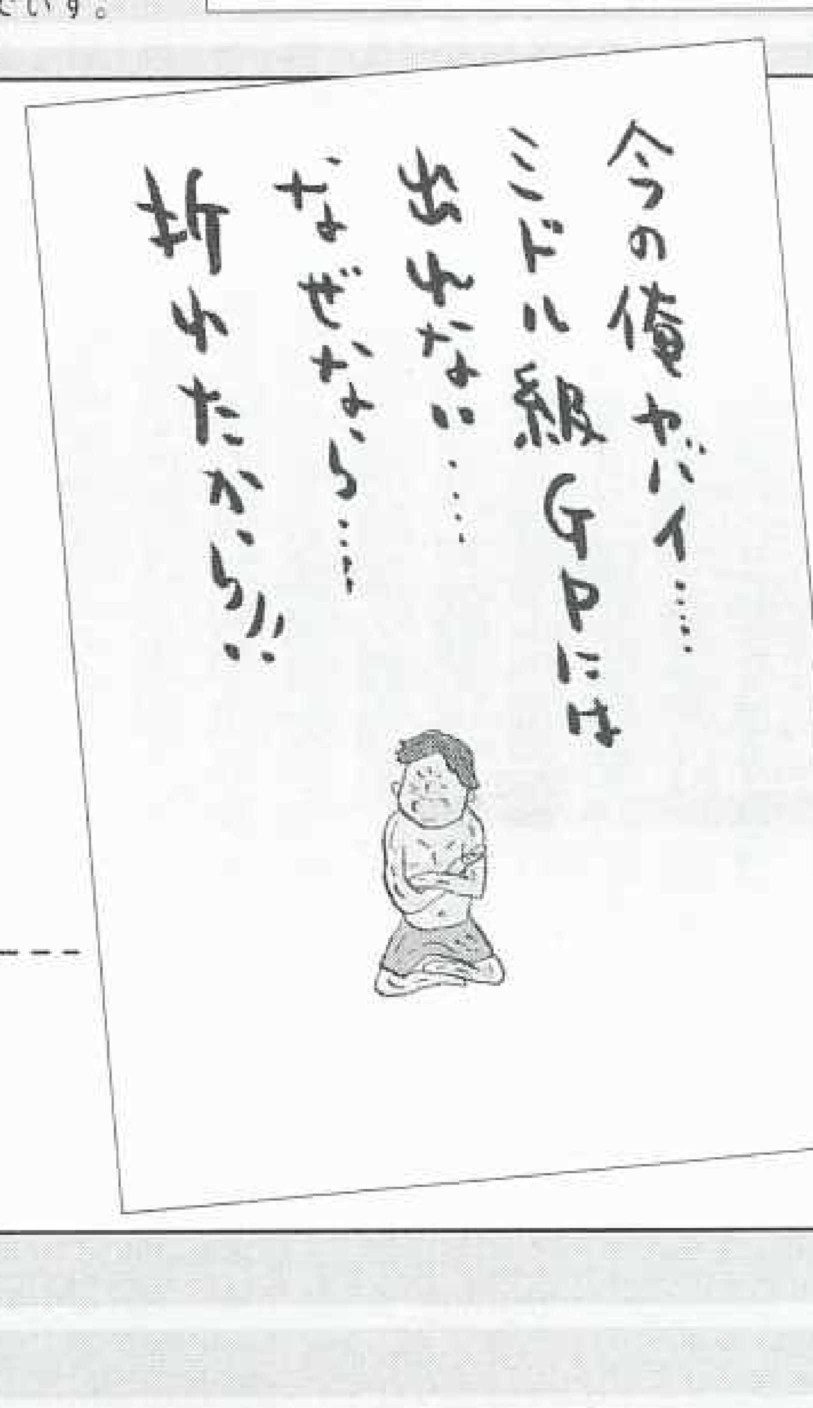
おハガキ・お便り・メール大募集!!

紙プロ読者ページ『紙プロ元気大学』では、みなさまのお便りをお待ちしています。雑誌『紙プロ』へのご意見、大会の感想、イラスト、ダジャレ、好きな選手の仕草、買って得したプロレスグッズ、誰にも言えなかったけど実は持ってた選手Tシャツ、シェイン・チャップマンの似顔絵、新しい読者ページのネーミングなど、どしどし送ってきて下さい。オスカー・ディビットの似顔絵（想像画）、待ってます。

以上、すべてのお便り・イラストのあて先はメールは

radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6　パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部
「M字のために地方出張」係まで。
携帯サイト『紙のプロレスHand』からの投稿もできます！

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！
プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によってはこちらに載ってしまいます。
匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです



（北海道・アカツキ）➡今の俺、ヤバイ。なぜなら…折れたから！　うまい。運命のイタズラですねぇ……。今月の変わり者対談、いや、U系大物対談はいかがでしたでしょうか？

大日本掣圏道帝国皇帝が真の武士道を求めて全国行脚

佐山サトルの

日本右流々ン（ウルルン）探訪記



第5回 東郷元帥と…佐山聡が出会った。

文／中村カタブツ君（42歳）

前回、赤い電動自転車に乗って颯爽と登場してくれた佐山皇帝。だが、今回はそれを上回る衝撃的なお姿で現れてくれたわけである。なんとこの日はマスク着用なのだ。それも薬屋で売ってるあのマスク。一体どうしたんですか？　風邪でも引いたんですか？

「違うよぉ。花粉症。もうこの時期大変なんだよねぇ、カッフンだァ〜」

相変わらず言ってることはあくまでお茶目。しかし、その姿はサングラスに白マスクと、なにか左翼の学生運動家みたいでいつも以上に危険。その上、サングラスを外すと、目が充血しているわけだから凄味は増すばかり。というわけで、今回は本邦初公開、初代タイガーマスク・花粉マスクバージョンでお送りする『右流々ン』なのである。

さて、この日の取材場所は横須賀・三笠公園内にある戦艦三笠。日露戦争では東郷平八郎日本連合艦隊司令長官が常に乗艦した旗艦であり、黄海海戦においては20余発もの砲弾を浴びながらも旅順艦隊を撃破、日本海海戦ではかのバルチック艦隊を完膚無きまでに叩いて、戦争の趨勢を決定づけた霊艦だ。

現在は記念艦として一般公開中であるが、その圧倒的勇姿は往時のまま。排水量15140トン、全長132メートルの巨大な船体。船首、船尾には主砲30センチ砲4門が鎮座し、左舷右舷には副砲15センチ砲14門が並ぶ。そしてマストに、はためくは日章旗！　その横には「皇国の興廃此の一戦にあり。各員一層奮励努力せよ」の意を持つZ旗が、早春の海風に踊っているわけだ。まさに日本人なら誰もが血がたぎる威容。しかし、Z旗を揺らす爽やかな風は、同時に杉花粉も運ぶ。花粉前線の真っ直中、一層奮励努力しつつ、佐山皇帝は艦上の人となったというわけだ。ホントご面倒をかけてます。



今年は日露戦争勝利100周年記念。1905年当時、極東の一小国に過ぎなかった日本が、帝政ロシアのバルチック艦隊を撃破したニュースは、世界の列強を戦慄させ、植民地化が進むアジア各国に勇気を与えた。ハッキリ言って、ヒョードルにカタブツ君（42歳）が勝っちゃうようなものである。

世界を震撼させた戦艦三笠に潜入！　日露戦争が語る誇り高きサムライ魂とは!?

そんなわけで、リアルマスクマンの皇帝とともに甲板に上がると、いきなり現れたのが船尾主砲。これを見た皇帝は「この主砲も凄いけど、海軍も凄い訓練を受けてて命中率も高かったんだよ。あと火薬ね。日本独自の下瀬火薬って爆発力が全然違うの。主成分はピクリン酸っていって、ロシア軍が使用していた綿火薬の2倍の爆発力があったんだよね。日本海軍は命中率も違うし、当たれば爆発力は2倍でしょ。国力ではるかに上のロシアに勝てたのは、そういう日本軍の勤勉さがあったことも知っておいてほしいよね」と解説。非常に勉強になるお話にボクらは関心しきりだが、そのときすでに皇帝は主砲の前から姿を消しており、甲板脇の100円入れる望遠鏡をのぞきながら、「ロシア艦隊発見！」とか叫んでいたのである。子供か！

その後、展示スペースに改造された艦内に入り、日露戦争に至るまでのパネルを見学する皇帝。東郷司令長官の連合艦隊解散の辞を目にすると、「これは私の天壌無窮の事務所にも飾ってあるよ」と語るのがさすがな感じ。「最後の言葉がいいんだよね。簡単に言うと、単に戦うことよりも、平素鍛錬に努めて戦いに臨めということだよね。つまり、用意周到であれってことだよ」と。

また、艦内には戦後、三笠を復元修理し、記念艦とすることに賛同したC・M・ニミッツ米海軍元帥から寄せられた言葉もある。

〝東郷元帥のこの有名な旗艦三笠の復元に協賛

するすべての国を愛する日本人の皆様に。元帥を深く尊敬する弟子の１人。──米海軍元帥・C・M・ニミッツより〃

「これを読めば、尊敬される日本人の姿が見えてくるよね。別に戦争励賛じゃなくて、義を通す戦いができる日本人ってことだから。この日露戦争だって、ロシアの南下を防ぐために戦ったわけでしょ。もしあのときロシアの南下を許したら、朝鮮半島は植民地になっただろうし、日本だってそうなったと思うよ。それにこの戦いに勝ったことで、人種差別の撤廃にもつながっていったんだよね」と皇帝。ニミッツ元帥の言葉&佐山皇帝の説明で、ボクらはなんだかグッとくるわけだが、そんなボンクラ取材班を尻目に、ここでも佐山皇帝はいきなりこう言うわけだ。

「あ、休憩所があるよ」

もうどこに行ってもすぐ休む。

「違うよォ。この前みちのくのリングに上がったら、足は肉離れするしヒザはやっちゃうし。あ〜、みちのくキツかったぁ。でもね、試合は凄く良かったんだよねぇ（笑）。ところで、いま私の目覚ましの音は軍艦マーチなんだけど、今日もそれで起きたからね。もうパッと起きるよ。だって早く消さないと恥ずかしいでしょ？　巡業なんか行ったときなんか、何かと思われるもんね。ふふ」とすっかりリラックス・モード。

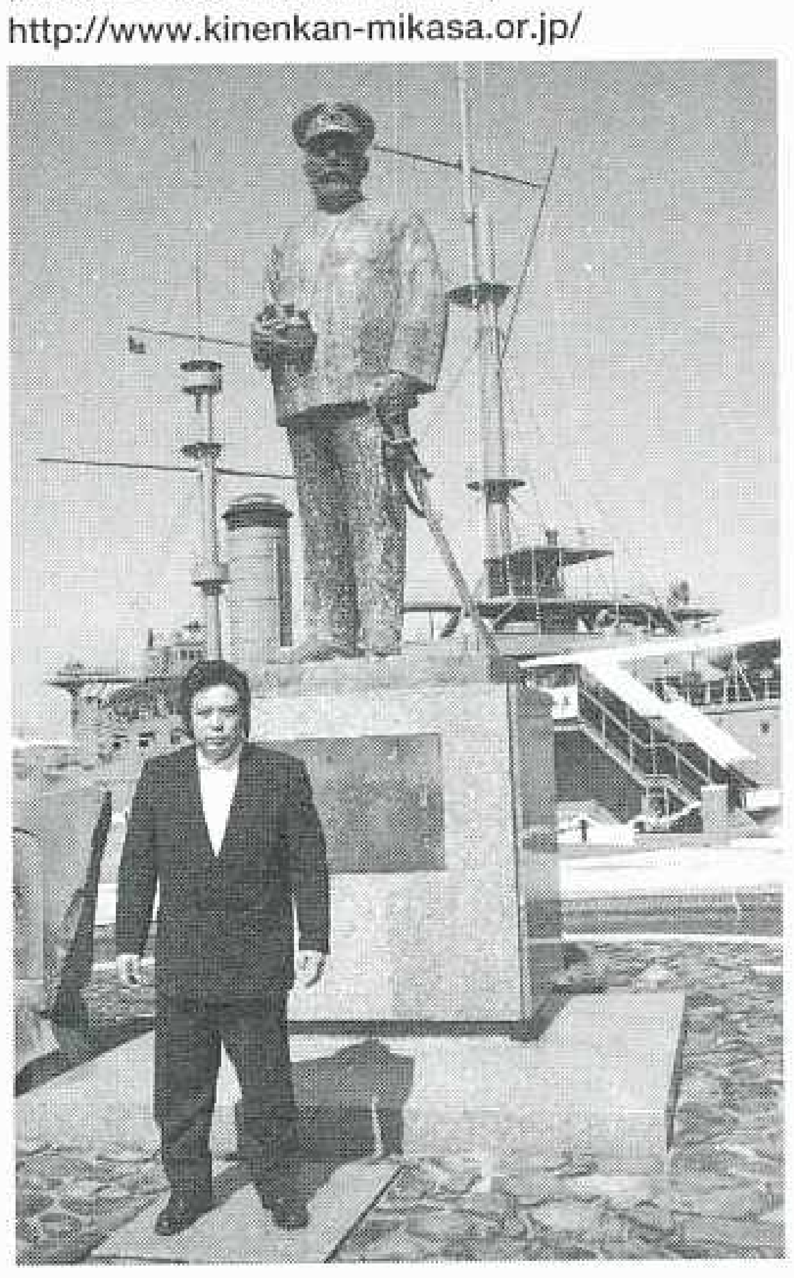
「リラックスなんかできないよぉ。だって、ここ花粉凄いもん。あ、それで思い出したんだけど、いま『タイガーマスクさんですか』って声をかけられると『いまマスク持ってますよ』って言うことにしてるの。みんな『えー！』って驚くんだけど、そこでこの白いマスクを出してあげるとウケるんだよねぇ（笑）」とこうだ。

さっきまであれだけイイ話をしていたと思ったら、無邪気なイタズラ話を始める皇帝。この落差が面白過ぎるわけだ。

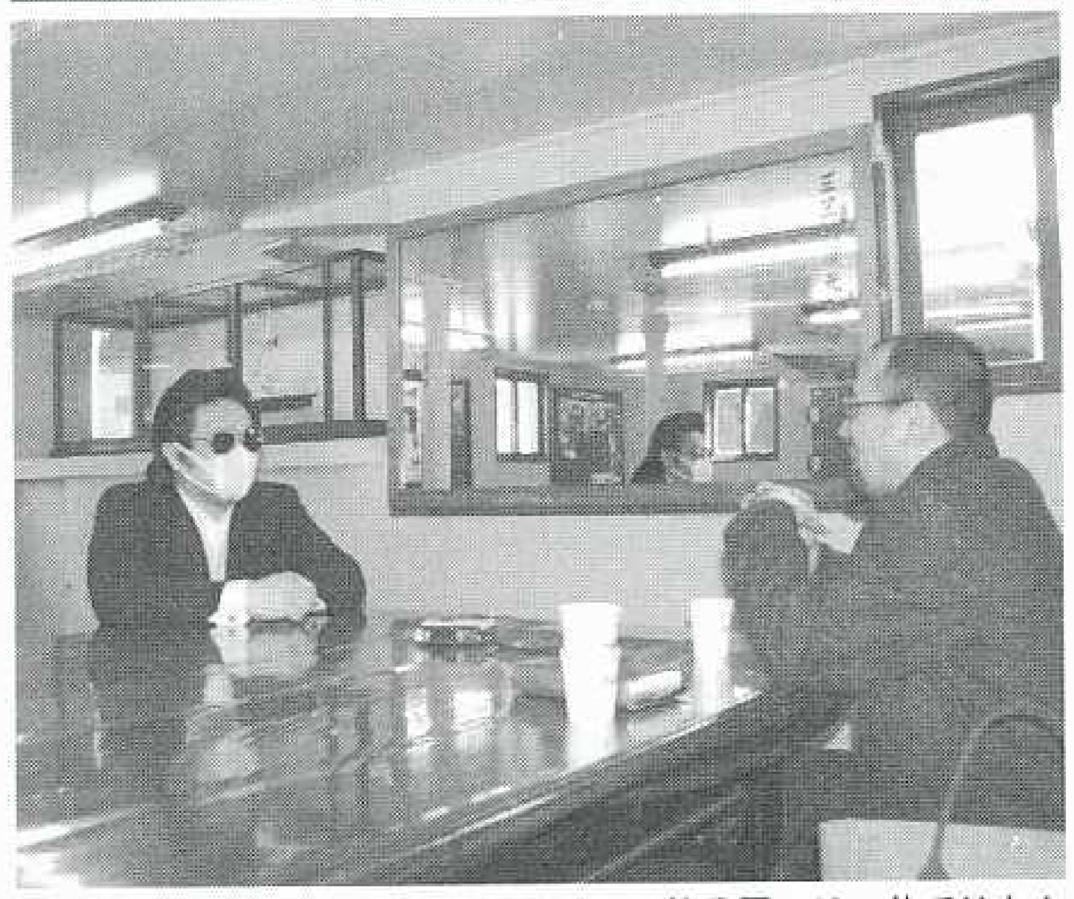
そんなこんなで、休憩所をあとにした皇帝は、再び甲板に上がって船首に向かう。そこには東郷司令長官が日本海海戦で行った敵前大反転、いわゆる東郷ターンを命じたブリッジがある。

「バルチック艦隊を真横から攻撃するT字戦法のためには、敵の直前でターンしなければいけないんだけど、これは一瞬敵に横っ腹を見せる危

日本晴れとなった蒼天のもと、東郷平八郎司令長官と佐山聡掣圏会館皇帝という、古今の英雄のツーショットが実現!!「東郷元帥に会えて感激だなあ」とつぶやく皇帝。日本を守りぬいたサムライへの尊敬の念が高ぶったのか、その目には涙がキラリ☆……と思ったら「いやあ、今日は花粉が多いなあ。目がカユいカユい」と両目をゴシゴシ。ギャフン！（※皇帝も大絶賛の記念艦三笠の詳細は下記HPで）
http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/



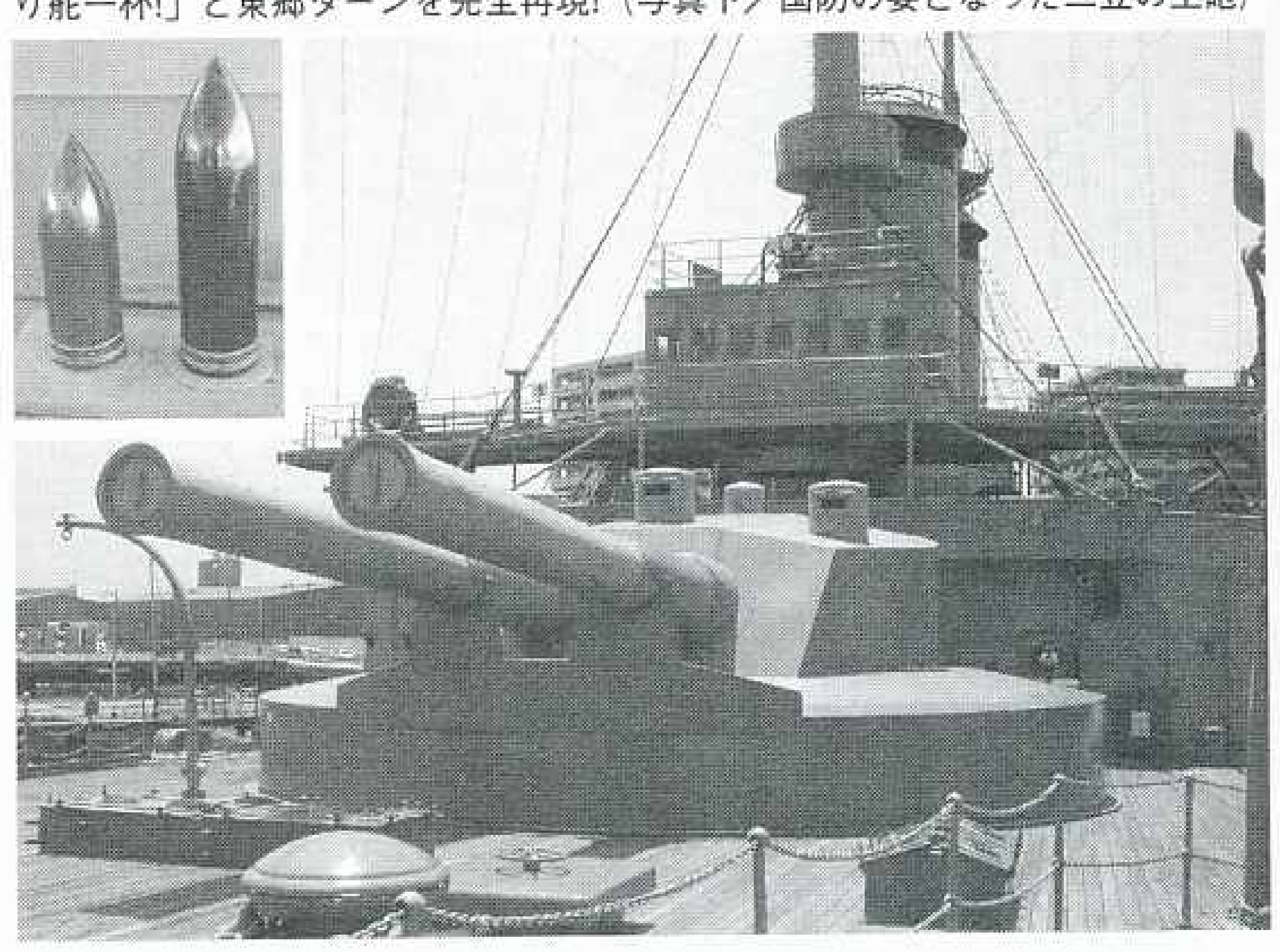




（写真上）戦艦三笠が展示されている三笠公園には、他ではなかなか手に入らない、ステキな日露戦争グッズが買えちゃう売店も。日章旗、Z旗、三笠タイピン、トーゴーターンTシャツ、本格麦焼酎“東郷”、海軍カレーなど、現代に生きるサムライたちには堪らない品揃えだ。（写真下）休憩所を見つけたら寄らずにはいられない、無類の休憩所フリークの皇帝。しかし、この風貌での密会では、爆弾を仕掛ける場所でも相談してるとしか思えない。



望遠鏡を覗き込み「ロシア艦隊発見!」と日露戦争ごっこに興じていたまではよかったが、いきなり「●●●の艦隊も発見！　司令長官殿、さっそく撃沈しましょう！」と物騒度120%な極右ジョークを炸裂させる皇帝。取材班はツッコミも忘れ、他人のフリをしながらブリッジへ移動。到着すると、突如として東郷元帥の魂が皇帝に憑依し「天気晴朗なれど波高し。敵艦との距離8000m。取り舵一杯!」と東郷ターンを完全再現!（写真下／国防の要となった三笠の主砲）



『紙プロ』の真実が暴かれる!?

“文豪”佐山皇帝の
『Voice of Tigermask』
http://www.seiken-do.com/

険があるんだよ。でも、東郷司令長官は砲撃がバンバン来る中で微動だもしないで、左１５０度を指差していたっていうよね。連合艦隊もまったく乱れなくこれをやったっていうから凄いよ」

ブリッジには、そのとき東郷司令長官が立っていた場所が示されており、皇帝にも立ってもらい、左１５０度を指差していただく。

「左に行くのはちょっと嫌だけどね。でも、右行ったら勝てないからねぇ（笑）」

最初から最後まで、抜群のコメント&マスク姿で三笠及び日露戦争を解説してくれた佐山皇帝。締めくくりの言葉として、日露戦争の意義などについて聞いてみた。

「それはね、日英同盟だね。ロシアの南下については当時イギリスも危惧してて、イギリスは日本に朝鮮半島の防衛を任せたんだよ。これは凄いことだよ。白人と黄色人種というか、白人と他の人種が同盟を組むなんてことは、それまでなかったことだから。もっと言うなら、イギリスだけでなく世界各国がこのとき日本に味方したんだよ。つまり、世界を代表して日本は戦ったわけ。それは凄く意義深いと思うよ。ただ当時、世界の誰もが日本がロシアに勝てるとは思ってなかった。だって、ロシアの国力は鉄資源にしても何倍も上だからね。そういう中で勝ったわけだから、明治の日本人たちは気概があったよね。いまは死ぬということを前提にしてないけども、彼らは死ぬということを前提にした侍魂の持ち主だよ。でも、いまの世の中は反対なわけ。ただ、いまの生きて帰ってこいっていうのも正しいんだよ。こういう世の中だし、生きて帰ってくるほうが正しいと思うよ。ただ、武士道を習う者には許されないことだよね。ともかく気概を持ってほしいと思うね、うん。じゃあ、海軍カレーを食べに行こう（笑）」

さて、誇り高き日本魂の塊である戦艦三笠。読者も一度はこの地に足を運んで明治の気概に触れてほしい。また、硬軟入り交じった変幻自在の佐山魂は掣圏真陰流ホームページ（「ホントのことはこっちですよォ」〈by皇帝〉）でぜひ！　そこには皇帝の手による驚天動地の三笠取材後記が待っていて、改めて、天才ぶりが確認できるのである。

★4·16『初代タイガーマスク プレ旗揚戦〜PRELUDE〜』にて、6月旗揚げの新団体名を発表！　「みんなの表情が曇るような名称」（by皇帝）とは一体!?
★佐山皇帝が仰天の海軍グッズをプレゼント！　P142の読プレページへ全速前進!!

花くまゆうさく

ガルシアとジャンジャック見たいなあ

リングの汁 ミゼット

アブダビコンバット日本予選（3月20日／東京・中央区総合体育館）を見に行ったら、不思議な人がいてオドロいた。上着で隠しているけど、明らかに左手（彼は左きき？）でシコシコしてるんだよね、サブミッションの試合見ながら。

「それ、王子がいる本選でヤッたらアソコちょん切られますよ」と忠告テレパシー送ったけど、左手の動きは止まりませんでした。

予選対戦表を見たら、我ら日本のグラップリング・アイドル〝足関十段〟今成正和選手の名は、ない。「推薦で出れるのかなぁ」と期待（願望）してたら、ケガしたらしく足を引きずって会場入りする十段を見てガックリ残念。しかし、もうひとりの足関十段・花井岳文選手はエントリーしている。前日のコンバットレスリングでもブッチギリで優勝しているので期待がかかります。花井選手は見事なムーブで、決勝まで一本取りまくり上がっていきました。これは本選が楽しみだなあとウキウキしてた私ですが、花井選手は決勝でまさかの敗退。これにはガックリ残念しばらく放心。同じように本選に出たら面白そうだなと思っていた小室宏二選手も途中で負けたので、この日はかなりのガッカリ・デーだったなあ。普通の戦法スタイルの日本人が向こうでやっても、普通に負けそうだから、一発極めのある人たちに本選に行ってもらいたかったデス。

『HERO'S』でヨアキム・ハンセンが全国的に名を上げたのはうれしいね。優勢だった2ラウンドを放送でカットされたのはどうかと思うけど。

『PRIDE武士道-其の六-』前半が、柔術テクが光る試合ばかりだったのもうれしかったわ。ルイス・ブスカペとやったもうひとりのルイス、いいねえ、あの選手。柔術黒帯プラス、シュートボクセの打撃で強すぎ。

そんでトドメにうれしいのは、藁谷さん復帰の新生『ゴン格』ね。4月7日発売の『ゴン格グラップル』、最高デス！（まだ予告見ただけだけど）





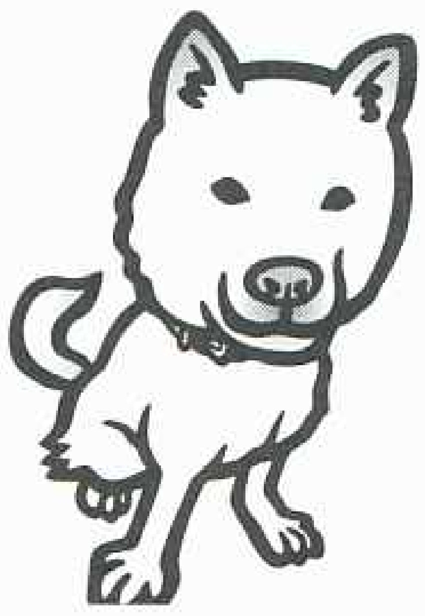
Hanakuma Yusaku

その後、『ゴン格グラップル』見ました。やっぱり最高デス。

中川画伯の絵日記

犬とTVの日々

第8回



埼玉県は47都道府県で花粉がイチバン多いんだって。正直シンドいです。花粉症&腱鞘炎&ギックリ腰でいっぱいいっぱいです。

3月26日 パ・リーグ開幕！ 自分は西武ライオンズの大ファンです。ペナントは2位でいいよ。今年もプレーオフで優勝だ！

3月26日 TBSで『HERO'S』見たよ。入場式の曲&古田信幸リングアナ、そしてリングサイドの赤い服着た大男だけで大満足。ワクワクするよ。前田日明は、やっぱり格好良いねぇ。



3月27日 後楽園ホールで『ゼロワンMAX』を観たよ。CWアンダーソン素敵！ 試合後、外人レスラー軍団大暴れ！ リングサイドのお客さんをリングに引っ張りあげてリンチしてたよ…。怖えーよ！



3月31日 フジテレビ『めざましテレビ』のお天気お姉さん、チカちゃん（高樹千佳子）が御卒業。もう『めざましテレビ』は見ません。嘘です。「きょうのわんこ」だけ見ます。



4月2日 愛犬コマのお誕生日。2才になったよ。もう可愛くて可愛くてタマらんスわ、ホンマに！（金本浩二ism）自分は、いつも家に引きこもってばっかりなので人間よりも、犬と一緒にいる時間の方が長いんよ。



4月3日 スマックガールの新作DVD『WORLD ReMix』を見たよ。コレ最高よ！ コレ1枚に4大会も入ってるんよ。盛りだくさん。辻結花選手はやっぱりステキ！



4月3日 ローマ法王の死も、戦争で殺されたイラク人の死も同じ。自分は無宗教だから同じ。自分と遠い人の死。

4月4日 木村カエラさん、顔は嫌い。鼻がスゲー高いんだもん。でも歌は好き。格好良いんだもん。



何を書いて良いのか解らず暴走気味。ブレーキの壊れた自転車です。御指導御鞭撻願います。紙のプロレス「中川画伯絵日記係」まで。抽選で1名様にステッカー・プレゼント。

ザ・検証 REBORN

ピン、ポン、パン、ポ～ン！『紙プロ』読者の皆さん！　最近、気になって夜も眠れないというマット界のできごとはありませんか？　担当チョロと、せき詩郎＆椎名基樹の「チーム・検証」が責任を持って検証します！　宛先はP143参照！　待ってるよ～ん。

【今月の検証　せき詩郎】ヒョードル弟の入れ墨

ラッキィ池田ダンススクールの近所で火事が！　おもしろダンス講座を中断して駆けつけるラッキィ池田。

燃える民家。そこの住人らしき女性が叫ぶ。

「助けて！　中に子供が！」

消防隊はまだだ。この辺りの入り組んだ路地が到着を遅らせているのだろう。さらに強くなった火を見て、女性は錯乱状態となる。

「奥さん、落ち着いて！　ここは私に任せて」

ラッキィ池田のあとを追いかけ、遅れて駆けつけたダンス教室の生徒達にラッキィ池田は指示をおくる。

「みんな、スクールからあれを持ってきて！」

生徒達が段ボール箱を抱え、戻ってくる。箱の中には象の形をしたジョウロが大量に入っていた。

ラッキィ池田は生徒達を一列に並ばせ、消火活動を開始する。バケツリレーの要領で、象の形をしたジョウロをリレーさせる。水が入った象の形をしたジョウロが次々と手渡され、列の最後の生徒が水をかける。ダンスで培われた機敏な動きで、リズミカルに象の形をしたジョウロが運ばれていく。

一方、ラッキィ池田は、頭の上に載せてあったジョウロを外し、中の水を自らの体に浴びせた。

「ラッキィ先生、まさか！」

「ラッキィ先生、それはいくらなんでも無茶ですって！」

制止する生徒達に笑顔を見せ、ラッキィ池田は燃え盛る民家の中へと飛び込んで行った……。

やがて到着した消防隊も加わり、鎮火。黒く崩れかけた建物中から、子供を抱きかかえたラッキィ池田が現れた時、皆拍手をおくった。

勇敢なおもしろ振付師におくられる拍手は、いつまでも鳴り止むことはなかった……。

ラッキィ池田の頭の上にある象の形をしたジョウロは所詮個性の主張、愚かなファッションに過ぎないと思いがちだが、このように思わぬところで役に立つことがあるのだ。

そんなことを考えながら歩いていた旅人が道に迷う。もしくは遭難する。彷徨い歩いているうちに喉が渇く。

人間にとって水は必要不可欠だ。空腹よりもまずは喉を潤すことを考えなければいけない。

しかし周りに水を補給できるようなところは見当たらない。徐々に足取りが重くなる。目がかすんでくる。ついには倒れてしまう。

ぼやけた視界に誰かの姿が見える。その男性が近づいてくる。倒れた旅人を抱えるように座り、口の中に水を流し込む。「水だ……」と薄れゆく意識の中で旅人は思う。自分は助かったのか、それともこれは夢なのか……。

「気がついたようね」

目が覚めた旅人に語りかけてきたのはラッキィ池田。

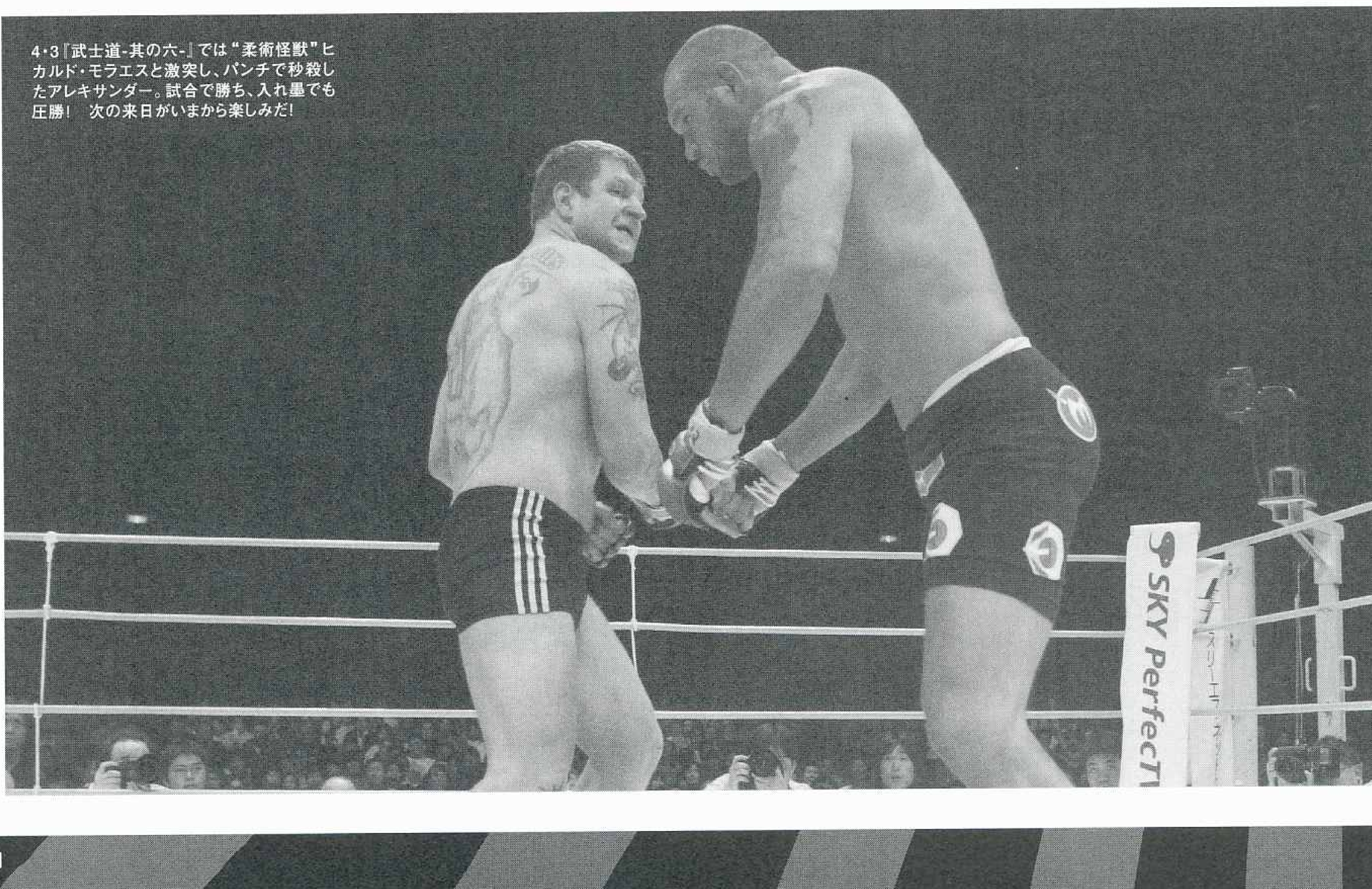
「さあ、もう少し水を飲んで」

そう言ってラッキィ池田は頭の上の象の形をしたジョウロから水を注ぎ、旅人に手渡した……。

驚く無かれ、またしてもあのジョウロが役に立ったのである！

役に立たないと思っていたものが役に立つ。このことから考えると、ヒョードルの弟の『見るたびに増えていく未完成の入れ墨』もいつかきっと役に立つことだろう。

さて次回は『パラシュートとランドセルを間違ってしまったハリトーノフ』のお話です。それではまた。



4・3『武士道-其の六-』では"柔術怪獣"ヒカルド・モラエスと激突し、パンチで秒殺したアレキサンダー。試合で勝ち、入れ墨でも圧勝！　次の来日がいまから楽しみだ！

RADICAL CALENDAR

4 APRIL

16 SAT.
新日本■鳥取・鳥取産業体育館（18:30）
全日本■長野・ウェルサンピア松本（18: 30）
NOAH■長崎・ncc&スタジオ（18:00）
初代タイガーマスク PRELUDE■東京・お台場SDM（18:30）
みちプロ■秋田・中仙町八乙女青年の家体育館（15:00）
DRAGON GATE■愛知・刈谷あいおいホール（18:00）
リキプロ■東京・後楽園ホール（19:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
斗猛矢自主興行■東京・新木場1st RING（19:00）
キングダム・エルガイツ■東京・多摩ファイトスピリット（20:00）
UFC 52■ラスベガス・MGMグランドガーデンアリーナ

17 SUN.
全日本■新潟・新潟市体育館（17:00）
NOAH■福岡・博多スターレーン（17:00）
ZERO-1 MAX■埼玉・ふじみ野駅東口駅前通り広場特設リング（15:00）
みちプロ■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ（15:00）
DRAGON GATE■兵庫・明石市立産業交流センター（17:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
WE LOVE SABU■東京・ディファ有明（12:30&18:30）
北都プロ■北海道・雄武町民センター（13:30）
全女■東京・後楽園ホール（12:00）
AtoZ■東京・千住アメージングスクエア（18:00）
格闘美■東京・新木場1st Ring（18:00）
DEEP HERO1■愛知・Zepp Nagoya（14:30&17:00）
SWAT! 1■東京・大森ゴールドジム（15:30）
全日本キック■東京・後楽園ホール（17:30）

18 MON.
ZERO-1 MAX■愛知・名古屋国際会議場（19:00）

19 TUE.
新日本■広島・広島サンプラザホール（19:00）
NOAH■広島・福山市ビッグ・ローズ（18:30）

20 WED.
全日本■東京・国立代々木競技場第2（19:00）
NOAH■大阪・大阪府立体育会館第二競技場（18:00）
DDT■東京・新木場1stRing（19:30）

21 THU.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）

22 FRI.
NOAH■石川・石川県産業展示館3号館（18:30）
ZERO-1 MAX■埼玉・熊谷市民体育館（18:30）
DRAGON GATE■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（18:30）

23 SAT.
新日本■三重・四日市市体育館（18:00）
ZERO-1 MAX■岐阜・岐阜商工会議所（18:00）
DRAGON GATE■新潟・新潟フェイズ（18:00）
赤まむし興行■東京・バトルスフィア東京（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:30）
AtoZ■福島・いわき市平体育館（18:30）
格闘美■東京・新木場1st Ring（18:30）
PRIDE GP2005開幕戦■大阪・大阪ドーム（16:00）
修斗■福岡・博多スターレーン（18:00）

24 SUN.
新日本■大阪・大阪府立体育会館（16:00）
NOAH■東京・日本武道館（17:00）
DRAGON GATE■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ（16:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
フーテン・プロモーション■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（17:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館（13:00）
JWP■東京・東京キネマ倶楽部（13:00）
NEO■東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
AtoZ■埼玉・川口オートレース場駐車場（18:30）
M' s Style■東京・ディファ有明（15:00）
TRIBELATE■東京・恵比寿EASTGALLERY（15:00）

25 MON.
DRAGON GATE■青森・八戸体育館（18:30）

28 THU.
ZERO-1 MAX■埼玉・パチンコロメオ所沢店駐車場（18:30）
JWP■長崎・シーハットおおむら サブアリーナ（19:00）

29 FRI.
みちプロ■宮城・輪王寺第二駐車場特設リング（13:00）
DRAGON GATE■山口・シーモール下関屋上広場（15:00）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
華☆激■大阪・デルフィンアリーナ（19:00）
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インティーズアリーナ（14:00）
バトルスフィア祭り■東京・バトルスフィア東京（15:00）
AtoZ■栃木・佐野ジャスコ前駐車場（18:30）
JWP■福岡・地場産くるめ総合展示場（15:00）
シュートボクシング■大阪・難波マザーホール（17:00）
U-FILE■東京・西調布アリーナ（14:00）
スマックガール■東京・北沢タウンホール（14:00&18:00）

30 SAT.
みちプロ■岩手・一関市文化センター体育館（18:00）
DRAGON GATE■長崎・長崎ncc&スタジオ（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
JWP■福岡・八女市福島青果市場特設リング（18:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:30）
スマックガール■静岡・キラメッセぬまづ（17:30）
K-1 WORLD GP■ラスベガス・ベラージオホテル

5 MAY

1 SUN.
みちプロ■新潟・新潟フェイズ（17:00）
DRAGON GATE■福岡・博多スターレーン（16:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（17:00）
AtoZ■愛知・豊田市運動公園体育館（18:00）
パンクラス■神奈川・横浜文化体育館（17:00）

2 MON.
みちプロ■福島・喜多方市小野瀬体育館（18:30）
レッスルエイド・プロジェクト■東京・後楽園ホール（18:30）

3 TUE.
みちプロ■山形・羽黒町民体育館（15:00）
大日本■北海道・函館市体育館（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
NEO■東京・北沢タウンホール（17:00）
AtoZ■東京・後楽園ホール（12:00）
ZST■東京・Zepp Tokyo（16:40）

4 WED.
みちプロ■青森・平内町立体育館（15:00）
DDT■東京・後楽園ホール（12:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
修斗■東京・後楽園ホール（18:00）
K-1 WORLD MAX■東京・有明コロシアム（17:00）

5 THU.
ZERO-1 MAX■東京・後楽園ホール（18:30）
みちプロ■宮城・仙台市泉海洋センター（16:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00）
大阪プロ■大阪・岸和田競輪場（11:10）
ターザン後藤一派■静岡・清水マリンビル（18:00）
東海プロ■愛知・一宮138タワーパーク特設リング（10:00）
NEO■東京・後楽園ホール（12:00）

6 FRI.
ZERO-1 MAX■群馬・ららん藤岡ふれあい広場特設リング（18:30）
みちプロ■山形・河北町民体育館（18:30）
大日本■北海道・釧路青雲台体育館（18:30）
MACH55■東京・後楽園ホール（17:30）

7 SAT.
みちプロ■岩手・陸前高田市民体育館（18:30）
ディファカップ■東京・ディファ有明（18:00）
DRAGON GATE■大阪・大阪府立体育会館第二競技場（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00）
華☆激■福岡・Zepp Hukuoka

8 SUN.
みちプロ■秋田・能代市民体育館（15:00）
ディファカップ■東京・ディファ有明（18:00）
DRAGON GATE■山口・下松市民体育館（18:00）
大日本■東京・お台場青海地区Q区画（15:00）
DDT■東京・大井坂下公園
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00）
修斗■大阪・大阪府立体育館第2競技場

10 TUE.
ハッスル9■新潟・新潟市体育館（18:30）

11 WED.
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）
G-SHOOTO■愛知・Zepp Nagoya（18:30）

13 FRI.
NOAH■東京・後楽園ホール（18:30）
AtoZ■埼玉・秩父市文化体育センター（18:30）

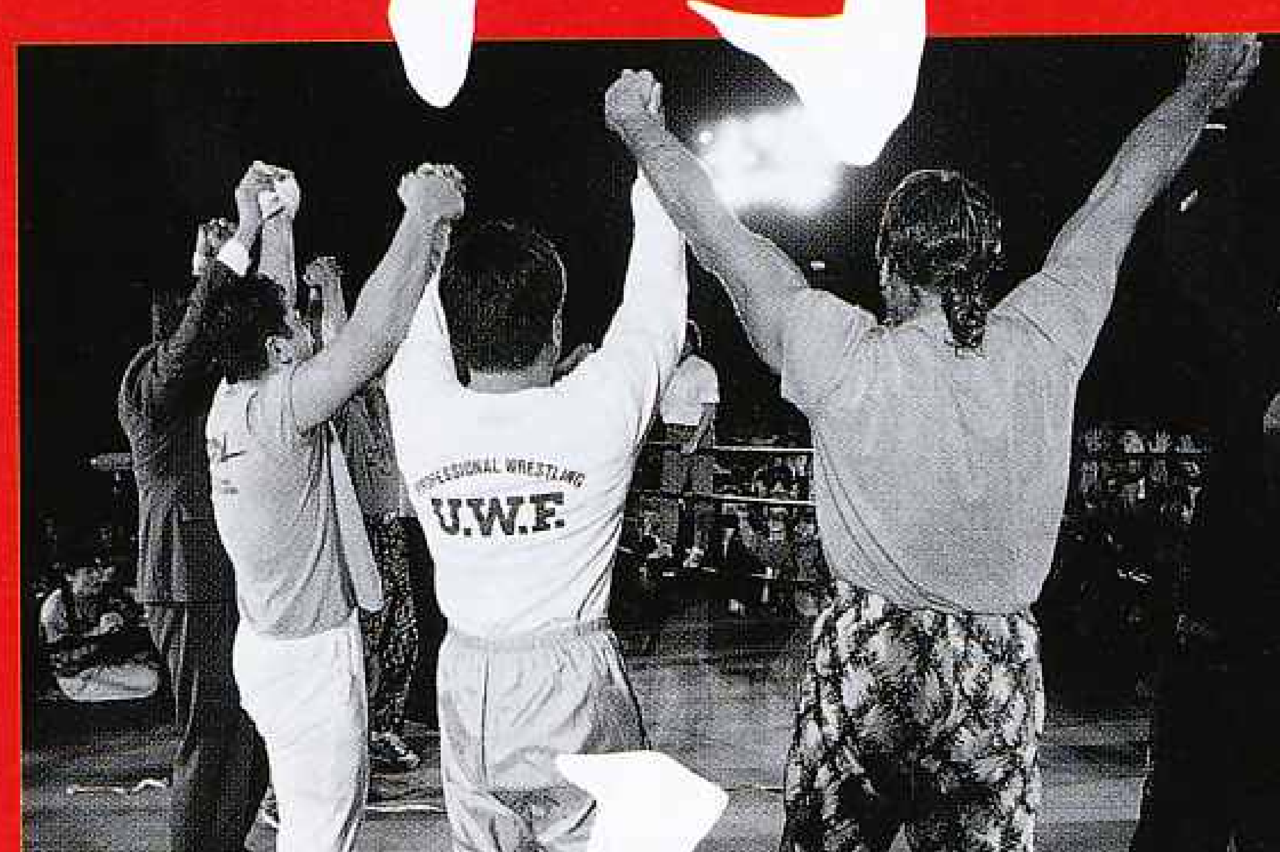
14 SAT.
新日本■東京・東京ドーム（18:00）
ハッスルハウスvol.7■北海道・札幌スピカ（18:00）
NOAH■埼玉・本川越ペペホールアトラス（18:00）
DRAGON GATE■愛知・岡崎市竜美ヶ丘会館（18:30）
WMF■東京・バトルスフィア東京（18:30）

15 SUN.
ハッスルハウスvol.8■北海道・札幌スピカ（15:00）
NOAH■東京・ディファ有明（17:00）
DRAGON GATE■広島・福山ビッグローズ（17:00）
WMF■大阪・デルフィンアリーナ（17:00）
華☆激■愛知・ワンダーシティ イベントホール（14:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（17:30）
JWP■東京・後楽園ホール（12:30）
club DEEP■富山・イベントプラザ富山（16:00）
全日本キック■東京・後楽園ホール



十数年の時を経て

再会



超U級対談実現!!



× 船木誠勝

UWF時代の衝撃秘話てんこ盛り!

前田日明のマット界復帰で、にわかに脚光を浴びているのがUWF。あの『格通』の表紙にまでUWFの文字が踊っているぐらいだ。そこで、今回の『紙プロ』では、"U"の象徴とも言える田村潔司と船木誠勝の対談をセッティング。久しぶりの再会だとは思っていたが、話を聞いてビックリ。2人がじっくり会話を交わすのは、なんと十数年ぶりだという。そんな2人が、リング上からリング外まで大いに語り合った!

聞き手／堀江ガンツ　構成／松澤チョロ　撮影／乾晋也

designed by matsu (TwoThree)

とりあえず、結婚したらいいと思うよ。別れるのはいつでもできるから

船木　久しぶりだね（ニッコリ）。

田村　どうもお久しぶりです。

船木　（田村の右手を見て）それ骨折?

田村　この間の試合でやっちゃって。

——船木さんもUWF時代に腕を骨折したことありましたよね?

船木　ありますね。結構（治るまで）かかるんですよね。

田村　10ヶ月ぐらい休んでました?

船木　いや、全部で半年。10月に折って4月に鈴木（みのる）とやってるから。練習を始めたのが2月ぐらいからだったから、4ヶ月でくっついて。でも怖いんだよね。次にまたいくんじゃねえかって思ったけど、大丈夫だった。逆にいま、そこ固くなったよ、ほら（骨折箇所を触らせる）。

田村　うわっ、ホントだ!

船木　ここ盛り上がってて。たしか、練習で鈴木にバックブローでやったときに折れたんですよ。で、折れたの気づかなくてそのまま教習所行って運転してたら、ハンドル握れなくなってきて、「おかしいな?」って思って病院行ったら複雑骨折で。

——複雑骨折のまま運転してましたか（笑）。そのケガでUWFの東京ドームを欠場したんですよね?

船木　それです。バックブローが鈴木のヒジに当たったんですよ。そのときは一瞬ズキンッてしたくらいだったんで、そのまま練習続けて。で、教習所で運転してたら、だんだん手の感覚がなくなってきて。

田村　で、その後、治りかけのときにベンチ（プレス）やったんですよね?

船木　そうそう。前田（日明）さんが「大丈夫だよ、俺なんか6週間でくっついたから」って。で、60キロ、80キロってやって大丈夫だったんで、100キロもできるかなって思ってやったら、「あ、できた」っ



田村潔司×

結婚するってどういうことか、ちょっとアドバイス聞いておこうかな（笑）

て。でも2回目にバキッていきましたね。

──骨折した腕で100キロ上げてましたか（笑）。それで船木vs前田戦が流れて、田村さんが前田さんとやったんですよね？

船木 そうです。凄いですよね、田村は、まだデビューして半年ぐらいなのに。

──しかも、その試合で眼窩底骨折させられて（笑）。

田村 そうだよね。でも昔は骨折とか多かったですよね。だって船木さんは山本（宜久）のアゴも折ってますもんね。

──そうなんですか？　それはヤマヨシ選手がUWFの新弟子だったころですか？

船木 そうそう、ビンタしたら折れちゃったんですよ。「気合入れろ」って、バーンッて3回ぐらい張ったんですよ。それでその後、メシを食ってたら、見る見るアゴが大きくなって。で、宮戸さんが「ちょっとおかしくない？　病院行った方がいいよ」って行かせたら、（アゴの辺りを指して）ここがパックリ2つに割れてて。そんなに強くやった覚えはないんですけど（平然と）。

──いや、強かったんだと思います（笑）。

船木 アイツ、息切れして、口開いた状態のときに張り手食らわしたと思うんですよ。でもそのお陰で身長伸びたみたいで。

田村 えっ⁉

船木 「ずっと寝てたら伸びました」って（笑）。

──そんなバカな（笑）。お二人は、こうやって会われるのはどれぐらいぶりですか？

船木 前に、運転してたら渋谷で眠そうに歩いてる田村を見つけて声かけたことあったんですけど、あのときは藤原組の後期の頃だったから……23歳ぐらいですね。

田村 はい、ありましたねぇ。

船木 だから、約13年ぶり。まともにこうやって話すのは。たまに会場で、誰かのセ

コンド付いたりとか同じ場所にいるっていうのはありましたけど。でもお互い雑誌を通して見たりしてるから、そんな長く会ってないっていう感じはしないよね。

田村　そうですけど、こうやって話すのは久しぶりだなって思いますね。実際、街でバッタリ会った以外では、ずっと会ってないですし。その前っていうと、Uインターの合宿所に船木さんとかが来てくれて。

船木　たまに行ってたんですよ、鈴木と2人で。みんな元気かなって。で、金原選手とかまだデビューする前で「コイツ、面白いんですよ」とか言ってたのを覚えてる。

――へぇ～、そんな交流があったんですね。

船木　あと冨宅（飛駈）が田村と仲いいんで、「田村どうしてる？」って聞くと「こうこうこうですよ」って情報は結構聞いてたんで、元気にしてるならいいなって。試合も毎回テレビを通して見てたんで、俺はまったく久し振りって感じはしない。

――13年振りなのに（笑）。

船木　昔のまんま。逆に俺は引退して試合とかしなくなっちゃったから、たぶん田村の方は久し振りな感じだと思うけど。

田村　でも会場とかで僕も見てましたけどね。パンクラスの10周年の両国大会とか。ちょっとリング上でキレてましたよね？

船木　だって予定じゃなかったのに、いきなりマイク渡されたんで何言っていいかわかんないから、思ってること言っちゃったんですよ。

――「エグゼクティブプロデューサーじゃありません。顧問です！　間違えないでください」って。あれは怖かったですね（笑）。

船木　そうですか（微笑）。

――それにしても、今回は凄い貴重な対談が実現したなって思ってるんですけど、まさか13年ぶりとは思いませんでした。



船木　田村と対談って初めてですよ。いろんなところ退団はしましたけど（笑）。

――そういうダジャレ（笑）。

船木　こないだは前田さんと対談したよ。『Ｎｕｍｂｅｒ』って雑誌で。

田村　えっ！

船木　前田さんとも対談したことないから、初めて対談っていうの多いですよね。

田村　橋本さんともやってましたよね？

船木　橋本真也とも初めてでしたし。前田さん、田村と話したがってたよ。

田村　ホントですか？

船木　うん。「田村、俺を前にすると下向いて何も言わなくなっちゃうんだよな」って。「先輩だから気ィ遣ってんじゃないんですか？」って言っといたけど。

――船木さんは普通に話せるんですか？

船木　俺は普通。言いたいこと言えるし。それにいま、前田さん凄い柔らかくなってるし。相当孤独だったんだよ。だから、いろんな人とまた会えたりして嬉しいみたい。

俺、垣原にヒナ鳥の真似させたりとか、それぐらいだったと思うけど（笑）

――『紙プロ』で前田、田村対談とかやりたいですね（笑）。

船木　やりましょう。俺、間に入りますよ。

――司会者として（笑）。

田村　船木さんって、じゃあ猪木さんとかとも……。

船木　（遮って）こないだ挨拶した。

田村　緊張とかしないんですか？

船木　大丈夫、全然。

田村　へぇ～っ、凄いなあ！

船木　だってみんな人間じゃん。

田村　そうですけど（笑）、やっぱり船木さん凄いなあ。

船木　15歳でいきなり、こんな世界に放り込まれたじゃないですか。その時点で感覚が変わっちゃいますよね。で、包丁振り回す先輩とかもいたし（笑）。

――某・後藤達俊さんですね（笑）。

船木　そうです（笑）。だからそういう意味ではあんまり、命があるかないかだけですよね（淡々と）。

――ＵＷＦの新弟子時代っていうのも凄かったって聞きますけど、新日本とどっちが凄いんですかね。

船木　新日本のときは数いましたけど、ＵＷＦは数が少ないんで雑用が大変ですよね。もうずっと洗濯ですもん、みんなの。

田村　俺が入ったときは、上が6人いて、船木さんは結構、僕とかにも気ィ遣ってくれて。で、垣原（賢人）とかはまた船木さんより後に入ってきて、船木さんは垣原とか可愛がってましたよね。

船木　いや、平等に可愛がってたよ。田村もラーメン屋とか一緒に行ったじゃん。

田村　あ、はい。

――その「可愛がってた」っていうのは、普通の意味ですか？

船木　イジメじゃないですよ（笑）。

田村　でも船木さんって結構明るいイジメですよね。僕が新弟子のときは暗いイジメだったけど（笑）。

船木　俺、なんかやった？　垣原にヒナ鳥の真似させたりとか、それぐらいだったと思うけど（笑）。

田村　あと、垣原とかにマドチンをさせてましたね。

――ダハハハ！

――なんですか、マドチンって？

田村　窓からチ●コを出すの。なんかあると「マドチンさすぞ」とか言って。あと、垣原が一生懸命ベンチ（プレス）やってるとこに、船木さんが何か持って垣原の股間を刺激するんだよ（笑）。

――チンチンを刺激するわけですか（笑）。

船木　いかに胸の運動に集中するかのテス

トですよ。
田村　で、垣原は若いからちょっと反応するんですよ（笑）。
—ダハハ！　ベンチやりながら大きくなっちゃったり（笑）。
田村　だけど勃ったら船木さんに怒られるから、一生懸命他のこと考えながらベンチやってた（笑）。
—田村さん的にも、船木さんが来てようやくＵＷＦの道場が明るい雰囲気というか、少し自由な雰囲気になったって言われてましたけど。
田村　そうですね。そのときは前田さん高田さん山崎さんがいて、その下に中野さん、安生さん、宮戸さんがいて、その間に船木さんが入って明るくなりましたね。
—ある意味、潤滑油のような存在だったと。
船木　でしょうね。だから、結構バランス良かったんですよ。で、前田さんとか高田さん、山崎さんの……若かったですから、気に入らないところとかみんなで言い合ったりすることもできたんですよ。だから結構いいチームワークでしたね。微妙にズレてた人もいましたけど（笑）。
—大体、誰だか想像つきます（笑）。
船木　そういえば前田さん言ってたよ。「いままでの新弟子の中で田村が一番体力がズバ抜けてた」って。なんか記録があるらしくてスクワット何百回を3分でクリアしたとか。「体力的には最高だった」って。
田村　500回を10分以内でやったことです。
船木　それが一番早かったたって。それでまず、みんなビックリして。
—そんな有望新人をゴミのように扱ってたって、やっぱりプロレスの道場って凄いですね（笑）。

田村　まあ昔はね、いまと違うからね。
—船木さんがＵＷＦに入ってからは若手が団結したって感じだったんですか？
田村　結構若いので固まってましたけどね。練習はよくしてたんで。
船木　若手だけでちょっとした派閥になってましたね。俺が高田さんとか山崎さんを倒したら、とにかく宮戸さんとか喜んじゃうんですよ。
—ダハハハ！　逆に若手軍団と前・高・山の3人と距離があったんですかね。
船木　途中、そんな空気ありましたね。で、途中で前田さんとか高田さんとか山崎さんが、事務所とのイザコザがあったじゃないですか。そっちの方で時間取られて道場に来なくなっちゃいましたよね。そこからはホントに俺と鈴木と宮戸さん、安生さんとかで道場を仕切ってて。でも中野さんだけは我が道をいってて、朝は来ないんです



KIYOSHI TAMURA

船木さんって結構明るいイジメですよね。僕が新弟子のときは暗いイジメだったけど（笑）

よ。みんなが帰ってから来て、それで必ず汗をかくために腹に巻いてたサランラップをリングの横に置いていって、「俺はやってるぞ」ってアピールするっていう。
—ダハハハハ！
船木　でも、田村は途中で眼窩底やってるんで、かなり可哀想でしたよね。せっかくデビューして、最初の鈴木との試合なんて凄い良かったし。可哀想だなとか思ってるうちに冨宅と垣原がデビューして。で、これまたいい試合するんですよ。
田村　そうですね。
船木　それ見てやっぱりツライだろうなと思って。でもそうこうしてるうちに、それどころじゃない騒動が始まってね。
—分裂騒動ですよね。
船木　そうです。俺と鈴木が藤原さんに呼ばれて、宮戸さんとか残った連中、それぞれが考えて明日までに結論出そうってことになって。合宿所だったみやがわ荘に集まって、俺と鈴木、冨宅は藤原組、田村と垣原はインター……あのときは泣いたね。
田村　泣きましたね。
船木　もしかしたら最後の別れになるかもしれないって思うじゃないですか。兄弟みたいに遊んだり練習したりっていうのがもうできないってことですから。でもあれ、一番最初に泣いたのって鈴木だよね？
田村　ああ、そうですね。
—鈴木さんらしいですね（笑）。
田村　俺、鈴木さんと抱き合って泣いた記憶ありますよ。
船木　うん、泣いてた。
—一時は若手だけで団体をやろうっていう話もあったみたいですね。
船木　ありましたよ。前田さんの解散発言の晩に、俺と鈴木と宮戸さんが安生さんの家に行って、「冨宅と垣原と田村の3人も呼んで、前田さんはもうやらないって言ってたから話しましょう。若手だけでやりましょう」って宮戸さんが言って。で、その日はそれで収まったんですけど、次の日、俺のところに（ミスター）空中さんから電話がかかってきて、「藤原さんが大至急会いたいって言ってる」ってことで、藤原さんのとこに俺と鈴木が行ったら「団体作るから協力してくれ」って頭下げられちゃったんですよ。
—組長に頭を下げられたんですか？
船木　そうです。「でもいま、若手で固まってるんです」って言ったら「じゃあ、全員引き取る」って。それを宮戸さんに伝えたら、「それだと同じ結果になるんで俺は反対です」って言われて。俺と鈴木はもう「わかりました」って言っちゃったんですよ、藤原さんに。そこでまた別れるって話になって。凄かったよね、毎日のように状

況が展開して。選ぶの大変じゃなかった？

田村　ハッハッハッハッ！

船木　前田さんが「解散」って言って、宮戸さんが「作ろう」って言ったら、今度は俺と鈴木が抜けることになって、どうしようって思わなかった？

田村　思いましたけど、僕らはどっかに付いてくしかないから。あの「解散宣言」のとき、前田さんの家で最初はみんなと話してて、安生さんと宮戸さんが抜けて。

船木　で、鈴木も途中で帰っちゃって。俺、「残ったメンバーでやりましょう」って言ったよね。でも前田さんは「1人でも欠けたらできない。解散」って。

――前田さんも引っ込みつかなくなっちゃったんですかね。

船木　いま聞いてみると、言わざるを得ないような事情があったみたいですけどね。あの1ヶ月はホント毎日状況が変わってましたね。

――松本大会でみんなで一致団結したかと思っていたら……。

船木　（遮って）解雇されて、みんなで集まって、解散して。その後、前田さんは1人1人の家を訪ねて行ってるんですよ。

田村　あ、そうなんですか？

船木　俺んとこにも来たらしいんだけど、ちょうどそのとき知り合いの家に泊まってて。いろんな面倒臭いことから解放されたくて。で、帰ったら前田さんの手紙が入ってて。「何時間も待ったけど帰って来ないから手紙を書きました。もう1回話をするチャンスを下さい」って。でももうそのときは藤原組に入ることは決めてたんで、結局連絡取らなかったんですけど。

――はぁ～、あの前田さんが何時間も家の前で待ってたんですね。

船木　そうみたいです。たしかにね、留守電聞くと結構しつこいぐらい「もしもし前田です、また電話します」って入ってて。相当待ってたんだろうなって。その頃まだ携帯とかないですから。

――前田さん、かなり追い詰められてたんでしょうね。

船木　あのときって前田さんが1人になっちゃって、「解散や」って言った次の日から突然、髙田さんとも連絡が取れなくなったらしくて。それでビックリしちゃったらしいんですよ。なんで急にみんないなくなっちゃうんだって。でもみんなにはみんなの都合があって。とりあえず、まずは明日の飯じゃないですか。とにかく試合しないとっていう話で。まあ、いろいろ考えとかズレたんでしょうね。

リングスに行ってからも船木さんに関心はありました。ヒクソンとやったときとか

――UWFやりながらも最後の1年間ぐらいはコミュニケーション取れなかったりとか言いますよね。

船木　最後の1年はホントに前田さんとは試合終わった後に電話がかかってきて、3時間ぐらいずっとしゃべるだけで。まず道場に来ないし、会場でも話はできないし。だから距離は離れちゃってましたね。

――若い選手だけで団結した頃って、タイミング的にはいつぐらいになるんですか？

船木　1日だけです。前田さんが解散宣言をした、その夜中だけです。次の日には俺と鈴木が藤原さんに呼ばれてましたから。

KIYOSHI TAMURA





船木vsヒクソン戦が行われた2000年５月26日、東京ドームでの『コロシアム2000』。セミに出場した田村はKOKルールでジェレミー・ホーンと対戦。赤いパンツにレガース、そして素手で現れた田村は掌底、左ミドルを駆使しホーンに判定勝ちを収めた

田村　最初は仕事の話をしてるんだけど、だんだん雑談になってたんですよ。なんか笑ってばっかりいて。

――深刻すぎて笑っちゃうとか、そういう感じですかね。

田村　そうそう。

船木　で、最後に宮戸さんがまとめて、ノートに書いてたんですよ。

――その頃から宮戸さんってそういう立場だったんですね（笑）。

船木　宮戸さんはやっぱりプロデュースをしたかったみたいですね。

――のちのUインター構想みたいな感じだったんですかね？

船木　多分そうじゃないですか。「（新団体は）船木さんを中心に」って最初言ってたんで。でも俺がいなくなったから（代わりに）髙田さんってことだったんでしょうね。

――なるほど。ちゃんと興行には絶対的なエースが必要って考えてたんですね。

船木　だから、俺がたまたま髙田さん、山崎さんを連破して、流れがそういう（船木エースの）方向になってきてたら、宮戸さんが「昔の猪木さんみたいな髪型にしたらどうですか？」って言ってくるんですよ。

――ダハハハハ！

船木　で、「似合うかどうかわかんないですけどね」とかって言った記憶はありますね。たぶん、その宮戸さんが考えてプロデュースしたエースが、インターの髙田さんだったんですよね。猪木さんの再来みたいな感じで。見てて「あ、俺にこれをやらせたかったんだ」って思いましたから。

――船木さんを全盛期の猪木さんにしたかったと。だいぶ経ってから田村さんもパンクラス入りの話がありましたよね。

船木　それも俺、全然わかんないんですよね。鈴木が担当してたんで。

――あ、担当は鈴木さんでしたか。

船木　だから、何がどうなったかも全然わかんない。「あ、そう。来ないんだ。残念だね」ぐらいで。

――その頃はよく会ってるのかと思ってました。

田村　解散して最初の頃は結構会ってたけど、もうその頃にはあんまり会ってないと思う。鈴木さんって普通にはしゃべれるんだけど、先輩なんで気は遣うからね。

――田村さんはリングスに行ってからも、船木さんを意識してるような発言をしてま

したよね。

田村　関心は常にありましたよ。船木さんとヒクソンがやったときとか。

船木　でも、最後の頃は誰か俺の首取ってくれる人いないかなって思ってましたから。引退させてくれる人いないかなって。

——介錯してくれ、と。

船木　それぐらいツラかったですね、トップでずっとやってるっていうのは。もう刺激を追い続けて、最後はパンクラチオンルールとかあえて自分で作って、自分で先頭切ってやってましたから。とにかく、最後はとてつもないやられ方をしないと納得いかないじゃないですか。ホント、33～34歳ぐらいまでの計画立ててたんですけど、ヒクソン戦で全部吹っ飛びましたね。

——ちなみに、それって、どんな計画だったんですか?

船木　1～2年アルティメットやって、その後、日本帰って来て『PRIDE』とか他のところで、できるだけ強い人とやって、最後の1年パンクラスの若い日本人選手全員とやって、負けたら引退って考えてました。結構マジメにそれ考えてましたね。どうやって退こうかっていうのは。

田村　それ、精神的にキツイってことですよね。

船木　やっぱり毎回メインってツライじゃない?　これってやったことある人じゃなきゃわかんないと思うんですけど、ホント凄いんですよ。怪我とかそういうこと抜きにして、精神的にもうツラくなっちゃって。「何のために闘ってるんだろう?」ぐらい思っちゃいますから。別に相手が憎くもないし、そいつを倒したところで何がついてくるってわけでもないし。ホントに強いヤツとやりたいっていう根本ですよね。格闘家としての根本がないような試合もこなさなければいけなかったんですよ。それが無性にツラくなってきて。

宮戸さんに「昔の猪木さんみたいな髪形にしたらどうですか?」って

田村　それはわかるなぁ。

船木　でもファンは誰と闘ったとしても、必ず俺の勝つ姿を求めるわけじゃないですか。しかも落とせないっていう。落としたら会場が白けて、その気持ちを残したまま帰さなきゃいけないじゃないですか。だから勝たなきゃいけないし。背負っちゃうんですよね。

田村　団体を背負ってましたからね。

——田村さんもKOKで毎回のように試合やってた頃って……。

船木　(遮って)あれ見てて相当ツライだろうなってホント思いましたよ。

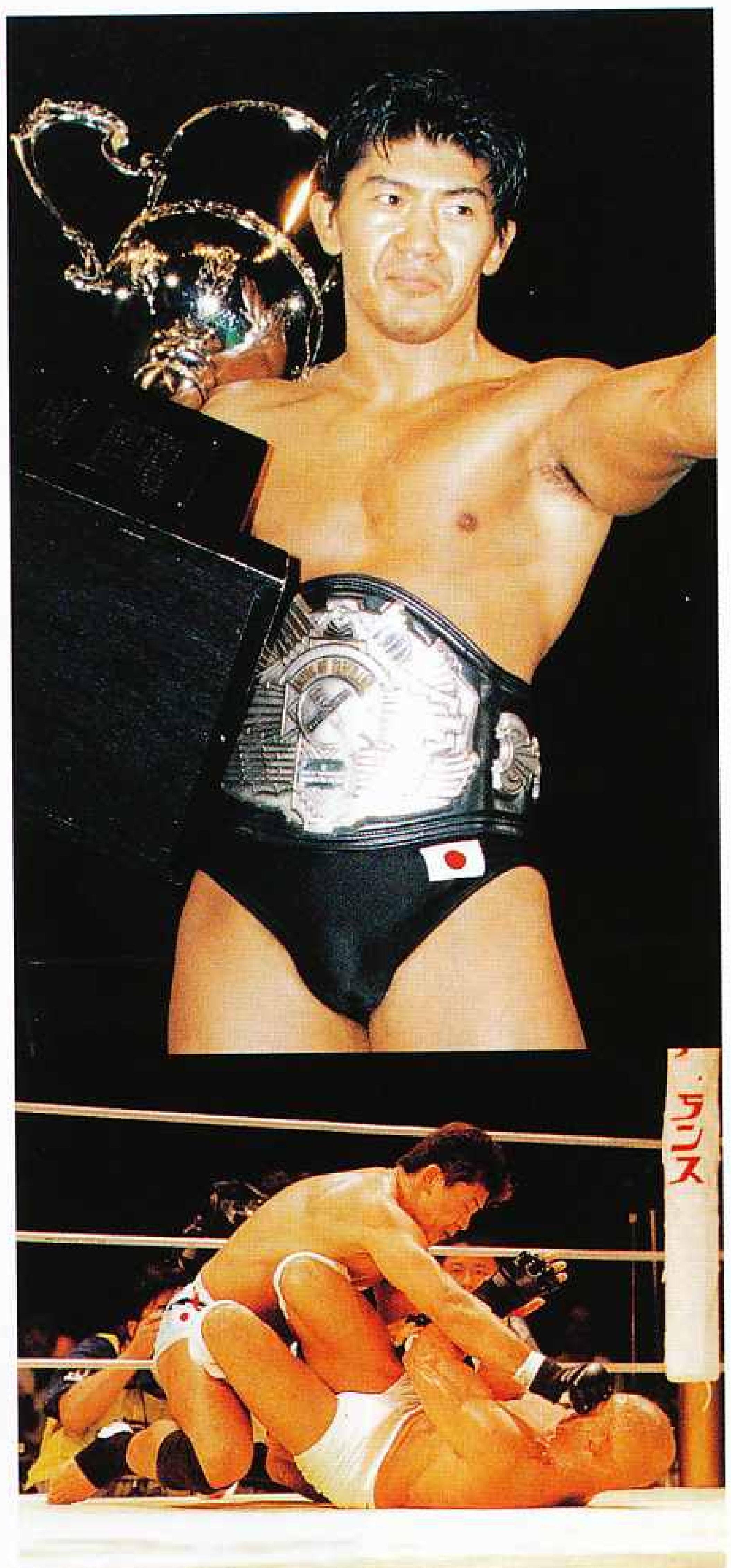
——当時、田村さんは「船木さんは凄い」って、よく言ってましたよね。

田村　船木さんだけじゃなく、みんなそうですよ。髙田さんとかもそう思うし。ただ、船木さんは逆に若い頃からやってるじゃないですか。20代前半ぐらいからメインでやってるから10年間はキツいと思いますね。

——それはキツイでしょうね。

船木　でも、あの頃、何があったとかっていうのは鮮明に覚えてますよ。自分が誰と闘ったとか、興行の第何試合とか、誰と誰が他にやったとかもある程度は覚えてますね。パンクラスの試合は全部。それぐらい第1試合から見てましたから、全体を。

MASAKATSU FUNAKI



結果的に船木の引退試合となったヒクソン戦。田村に続いてメインに登場した船木は着流しに日本刀を携えて登場。入場時、客席の破壊王とドラゴンの姿は確認したという船木だったが、前田日明が来場していたことは今回の対談時まで知らなかったという

田村　近藤と最初にやったときに、あれタイトルですか?

船木　最初勝って、2回目のタイトルマッチは負けて、3回目は勝った。

田村　あの試合って船木さんの中で……。

船木　(遮って)スパーリングだよ。

田村　あんまり「倒してやろう!」っていうのは……。

船木　全然ない。コイツにはまだまだ勝つ実力はないだろうぐらいの感じで。そろそろ終わらそうかなって思って足首固めでバリバリッてなったんですよ。でもギブアップしなくて。それで必死にロープに逃げるんで、「うわっ、マジだ!」とか思って。

——そりゃ向こうはマジですよ(笑)。

船木　何回かあったんですよ、終わらせようと思って足首固めやって。でもそれもクリアされて。で、疲れてきたんですよね。とりあえずあと10分ぐらいで終わるから、2回エスケープ取ってるし判定勝ちでいいやって思ってたらガッと腕十字取られて。だけどポイントがズレてたんでギブアップまでいかないんですよ。「やっぱりヘタクソだな」って思いながら、ずっと我慢して。で、ロープの方に行かなかったんですけど、そしたらキッと極めに来て、「ようやく極まったか」って思ってタップして。

——なんか人ごとみたいな感じですね(笑)。

船木　でも、まだ早かったですよね、あのとき近藤がチャンピオンになるのは。案の定、その後、アイツがチャンピオンとしてやった試合とかつまんない試合が多くなっちゃって。で、しょうがないから12月に再戦ってことになって。その試合は5分ぐらいで終わって。その間、ずっと近藤にはアドバイスとかしなかったんですよ。で、俺が勝ったときに、たぶんアイツは何か話をしに来たかったんじゃないですか、こっちに寄って来たんで「帰れ!」って言ったんですよ、リング上で。

——それはどういう意味だったんですか?

船木　負けたからカッコ悪いなと思ったから、早く帰してやりたかったんですね。その後、インタビューしてるとき泣いてましたね。相当ショックだったみたいで。でも逆にそれがその後のバネになってましたよ。あそこで「お前、この半年よくやったな」とかって声かけなくて良かったなって思いましたね。アイツが2回目のチャンピオンになってからは結構強かったですよ。

田村　2回目に負けたときも完全に実力

差はありましたよね。100の力があるとしたら、船木さんは70～80でやってる感じで。

船木　凄い楽だった、2回目。ムチャクチャ楽でしたよ。「ん？　何やってんの？」っていうぐらい余裕ありましたね。

――へぇ～。

船木　向こうも鼻息荒くしてやってるんですけど、動き方がわからないんですよ。俺はその頃ガードポジションとかもしっかりやってたんで。それで向こうには教えてなかったんですよ。だから「なんで動けねえんだろう？」って焦りが凄くあったんじゃないですか？　でも試合が終わってからは、それを近藤に教え始めたんですよ。当分再戦はないと思いましたから。

田村　全部で何回やったんですか？

船木　3回。その後はやってない。

――特殊な状況ですよね。

船木　そうですね。でも、俺に勝ってチャンピオンになったたっていうことは、やっぱ敵なんですよ。だからその間は教えないで黙って見てる。でも俺に負けたら、今度は俺の下になるんで教えるんですよ。で、またいつか闘う日がくればっていう感じで。

田村　でもね、教わったことを試合でやると、自分の技をそのまま教えてるわけだから凄いやりにくかったりしますよね。近藤なんかは、まだ成長過程だったからあれなんだけど、最短距離で強くなったっていうか。昔、僕らの世代はやられながら覚えてたの。いまの子は違うでしょ。まあ、その中でも近藤って生き残った子だと思うんで、それはそれで凄いと思うけど。やっぱり僕らの下の世代っていうのは、技術的な面を教わりながら精神的な面も教わるって感じで凄い理想的だと思うしね。

目をつぶってる間にガードレールに突っ込んだら運が悪いんだって



MASAKATSU FUNAKI

――船木さんはよく「自分の身体が実験台」って言われてましたよね。

船木　そうですね。だってそうしないと本物の技にならないじゃないですか。練習でいくら使えても試合で使えないと。だから負けたりとかヘマしてもいいんで、1年間は練習で覚えた技を意識的に使ってた時期がありましたね。その代わり「あ、失敗した」ってなったら、ホントの最終兵器ですぐ極めちゃってましたね。いざとなったらヒールホールドって感じで。

――だから初期の頃と最後の方では全然スタイルが違ってましたよね。

船木　そうですね。だから面白かったのかもしれないですよね。でも最近は、全体的にやることが限定されてきてるし、ファンの目も肥えてますから、選手の個性が光ってないとお客さんが楽しめなくなってきてますよね。大晦日とかに放送されるようになって市民権をだいぶ得たと思うんですけど、逆にファンの目が肥えてるんで、いまの選手は恵まれてるけど大変だと思いますよ。ある意味で、俺たちの時代よりも凄い大変。

田村　それはあるかもしれない。

――でも田村vs船木戦は見たかったですね。UWF時代も実現してないですし。

船木　話があって、パンクラスとリングスのいざこざがなければ、できたんだろうね。

田村　そうでしょうね。

船木　だって俺、桜庭選手ともやりたいと思ったし。桜庭選手がなんかの雑誌で「やりたい」って言ったことがあって。

田村　で、1回、会場来てたんですよね。

船木　そうそう。その場で即席記者会見やっちゃったんですよ。記事にさせちゃおうって。『東スポ』に「やりたいって言うなら、別にやります」って。

――実現してたら面白かったでしょうね。

船木　とにかく外の人間で強いヤツとやりたかった。だから小川（直也）選手なんかの名前も出したんですよ。でもことごとくダメでしたね。どういう事情だったかはわからないですけど、全部会社に任せてましたから。でもヒクソンがOKっていうのを聞いて、逆にこっちがビックリしましたね。絶対に俺とはやらないと思ってましたから。

田村　でもヒクソンに勝ったとして、次の

モチベーション大変じゃないですか。

船木　だからやっぱりアルティメットっていう違う刺激に走ろうとしたんだろうな。ヒクソン戦の試合中、頭の中で考えてたんですよ。「結構楽そうだな」って思いながらやってて、試合後の記者会見で「とりあえず私は今日、最強になりました。来年はアルティメットに出ます！」って言おうとか思いながら闘ってましたね。

――ダハハハハ！　ヒクソン戦の最中にそんなことを考えてたんですか（笑）。

船木　余裕こいちゃってたんでしょうね。でも向こうは必死なんで。1ラウンド目のあと1～2分ぐらいですか、下になりましたけど、あのときもパンチはそんな重くないですから、このままやってても大丈夫かなって思ってて。そしたらセコンドが「あと何分」って言って、自分がそっち向いて「うん」って言った瞬間にブワーッてチョークが来て。やっぱり試合中に変なこと考えちゃいけないなって（笑）。

田村　考えながらっていうので思い出したけど、船木さんってバイク乗ってて、意味なく目を5秒とか閉じるんですよ。

――ダハハハハ！

田村　そんなの好きなんですよね？

船木　車でもやったことある（アッサリ）。

田村　なんでそんなことするんだろうって思ってて。

船木　最初1秒、2秒ってやって。もし目をつぶってる間にガードレールに突っ込んだら、それは運が悪いんだってことで。

――ダハハハハ！　それも運命と。

船木　いままで5秒までが最高ですね。

――そんな試練を自分に与えてきましたか（笑）。船木さんは引退してから、田村さんの試合を見てどう思われますか？

船木　やっぱり自分を売るのがうまいですよ。いかにも「なんかあるんじゃねえか？」って、そういった雰囲気を醸し出しながら入場したりとか、あと試合終わった後の仕草とか、常に客を意識してると思うんですね。お客さんに見られてなんぼですから。だから言葉じゃないメッセージを客に伝えてるんだと思うんですよ。俺もそういうやり方、よく使ったんですけど、そういうことも全部重要なんですよね、ショービジネスとして。いろんな問題とかも試合の中であるけども、自分の生き方は変わってないっていうのは、その仕草とかで全部わかる人はわかって。で、1人がわかればそれが口伝えで「実はあのとき田村はこうだったんだと思うよ」ってつながってきて、田村っていう人間像が嫌でもでき上がっちゃうんですよね。で、何ヶ月かしたときに「あのノーコメントだったときの心境は？」って聞かれて「実は……」って言ってるのを雑誌とかで読むと「あ、やっぱりそうなんだ！」って（笑）。

――ダハハハハ！

船木　なかなか本音を言ってくれない、だけど付き合いたい女を追っかけてるみたいな感覚じゃないですかね、ファンの人は。

――悪女なんですね（笑）。

田村　いやそんなことない（笑）。でも昔は、よく恋愛の話もしましたよね。

船木さんってバイク乗ってて、意味なく目を5秒とか閉じるんです



KIYOSHI TAMURA

船木　田村は結婚してんの？

田村　いや、してないです。

――田村さん、結婚のご予定は？（笑）。

田村　結婚は……船木さんの結婚のきっかけってなんですか？

船木　1回目は合コン（キッパリ）。2回目は俺が追いかけちゃった。

田村　その結婚しようってモードになる瞬間っていうのは？

船木　一生離したくないって自分が〝男性自身〟になっちゃうんだろうね。追いかけまくるストーカーみたいに（笑）。で、勝手に心の中で、彼女は俺と結婚したがってるって思い込むんだよね。でもそれを感覚で感じて追いかけてるとそれが叶った。まあ、いろいろスタイルがありますから、たぶん1人になる時間が欲しいから結婚したくないっていうのもあるだろうし。

田村　船木さんはずっと結婚したい方だったんですか？

船木　俺は結婚大好き！

――ダハハハハ！　結婚大好き（笑）。

船木　ヒマだもん、1人だと。

ユーファイル16

4月29日（金・祝）西調布アリーナ
OPEN:13:30／START:14:00
東京都調布市上石原2-40-6 B1F
［京王線西調布駅から徒歩3分］

【予定対戦カード】
Style-S重量級タイトルマッチ　大久保一樹vs中村大介
Style-G重量級ランキング戦　佐々木恭介vs新井正剛
Style-G軽量級ランキング戦　小林悟郎vs中島賢人
他、Style-S（立ち技）、Style-G（寝技）ルール数試合
料金：2000円（※当日500円UP）

【お問い合わせ】044-932-0282



桜庭選手と田村の2人が引退試合で
やるっていうのもいいよね

MASAKATSU FUNAKI

田村　結構寂しがり屋ですもんね。

船木　うん。

田村　怪我してるときも誰かに電話するのよ、夜中とか。で、俺も合宿所にいて電話かかってきて、1時間とか2時間とかしゃべったりとか。

船木　アニキの真似して電話したりとかしたよね。「もしもし、潔司？」とか（笑）。

——ダハハハハ！

船木　「おうっ！」とか言って。その後に「もしもし、船木だよ」って言うと「ハッ、お疲れ様です」って。

田村　船木さん、そういう細かいイタズラよくやってたなあ。

——田村さん、1人は好きなんですか？

田村　……家にいるとやっぱり寂しくなるよね。メシとかも面倒くさいしね。結婚するってどういうことか、ちょっとアドバイス聞いておこうかな（笑）。

船木　とりあえず、したらいいと思うよ。で、別れるのはいくらでもできるから。その後「バツ1」って言われても大丈夫なんであれば、いくらでも別れることは可能だから。とりあえず1回したいなって思ったらすればいいと思うし。1回目の結婚で懲りたら、結婚って形を取らないで付き合えばいいし。さっきのトップの話じゃないけど、してみなきゃわかんないことっていっぱいありますよ。まったく生まれた環境とか性格が違う人間との共同生活だから。でも1人で家にいるよりは2人の方が楽しいよ。ケンカするのも楽しいし。

田村　ケンカします？

船木　する。ケンカしたら必ず決着つける。

——そこでも完全決着主義（笑）。

田村　どんな決着ですか。

船木　だからどっちが悪いかっていう結論を出すまで。たとえそれが朝までかかったとしても、話し合って。「そうか、じゃあこういうところがダメだったんだ」って納得するまで話し合う。

田村　船木さんって純粋なんですよね。

船木　100％ピュアですよ。

田村　だって若い頃、絶対モテるじゃん？

——そりゃあ、モテるでしょうね。

船木　でも全然女遊びしないもんね。これホント、マジな話ですよ。浮気っていうことは1回もしたことないです（キッパリ）。

——それってプロレスラーでは凄いことじゃないですか!?

船木　これは凄い貴重です！

田村　自分で言いますか（笑）。

船木　なかなかこれできる人いないと思ってるから。自信持ってるんですけどね。

——でしょうね。しかもこういう世界で。

船木　そうですよ。

田村　海外行って向こうの人を好きになったこともありましたよね。

船木　そう。で、半年遠距離恋愛して。凄かったですね、1ヶ月10万円ぐらい国際電話で使ってましたよ。

田村　イギリスでしたっけ？

船木　そう。フラれたんだけど（苦笑）。

田村　俺もその当時、凄い好きな看護婦さんがいて、船木さんに相談に乗ってもらったりしてて。で、結局、俺もフラれたから結構似た環境だったの。

——青春ですねえ（笑）。

船木　傷の舐め合いですよ（笑）。

——ダハハハ！　船木さん、これからの田村さんに期待することって何かあります？

船木　やっぱり、次からは1戦1戦安売りしないで、自分のためになるっていうか、ホントに歴史に残るような試合をしてもらいたいですね。勝っても負けてもいいんで。ひとつひとつの田村潔司伝説の最終章の1ページ1ページを作っていくような試合。そういう意味では、こないだの髙田さんの引退試合も凄く良かったですね。髙田さんが、やっと介錯されたみたいな。2人のいままでの関係とかをわからず、ただ見てる人は「なんであそこで田村が？」って思うだろうし、試合終わった後に感極まるとかっていうのが意味不明じゃないですか。

——中にはそういう人もいるでしょうね。

船木　だけど田村の中ではずっとつながってるんですよ。で、それを知って見てるファンもいるんですよ。そういう意味では俺も髙田さんと別れたいきさつとかもいろいろ見てたんで、あの試合は凄い良かったですね。ただその後の髙田さんの「お前、男だ」っていうのが、あれが決まり文句になっちゃったのがちょっと……（笑）。

——ダハハハ！

船木　あの日は良かったんですけど、その後、誰にでも言ってますよね（笑）。

——ランペイジ・ジャクソンとかにも言ってますからね（笑）。

船木　でもいま髙田さん、活き活きしてますよね。やっとホントの髙田さんが出てきたっていうか。髙田総統なんか酔っ払ったときの髙田さんそのものですから（笑）。

——ダハハハ！　そうなんですか!?

船木　ホント、あのノリですよ。だから凄い楽だと思いますよ（笑）。

——具体的に田村さんと闘って欲しい選手とか誰かいます？

船木　やっぱり桜庭選手とはやった方がいいと思いますね。あと近藤は……どうですかね、微妙だね、近藤って。やりたい？

田村　う〜〜ん、どうでしょう？（長嶋茂雄調）

船木　やっぱもうちょい先じゃないですかね、近藤は。いまは桜庭選手が一番旬でしょうね。落ちてく桜庭選手とやってもあんまり意味ないと思うんで。そういう意味では桜庭選手にも頑張ってもらいたいですね。桜庭選手ももう34ぐらい？

――同い年ですよね。

船木　だから、ある意味、カウントダウン入ってると思うんですよ。だから2人で引退試合とかね（笑）。

――ダハハハハ！　それは贅沢な（笑）。

船木　それか勝った方が残れるとかね。それで負けたら即引退（笑）。

――それならワンマッチで十分ですね（笑）。

船木　そんな試合が実現したら見る方もドキドキもんですよ。だって負けた方の試合はもう二度と見れないんだから。その試合、リングサイドで見たいなあ。髙田さん、お願いします！（笑）。

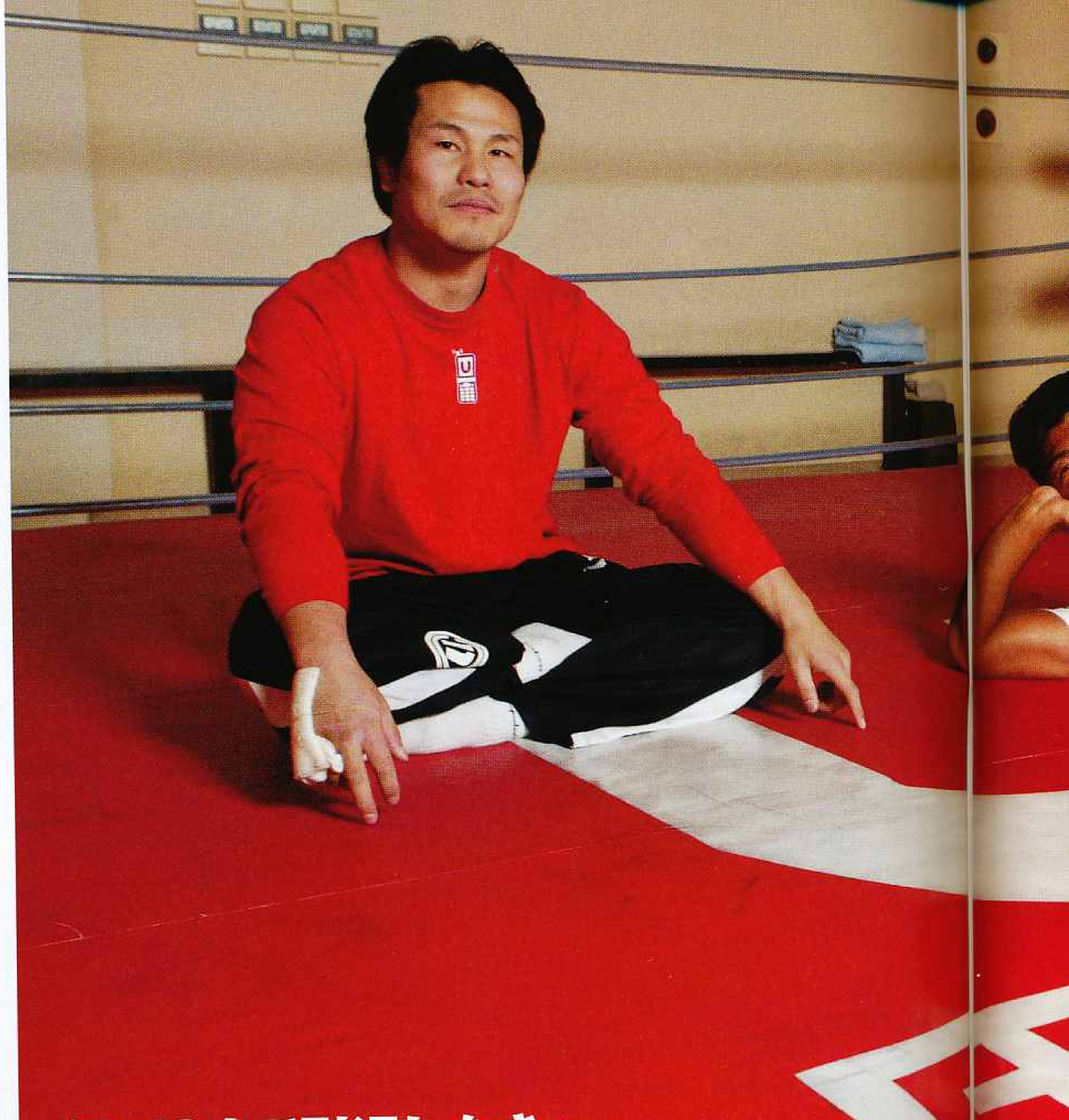
――じゃあ、田村さん、船木さんもファンも期待してますんで。

田村　だってそれもバカな話でしょ。なんで2人で引退しなきゃいけないんだよって話でさ（笑）。

――ダハハハハ！

田村　船木さんは、やる気ないんですか？

船木　もう十分。お腹いっぱい。



何で2人で引退しなきゃいけないんだよって話だよ（笑）

KIYOSHI TAMURA

田村　やりたいと思いませんか？

船木　まったく。もうホントにないね。5年経ったけど見事に。いまでも鮮明に覚えてるから、ツラさとか。まだ消えないもんね。誰かが輝いてる姿とか見ても「コイツもいま苦しいんだろうな」とか思っちゃうから。凄いわかるんですよ、その選手がいまどういう心境かとか。

――でも、佐山さんや、上井さんから毎度のように「やってくれ」って言われるわけですよね（笑）。

船木　でもホントにやりたいと思わなきゃ絶対やらないですから、俺は。だから動くときは動くし、動かないときは動かないです。気持ちがないときに、誰かの顔を立ててやっても、おそらくファンも「あ、嘘でやってるな」ってわかっちゃいますよ。それは一番やっちゃいけないことなんで。心が動かないうちは何にもないですよ。

――田村さんに負けず劣らず、船木さんも頑固者ですよね。

船木　頑固者っていうかワガママかもしれないですね。多分、自由人なんですよ。

――こだわりがあるってことですよね

船木　でも俺、自分で自分のこと筋通ってないと思いますよ（笑）。

――ダハハハハ！　自分で言いますか（笑）。

船木　一貫性がないですから。

田村　そんなことないんじゃないですか？

船木　結果、そういうふうに見てくれてるんだと思うんだけど、自分じゃホントにいろんなことを浮気してるなって思いますよ。新日本からUWFからパンクラスから。で、期待が集まった頃に辞めたりとか。相当裏切りっぱなしっていうか。いい裏切りもときにはあったと思うんですけど、ホント好き勝手にやってきましたから。

田村　いまみたいに交通整理ができてなかったから。昔は新日本しかなかったからっていうのもあるんじゃないですかね？

船木　そうだね、浮気者ですね。

――引き止めが効かない人というか。

船木　そうですね。みんな引き止めるんですよ、猪木さんにも引き止められたし。

――UWFのときも藤原組のときも、みんなそうですよね。

船木　みんな、そのたびにワガママ聞いてもらって。幸せ者です。次、生まれ変わっても、もういいです（キッパリ）。

田村　ハッハッハッハッ！　もうやらないんだ（笑）。

――今日は非常に貴重な話、ありがとうございました！

【4月8日／U-FILE CAMP西調布近くのカラオケボックスにて収録】



サイン色紙＆「U.W.F.」DVD BOXプレゼント!!

十数年ぶりの超U級対談を記念して超ビッグプレゼントをセットで1名様に大放出！　プレゼントは2人の寄せ書きサイン色紙、そして編集部所有の『U.W.F.COMPLETE BOX（vol.1〜vol.15）』【QUEST】にサインをゲット！　UWFに思い入れがある人も、ない人も、この機会に応募せよ！　宛先はP143参照!!



中軽量級爆発前夜

『紙プロ』はこの2人を推薦します!!

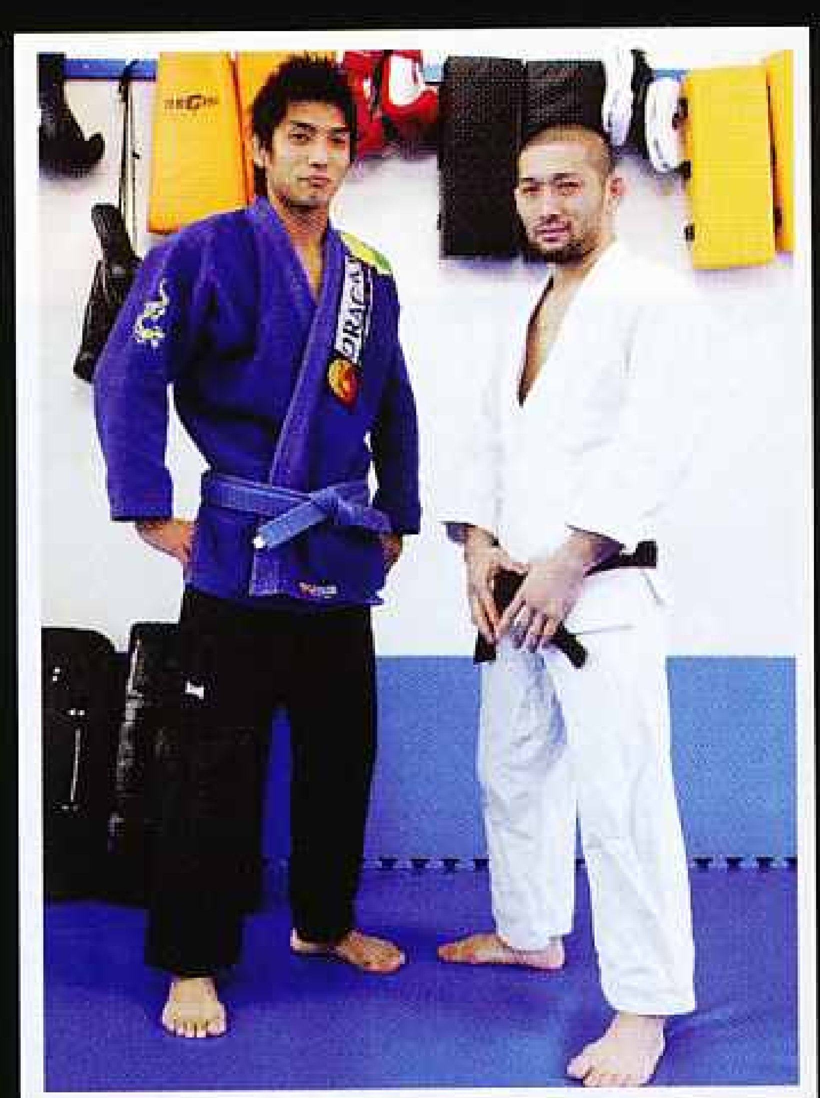
“小さな ヴォルク・ハン”

所英男

×

“足関十段”

今成正和



昨年3月に今成がZST離脱を表明以来、表舞台では離ればなれになっていた“兄弟”が誌面上でついに再会！　『HERO'S』旗揚げ、『PRIDE武士道』リニューアルと、中軽量級への注目度が日に日に増す中、本誌はZST&DEEPマットで名勝負を連発するこの2人を大々的に推薦します！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫

designed by nogu (Two three)

柔術だったらレオジーニョ、総合ならペケーニョとやりたい。弱いヤツとは闘いたくないから。



いまなり・まさかず■1976年2月10日、神奈川県出身。"足関十段"の異名を持つ異能派ファイター。初期UFO、キングダムエルガイツと裏街道を歩いてきたが、ZSTでその才能を開花。昨年3月に判定問題でZSTを離脱してからはDEEPを中心に活躍。今年は自らの道場『バルボーザ・ジャパン東京』も開設。新生『PRIDE武士道』でも活躍が期待される。165cm、67kg。

――さて、今回は昨年3月に離ればなれになった"ZST兄弟"再会対談なんですけど、実はお二人は普段からよく会ってるらしいですね？

今成　最近は会ってなかったですけどね。去年はちょくちょく練習やってましたけど。

所　そうですね。最近、ちょっとご無沙汰だったんですけど、今成さんにはいろいろ教えてもらったりしてます。

――所選手は今成さんが昨年10月に『PRIDE武士道』に出場したときも、セコンドについてましたよね？

所　はい。つかせてもらったんですけど、あの場に行っただけで、セコンドなのに足がすくむ感じでしたね。なんか今成さんも一段とかっこ良く見えたし。たのもしかったです。

――ベタぼめですけど、どうですか、今成さん？

今成　そうやって馬鹿にしてるんですよ（笑）。

所　いやいや。ホント、頑張ってああなりたいなと思いましたね。今成さんの試合はほとんど見に行ってるんですけど、相手が強豪ばっかなんですけど、それでも極めちゃったりとか、空間だけで試合を支配したり凄いなと思います。

――今成さんはこの1年、『PRIDE武士道』に上がったり、DEEPでは強豪柔術家に一本勝ちしたり、大活躍でしたけど、所選手にとっても、『ZST』のメインイベンターに成長して飛躍の年でしたよね。今成さんから見て、最近の所選手はどうですか？

今成　いいんじゃないですか。もう勝てないかな（ニヤニヤ）。

所　いや、練習でいつもやられっぱなしなんですけど……。

――所選手は練習より試合で力を発揮するってよく言われますよね。

今成　ああ、それは思いますね。試合でしか力ださないなって。

――じゃあ、試合を見ると結構な驚きがありますか？

今成　そうですね。へ～、ホントは強かったんだなって（笑）。だから、まぁまぁいい試合が続いてるし、いいんじゃないかと思いますけどね。小谷君とやった試合は全然ダメでしたけど。

所　すいません……。小谷君との試合は意識しすぎてダメだったのかもしれないです。

今成　あ、そう。じゃあ他の選手には眼中にないから勝てるんだ（笑）。

所　ち、違います！

――ダハハハ！

今成　じゃあ、大石（真丈）戦は意識しなさすぎて負けたの？

所　いや、大石さんとは、自分の悪い面がすごく出ちゃって……さすがに落ち込みましたね。

――大石選手には2連勝してて相性はいいはずなんですけどね。あれは何が悪かったんですか？

所　う～ん。

今成　3回もやったのがいけない。2回勝ってる相手とやる意味がわからない（笑）。

所　しかも1年間で3回やりましたからね。2回に1回は大石さんだったんで、さすがにちょっと多いかなって（笑）。

――所選手は次はリトアニアで試合なんですよね？

所　あ、はい。もう3日後出発なんですけど。

今成　リトアニア行って、また安くて質の悪い○○相手にするの？

所　そういうためにいくんじゃ……（笑）。リトアニアのドナタス代表に協力するために……。

今成　試合は協力して夜の手配はドナタスに協力してもらうんでしょ？

所　いや、最近はそういうために行くわけじゃなくて……。

――「最近は」ってことは、以前はそうだったんですか？（笑）。

所　いやいや、昔は友好関係を結ぶために……。

今成　で、対戦相手はまた"小さなミーシャ"（エリカス・ペトライティス）なんでしょ？

所　あ、はい。前もリトアニアでやって、一本勝ちしてるんですけど。

今成　リトアニアでも意味ない再戦なんだ（笑）。

所　いや……そんなこと……どうですかね（笑）。

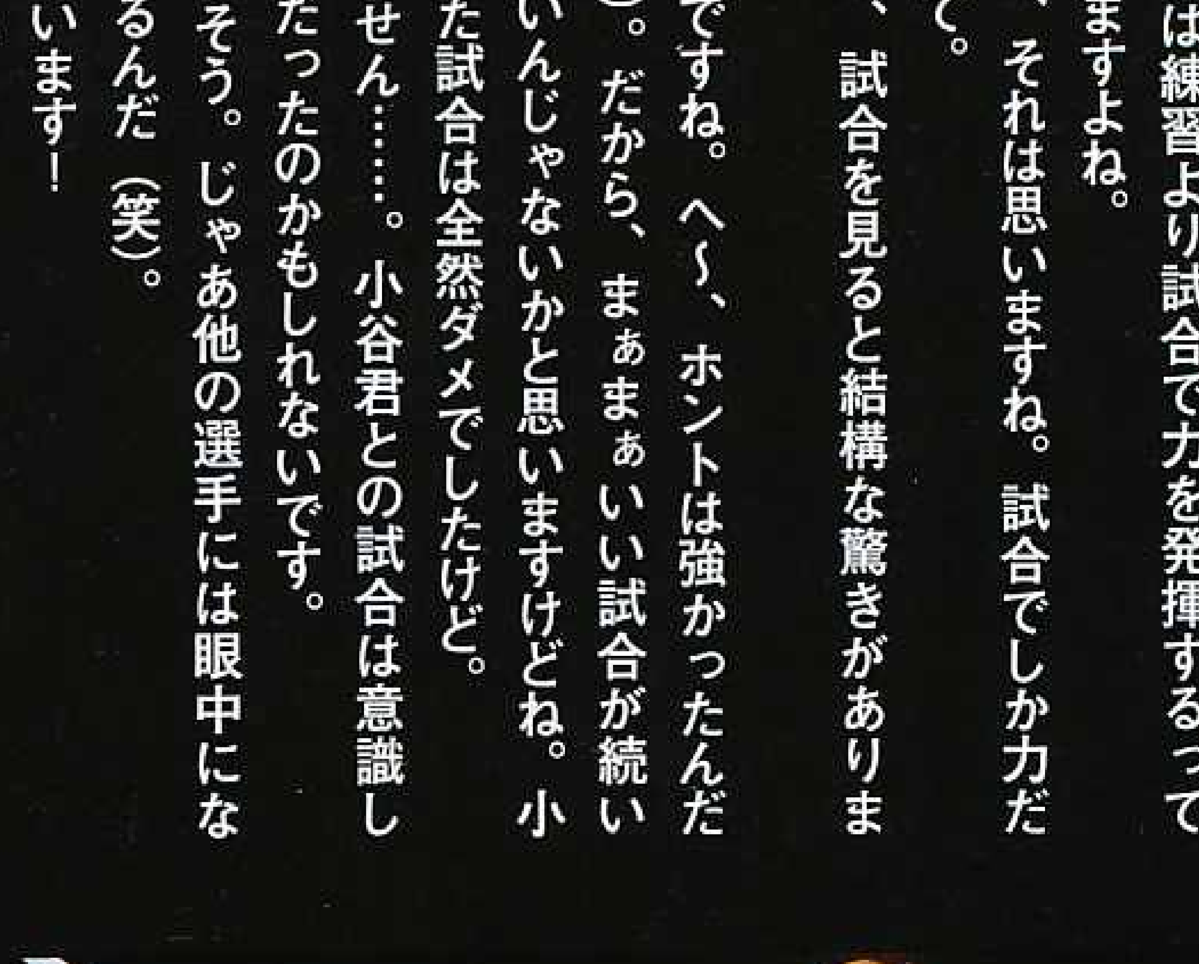
――確かにペトライティスは何度もやりたいタイプじゃないですよね。

所　なんか試合後、挨拶してもそっけないんで、あんま人間としても好きなタイプじゃないんですけど（笑）。

今成　じゃあ、試合で中指でも立ててみたら？

――ダハハハ！　伝説となっているリトアニアでの今成さんばりに（笑）。

今成　あれやると、結構もりあがるよ（笑）。



03年4月の『リトアニアBUSHIDO』に出場した今成は、執拗にイチャモンをつけてくる相手セコンドに中指を立て大乱闘に。最後は会場警備にあたっていたリトアニア陸軍兵士が鎮圧する事態となった。

所英男 × 今成正和

ZSTに出ながら大きな大会にも出て、前田吉朗選手とか日本人とつばぜり合いができたら最高。





とところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。アマチュア時代からその動きの止まらないグラップリング技術で数々の大会で優勝。プロになってからもその“名勝負製造機”ぶりは変わらず、いまや『ZST』を代表する選手に成長。下馬評を覆す金星を連発する一方、ここぞというところでポカをするスリリングな闘いを、今年は“大舞台”でも見られることに期待。170cm、65kg。

所　いや、できないですよ。一歩間違えたら危ないですからね。でも、試合中にセコンドと乱闘になって、軍人さんに止められるって普通ありえないですよね（笑）。

――間違いなくリトアニア格闘技史上に残る一戦ですよね。もし、今成さんがまたリトアニアに行ったら、凄い盛り上がるんじゃないですか？

いろんな意味で（笑）。

所　絶対盛り上がりますね。僕は3回リトアニアに行ってるんですけど、あの試合を超える盛り上がりはまだ見たことないんで。

――今成さん自身は、またリトアニアに行きたいとかないですか？　タッグで2回やってるレミーガとシングルで決着戦とかメチャクチャ面白いと思いますけど。

今成　いやぁ、やらないっすね。リトアニアは別にいいです。

――今成さんは「ブラジルに住みたい」って言ってましたよね？

今成　そうっすね、住みたいですね。気候もいいし、強い人いっぱいいるし、食べ物もうまいし、女の子はかわいくて、安いし。

――安い!?（笑）。

今成　いや、物価が（笑）。

――あ、物価がね（笑）。今年は2年ぶりに『アブダビ』がありますけど、今成選手は予定は？

今成　ないっスね。今回はアメリカ開催なんで。アメリカはちょっと無理……というか縁がないんで（苦笑）。

――確か以前、留学してたことがあるんですよね？

今成　う～ん。なんか、縁がなくなりましたね（笑）。

――なんか話題変えたほうが良さそうですね（笑）。所選手はアブダビは興味ないですか？

所　予選出ようか迷ったんですけど、勇気がなくて辞退しました（笑）。

――まぁ、4月、5月と2連戦ありますしね。

所　そうですね。5月の『ZST』は、まだ相手は決まってないんですけど。

今成　また大石戦じゃないの？

所　いや、そうすると4度目なんで……（苦笑）。

――今成さんはいま足をケガしてますけど、次は？

今成　4月17日のDEEPのエキジビション（TAISHO戦）には間に合うかもしれないですけど。

――本戦の予定は？

今成　なんかあれば出たいですけどね。まだ話はないですけど。

――5月22日に中軽量級に特化した新生『PRIDE武士道』がありますけど。

今成　出れれば出たいですけどね。

――出てほしいなぁ。今回、なぜ今成選手と所選手の対談を企画したかというと、おそらく今年、この2人がブレイクするだろうと期待してるからなんですよ。いま、『武士道』がリニューアルしたり、『HERO'S』がスタートしたりして、ちょうど中軽量級の大きな波が来かかってるじゃないですか？

今成　なんかそうっすね。ただ、微妙に軽量級じゃない気が……。ヘビー級から見ると軽量級だけど、俺らからすると結構重いなって（笑）。

――確かに73キロ以下級っていうのは、65キロのお二人からすると……。

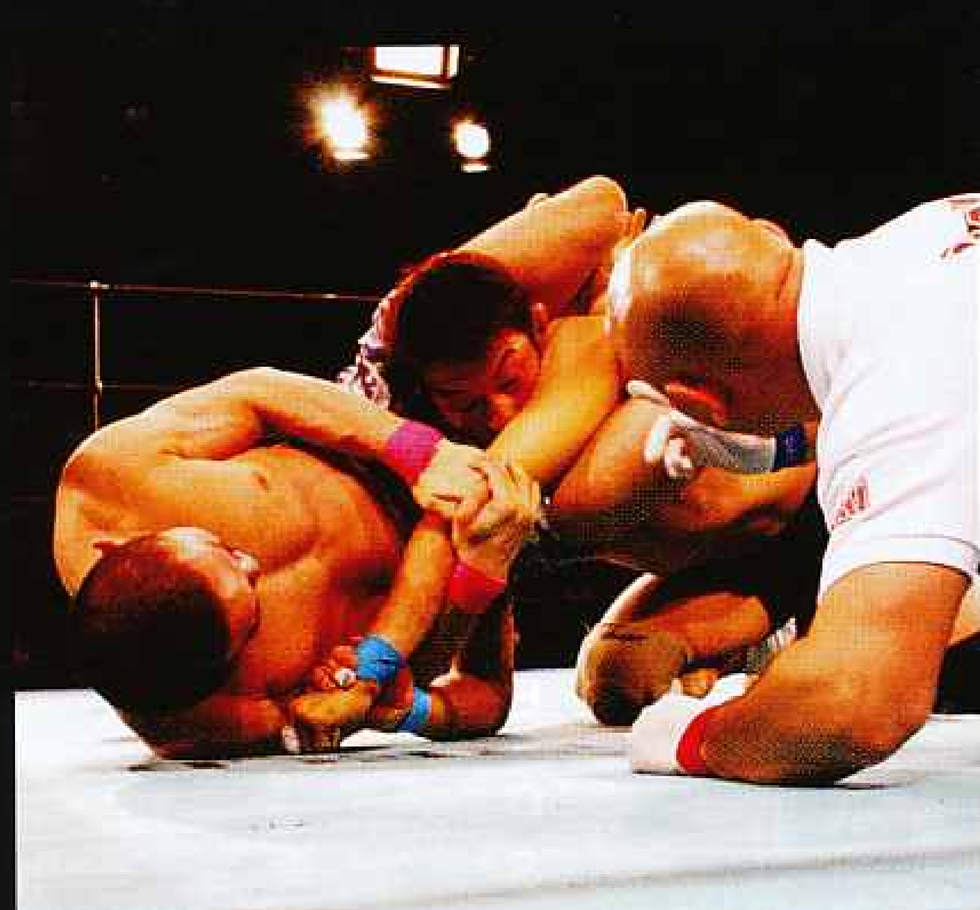
今成　デカいんすよね。

所　もう一息、軽い階級を作ってほしいんですけどね（笑）。

――83キロ以下と73キロ以下で秋に『武士道GP』を計画してるらしいんですけど、もうひとつ65キロ以下があっても面白いですよね。その階級にはペケーニョ（小ノゲイラ）っていう凄いチャンピオンもいるし、ジェンス・パルヴァー、レミーガ。日本人でも今成、所の他に前田吉朗、佐藤ルミナとかいて、メチャクチャいいメンバーだと思うんですけど。

今成　やれたらいいっすけどね。お呼びがかかん





昨年3月7日に行われたグラップリングトーナメント『GT－F』。このときのジャッジ問題を不服とした今成は『ZST』を離脱。大会は所が優勝を飾った。今成、所の2人が次に同じリングに上がることはあるのか？

ないと、なんとも言えないんで、まだ現実的な話に思えないですけどね。

──所選手は？

所　僕も『PRIDE武士道』は出てみたいですけど、〝ZST代表〟で出るなら、もうちょっと実力つけないとダメだと思うんで。あと『HERO'S』は前田（日明）さんが出てるんで、出てみたいっていうか、リングスのテーマに乗ってオープニングの入場式に出たいですね（笑）。

──これまで総合格闘技のビッグイベントと言えばミドル級以上でしたけど、「ようやくこういう時代が来た」とか思います？

今成　う～ん、なんか自分とは微妙にズレてるような気がするんですけどね。もの凄く強ければ体重差も関係ないんでしょうけど、まだそこまでじゃないんで。ちょっと修行が足りないですよね。

──でも、『武士道』や『HERO'S』のトーナメントは別にしても、注目される場で大物と闘えるチャンスも増えてくると思いますよ。いま興味がある選手っていますか？

今成　レオジーニョとか興味ありますけど、柔術の話なんで（笑）。

──総合ではいないですか？

今成　総合でやってみたいなっていうのは……特にこの人っていうのはないですけど、みんな強そうなんで。強い人だったら（やってみたい）。弱いのとはやりたくないんで。

──所選手は？

所　日本人だったら、このあいだ今成さんとやった前田吉朗選手、それからTAISHOさん。外人だったらペケーニョ（小ノゲイラ）が凄いと思いますけど、現実味がないというか、相手にならない自信があります（笑）。



──今成さんとペケーニョなんて面白いんじゃないですか？

今成　ああ、ペケーニョとはやってみたいですね。強そうっすよね。

所　今成さんとペケーニョだったらマジで見たいですね！

──「足関vsギロチン」の頂上対決ですからね。これは誌面を通じて佐伯繁PRIDE広報にアピールしたほうがいいですよ！

今成　なんか『PRIDE』とかだったら、言ったら組んでくれそうな感じしますよね（笑）。

──もう早速、佐伯さんに修斗の坂本さんのところに行ってもらいましょう！　所選手もいい機会なんで、誌面でアピールしたほうがいいですよ。まだ風呂なしアパートに住んでるんですか？

所　まだ風呂なしです（笑）。

──『PRIDE』や『HERO'S』にも出るようになったら、生活も変わってくるんじゃないですか？

所　ホントですか？　いやぁ、それは頑張りたいですね。……でも、『PRIDE武士道』出たことあるのに、いま電話が止まってる人もいるみたいなんで（笑）。

今成　なんかいるみたいね（笑）。

所　すぐ近くに……（笑）。

今成　『武士道』も3回ぐらい出ないと生活変わらないかもね（笑）。

──じゃあ、電話が止まってる選手は、とりあえず4月の『DEEP HERO・1』5月の『武士道』は出たほうがいいですね（笑）。

今成　でも、やるならしっかり実力つけてやりたいですね。

──ただ、『PRIDE武士道』とか『HERO'S』みたいな大きな舞台が出てきたというのは、中軽量級の選手にとっては、励みにはなるんじゃないですか？

所　そうですね。僕はとりあえず、生活を変えたいんで。まずは世間の27歳と変わらない生活をしたい（笑）。『ZST』に出ながら大きな大会に出れたら最高ですね。そのためにも、もっと練習頑張らないと。



所英男 × 今成正和

――やっぱりプロの格闘家は同年代の人たちが憧れるくらいにならないといけないですよね。

所　そうですね。同い年で須藤元気選手みたいな凄い人もいるんで。いまは全然、別世界の人ですけど、少しでも近づけるように。あと、今成さんの生活が変わるところが見たいですね（笑）。

今成　あ、そう？　電話代が払えるところ？

所　それは僕でも払ってます（笑）。やっぱり今成さんは身近なヒーローというか、凄い人なんで。いまは練習でコテンパンにやられてるんですけど、いつかは今成さんを超えられるように、それはいつも考えてますね。

――今成さんと闘ってみたい気持ちとかあるんですか？



4・7「リトアニアBUSHIDO」大会に出場した所は、昨年同じリトアニアで下した“小さなミーシャ”ペトライティスを判定で返り討ち。休む間もなく次は5・3『ZST・7』に出場する。

所　試合で直接超えるんじゃなくて、間接的にというか。

今成　『GT－F』優勝してるんだから、間接的に勝ってんじゃん（笑）。

所　いや、間接的にっていうか……内容込みで。やっぱり今成さんの試合ってなんにもしてなくても凄いっていうか……。

――なんにもしてないそうですよ、今成さん。

今成　まあね。所英男にはそう見えるんだろうね（笑）。

所　いや違……だって凄いじゃないですか。そこに憧れますね。

今成　矢野（卓見）さんには憧れないの？

所　い、いや……イリホリに憧れます（笑）。

――そういえば、矢野さんとは最近おつきあいないんですか？

今成　しばらく会ってないですね。アブダビ予選の会場でちょっと会ったくらいで。

所　僕もあんまり会ってないですね。会えば話す感じで。

――では、いまは交流はあまりないわけですか。

今成　そうですね。

――小谷選手とは？

所　小谷君とも会ったらしゃべりますけど……。

――嫌いなんですか？（笑）。

所　き、嫌いじゃないです！　向こうが僕のこと嫌ってるんじゃないかとは思いますけど（笑）。

――あ、嫌われてるほう（笑）。

所　しゃべりかけても、「はぁ」ってつれない返事なんですよ（笑）。

――じゃあ、元ZST4兄弟で練習してるのはこの2人だけなんですね。まぁ、他の兄弟とは違って、リトアニアのホテルで〝兄弟〟になった絆は違うと（笑）。

今成　質の悪いのつかまされたモン同士ね（笑）。

――では、次回はまったく生活が変わった二人と対談やりましょう！

所　なれますかね？

今成　なってよ。それで俺の電話代払ってよ。

所　まずはそこからですね（笑）。

【05年4月1日／高田馬場のステーキ屋にて収録】

レミーガ、ダリウス揃って快勝！

4・7 リトアニアBUSHIDO『CHAOSAS』速報！

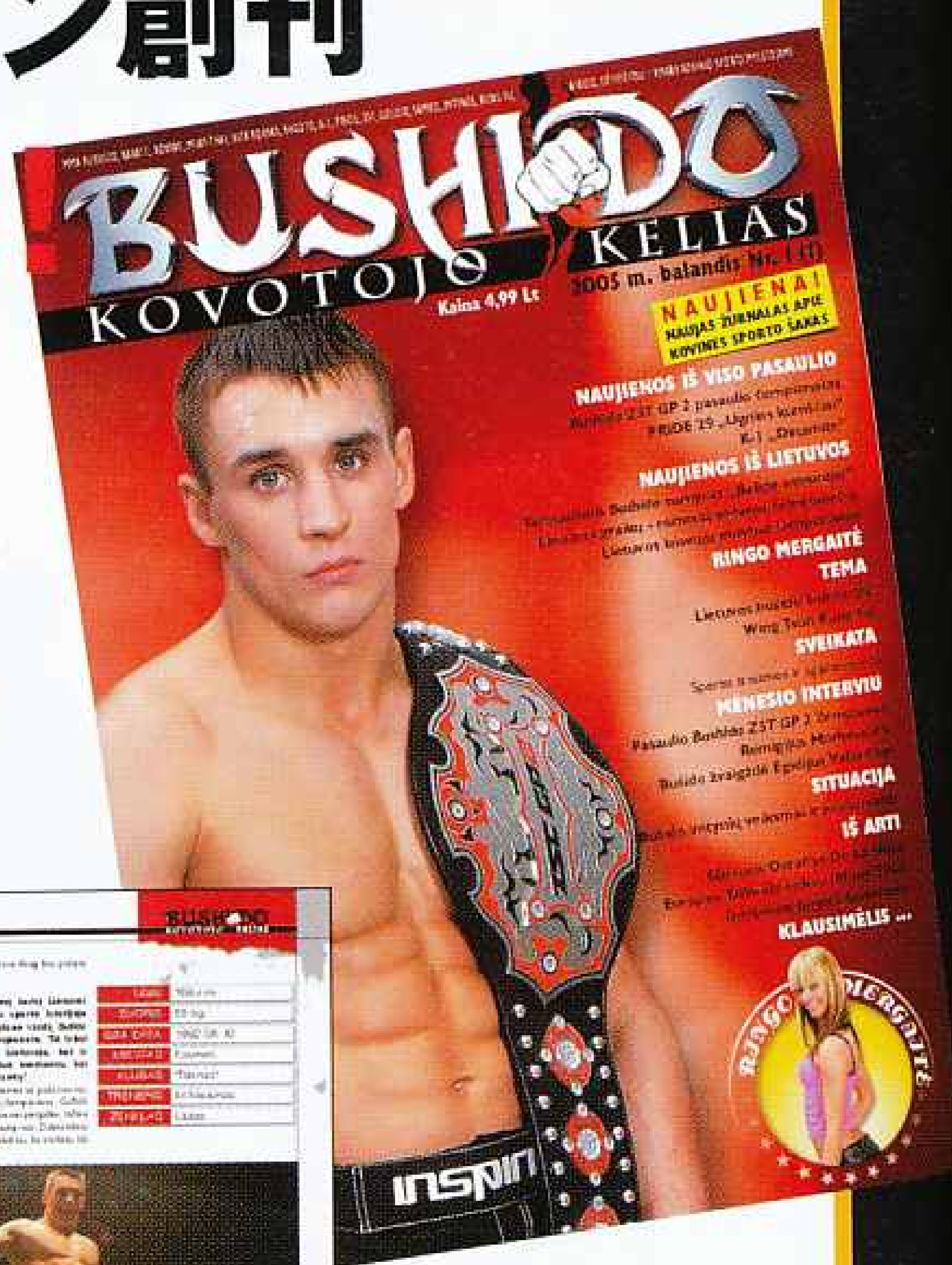

5・4K-1 MAX出場が決定した“凶拳”ダリウス・スクリアウディスは、その強烈すぎる打撃でエストニアのアレクサンドル・ガッシアをＫＯ！　小比類巻戦も期待！

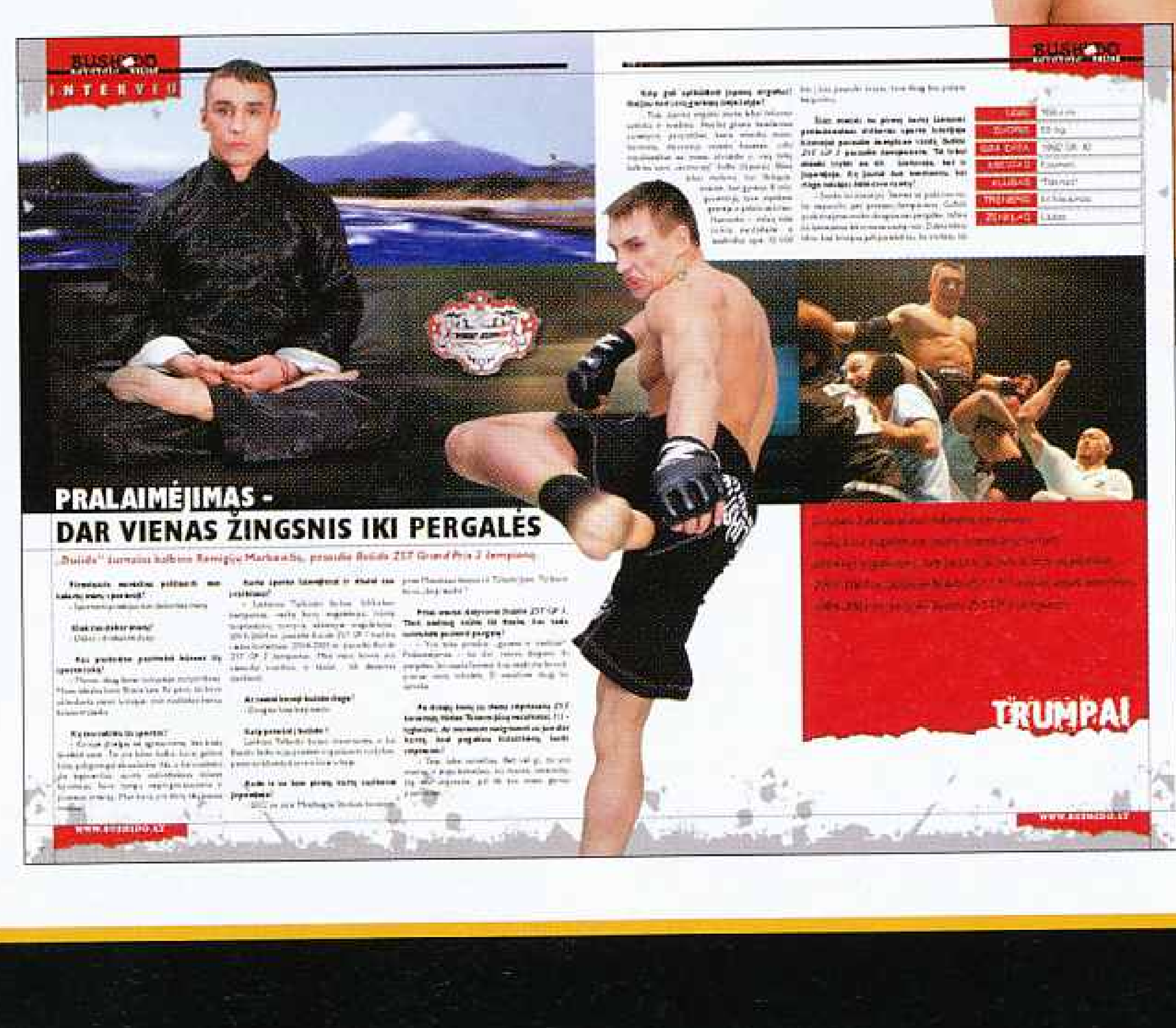

メインに登場したレミーガはオランダのダニー・ベルゲンを腕十字葬！打撃だけでなく寝技の上達ぶりも目を見張り、まさに“小さなミルコ”と呼ぶに相応しい充実ぶりだ。

リトアニアBUSHIDOがオフィシャルマガジン創刊

『紙プロ』と提携！

バルト三国に総合格闘技を根付かせ、欧州各国にもその勢力を延ばす『リトアニアBUSHIDO』が紙媒体にも進出！　WWEばりに隔月発行のオフィシャルマガジンを創刊した。本誌はこのリトアニア初の格闘技専門誌となる『BUSHIDOマガジン』と、このたび業務提携を締結。今後はダリウスのK-1 MAX参戦でますます注目度が増す中・軽量級の宝庫リトアニア情報をたっぷりお届けして行きます！





表紙＆特集は、もちろんリトアニアMMA界の代名詞“レミーガ”ことレミギウス・モリカビチュス。この『BUSHIDOマガジン』を本誌読者3名様にプレゼント。応募方法はP143参照――ッ！

哀歌（エレジー）



PROFILE

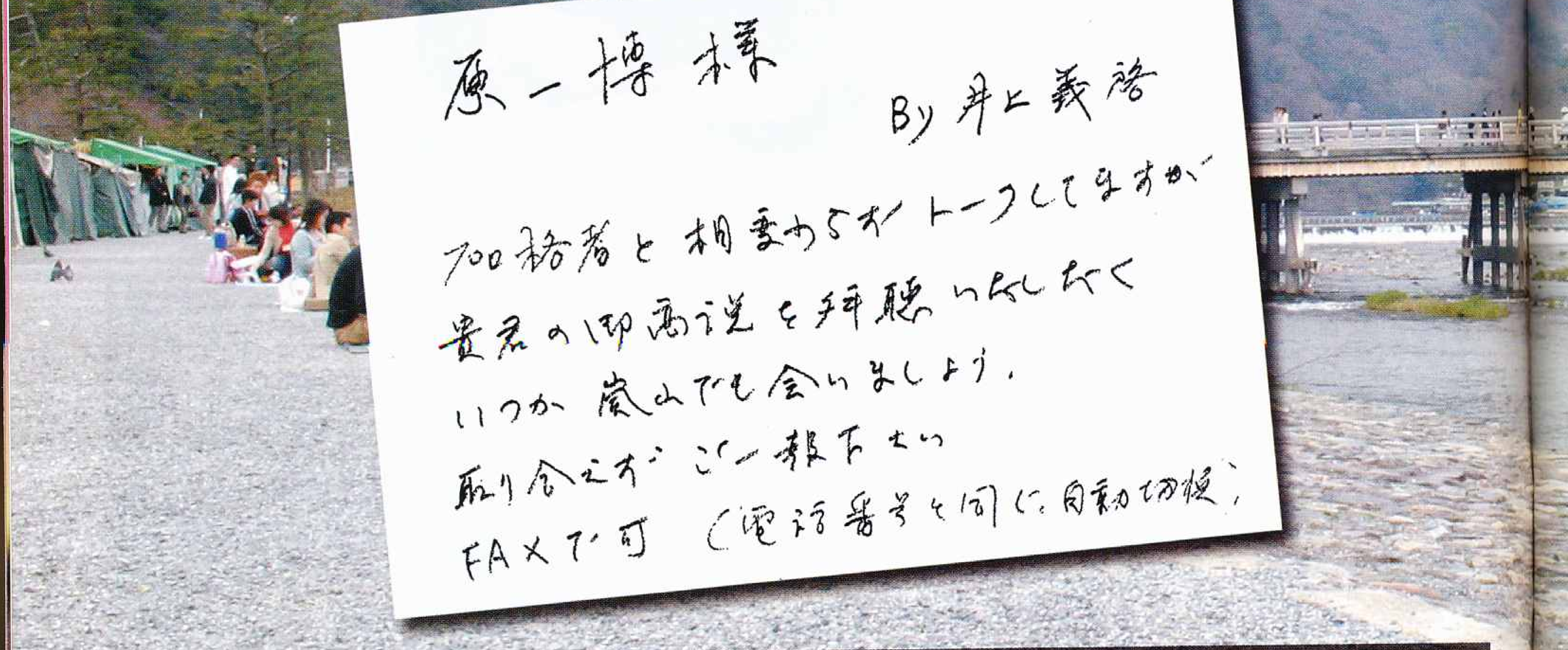
井上義啓。元・週刊ファイト編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者は数知れない。バード、殺し、母艦格闘技など、破壊力抜群のI用語も次々生み出している。原タコヤキ君とは初期『サムライ』で番組を持っていた仲。

嵐山

―あるいはプロ格という名の公園―

まいど〜。初代・『紙プロ』井上番、原タコヤキ君やで〜！　ある日、突然届いた謎のファックス。差出人はなんと、“活字プロレスの始祖”井上義啓さん!!　長いお付き合いの中で、井上さんのほうから連絡があるなんてまったくもって初めてのこと。ボクに会いたい？　話を聞きたい？　いったい何が起ころうとしているのだ!?　これは活字プロレスの王位継承式か、はたまたプロレス村を離れた者への制裁の儀式か？　とにもかくにも現在の井上番、ガンツを伴って“プロレス者の聖地”嵐山へ行ってきましたで〜！

聞き手／原タコヤキ君（初代『紙プロ』井上番）
撮影＆構成／堀江ガンツ（2代目『紙プロ』井上番）
design by さおとめの事務所



――さて井上さん。今回は井上さんから大変光栄なFAXをいただきまして（笑）、『紙プロ』の新旧井上番が〝喫茶店トーク〟の聖地である嵐山でお話を伺わせていただこうということなんですけど。あのFAXは活字プロレスをボクに奥義伝承してもらえるということでよろしいんでしょうか？

井上　ま、そういうことだな（アッサリ）。

――ホンマにそういうことなんですか！（笑）。

井上　それもあるし。俺はあんまり人の意見を聞いてそのまま活字にしたりはしないけれど、君らとかは、やっぱり鋭い論客だからね！

――鋭い論客！　井上さんからそんなん言っていただけるなんて、メチャクチャ光栄ですよ。

井上　俺の方もたまには君らの意見を聞かせてもらおうと思ったのね。

――いやいや、僕らこそ聞かせていただかないと。で、ですね。ボクはこの間の3・19K―1大会に行って来たんですけど、まず井上さん的にはあの韓国大会はどういった感想をお持ちになりましたか？

井上　やっぱりね、ハッキリ言うたら、「K―1の韓国大会ではあるんだけれど、猪木のアジアン・リーグの布石である！」そういった感じだったな。

――ほっほ〜。なるほどなるほど……（小声で）ガンツ、猪木さんのアジアンリーグってなんやねん。

ガンツ　（小声で）〝井上小説〟で展開されている、猪木さんの世界戦略の一環……のはずです。

――（小声で）了解。

井上　あのメンバーを見るとやね、K―1の韓国大会というより、猪木がアジアンリーグで狙ってる手駒が出てる

3・19K―1ソウル大会は猪木のアジアンリーグプレ旗揚げ戦ですよ！

わけですよ。特にホンマンなんかそうだけどね。それとかK―1 MAXで優勝したブアカーオなんかも猪木の手駒だからね。だからあの大会をじーっと見てると、やっぱりこれは谷川のダンナが猪木の意向を受けたなということを強く感じたな。

――K―1韓国大会に猪木さんの意向が働いてましたか！

井上 そりゃそうですよ！ そうじゃなきゃ、猪木が韓国まで行きませんよ、アンタ！ だから3・19K―1韓国大会は猪木のアジアンリーグのプレ旗揚げだなと、ピーンと来たわけ。だからソウルでも上海でも香港でもそうだけど、海外にプロレスを持って行ったんじゃ、もうダメなんだよな！ だからハッキリ言うたら、新日とかノアが韓国でやったところで、あれだけの客は入らない！

――入らないでしょうね。ホンマK―1は1万人規模が満員でしたからね。チケット代も日本と変わらないのに、ビックリしましたよ。

井上 これがプロレスだったら、たとえ韓国の選手をいっぱい出したところで無理ですよ。やっぱり、今回の韓国大会というのはチェ・ホンマンがどうのこうのということもあるけれど、一番はK―1の魅力ですよ。それがあそこに浸透してる。

――実際、K―1は競技として人気があるみたいですからね。

井上 だから言うたら悪いけれども、真剣勝負じゃないとダメだと言うてるんだよ！ やっぱりね、ハッスルにしたってWWEにしたって、筋書きのあるプロレスというのは、それはそれでいいわけなんですよ。いいわけなんだけれども、やっぱり筋書きがあるものというのは、どうしてもある程度のところでガクッと来るのね。だからハッスルにしても、もう少し知恵を働かせて、とことん笑いを取るとか。試合だけはトコトン真剣勝負だとかやるべきなんですよ。

――ハッスルまで真剣勝負ですか！

井上 だからこの前の川田と小川にしても一応、川田はそういったことを見せようとしたんだよな。ヘッドロックでね。

――ああ、序盤はヘッドロックだけで、試合を構成していたらしいですね。

井上 ガス灯時代はああいったことをやっとったんだよな。もう試合なんかヘッドロックだけだったんだから！ これは八百長でもなんでもないんだよな！ やっぱり20分30分締め上げられるとやね、神経が切れるからね。



代名詞であるホットコーヒーを飲みながらの、“リアル”喫茶店トークとなった今回のインタビュー。場所はもちろん“喫茶店トークの聖地”『喫茶ランザン』だ。

――ヘッドロックで神経が切れますか！

井上 血管が切れるんだよ。そういった奴も一人や二人じゃなかったって言うからな。田鶴浜さんに言わせるとね。

――田鶴浜さん……思いっきりファンタジー活字やと思うんですけど（笑）。

井上 （聞かずに）やっぱりね、エド・ストラングラー・ルイスの絞め殺しは凄いんだよな！ それと同じことをやね、川田がスタミナがあったら20分30分やってみたと思うんだけどね、たとえやってみたとしても、見てる連中に通じない。「これは川田がプロレスルールの中で、ホントの勝負を挑んでるんだ」ということが観客に伝わればいいんだけれどもやね、いまは「ヘッドロックしかやらないで手抜きだ」と言われかねないんだよな！

――ガス灯時代とはファン層がかなり違うでしょうからね（笑）。

井上 だからああ言った試合の前には、極端に言うたらターザン山本あたりが出てきて、「この試合にはこういう意味があったんだ」と説明せんとね、全然伝わってないんだよな！

――ターザンが説明したら余計真意が伝わらない気がしますけどね（笑）。

井上 だからそういったことをね、君と前にWOWOWの番組でもよく喋っただろう？

――井上さん、WOWOWじゃなくて『サムライ』です（笑）。なつかしいですね～、以前一緒に番組やらせていただいて。

井上 あのときも、昔の試合のビデオを見た後に、「今だから話せる」っていう話をしたはずですよ。それをプロレス者はわざわざ『サムライ』に申し込んで聞いとった。でも、俺がやめた途端に「つまらんから解約した」って、プロレス者はみんなそう言ってるもんな。

――そりゃみんな言いますよ。聞いてるか？『サムライ』！ 井上さんと俺を戻せっちゅう話ですよね（笑）。

井上 我々の仕事というのはそれなんですよ。だから通り一遍の韓国大会の試合リポートなんて書いとったらダメ！ その裏にはなにがあったのか。たとえその時は書けなくても、何年か後にこうやって書いたりトークしたりできることだってあるんだから。

――取材に行ったら何かを拾ってこいっちゅう話ですよね。

井上 だから俺が〝時間と言う名の魔術師〟と言うとるんだよ。5年経ち10年経ったら書けることもあるんだから。だから暴露本なんかも、その当時書けないことが暴露本になるんだから。

――井上さんの暴露本は読みたいですけどね（笑）。

井上 そういう話もあったんだよ。

――あったんですか！

井上 編集長だった当時、「700万円で書いてくれ」っていう話があったんだよ。でも、俺は「暴露本は書かない。ただ影に隠れたいい話だったらいくらでも書く」と言うたんだよ。例えば馬場と猪木が若手時代に金がなくてね、二人でラーメンを食いにいったわけよ。一杯ラーメンを食った後、若い二人だからもう一杯食いたい。でも、金がないわけよ。それで二人の金を足したら、もう一杯注文できる。それを二人で分けて食ったんだよな。

――それって早すぎた「一杯のかけそば」じゃないですか！（笑）。

井上 そういったエピソードはいっぱいあるんだよな。だからそういうことならいくらでも書くけれども、暴露本みたいなものは書かない。俺は「格闘技界のためにここまでは言わなくちゃいけない」ということは言うけれども、スキャンダルとかそういったことは言いませんよ。

――僕らとのオフレコ話でも、そんなこと言いはりませんもんね。

井上 「真剣勝負でやれ！」とは言うけれど、「あの試合はインチキだ」とは言わない！

――そこが「提言」と「暴露」の違いなわけですね。で、ですね。また韓国の話に戻ってしまうんですが、韓国のファンというのが非常に血の気が多いというか熱いんですよ。それで〝熱い人〟と言えば井上さんなんですけど、井上さんも実は子供の頃、向こうに暮らしていたことがあるらしいですね？

俺が言うてきたことをやろうとしているのが上井さんと前田なんだよ！



「あそこの川のほとりで、川面を眺めながら、じーっとプロレスのことを考えるんだよ！」と、タコヤキ君に教えてあげる井上さん。わざわざ嵐山まで来てプロレスのことを考えるんだからやっぱり凄い！

井上　暮らしてたというか、向こうの生まれだからね。

——向こうの生まれ！　北ですか南ですか？

井上　いまで言う北だな。

——北朝鮮生まれなんですか！

井上　いまの北だけども、まだ戦時中だから南だったわけ。延安というところで俺は生まれたんだけど、親父が憲兵だったからね。

——ちょ、ちょっと井上ファンにしたら衝撃の事実ですよ！　少しデリケートな話になりますけど、井上さんは国籍的には……。

井上　そりゃアンタ純然たる日本人ですよォ！

——純然たる日本人ですか（笑）。

井上　ウチの親父が憲兵で、朝鮮の治安をアレせいということで派遣されたわけですよ。だから延安の長、知事みたいなもんですよ。そこで俺は生まれたわけだな。だから当然、日本人学校に通ったし。ただ日本人学校と言っても50人ぐらいしかおらんのだけどね。だから「ここじゃ教育的によくない」ということで、小学校の2年生になったときに、日本に帰ったんだよ。

——井上さんは10歳ぐらいまで向こうにいてはったら、朝鮮語とかカタコトでしゃべれたりするんですか？

井上　しゃべれない。むしろ朝鮮人に「日本語使え！」って言っとった時代だから。

——ああ、そうかそうか。

井上　だからハッキリ言うたら、その当時から日本人に対する敵意というのはもの凄くあった。それが根底にある。だからこの前の3・19なんて、いまだにそれを引っ張ってるのね。戦争も知らないくせに！

——ワハハハハ！　でも、確かにすごかったですよ。日本人に対するブーイングは。でも、井上さんのお父さんが憲兵だったとは。相当厳格なお父さんだったんじゃないですか？

井上　も〜う、恐怖ですよ！　日本に帰るまで俺は恐くて親父とまともに口がきけなかったからな。まぁ、でも当時の人間はみんなそうよ。ハッキリ言うたら、前田みたいな性格の人間ばっかりだったから。

——「世の中に前田日明が足りない」どころか、前田日明だらけの世の中だったわけですか（笑）。それもまた嫌やな〜。

井上　いまの人間がだらしがなさすぎるんだよ。怖さがない。だから〝殺し〟がないんだよ！　最近のプロレスラーも格闘家も。

——その前田日明がK—1や上井さんと組んで、3年ぶりに表舞台に出てきましたけど、いまの前田日明を見て井上さん的にはいかがですか？

井上　やっぱり俺なんかにしても、前田を悪く言うつもりはない。やっぱりいまは前田に頼るしかないもんな！

——井上さんでもそこに期待するしかないわけですか。

井上　前田、上井の2人がひしゃげたらもうプロレスは終わり。あの2人が必死になって頑張って、ホントの意味でのプロレスを根付かせてくれて、やっとプロレスの延命工作ということはできるんですよ。ただ、あくまで〝延命〟だからいずれは死ぬよ。

——ハハハハ、死にますか（笑）。

井上　プロレスはいまのままじゃどうにもならない。やっぱり上井さんがやろうとしているホントの意味でのプロレスルールでの真剣勝負。これは何遍も言うけど、どつき合いの喧嘩や殺し合いじゃない。真剣勝負だから肩がついても負け。国際プロレスのころのビル・ロビンソンがマイティや寺西を動けなくした、凄いなと思ったな。そういったことをやったら、プロレスというのは持ち直しますよ。

——上井さんや前田日明が標榜してるプロレスは、井上さんが考えていることと近いわけですか？

井上　まったく一緒！（キッパリ）。

——ダハハハハ！　全く一緒ですか。ここまで言い切られると気持ちがいいなぁ（笑）。

井上　極端な話、俺がこれまで言うてきたことをやろうとしてるのが、あの2人なんだよ！

——井上プロレスの体現者。もしかしたら読んでたかもしれないですね（笑）。

井上　だから俺は上井さんが新日本プロレスにいたころから、「新日本プロレスを立ち直らせるのはこの男だ」と思っとったのに、ああいうこと（新日退社）になったから、「これでもう終わりだ」と。ただ、新たにああいったものを立ち上げたからね。

——その前田ですけれど、復帰早々、ああやって相変わらず猪木さんの批判をしてるわけじゃないですか。タッキーがどうのこうのとか。あれが前田さんの魅力でもあるんですけど……

井上　（顔をしかめて）あかんあかん！

——あら（笑）。その辺はどう思いますか？

井上　あれで前田は株を下げた（キッパリ）。プロ格者はみん〜な言うてる。前田ってあれいくつだ!?

——たしか46歳。ええ大人ですよね、分別がついているはずの（笑）。

井上　それが昨日のことだったらいいけどね、あんな大昔の、しかも猪木とタッキーがやったというのは誰が見たってね、あれはエキジビションでホントの試合じゃないんだから。あれを取り上げること自体おかしい！　あれを言わなければ前田は株を上げたのに、あれを言ったばっかしにドーンとさがった。もう半値以下だ！

——半値以下（笑）。確かに〝猪木さんに対しても噛みつける〟ってことに関しては魅力的なんですけど、言ってる内容がタッキーの試合のことじゃ、株下げてますよね。

井上　だから第1次UWFのときにどうのこうのというのを俺も読んだけどね、あれも猪木は直接言ってないのね。みんな新間氏が言ったわけよ。

——「猪木が来ると言ってる」とか。



嵐山を歩いて散策する間も、ずーっとプロレスの話が止まらない井上さん。結局、この日は延々5時間しゃべりっぱなし！　70歳とは思えないトークのスタミナに驚愕！

前田や上井さんに本当にやってもらいたいのはドメスティックブランドですよ！

井上　俺らが新間氏と付き合いあったときだってそうなんだから。「編集長、私が言ったことは〝猪木の言葉〟として書いてくれていいよ」と、何回も言ってたからな。同じことなんだよ。だから前田は「猪木さんは『来る』と言ったのに裏切った」とか言うてるけど、猪木は言うてないんですよ。そりゃそうですよ、前田は猪木と話してないんだから！（笑）。

——それなのに、いまだにUWFのことで怒ってるからな（笑）。

井上　まだUWFのことを言うならわかるのよ。それがタッキーじゃあ、ダメ！　話にならんわ！

——古い話が得意な井上さんでもダメ（笑）。では、いまの考え方がまったく同じの前田に対して提言するとしたら、どんなことですか？

井上　もうとにかくね、もう前田だけにしかできない、個人的なオリジナルを作ってほしい！　それはどういうことかと言うと、ドメスティックブランドですよ！

——ドメスティックブランド！　前田の場合、ドメスティックバイオレンスの方に限りなく近い感じがしないでもないですけど（笑）。

井上　ドメスティックブランドというのはね、洋服でもなんでもいいんだけれども、ホントに手作りで一つしかないもの！　例えばキミが裏原宿に小さな事務所を構えて、そこでデザインをして、それを縫い手が縫う。だから一つしかない。こういう商品がいくらでもあるんだよ！

——ああ、ありますねぇ。

井上　そういうドメスティックブランドというものが、密かなブームになりつつある。今はみんなが着てるようなものじゃダメなんだよ。自分だけのものじゃないと。だから前田もKOKルールだとか、通りいっぺんのことやってたらダメ。その選手ごとに合った「これしかない」というルールを持ってくると。だからモンターニャ・シウバにしたって、「K—1の試合だからK—1ルールです」とやっとったんでは、いつまで経ってもあの男の真価というのは発揮されない！

——モンターニャの真価を発揮できるルールにせなあかんと（笑）。

井上　それは何かと言えば、キミらも想像ついてるだろうけど、あの男にもっとも合ってるのはケンカマッチですよ。もうノールールもノールール、そうすればあの男は凄い試合をやるんだよ！　それなのに、この前ソウルでもK—1ルールでやっただろう？

——やりましたね。

井上　それだったらセーム・シュルトの方が上ですよ！　ただ、あれをケンカマッチでやっていたらモンターニャが勝ってますよ。いざケンカとなったら、場数を踏んでるヤツが勝つんだから。だから長州、前田、山本小鉄、木戸、ああいった連中は試合には負けてもホントのケンカだったら負けない。そして新日本プロレスの中でホントにケンカが強いというのは、入団したばっかりのころの健介！

——健介がケンカ最強！　それは驚愕の〝事実〟ですねぇ（笑）。

井上　それとホントのケンカをやらして強いのは藤原と山本小鉄。裏技を使わせたら、この辺の連中には勝てないですよ。そういった練習してるんだもん。見せかけだけの練習はしてない！　だから猪木 vs 大木金太郎なんかだって、試合と練習は全然違うんだから。だから力道山が「生ジュースやれ！」と言うんだよな。

——生ジュース！　これは流血のことではなく、井上用語で言うガチンコのことですよね。

井上　だいたい昔は力道山が若い連中に生ジュースを命令するわけですよ。そうなると、それこそケンカですよ。殴って蹴って目をえぐり出してね。

——目をえぐり出す！

井上　猪木もそれはさすがにマスコミに見せないんだけれども、やっとったんだよな。でも、見せられませんよ。鈴木庄一さんだって見てない。それで猪木に聞いたら、やっぱり猪木も生ジュースのことは喋りたくないんだな。しかしね、一言だけ言った。「大木さんには2、3回負けたけど、他の連中には全部勝ってる」と。

——ほぉ～。

井上　だからね、ハッキリ言って猪木といまのレスラーっていうのは、こ～んなに違うんだよ！　ましてや猪木は〝殺し〟を知ってるもんな。殺されてるのを見てるんだから。

——井上さんがよく言う、ブラジルの農園の話ですよね。で、井上さん。上井さんがやる『WRESTLE-1』には猪木さんはどう絡んだらいいんですか？

井上　絡んだらイカン！

——あ、絡んだらダメ。でも、上井さんは一生懸命上げようとしてますけど。

井上　それは挨拶だけならいいけどね、上げたらダメ。猪木は猪木の道がある。ボクにはボクの道がある。

——なんの話ですか（笑）。

井上　だいたいね、前田プロデュース、上井プロデュース、猪木プロデュースっていうのは全然別！　同じ新プ





（写真・上）嵐山で井上さんがなんとハッスルポーズを疲労！　M字ビターンはさすがに頼めませんでした。（写真・下）美空ひばりと井上さん。昭和やな～。

ロレス、新格闘技であってもイデオロギーが違うからね。それが組むとなると、お互いどっかで妥協するからな。絶対ダメ！

――ただ、最近の猪木さんのいろんなアイデアを見るとですね、昨年11月の大阪ドームや今年の1・4東京ドームもそうだと思うんですけど、猪木プロデュースとか猪木さんのアイデアがことごとく失敗してるような気がするんですけど……。

井上 それは中途半端にやってるからであってね。

――それは井上さんからすると、猪木さんじゃなくて、現場のせいですか？

井上 ある程度できあがったところに、猪木が口出しするのはダメですよ。自分が全部やって、新日本もなにも関係なしに選手を集めてきて、自分のやりたい試合をやる。それが猪木プロデュースであってね。去年の大阪ドームなんて、口を挟むことができる猪木がちょっと言っただけでね、あんなもの猪木プロデュースでもなんでもないんだよ！ だからこの間の『HERO'S』だって、"上井プロデュース"となっているけれど、ハッキリ言ってあれは谷川プロデュースですよ！（ドンッ）

――ぶっちゃけ、そうですよね（笑）。

井上 あんなものを前田プロデュースと言ったら前田は怒るし、上井さんにしても一応責任者をやっただけで、ハッキリ言うたら『ROMANEX』やないか！

――ズバリ言ってそうですね（笑）。

井上 だからあんなものは前田プロデュースでもなんでもないんだよ！ 本当の前田プロデュースはドメスティックブランドですよ！ そうじゃなかったら成功しないのよね。だから上井さんの4・23もそれが大きなネックになってる。ベテラン選手に「真剣勝負やってください」言うてもやってくれない。やるはずがない！

――やるはずないですよね。

井上 そうかと言って、相も変わらず暗黙の了解でベテラン選手に花持たせたら、上井プロデュースでも何でもなくなる！ そんなものに俺は期待などしてないし、そんなことならやめろと！ 俺が長年言うてきたのは、そんなもんやないやないか！ 上井さんにしかできない、ホントの意味での真剣勝負をやれ！

――それでこそ新しいイベントを旗揚げする意味があると。

井上 だからね、俺は花見が好きだから言うけどね、ありふれた花見じゃだめなのね。ところが群馬県に榛名湖というのがあるんだけど、これは『湖畔の宿』（昭和15年）という高峰三枝子の名曲があるんだよ。俺はこの歌が、あらゆる歌の中でナンバー1だと思ってるからね。

――おぉ～、歌謡史上ナンバー1！

井上 で、俺はこの『湖畔の宿』はどこの湖の湖畔だか長年わからなかったんだよ。ところが戦後、『湖畔の宿』を作詞した佐藤惣之助の手紙が出て来て「昭和14年に榛名湖に行った」ということが書いてあって、それで榛名湖だとわかった。それ以来、ず～と行きたいと思ってたんだよな。だから、俺が新大阪新聞社を辞めたとき、いの一番に行ったのが榛名湖ですよ。

――ほう、『ファイト』を勇退されて最初に行ったのが、"湖畔の宿"ですか！

井上 ただ、俺が新聞社辞めたのは2月でね、長年週刊紙をやってきた激務で体がボロボロだったから、桜が咲くころまで休んどったんだよ。それで3月4月はボーッとしとって、気を取り直したときに、「あ、あそこへ行こう」。それで5月の連休明けに行ったんだよ。

――5月ですか。ずいぶんのんびりしちゃいましたね。

井上 だから、たとえ行っても桜なんか咲いてないと思っとったんだよな。ところが「榛名湖温泉ゆうすげ元湯」という古い旅館に泊まってね、ふすまを開けたら榛名湖の向こうに榛名富士がどーんと見えて、そこに一本だけポツーンと桜が咲いとった。ホントに濃いピンクの遅咲きの桜が一本だけポーンとあったんだよ。……泣けたよな（と言って涙ぐむ）。

――はっは～。

井上 なんたる景色。本当にここに来てよかったと。これしかない！っと。この榛名湖の旅はホントに井上義啓の手作りの、若い頃からの俺の思いがすべてつまっていた旅なんだ。

――それ、井上さんの執念が咲かせたんちゃいますか？（笑）。

井上 だからこのゴールデンウィーク明けに見た、榛名湖の桜、これがホントの意味での俺のドメスティック・ブランドですよ！ そういったものを前田や上井さんにやってもらいたいんだよな。それをやってほしいというのが俺の希望ですよ！

――わかりました！ またちょくちょく、お話聞かせていただきます！

【4月2日／京都・嵐山『喫茶ランザン』にて収録】





原タコヤキ君の3・19 K-1ソウル大会突撃観戦記

今回、日ごろ仲良くしてもらっている角田さんが復帰を果たすということで、やってきましたK-1韓国大会。

会場のソウル・オリンピック第一体育館はちょうど代々木第一体育館くらいの大きさ。作りも客席数もそんな感じ。ボクが買ったのは日本円で15000円程度の席で、スタンドのちょうど真ん中あたり。日本並みなんだな、価格も。ソウルで色々買い物なんかもしたけど、日本よりは若干物価も安い。ということは、逆にK-1のチケットは、韓国の人からしたらけっこう高価に感じているんじゃないだろうか。

会場内に長い行列が。近づいてみると、レイ・セフォーがサイン会を開いているようで、これは日本でのK-1ではまずお目にかかれない光景。全日本プロレスみたいや。大会試合直後に谷川プロデューサーが客席に歩み寄って、やたらでかい男とガッチリ握手。言うまでもなく前田日明。前田の業界復帰以降、公の場で谷川さんとのツーショットは初じゃないのかな？ 貴重。

第一試合は富平辰文vsカン・ミンキ。富平に早速ブーイング。やはり竹島問題真っ只中であるがゆえ、日本人に対しては殊の外厳しい観客たち。でもなあ、こんなこと、逆に日本であったとしても、日本人はブーイングなんかせえへんで、韓国勢に対して。日本人は偉いわ、ホンマに。試合は富平のKO勝ち。

お目当ての曙vs角田信朗は、ガオグライvs張慶軍、堀啓vsイ・ミョンジュを挟んで第四試合。よっ！ 待ってました！ そもそも今回の旅は、日頃お世話になっている角田さんの復帰が観たくて実現したのだ。

ちっちゃい『紙プロ』育ちのボクは、マスコミと選手が仲がいいというのはとっても格好悪いことだと教え込まれた（と思う）。だから、ボクは選手と友達づきあいするようなことはほとんどなかったのだけど、なぜだか角田さんとはずっとお付き合いさせてもらってて、今回の復帰の件も、もう随分前に聞いていた。しかも、どうしてもここ、韓国で復帰したかったのだそうだ。それは韓国でテレビのロケで来た時、街はおろか田舎道を歩いていても声をかけられることしきりだったようで、それが復帰へのモチベーションとなったのだ。復帰直前まで過酷なトレーニングを続けていたのは、ボクなりによく知っている。例の加圧式トレーニングで肉体を限界まで追い詰めた角田さん。ベタな言い方だけど、やはり格闘家というものの凄味とストイックさを見せ付けられた思いだった。

そんな角田さんが曙との復帰戦を選んだのは、ひとえに谷川さんやフジテレビからの強い要請に尽きる。ゴールデンタイムで勝負するには、やはり曙vs角田のような〝飛び道具〟は必要。不利とわかっていても、どうしても〝期待の倍返し〟をしてしまう角田さん。試合はご存知の通りだが、結果、あの激戦区の中で16・4％強の視聴率をマークしたのは、角田さんの決断によるところも大きいはず。というわけで、ボクからは「お疲れ様でした！」の言葉を送りたい。

ちなみに帰国後、本当にたくさんの人から、「あれは曙に勝ち星プレゼントしたんやろ？」と言われたのだが、あんなに自分のことが好きで、自分のことばっかり考えてる男がそんなことするわけおまへん（笑）。

続いて第五試合は崔洪万vs若翔洋。漢字で書くより、チェ・ホンマンと書くほうがピンと来る。もうね、いろいろ書きましたけど、現地でのチェの人気、大変なもんやで！「きっと力道山の頃のプロレスってこんなんやったんやろなあ」なんて思いながら、熱狂の渦に巻き込まれちゃいましたよ。でも、アウェーながら、こんだけ盛り上がると気持ちいいわな。前号でも書いたけど、〝リアルーWGP〟とでも言うべきK-1の世界戦略において、出てきた地元の英雄が〝ジャイアント馬場激似〟なんだから、猪木さんもコケたんちゃうかな？ 試合自体は、若翔洋、しょっぱいやね。スタミナ全然ないし。チェのKO勝ち。

第六試合。スーパーファイト。セーム・シュルトvsモンターニャ・シウバ。そういえば出発直前、〝喫茶店トーカー〟井上義啓さんから連絡があったんだけど、久々に電話して、2分でモンターニャの名前が出たからね。「K-1ルールではモンターニャの良さは出ませんよ！」って電話で熱くなってたからなあ、井上さん。試合はまさに井上予言通り、モンターニャの負け。テレビの前で井上さんが、「だから言わんこっちゃない！」と激高しているさまが目に浮かぶ。しかし、いつもながら井上さんが入れ込む選手ってよくわからんよなあ。その前はTOA。ずっと前はトニー・ホームとかね。考えてみれば、井上さんはごつい外人が好きだな。〝恐竜パワー〟とか言って。どうでもいいですけど。

そしてガオグライが素晴らしかったガオグライvs堀を挟んで第八試合は、曙vs崔洪万。実現しましたよ、このカード。だいたいね、前日のテレビではこの対戦で煽っていたし、ポスターも、まるで二人のタイトルマッチのごとく扱われていたし。無事、この顔合わせになったからよかったものの、そうじゃなかったらどうしてたのよ？ うがった見方もされたんじゃないかなあ、相当。試合は曙のTKO負け。ちなみに帰国後、角田さんとメール交換したんですね。で、谷川プロデューサー曰く、「横綱が言ってたんだけど、『角田さん、あんな怖い顔して蹴ることないじゃないですか！ ごっちゃんです！』って言ってましたよ～」だって。角田さんも救われたやろね。もう場内がどれほど盛り上がったかは言うまでもないっしょ。ホンマ、炎上ですよ、ソウルは。

字数も限られてるので、アーツvsカーター、ボンヤスキーvsマーサーを飛ばして第十一試合。やっとメインだよ！ アジアGPトーナメント決勝戦。崔洪万vsガオグライ・ゲーンノラシン。当然、テクニックではガオグライが遥かに上なんだけど、まあ体格が……ねえ。「身体が大きいってのも、力が強いってのもシューティングなんだ」って長州力のセリフを思い出すな。プリミティブな強さというか、圧倒的な先天的才能の前でひれ伏したい気持ちって、実は誰しもあるんじゃないのかな。だって、ありがたいもん、チェ。珍しいもん目の当たりにしたっちゅうか。もうくどいと思いますが、このチェが優勝した時の会場の盛り上がりといったらさあ。もう例え思いつかんよ。前田日明の言うレッドゾーンまで、あっさり振り切っちゃうんだなあ。パッと見は、ボクらと何も変わらんのにさ。

ちなみにアーツの試合と、ボンヤスキーの試合後にはそれぞれ、前田と猪木さんがリングに上がりましたが、熱い観客もさすがにノーリアクションでした。残念。

さて、今回のK-1韓国。総括しましょうか。帰国後、けっこう「つまんなかったね」と言われたんですね。でも、あの会場の雰囲気は、なかなか体感できるもんじゃないよ。そういう意味ではとても楽しかったというか、貴重な体験ができたというかね。ボクはこれまで、メキシコでルチャ、ニューヨークでレッスルマニア、北朝鮮で「平和の祭典」なんぞを観てきたけど、それらに並ぶくらい面白かったです。K-1、実はまた一つ上のステージに上がっていくんじゃないだろうか。異国の地で、普段着のK-1なんて、実はこれ、もっと誉められていいんじゃないのかな？ そんな思いを強くしたタコヤキ君でした。長々と付き合ってくれてカムサハムニダ～。



アニョハセヨ～！　というわけで、行ってきましたがな、K-1韓国。なんでいまさら改めてレポートを書くかというとですね、前号締め切り直前にチョロから電話があったわけですよ。「え～、今回、色々ありまして、6ページの予定が1ページになりました」だって。「それが『紙プロ』のやり方か！」と怒鳴りつつ、承諾しましたがな。はい。というわけで、もったいないので一ヶ月遅れのお蔵出しです。ほな行きまっせ～！



ハッスル！ハッスル!!

カワイイ子だって

チョロの女子バーネットSPECIAL

こんな子たちも総合格闘技をやってるって知ってます？



あ、知らない？じゃあ、いろいろと

教えてあげましょう！









勝負師

羽柴まゆみ

キミは女子格闘家の羽柴まゆみを知ってるか？　ボクは知っている！　つい先日は日本テレビ系で放送された『レッスル・コロシアム』で、現在はグラビアアイドルとして活躍する蒼井そらとレスリングで対決！　ヒヤヒヤさせながらもなんとか勝利した、あの女の子だ！　その羽柴が写真集とDVDを一気に発売！　今回、発売を記念して初インタビューを敢行しました!!

撮影／倉繁 利

――まずは、今月下旬に発売される写真集＆ＤＶＤの話を聞かせて欲しいんですけど、正直かなり驚きましたよ。かなり露出が激しいですよね？

羽柴　まあ売るために、そこそこ露出も頑張りました（笑）。やっぱり売れなきゃ、次も出せないし。

――思いっきり、お尻出してる写真もありましたし、手ブラもやってましたけど、逆にアレが限界？

羽柴　限界っていうか、写真撮られてる時に顔撮ってくれないの。カメラマンさんも出版社の人も、「いいケツだね～」「キレイだねぇ」って言って全部ケツ。バックショットでも顔半分しか写ってないよ、みたいな（笑）。

――それってムカついたりしません？

羽柴　ちょっとツライけど、お尻ホメられてるからいいか、みたいな。

――下着姿も結構ありますよね。

羽柴　結構っていうか、全部下着です。

――あ、全部下着でしたか（笑）。

羽柴　それもないかどっちかです（笑）。

――それは素晴らしい！（笑）。写真集とかの宣伝資料には〝格闘技界のアイドル〟とかキャッチフレーズが付けられてますけど、そう言われるのってどうですか？

羽柴　ちょっと前まではイヤだったけど、最近は開き直りっていうか、逆にアイドルと呼ばれることが嬉しいというか、人から言われると「私、まだアイドルに見えるの」って逆に問いかけたりしてますね（笑）。

――自問自答するアイドル格闘家（笑）。そんな羽柴さんの憧れる格闘家って誰ですか？

羽柴　日本人では桜庭（和志）さんと、須藤（元気）さん。外人では（ヴァンダレイ・）シウバ。ああいう感じで闘えればなって。

――シウバが理想のスタイルですか。

自分的には全然OKなんで 実力ついたらパウンド有りもやりたい！

羽柴　そうですね。シウバみたいな感じか、あとはK-1のマイティー・モーみたく、一発のフックでKOとか。ああいうのも憧れます。

――シウバかマイティー・モー！　また凄いところを憧れましたね（笑）。桜庭さんや元気さんは、どんな部分に憧れるんですか？

羽柴　やっぱり、桜庭さんは元プロレスラーっていうのもあるし、いろいろ考えながら試合してるじゃないですか。お客さんを楽しませてくれるっていうか。須藤さんもいろんな動きをして自分を大きく見せたりして、お客さんも沸かせてるんで、そういうところがいいなって思います。で、女子の選手では藪下（めぐみ）さんが憧れです。

――それも同じような理由ですか？

羽柴　そうです。プロレスが好きなんでしょうね、私。なんか、総合やるにしてもプロレスラーの試合の方が面白いっていうか。負けるとかそんなこと恐れずに前に出て行って、お客さんを沸かせるっていう、その姿勢が凄いなって。

――羽柴さんも、そういう試合がしたいと思ってるわけですか？

羽柴　まだまだ実力が追い付いてないけど、理想はそうですね。お客さんを楽しませるような試合をしていきたいです。でも、いまの女子格の選手って、そういう意識を持ってる選手って少ないと思う。

――そういう意識っていうと？

羽柴　なんか、ちゃんと練習してれば地味に強くてもいいでしょっていう意識。コスチュームにしても試合展開にしても、もっと女子格を盛り上げたいと思うんだったら努力をして欲しい。……「お前が言うな！」って言われるかもしれないですけど（笑）。

――まあ、これからドンドン結果を出していければ、そういうことも言いやすくなるでしょうし、そう言われないように頑張ればいいじゃないですか。

羽柴　そうなんですよね。そのためには強くなるしかないんですけど。

――羽柴さん的に今年の格闘技での目標っていうと何になるんですか？

羽柴　やっぱり目標っていうか、目指してるのはスマックのチャンピオンです。

――また大きく出ましたね（笑）。

羽柴　一応、目標ってことで（笑）。まあ、大きな目標はチャンピオンなんですけど、いまは勝ち星を積み重ねていってドンドン相手を倒していきたいです。

――ちなみにプライベートでの目標は？

羽柴　パチンコ・パチスロで年収200万ぐらいいけばいいかな。

――羽柴さんのパチンコ・パチスロ好きはかなり有名ですけど、具体的に、今年はいくらぐらい勝ってるんですか？

羽柴　いまのところ60万ぐらい。目標はプラス200万です。



はしば・まゆみ■1982年10月21日香川県生まれ。血液型A型。身長152cm　体重42kg　B82W58H82
所属事務所：（株）KITTY　所属道場：BBdoll
趣味特技：CGデザイン　歌　パチンコ　パチスロ
主な資格：簿記検定1級／情報処理検定1級／コンピューター利用技術検定2級／ワープロ検定1級／英文ワープロ検定1級／
総合デビュー：03年2月25日TBSサイボーグ魂女子総合格闘技大会
プロデビュー：03年6月4日SMACKGIRL～TihrdSeason～
公式サイト：http://kitty.fmp.or.jp/mayumi/

――悩みって何かあります？

羽柴　悩みはいっぱいありますよ。まず、スタミナがないとか。

――格闘技的な悩みですね。他には？

羽柴　練習とかでもそうなんですけど、なんか蹴られたり殴られたりするとプチッとキレてケンカ腰でいっちゃうとか。ホントに殺してやるつもりでいくんですよ。頭はクラッシャー羽柴ばりの（笑）。

――アハハハハ！　でも、それって悩みになるんですか？

羽柴　う～ん、悩みですね。やっぱり熱くなっちゃうとガードがガラ空きになるんで。そうなってしまうとスタミナも考えずに突っ込んでいっちゃうんで。

――キレるとセコンドの声とかも聞こえなくなっちゃうんですか？

羽柴　いや、聞こえるんですけど……相手に痛いことしてやりたくなって。

――それはいいんじゃないですか（笑）。

羽柴　いや、良くないと思うんですけど、なんか悔しくなっちゃうんですよね。

――いま、ライバルって誰かいます？

羽柴　あえて言うと誰になるのかなぁ……（小声で）しなしさん。

――ほぉ！　いまだ無敗の、しなし女王がライバル!?　ちょっと小声になったのが気になりましたけど（笑）。

羽柴　あとは大室（奈緒子）さんとか。その辺の首を狙っていきたいなと。

――大室さんも、しなしさんも、同じ階級ではトップクラスの選手ですよね。

羽柴　正直、その2人といま闘っても勝つのは難しいと思うけど、やるからには上の選手をライバルと想定しないと伸びないと思うし。それに、しなしさんって、私がデビューした時、メインで出てたんですよ。それで、カロリンに一本勝ちして「カッコいい」と思って。それ以来、「あの人を倒したい！」と思ってやってきたんで。

――今年中になんとか、しなし戦を実現させたいって感じですか？

羽柴　そうですね。ただ、やるならもうちょっと自分に自信が持てないと厳しいかな。正直、打撃系が苦手というか、まだ自信がないんで。

――いま得意技って何ですか？

羽柴　前蹴りです。

――思いっきり打撃じゃないですか（笑）。

羽柴　そうなんですけどね（苦笑）。いま、頑張って練習してるんですけど、まだまだガードが空くんですよ。

――ちなみに、顔面パンチ有りとかって興味あります？

羽柴　メッチャやりたい。パウンド！

――あ、そうなんですか（笑）。練習もしてるんですか？

羽柴　してますよ。結構、得意だと思う。それに自分やられるのも好きなんで。

――珍しい人ですね（笑）。

羽柴　ただ、やられたらやり返す。イメージはヒョードルみたいに切られたら切り返すって感じで。

――顔に傷がついても平気？

羽柴　自分的には全然OKなんで、もっと実力ついたら是非やってみたいです！

――今後の活躍、大いに期待してます！

【4月13日／東京・大森「珈琲ミナ」にて収録】



羽柴まゆみ写真集『W-TACKLE～ダブルタックル』（ワニマガジン社）撮影：倉繁利（くらしげさとし）。A4ワイドハードカバー。4C96ページ。価格：2940円（税込）発売日：4月20日。内容は、昨年11月4日にスマックガール後楽園大会で行われた藪下めぐみとの公開写真集撮影エキシビジョンの模様や、温泉地や都内ホテルでのセクシーショットも満載！



羽柴まゆみファーストDVD『One Day』
■発売：4月22日■価格：3990円（税込）
■企画・製作・発売：Kitty
■販売：ジェネオンエンタテインメント
内容は、プールでの水着シーンから普段のトレーニング風景やスパーリングの模様、対戦相手にCCDカメラを仕掛けて撮影した「バーチャルファイト」も収録

サイン会情報

■写真集発売記念サイン＆握手会

日時：4月23日　16：00～
場所：東京神田書泉ブックマート（TEL.03-3294-0011）
※4月23日、16時～、東京神田書泉ブックマートにて写真集発売記念サイン＆握手会を開催！
サイン＆握手会参加方法は書泉ブックマートにて商品を御予約もしくは購入いただき、その際に整理券を受けとってください。当日は整理券を持参していただき、サイン＆握手会への参加となります。当日は写真撮影と特典の配布、本人との交流が予定されております。なお、複数冊購入のお客様はイベントにて特典が購入冊数分の写真撮影と特典購入が可能になり、その他にも何らかの特典が用意されている場合がございますので、詳しくは書泉ブックマートまで。
【お問い合わせ】東京神田書泉ブックマート（TEL.03-3294-0011）









ちょー

元 気 娘

深谷愛

キミは深谷愛を知ってるか？　ボクは知っている！　彼女は神田うの、黒谷友香、栗山千明、吉野紗香らが在籍するスペースクラフト所属のタレントさんだ。数年前、テレビ東京の深夜にやっていた『格闘Xパンクラス』でリポーターをやっていた女の子といえば、わかる人も多いだろう。そんな彼女が4·26スマックガールで総合デビュー！　早速、話を聞いてきました!!

撮影／福嶋朧儀

——これまで、女子の総合格闘技には、アイドル系とか言われる選手も何人か出てるんですけど、個人的には愛ちゃんが一番可愛いと思うんで、期待してます！

愛　おっ、ありがとうございます！

——テレビ東京でやってた『格闘Xパンクラス』のリポーター時代から、愛ちゃんは一押しでしたから。

愛　ホントですかぁ？（笑）。最近、そういうこと言われないんで嬉しいッスね。

——でも、突然、愛ちゃんが総合デビューするって聞いて驚いたんですけど、何か番組の企画ってわけじゃないんですよね？

愛　全然違います。パンクラスさんでリポートをやらせていただいたっていうのもあるんですけど、番組を通して非常に興味が湧きまして。試合とか見てて今度は選手側になりたいって思っちゃって。

——やる側になってみたいと？

愛　そうなんですよ。で、グラバカさんに通うようになったんです。

——具体的には、いつ頃から総合格闘技をやり始めたんですか？

愛　会員になったのは、もうちょっと前なんですけど、ちゃんと練習やり始めてからは、まだ一年経ってないです。

——ゆくゆくは試合をしてみたいなって思って練習してたんですか？

愛　いや、まったく先は見えてなくて、まさか実際、リングに上がるとは思ってなかったです。でもね、いつかはきっと、立派な体つきなんで（笑）、事務所からそういう話が振られてくるんだろうなぁって予想してたんですよ。

——見事に的中しましたね（笑）。

愛　でも、ホントにそうなるとは思ってなかったですけどね。

——女子に限らず、格闘家に話を聞くと、試合前は凄い怖いって言う人が多いですけど、愛ちゃんはどうですか？

愛　私、「怖い」はないですね。「痛い」

とかはあると思うんですけど、逆にワクワクの方が大きいです。いい意味でですけど、なんかジェットコースターに乗る感覚って感じで。

――ジェットコースターですか（笑）。で、芸能人で総合格闘技の試合をやった先輩で水野裕子さんっていますけど、愛ちゃんと友達なんですよね？

愛　そうなんですよ。お姉ちゃんと妹みたいな関係で仲良くしてもらってます。

――水野さんはスポーツ万能で有名ですけど、愛ちゃんも運動神経は自信あるんですよね？

愛　そうですね。ず～っと小さい頃からスポーツ一筋で。でも得意なのは、なわとびとか一輪車なんで、あんまり格闘技とは関係ないかもしれない（笑）。

――ちょっと違いますよね（笑）。実際、格闘技をやってみていかがですか？

愛　また、違う教科を勉強してる感覚ですね。私が得意としてたモノって個人でやるモノが多かったんで、格闘技みたいに相手を想定して、さらに頭で考えてっていうのはホント難しいですねぇ。自分で思ってる通りに絶対いかないじゃないですか？

――まあ、そうでしょうね。

愛　でも、機転を利かせてドンドンやっていかないと逆にやられちゃうし。

――ファンの目で試合を見てると「もっと面白い試合しろよ！」とか思っちゃいますけど、実際やってみると、そうは簡単にいかないってわかるでしょうしね。

愛　そうなんですよ。よくいろいろ言ってるお客さんいるじゃないですか？「つまんねえよ！」とか。「お前が出てみろよ！」って感じですよ（笑）。

やるからには当然勝ちたい……っていうか勝ちにいきます！

――デビュー戦前から、すっかりやる側になってますね（笑）。リポーター時代は「三崎さん、カッコいい！」って言ってましたけど、それもあってグラバカに通うようになったんですか？

愛　いやっ、それはないですね。ただ、リポートの回数がグラバカさんが多かったんですよ。それで、ハートがいい方ばっかりだって知ってたんでグラバカさんにしたんです。

――グラバカでは主に誰から教わってるんですか？

愛　クラスによって先生が違うので、具体的に誰っていうのは特にないですね。でも今日はボス（菊田）の指導の日なのでボスにしておきます（笑）。あと私、難点があってですね、鍛えすぎると身体がボコボコになるんですよ。

――ボコボコって、すぐ筋肉が付いちゃうってことですか？

愛　そうなんです！　よくポスターに載ってるような引き締まった女の人の身体じゃないんですよ。もうビルダーとか、プロレスラーみたいな感じで。

――芸能人としては、ちょっと問題ですよね（笑）。

愛　困っちゃいますよね。まあ、いまでも事務所の人からは「太りすぎだ！」ってよく言われるんですけど（笑）。（急に小声で）それに私、女優が夢なんで。

――小声で言うことないじゃないですか？（笑）。対戦相手の情報はいろいろと調べてます？

愛　写真を見たんですけど、凄い優しそうな人だなって。

――穏やかそうな感じですよね。

愛　でも、そんなこと言ってたらやられてしまうんで（笑）。正直、敵意もないし、お互い「頑張ろう！」っていうか、そんな感じですね。

――対戦相手の茂木さんって、女子柔術界では世界レベルの選手ですからね。



ふかや・あい■1985年2月9日、東京都出身。
★ 好きなタイプ＝「叱ってくれる人。厳しい人。ドMです（笑）」
★嫌いなタイプ＝「ナヨナヨ系。優しさだけを持ってるみたいな人」
★憧れの人＝「内面的にはマザー・テレサさんで、この仕事をやっていく上で尊敬してるのは久本雅美さんです。久本さんみたいに、みんなから好かれていて、気をつかえて、周りにいる人がみんな笑顔になるようなタレントになりたいです」
★今年、タレントとしての目標＝「自分の番組を持ちたいですね。夢はでっかく『徹子の部屋』みたいな番組を持てたら最高」
★チャームポイント＝「勢い！　誰にも負けない！」
血液型ＡＢ。身長157cm／B80／W59／H86／Shoes23.5

愛　そうみたいですね。まあ、世界レベルって聞くと、「うわぁ」って感じがしちゃうんですけど、じゃあ自分は、その人が持ってないモノで攻めるしかないんで。向こうは寝技の人で、私は打撃の人とは言えないんですけど（笑）、どっちかというと打撃の方が得意なんで、寝技に持ってかれないようにして自分のカラーに染めてやるって感じです。

――性格的には凄い負けず嫌いなんですよね？

愛　凄い負けず嫌いですね。試合で腕十字とか極められても、多分、折れてでもタップしないような気がします！

――それは事務所的に非常にまずいんじゃないですかね（笑）。

マネージャー　それは仕事に差し支えるんで、早めにタオルを投げさせます（笑）。

愛　でも私、タオル投げられたら投げ返しちゃうと思う。

――投げ返してもレフェリーに止められちゃいますよ（笑）。

愛　あ、そっかぁ。でも、そんな自分がいます！

――いろんな意味で楽しみですね。イメージ的には「打撃でKOしてやるぜ！」って感じなんですか？

愛　結構、「パンチがヘビーだね」って言われたことあるんですよ。うまく当たれば、いけるんではない……かな？　ちょっと自信持ちすぎですか？（笑）。

――いや、いいと思いますよ。ちなみに理想の選手像って誰になるんですか？

愛　勢いはボブ・サップ選手ですね！

――サ、サップですか！　勢いというか突進力はありますよね。

愛　で、根性は山本ＫＩＤ選手ですね。

――こ、根性は山本ＫＩＤですか！

愛　で、打撃のステップの感じとかは…外国の選手。

――あら、いきなり漠然とした答えになっちゃいましたね（笑）。

愛　あ、そうだ！　パンチとかはムエタイの選手をイメージしてます。

――それ、かなり強いですよ！（笑）。

愛　それができたら勝てますよね？（笑）。

――間違いないと思います！（笑）。

愛　あと、試合までに寝技を菊田さんに伝授していただければ……完璧？（笑）。

――完璧です！（笑）。ズバリ言って勝つ自信はあります？

愛　やるからには当然勝ちたい……っていうか勝ちに行きます！

――必要以上に期待してますんで頑張ってください！

【4・7／東京・GRABAKAジムにて収録】

愛ちゃん最新情報＆プレゼント3連発!!



撮影で愛ちゃんに無理矢理してもらった闘魂ハチマキを『紙プロ』読者1名にプレゼント！　宛先はP143参照！

愛ちゃんが出場する4・29スマックガール北沢大会のポスターをサイン入りで3名様にプレゼント！　早い者勝ちですよ!!





「一喜二笑」という愛ちゃんが考えた素敵な4文字熟語入りサイン色紙をプレゼント！　世界で1つだけですよ!!

これが愛ちゃんの対戦相手茂木庸子だ!!



4・29スマックガール北沢大会で深谷愛ちゃんが対戦するのは、日本女子柔術界の第一人者・茂木康子。愛ちゃんは、「正直、寝技は自信ないけど、私はモノ凄い負けず嫌いなんで、腕十字とか極まってもタップしないかもしれない」と、とても芸能人とは思えない素敵なセリフを残している。本番までに、どれだけ寝技からの防御を身に付けられるかが勝敗のカギを握るだろう。しかし、愛ちゃんの豪快なハイキックが決まれば衝撃の白星デビューを飾る可能性もなきにしもあらずだ！　とにかく、頑張れ愛ちゃん！

さわるとヤケドする、あちちな読者プレゼントコーナー!!

RADICAL PRESENT



HUSTLE ACHICHI

いつ何時、誰とでも熱くなれる男・ハッスルあちちが初サイン! あちちの魂が注入され、沸騰が10倍早くなった(当社比)電気ポットをプレゼント!!

★ハッスルあちち サイン入り電気ポット

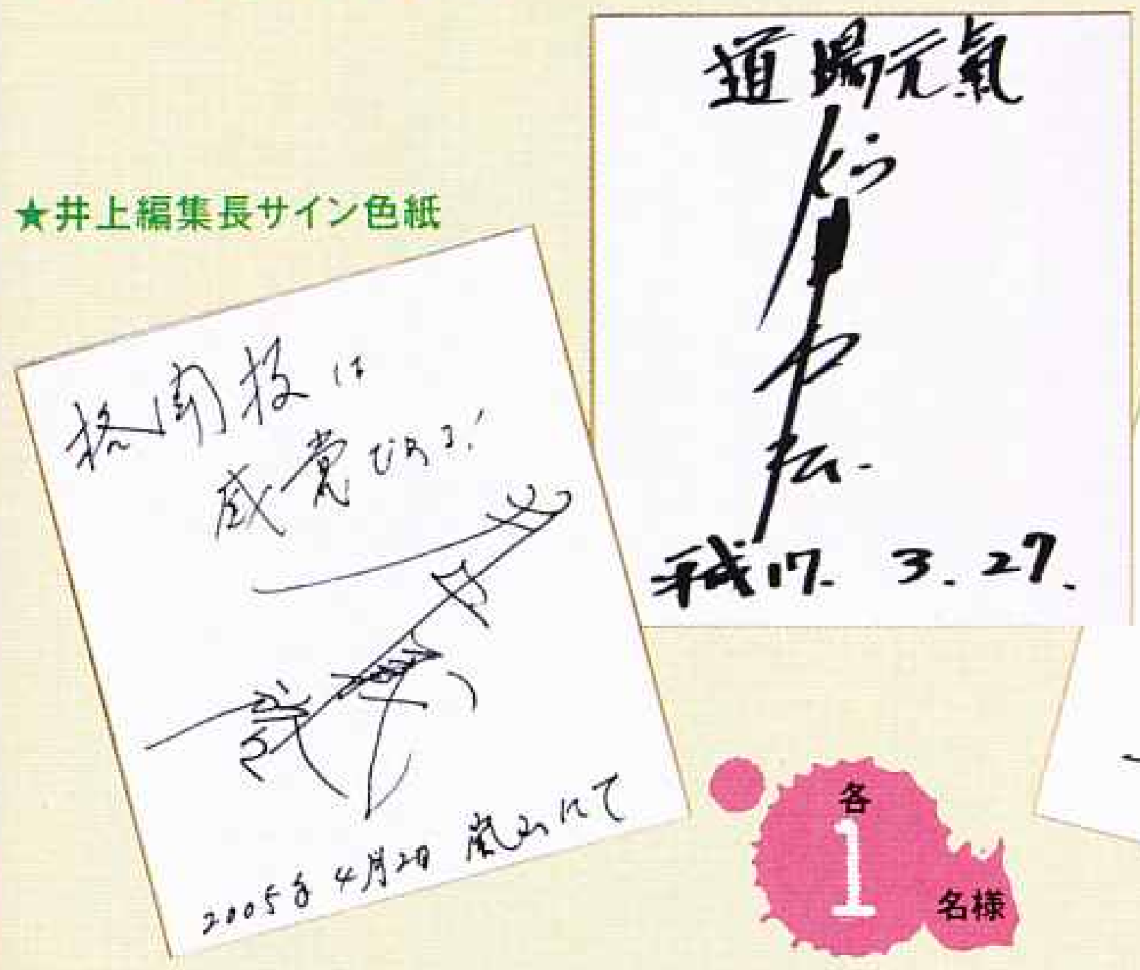


1名様

サイン入り!!

SPECIAL

元『ファイト』編集長・井上さん、芦別市議会議員ワカマツ、そして読プレ担当が貞操と引き換えにゲットしたディーノのサイン色紙をそれぞれ1名様に。



★井上編集長サイン色紙

★将軍KYワカマツ サイン色紙

★男色ディーノ サイン色紙

各1名様

DSE

PRIDEミドル級GPに合わせ、新作が続々と登場! ブレイク必至(?)のユン様グッズの発売はいつだ!?【DSE提供】



★ブラジリアン・トップチームTシャツ ホワイトorブラック



★PRIDE GP 2005 応援ハンド



★ブラジリアン・トップチーム メッシュキャップ



★ブラジリアン・トップチーム スポーツタオル

各1名様



★PRIDE GP 2005タオル



★PRIDE武士道パンフセット



★ヴァンダレイ・シウバ ニューTシャツ

■HP***http://www.prideofficial.com/

ART JUNKIE

DEEPミドル級王者・桜井隆多Tシャツ第3弾! 4・3『武士道』ではブスタ先生に残念ながら敗北。再起に期待! 【ART JUNKIE提供】



1名様

★R-GYM 3rd『撲』Tシャツ

¥3990(税込) XS〜XL

■TEL***GROUND COBRA 092-711-1021

■HP***http://www.artjunkie.jp/

TIGER MASK

"日露戦争の英雄"東郷司令官の魂が、佐山皇帝に憑依! 「皇国ノ興廃コノ一戦ニアリ」とつぶやきながらサインしたスーパー愛国グッズをプレゼント! 横須賀の戦艦三笠博物館を探索した『右流々ン』はP108から。 【佐山聡提供】

サイン入り!!

各1名様



★佐山皇帝サイン入り海軍カレー

■HP***http://www.seiken-do.com/



★佐山皇帝サイン入りZ旗



★佐山皇帝サイン入り トーゴーターンTシャツ

※Lサイズ

HERO'S

突貫開催のためパンフレットがなかった3・26『HERO'S』。会場でパンフ代わりに配られたフリーペーパー『HERO'S HEADLINE』を3名様に。



3名様

POSTER



2名様

★4·30 SMACKGIRL
静岡大会ポスター
【SMACKGIRL提供】

■HP***http://www.smackgirl.com/



3名様

★5·22 IWA JAPAN
練馬大会ポスター
【IWA JAPAN提供】

■HP***http://www.iwajapan.jp/



1名様

★3·18『ハッスル8』
両国大会ポスター
【DSE提供】

■HP***http://www.hustlehustle.com/

GAEA

セットで1名様

クラッシュ引退、GAEA解散を偲んで、GAEAセットをプレゼント! 3·25『That'sエンプロ』で長与選手にサインをもらおうとしたら、血ミドロでそれどころではありませんでした。スマン。

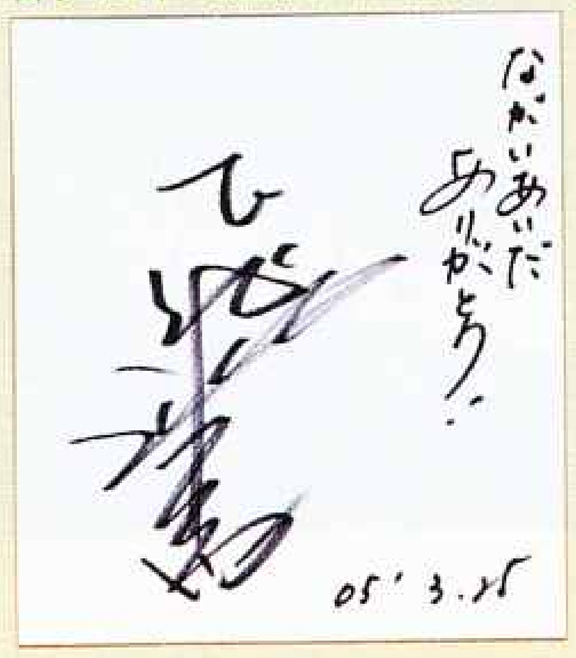
★GAEA
ピンバッジ





★クラッシュ2000応援用ボンボン

★ライオネス飛鳥サイン色紙





★クラッシュ・ドル札

VIVA! JUDO

セットで1名様



★吉田秀彦コースター

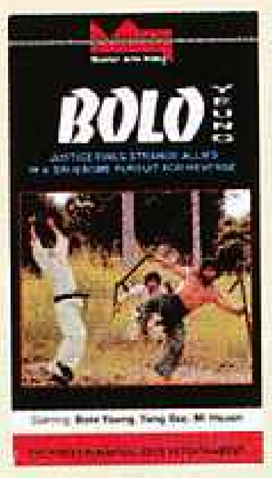
★吉田秀彦ストラップ(30体!)

『紙プロ』一の吉田好き・松澤チョロが集めに集めたサッポロビール・Draft Oneのオマケの吉田ストラップ。総数30体の吉田をゲッツできるのは、たった1名様! 【松澤チョロ提供】

SHINJUKU FIGHTER

セットで1名様





★『BOLO YEUNG』

★ブルース・リーポスター

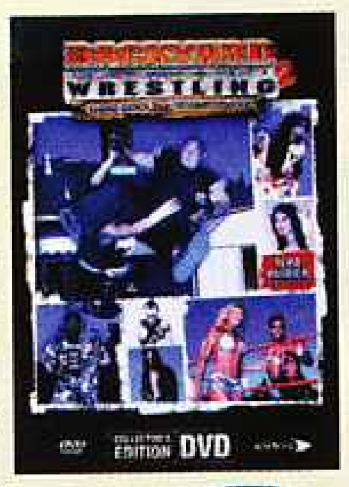
『燃えよドラゴン』でお馴染みのヤン・スエが出演してる映画と、一家に10枚は当たり前のブルース・リーポスターをセットでプレゼント!! 【格闘技ショップ 新宿ファイター提供】

■TEL***03-3354-1903
■HP***http://www13.ocn.ne.jp/~fighter/

BACKYARD

オール場外乱闘! 世界一過激な裏庭プロレスゲームが、セクシー&バイオレンスに磨きをかけて帰ってきた! サンドマン、バンビーロ、そして我らがBJW王者・伊東竜二も参戦!! 目指せ、キング・オブ・キチ●イ!? 【アイドス提供】

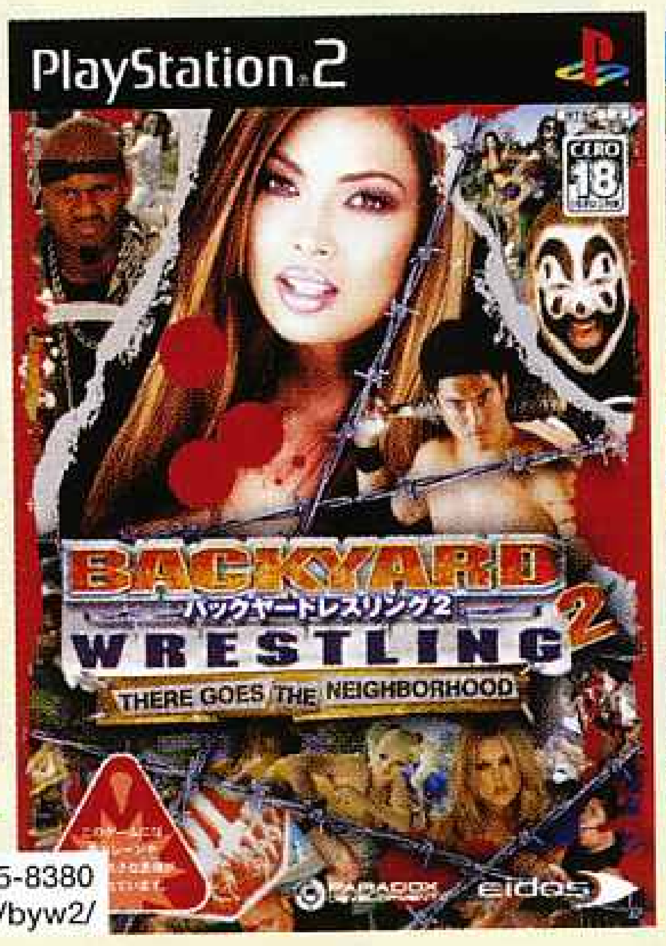
★『バックヤードレスリング2 コレクターズエディションDVD』(非売品)



セットで3名様



★『バックヤードレスリング2』オリジナル・カップホルダー





★『バックヤードレスリング2』
¥6090(税込)

■TEL***ユーザーサポート 052-775-8380
■HP***http://www2.eidos.co.jp/byw2/

QUEST

※全作品DVD/4月20日発売
■TEL***クエスト 03-3360-3810
■HP***http://www.queststation.com/

各1名様



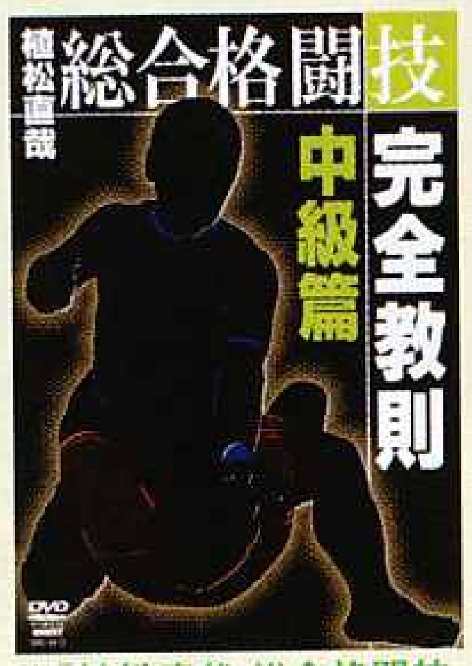
★『無敵! 武器術』
34分 ¥5880(税込)

中国武器術の第一人者・姜馳が、剣、棒、三節棍といった武器を解説し、更に実戦での使用法までをも、豊富な模範演武とともに徹底指導!



★武神館DVDシリーズ·十六『大光明祭2000 骨法』
180分 ¥5880(税込)

忍者マスター初見良昭が世界中から集まった高弟に武道の秘技を伝授するセミナーをDVD化! 殴る、蹴るではない"空間の骨法"を学べ!!



★『植松直哉 総合格闘技 完全教則/中級篇』
160分 ¥5880(税込)

修斗のランカーにして緻密な理論家として知られる植松直哉が、総合格闘技における様々なテクニックを伝授! 入門編も好評発売中だ!!



★『修斗2004 BEST vol.2』
240分 ¥5880(税込)

04年下半期の修斗公式戦から、ルミナvsトイカツ、川尻vsシャリオン、フジメグvsエリカなどの名勝負32試合を4時間にわたり厳選収録!





★『地上最強のカラテ全集DVD-BOX』 4枚組400分 ¥17640(税込)

伝説のカラテドキュメンタリー映画『地上最強のカラテ』『地上最強のカラテ・PART2』『最強最後のカラテ』の三部作に、DVD未発売の『結集編』を加え全集として新発売! 押忍!!

応募要項

応募券

①郵便番号·住所·電話番号
②氏名 ③年齢·職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦PRIDEミドル級GP優勝予想
⑧プロレスと格闘技、どちらが好きですか?&その理由

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ·ジュノ2F (株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「悪の正太郎君」係まで

※締切は2005年5月13日(金)当日消印有効

BOOK

3名様



★『裏ハローワーク』青柳直弥・著/コアマガジン ¥1260(税込)

チョロのお友達(※紙プロの読プレ応募経験あり)の著者が、ヤミ金業者、ヤクザ雑誌編集者、別れさせ屋など、裏仕事師たちに突撃インタビュー!! 【青柳直弥提供】

■HP***http://www.coremagazine.co.jp/

BB doll

4月2日放送の芸能人アマレス大会『レッスル・コロシアム』でも大活躍! 羽柴『紙プロ』初インタビューはP137からの女子格特集で!! サイン会もやりますよ。



各1名様



★羽柴まゆみ1stDVD『One Day』
¥3900(税込) 4月22日発売
【ジェネオンエンタテイメント提供】

★羽柴まゆみ写真集『W-TACKLE~ダブルタックル』
¥2940(税込) 4月20日発売
【ワニマガジン提供】

■HP***http://kitty.fmp.or.jp/mayumi/

VALIS

3名様



★『大日本プロレス 地獄の死闘vol.7』DVD/120分 ¥5250(税込)

伊東竜二とBADBOY非道が遂に一騎打ち! 10種類ものデスマッチアイテムが登場する死闘を制するのはどっちだ!? 映像特典はアブ小・結婚披露宴!! 【ヴァリス提供】

■TEL***03-5342-2681

嵐を呼ぶドクロ空挺部隊 ハリトーノフSKULL Tシャツ 堂々完成!!

4.23PRIDE GP会場で発売!!

NEW



ハリトーノフSKULL Tシャツ
[S･M･L･XL] ¥3990（税込）

※イラストは完成予想図です。デザインは若干変更する場合があります。
※カラー展開のくわしい情報は紙プロHand通販コーナー（無料）にて。
※絶賛予約受付中! 発送は4月23日からとなります。

ハッスル & 紙のプロレス コラボグッズ



「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S･M･L･XL ブラック／ホワイト] ¥3990（税込）

「BITAAAAN!」Tシャツ
[S･M･L･XL ホワイト] ¥3990（税込）



「髙田総統」フェイスタオル
¥2100（税込）



「ビビったか? たじろいだか?」ナップザック
[ブループリント]
¥2100（税込）

「BITAAAN!」メッシュキャップ
[ブラック／パープル]
¥3150（税込）



笹原GM「SHUT UP!」Tシャツ
[S･M･L･XL ホワイト×レッド]
¥4200（税込）

『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥ 3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL



『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥ 3,465 SOLD OUT or S or M or L or SOLD OUT



トートバック〈ブラック〉
¥ 1,500



ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥ 3,000 XS or S or M or SOLD OUT or XL



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥ 3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT



赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥ 3,800 S or M or L or XL



紙のプロレス RADICAL
No.86
2005年5月20日発行
No.87は
5月16日(月)発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
斉野もみじ
上杉ヒデトニオ（新人）
八木賢太郎
（W-1が延期したため非番）

終身名誉バイザー
吉田豪

助っ人
ジャイ子

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

パンフ職人
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
森鷹博
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島勝儀
菊池茂夫
黒田史夫

試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定&衣料部
林"ヘックション"一枝

体調
プリン体・入江（TwoThree）

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也
前田昌一



紙のプロレスRADICAL　WANIMAGAZINE MOOK 266　2005 NO.86
PRIDE・GP2005開幕 綴込み付録付き大特集!!
平成17年5月20日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュン2F　電話／03-5368-1795
ワニマガジン社　定価：本体819円＋税

9784898297469
ISBN4-89829-746-3
C9476 ¥819E
1929476008190

雑誌　69860—66

印刷：図書印刷株式会社